令和 6（2024）年度

長崎国際大学

学生による授業アンケートに対する

自己点検・評価報告書

（アクションプランシート）

前期

いつも、人から。そして、心から。

長崎国際大学

Nagasaki International University

自己点検・評価委員会

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
前　期						
人間社会学部国際観光学科						
1	井上　英也	IR論	火	1	39	1
2	井上　英也	起業論	水	2	69	2
3	田中　誠	TOEIC対策A	月	2	39	3
4	落合　知子	博物館実習B	火	4	13	5
5	落合　知子	博物館実習B	木	1	13	6
6	乙須　翼	教師論	月	4	66	7
7	乙須　翼	教養セミナーA	木	3	12	8
8	城前　奈美	観光学概論	木	2	272	9
9	城前　奈美	教養セミナーA	木	3	12	11
10	滝　知則	国際関係論	木	5	141	12
11	中山　忠彦	トレーニング論	月	2	92	14
12	中山　忠彦	教養セミナーA	火	2	13	15
17	山内　美穂	日本語表現法	月	1	128	16
13	山内　美穂	教養セミナーA	火	2	12	17
14	池永　正人	地理学	火	1	251	18
15	池永　正人	観光地理学	木	1	188	19
16	安部　直樹（嶋内　麻佐子）	茶道文化ⅢA	水	3	11	20
18	嶋内　麻佐子	茶道文化ⅠA	火	2	107	22
19	嶋内　麻佐子	茶道文化ⅣA	火	3	10	24
20	嶋内　麻佐子	茶道文化ⅡA	水	3	26	26
21	嶋内　麻佐子	茶道文化ⅢA	水	3	11	28
22	嶋内　麻佐子	茶道文化ⅠA	土	3	52	30
23	落合　和昭	ホテルビジネス実務エキスパート	火	3	75	32
24	落合　和昭	教養セミナーA	火	2	12	33
25	尾場　均	コンピュータ基礎ⅠA	火	3	71	34
26	尾場　均	映像文化論	火	5	92	36
27	尾場　均	教養セミナーA	火	2	11	38
28	川上　直彦	美術と観光	金	5	24	39
29	川上　直彦	教養セミナーA	木	3	13	40
30	佐野　香織	日本語Ⅳ	木	4	3	41
31	佐野　香織	教養セミナーA	火	2	13	42
32	竹田　文雄	地域観光研究B（ｱﾒﾘｶ･ﾖｰﾛｯﾊﾟ）	火	2	124	43
33	竹田　文雄	教養セミナーA	木	3	11	45
34	Thom W. Rawson	英語ⅠA	火	3	21	47
35	Thom W. Rawson	Practical English ⅢA	木	2	20	48
36	Thom W. Rawson	English Writing Skills Ⅲ	金	1	20	49
37	Thom W. Rawson	Practical English ⅠB	金	4	22	50
38	森尾　真之	国内旅行実務	土	2	113	51
39	森尾　真之	国内観光資源	土	4	154	52
40	森尾　真之	教養セミナーA	火	2	12	53
41	井畑　敦子	English Reading Skills Ⅰ	木	1／4	22	54
42	井畑　敦子	教養セミナーA	火	2	12	56
43	浦郷　淳	ICTを活用した教育の理論及び方法	火	1	28	58
44	浦郷　淳	教育課程論	金	2	30	59
45	浦郷　淳	教養セミナーA	火	2	11	60
46	江島　弘晃	発育発達論	月	3	119	61
47	江島　弘晃	専門演習ⅢA	水	3	8	63
48	江島　弘晃	卒業研究	水	その他	8	65
49	江島　弘晃	専門演習ⅠA	木	1	9	67
50	江島　弘晃	健康科学	木	2	81	69
51	江島　弘晃	専門演習ⅡA	金	3	10	71
52	江島　弘晃	スポーツ実習A	木	4	32	73
53	江島　弘晃	教養セミナーA	木	3	14	75

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
54	川上　知子	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。)	月	1	29	77
55	川上　知子	特別活動論	金	1	29	78
56	川上　知子	教養セミナーA	木	3	12	79
57	神野　周太郎	保健体育科教育法Ⅳ	月	4	20	80
58	神野　周太郎	スポーツ原理	水	3	150	81
59	神野　周太郎	保健体育科教育法Ⅱ	木	5	21	82
60	神野　周太郎	教養セミナーA	木	3	11	83
61	John Patrick Owatari-Dorgan	Practical English ⅠA	月	5	22	84
62	John Patrick Owatari-Dorgan	English Reading Skills Ⅲ	火	5	20	85
63	末永　貴久	スポーツ社会学	水	1	142	86
64	末永　貴久	教養セミナーA	木	3	13	88
65	張　美慶	マーケティング論	火	4	160	89
66	張　美慶	環境デザイン論	木	5	29	90
67	張　美慶	観光事業論	金	3	238	91
68	張　美慶	教養セミナーA	木	3	12	92
69	東出　朋	日本語コミュニケーションA	火	1	23	93
70	東出　朋	教養セミナーA	火	2	13	94
71	小泉　優莉菜	専門演習ⅡA	火	3	4	95
72	小泉　優莉菜	博物館実習B	水	1	9	96
73	小泉　優莉菜	教養セミナーA	木	3	13	97
74	長津　恒輝	ジョギング・ウォーキング	木	3	41	98
75	長津　恒輝	スポーツ実習A	月	1	43	99
76	長津　恒輝	教養セミナーA	火	2	12	101
77	余　乾生	社会保障Ⅰ	月	3	58	102
78	余　乾生	経済学	火	5	147	103
79	余　乾生	刑事司法と福祉	木	4	55	104
80	余　乾生	教養セミナーA	火	2	13	105
人間社会学部社会福祉学科						
81	木村　勝彦	宗教学	木	1	107	106
82	柳　智盛	教育心理学	水	3	47	108
83	柳　智盛	心理学	木	1	43	109
84	大畠　啓	社会学概論	木	4	169	111
85	大町　いづみ	卒業研究	月	5	5	112
86	大町　いづみ	専門演習A	木	5	6	113
87	大町　いづみ	介護における医療的ケアⅠ	金	1／2	8	114
88	梅野　潤子	国家試験演習（社会）Ⅰ	火	1	44	115
89	梅野　潤子	ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	火	4	8	116
90	梅野　潤子	児童・家庭福祉	金	2	60	117
91	野田　健	ソーシャルワーク実習の理解	火	5	7	118
92	野田　健	福祉サービスの組織と経営	木	2	58	119
93	韓　榮芝	卒業研究	月	5	7	121
94	韓　榮芝	福祉特論D	木	2	31	122
95	韓　榮芝	専門演習A	木	5	10	123
96	足立　孝子	ソーシャルワーク演習（精神）Ⅱ	金	2	10	124
97	足立　孝子	教養セミナーA	木	4	7	125
98	浦　秀美	生活支援技術ⅢA	月	2	10	126
99	浦　秀美	介護援助技術	火	5	12	128
100	浦　秀美	教養セミナーA	木	4	6	130
101	中村　尚生	臨床心理学	水	3	104	132
102	中村　尚生	教養セミナーA	木	4	6	133
103	久田　貴幸	専門演習A	月	4	6	135
104	久田　貴幸	卒業研究	月	5	7	136
105	久田　貴幸	介護基礎学Ⅰ	火	3	27	137
106	久田　貴幸	生活支援技術ⅠA	火	4	10	138
107	久田　貴幸	介護過程ⅡA	金	5	8	139
108	久田　貴幸	教養セミナーA	木	4	7	140

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
109	裵　孝承	ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	火	3／4	8	141
110	裵　孝承	教養セミナーA	木	4	6	142
111	丸山　貴志	精神障害リハビリテーション論	金	4	16	143
112	針塚　緑樹	心理学	水	1	91	144
113	山下　彦	ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ	火	4	6	146
114	山下　彦	教養セミナーA	木	4	7	147
健康管理学部健康栄養学科						
115	野村　秀一	微生物学	火	4	75	148
116	熊井　まどか	解剖生理学Ⅰ	木	4	70	149
117	熊井　まどか	教養セミナーA	水	3	5	150
118	古賀　貴子	調理科学（食品加工学を含む）	火	3	55	151
119	古賀　貴子	調理学	木	3	72	152
120	古賀　貴子	調理学実習Ⅰ	金	2／3	34	154
121	古賀　貴子	調理学実習Ⅰ	金	4／5	35	156
122	古賀　貴子	教養セミナーA	水	3	6	158
123	林　俊介	治療食実習	火	2／3	28	159
124	林　俊介	治療食実習	火	4／5	27	161
125	林　俊介	栄養教育論Ⅲ	水	2	62	163
126	林　俊介	臨床栄養管理学Ⅲ	金	5	64	166
127	林　俊介	教養セミナーA	水	3	5	169
128	廣田　昌彦	臨床医学入門Ⅰ	木	1	52	171
129	廣田　昌彦	教養セミナーA	水	3	5	172
130	松尾　嘉代子	応用栄養学Ⅲ	月	2	34	173
131	松尾　嘉代子	応用栄養学Ⅲ	月	4	30	174
132	松尾　嘉代子	応用栄養学Ⅰ	火	1	47	175
133	松尾　嘉代子	教養セミナーA	水	3	5	176
134	山口　留美	臨床栄養管理学Ⅳ	金	3	60	177
135	山口　留美	教養セミナーA	水	3	5	178
136	小田　和人	スポーツ栄養学実習	木	3／4	11	179
137	小田　和人	運動生理学	金	4	24	180
138	小田　和人	教養セミナーA	水	3	5	181
139	川内　美樹	栄養の化学演習	木	5	56	182
140	川内　美樹	栄養代謝学	金	1	54	183
141	川内　美樹	教養セミナーA	水	3	6	184
142	川野　香織	公衆栄養学Ⅰ	火	2	47	185
143	高江洲　有沙	食教育論	月	3	13	186
144	藤井　俊輔	食品学Ⅰ	月	2	73	188
145	藤井　俊輔	食品学実習	月	4／5	23	189
146	藤井　俊輔	栄養の化学演習	木	5	19	190
147	藤井　俊輔	食品学実習	金	4／5	22	191
148	藤井　俊輔	教養セミナーA	水	3	5	192
149	宮原　恵子	公衆衛生学Ⅱ	月	3	58	193
150	宮原　恵子	教養セミナーA	水	3	6	194
151	吉村　亮二	基礎栄養学実習	金	4／5	24	195
152	吉村　亮二	基礎栄養学実習	土	4／5	23	196
153	吉村　亮二	教養セミナーA	水	3	6	197
154	射場　仁美	栄養の生物学	火	2	32	198
155	射場　仁美	食品衛生学実習	木	2／3	23	199
156	射場　仁美	食品衛生学実習	木	4／5	24	200
157	射場　仁美	教養セミナーA	水	3	5	201
158	菊地　優子	栄養の生物学	火	2	37	202
159	菊地　優子	教養セミナーA	水	3	5	203
160	吉永　奈津希	給食経営管理論Ⅰ	月	1	46	204
161	吉永　奈津希	給食経営管理実習（学内）	木	1／2	28	205
162	吉永　奈津希	給食経営管理実習（学内）	木	3／4	26	206

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
薬学部薬学科						
163	中村　誠司	ホスピタリティとSDGs	水	2	467	207
164	藤田　英明	基礎の数学	火	1	26	208
165	藤田　英明	機能形態学Ⅰ	土	1	93	209
166	椛島　力	基礎の数学	火	1	42	210
167	市川　和洋	基礎の物理学	火	2	34	211
168	市川　和洋	薬品物理化学Ⅰ	土	1	119	213
169	宇都　拓洋	和漢薬概論	月	2	88	214
170	宇都　拓洋	生薬学Ⅰ	火	4	107	215
171	宇都　拓洋	教養セミナーA	水	3	5	216
172	大磯　茂	調剤Ⅱ	木	4	105	217
173	大庭　義史	分析化学Ⅱ	火	3	114	218
174	小川　由起子	微生物薬品学	水	2	99	219
175	小川　由起子	感染防御学	金	1	99	221
176	岸原　健二	感染防御学	金	1	99	223
177	岸原　健二	教養セミナーA	水	3	5	224
178	隈　博幸	臨床生理学演習	火	4	6	225
179	黒川　健児	生化学Ⅱ	木	2	115	226
180	小島　直人	医薬品化学Ⅰ	火	2	87	227
181	小島　直人	基礎の化学	金	1	44	228
182	小島　直人	化学演習	金	1	44	229
183	小林　秀光	衛生化学Ⅱ	木	2	90	230
184	小林　秀光	教養セミナーA	水	3	5	232
185	佐々木　茂貴	創薬化学	木	1	97	233
186	佐々木　茂貴	有機薬化学Ⅱ	金	2	120	234
187	高井　伸彦	放射線医療学	火	1	105	235
188	高井　伸彦	教養セミナーA	水	3	5	237
189	長岡　寛明	公衆衛生学Ⅰ	月	2	105	238
190	西奥　剛	薬理学Ⅰ（総論）	火	2	120	240
191	早川　正信	薬局管理・経営学	火	3	104	241
192	早川　正信	教養セミナーA	水	3	5	242
193	深澤　昌史	生化学Ⅲ	土	4	114	243
194	室　高広	薬事関係法規	月	4	104	245
195	室　高広	教養セミナーA	水	3	5	246
196	山口　拓	薬物治療学Ⅱ	月	2	114	247
197	山口　泰史	薬化学総論	木	2	93	249
198	山口　泰史	教養セミナーA	水	3	5	251
199	淀　光昭	医薬品化学Ⅰ	火	2	87	252
200	太田　一寿	疾病学Ⅱ	火	1	94	253
201	神谷　誠太郎	統計学	火	5	15	254
202	神谷　誠太郎	教養セミナーA	水	3	5	255
203	神田　紘介	医薬品安全性学	木	1	12	256
204	田中　宏光	分子生物学	月	3	86	257
205	田中　宏光	基礎の生物学	月	4	23	258
206	田中　宏光	ゲノム創薬学	金	1	98	259
207	田中　宏光	教養セミナーA	水	3	5	260
208	出口　雄也	臨床栄養学	木	1	85	261
209	藤井　佑樹	基礎の生物学	火	1	43	262
210	藤井　佑樹	教養セミナーA	水	3	5	263
211	藤木　司	基礎の生物学	火	3	33	264
212	藤木　司	分子生物学	土	3	86	265
213	藤木　司	教養セミナーA	水	3	5	266
214	藤本　京子	生化学Ⅲ	月	4	112	267
215	山田　耕平	有機薬化学Ⅱ	金	2	120	268
216	山田　耕平	教養セミナーA	水	3	5	269
217	石原　知明	基礎の生物学	火	3	60	270

番号	担当者	科目名称	曜日	時限	履修者数	頁
218	石原　知明	教養セミナーA	水	3	5	271
219	榎本　彩乃	基礎の物理学	火	2	30	272
220	大久保　伸哉	調剤学	土	3	103	273
221	大久保　伸哉	教養セミナーA	水	3	5	275
222	川嵜　達也	薬物動態学	火	2	109	276
223	川嵜　達也	教養セミナーA	水	3	5	278
224	倉岡　卓也	衛生化学Ⅱ	木	2	90	279
225	倉岡　卓也	教養セミナーA	水	3	5	280
226	末廣　真理恵	薬事関係法規	月	4	104	281
227	末廣　真理恵	教養セミナーA	水	3	5	282
228	相田　美和	裁判化学	火	3	86	283
229	髙崎　伸也	臨床医学概論	水	2	106	285
230	中村　沙織	基礎の数学	火	1	25	287
231	縄田　陽子	薬理学Ⅲ（末梢-2）	月	4	92	288
232	縄田　陽子	教養セミナーA	水	3	5	289
233	吉田　達貞	基礎の物理学	火	2	30	290
234	吉田　達貞	薬学統計学	土	3	103	292
235	大神　正次	基礎の化学	月	5	54	293
236	大神　正次	基礎の化学	火	4	29	295
237	北川　翔大	化学演習	金	1	24	297
238	中島　健輔	調剤学	月	3	103	299
239	波多江　日成子	基礎の化学	火	4	19	300
240	福森　良	薬理学Ⅲ（末梢-2）	月	4	90	301

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　　ＩＲ論

教員名　　井上　英也

回答者数／履修者数　34／39

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本科目は、IR（カジノを含む統合型リゾート）をテーマにするものである。ハウステンボスの隣接地において長崎県が誘致を試み、その人材育成の必要性から開講された科目であるが、昨年12月に国からの不認可が決定した。そのため、今年度は長崎IRを想定した内容からの修正が必要であった。結果、より一般的なIRの知識を扱うこととなったが、満足度の評価は4.７と前回から0.３ポイント良化した。観光経営の先端分野を学ぶ授業として一層の改善をしていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の授業の最後に、理解度と興味度を問うアンケートを実施し、次回以降の授業でそのフィードバックをおこなった。また、2コマを長崎IR計画の元運営事業者および佐世保市の企画部担当理事を外部講師に、それぞれの見地からプロジェクトの顛末を説明してもらうなど、学生の興味度を高めることを試みた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容に関しては、4.6~4.8ポイントと概ね良好な評価結果であった。昨年度から0.1~2ポイント良化した。来年度以降も維持したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法に関しては、4.4~4.8ポイントと概ね問題のない評価結果であったが、4.4ポイントの項目に関して自由記述蘭に、授業資料の印刷配布の要望があった。印刷物の配布は来年度以降も実施するつもりはないが、オリエンテーションにおいて学生への説明を丁寧に行うことにする。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	IRは、観光マネジメントの先端領域であり、カジノを含むことから議論百出のテーマである。特に日本においては、大阪において最初の開発がこれからスタートする未確定の事業形態である。そのため、授業内容を変化に応じてアップデートしていく必要があると感じている。また、IRには社会に与える負の影響もあるため、学生が観光面におけるプラスの効果とバランスよく考えられるような授業運営に心掛けた。また外部講師が学びを深めることが、自由記述から見て取れるので、来年度も2コマ程度継続していく。

アクションプランシート

2024年度前期 水2

科目名　起業論

教員名　井上　英也

回答者数／履修者数　56／69

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	2022年度から学生数が15名ほど増えたが、4.7ポイントを維持することができた。本授業は、講義と演習により学生がゼロからビジネスプランを策定する難易度の高い授業であるが、今年度は、受講者数が69名と増加したため、個別の指導には限りがあった。授業外での課題を以前よりも増やして対応したが、そのことにより満足度が低下することはなかった。起業は社会的なニーズが高く、高校からの学習過程にも取り入れられるようになったことから、学生の受講への関心も高くなっている。受講生の増加に対応したプログラムに向けて内容を進化させたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の授業で創業経営者のメッセージ動画などを視聴し、成功する起業について考える時間を10~15分程度取り入れている。本アンケートの自由記述および授業ごとに提出させるアンケートでは、ポジティブな評価が多数あった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容に関しては、4.5~4.7と問題のない結果であった。難易度の高い授業であるが、興味を維持し、理解を深める成果はあった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法に関しては、4.5~4.8の評価結果であった。前述したように受講生が個別指導を実施できる人数を超えたため、対応を検討する。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	多くのの学生が考えたことのない”起業”というテーマの授業に、学生が興味を持ち課題に取り組むことは、基本的な会社の理解、将来の職業への意識を高める上では意義のある授業だと感じている。これに関しては、学生の自由記述蘭でも評価されている。多くの学生に受講してもらいたいが、各自（あるいはグループ）への個別の指導が必要なため、受講生数に限りがある。また、途中であきらめてしまう学生も一定数いる。来年度以降の課題としたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月2

科目名　TOEIC対策Ａ

教員名　田中　誠

回答者数／履修者数　34／39

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度については、昨年度が4.7で、今年度は4.4という結果となった。今年度も、プレイスメントテストの結果から英語力の低下が危惧される状況であったので、英語力の低い学生の対応に初めからかなり気をつかった。しかしながら、学生からの満足度評価は昨年度と比較すると、0.3ポイント低下ということになってしまった。TOEICの試験は難しい上に、データ的にも学生の英語力の差がますます大きくなってきている。こちらが想定する以上に、もっと低いレベルの層に対する指導方法を検討していかないといけないと痛切に感じている。もちろん、常に英語が苦手な学生に対しても満足してもらえるような授業内容の工夫を考えているが、非常に厳しい状況だと思う。今後とも、学生の英語力を最大限に伸ばすことができるような授業内容、プリントの作成の仕方などを学び続けることで、改善していけるように努力していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年度も、例年通り毎回の授業でマナバを活用して、2種類の課題を出し、授業外学修の時間を増やすための仕組みを仕掛けた。授業の最初に毎回課題に取り組む重要性を何度も繰り返し説明したし、毎回授業の終わりにマナバのresponの機能を使用し、授業の理解度やコメントなどを記入させたりもした。そして、前回の授業のコメントに対して、学生が疑問に思っていることや、授業で分かりにくかったと感じた事項に関して、必要に応じて、授業の始めにフィードバックを行った。しかしながら、学生の受講態度、学習意欲の向上に対しては、こちらの努力の割には、よい結果を出すことができなかった。授業全体を通して、単に解説を聞くだけの授業にならないようにYouTubeや有益なインターネット上のサイトを見せたりと工夫もしたつもりであったが、学習意欲の低い学生の向上心を高めるには至らなかったようである。今後は、これまで同様の方法も継続しながら、さらに学生の学習意欲向上につながるような授業内容となるように授業の準備をしっかりと行っていきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	Q3に関しては、昨年度が4.7、今年度は4.4、Q4に関しては、昨年度が4.7、今年度も4.7、Q5に関しては、昨年度が4.8、今年度が4.1であった。Q5の「授業内容は興味あるものでしたか」の項目がかなり下がってしまった点は、素直に反省したい。どうしたら昨年度のようなレベルに戻せるのかをじっくり考えたい。実際のところ、昨年度よりも、英語力が下がっていることは分かっていたので、そのつもりで授業内容はかなり工夫をしていたつもりであった。今後は、もう少し授業を進めるスピードを緩めて、学生が興味を持ちそうな内容を織り交ぜながら解説をするなど工夫をしていきたい。学生の英語力の差が年々大きくなっていることを考慮しつつも、英語力が元々高い学生が退屈することのないように、授業内容に工夫をこらす努力を続けていきたい。学生のコメントには、「英文法の解説が特に丁寧なので、自分の英文法力の基礎力向上になっています」や「文法などを分かりやすく説明してくださるので助かってます」などがあり、さらに多くの学生にこのように感じてもらえるように、分かりやすい授業を今後とも提供していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	Q6～Q11に関しては、今年度も全ての項目で4.2以上であるので、授業方法としては、特に大きな問題はないと思う。個別に見ていくと、Q6に関しては、昨年度が4.6、今年度が4.5、Q7に関しては、昨年度が4.9、今年度が4.7、Q8に関しては、昨年度が4.9、今年度が4.6、Q9に関しては、昨年度が4.8、今年度が4.6、Q10に関しては、昨年度が4.6、今年度が4.4、Q11に関しては、昨年度が4.5、今年度が少し下がって4.2であった。Q7の「熱意の感じられる授業でしたか」に関しては、特に毎年常に意識して授業を展開しているが、今回は3と答えた学生が一人いた。こちらの授業に対する熱意があまり伝わらなかっ

項目見出し	コメント
	た学生がいたことは、残念であるが、そのような学生が一人でもいたことを真摯に受けとめ、次の学期に活かし、さらに熱意の感じられる授業を展開していきたい。Q10の私語に対しては、その都度、できるだけ注意をしているのだが、なかなかなくならない。ただし、学生のコメントにも「私語の多い生徒にはしっかりと対応されていて良いと思いました」などの記述もあり、ある程度の効果はあったものと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度も、近年の傾向同様にプレイスメントテストで英語力の低い学生が多数いることが分かっていたので、そのような学生でも有益な授業となるように意識した授業をするように努力をした。ていねいに辛抱強く指導をしていたつもりではであったのだが、Q1とQ2の「あなたの授業を受けた態度について」の部分は、非常に厳しい結果となった。Q1の準備学習、前回の復習のところが、昨年度は3.7、今年度は3.6、Q2の授業中の態度についてが、昨年度は4.1、今年度も3.9という結果となった。両項目ともポイントが下がってしまった。この点は課題としてしっかりと受け止め、改善に努めていきたい。他の項目も昨年度に比べると、低下傾向となった。昨年度のポイントが高すぎたとは思うが、それでも、前年度よりポイントが下がるということは、何らかの改善点があるということだと考える。授業方法については、今年度も例年通り、配布プリントの適切性に関しては、授業で取り扱った問題の解答・解説だけでなく、今回も学生の授業コメントを参考に、分かりにくい点などをまとめてプリントをmanabaにアップした。このプリントは例年学生に好評である。毎回、プリントを作成するのは大変であるが、これかもさらに分かりやすいプリントを作成していく努力をしたい。学生のコメントには、「一つ一つの問題を丁寧に解説されていてためになると思った」や「初めてTOEICの勉強をしたので難しかったですが教え方はとても分かりやすかったです」などが見られた。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　博物館実習B

教員名　落合　知子

回答者数／履修者数　13／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	博物館実習Bは、学芸員資格を取得するための必須科目である。通年科目として歴史資料（刀剣、掛軸、巻子本等）の取り扱い方法、紙資料の修理修復、2次資料製作技法として封入標本の技法、さく葉標本の製作技法を学ぶ。15名を定員し個別指導であるため、授業の満足度は高いといえる。また、大学院生のTAを採用しているため、すべての受講生が丁寧な指導を受けることが可能である。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	国家資格である学芸員の資格取得を目指す学生は、真面目で受講態度もよく、学習意欲も高いのが特徴である。したがって、授業も常にスムーズに実践することができた。特に日本人も留学生も刀剣の取り扱いには興味があるため、刀剣保存会による日本刀のDVDを活用したり、PPTを利用した講義を取り入れている。さく葉標本製作では、本学薬学部の薬草園を見学し、薬草を採取して標本を製作した。その他、勾玉製作、封入標本製作のワークショップに携わる技能の修得を目指した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の分かりやすさ、シラバスとの整合性、授業内容に興味を持てたかの質問に対して、 いずれも4.8の高得点を得ている。したがって、改善する項目は無いと考える。しかし、実習室が狭いため、学生たちが使いやすい環境とは言い難い。改善するとすれば、実習室の環境整備である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教員の話し方の明瞭さ、教科書の使用は適切であったか、PPTの使用の適切さ、遅刻や私語に対する対応、学生の授業参加への促しはいずれも4.8の高得点である。特に熱意のある授業であったかについては4.9である。したがって、改善する点はないと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	博物館学は広い学問分野であるため、様々な知識を学んで欲しいと考えている。また、楽しく授業に参加している学生が多く、教員としてもやりがいを感じている。

アクションプランシート

2024年度前期 木1

科目名　博物館実習B

教員名　落合　知子

回答者数／履修者数　11／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	博物館実習Bは、学芸員資格を取得するための必須科目である。通年科目として歴史資料（刀剣、掛軸、巻子本等）の取り扱い方法、紙資料の修理修復、2次資料製作技法として封入標本の技法、さく葉標本の製作技法を学ぶ。15名を定員し個別指導であるため、授業の満足度は高いといえる。また、大学院生のTAを採用しているため、すべての受講生が丁寧な指導を受けることが可能である。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	国家資格である学芸員の資格取得を目指す学生は、真面目で受講態度もよく、学習意欲も高いのが特徴である。したがって、授業も常にスムーズに実践することができた。特に日本人も留学生も刀剣の取り扱いには興味があるため、刀剣保存会による日本刀のDVDを活用したり、PPTを利用した講義を取り入れている。さく葉標本製作では、本学薬学部の薬草園を見学し、薬草を採取して標本を製作した。その他、勾玉製作、封入標本製作のワークショップに携わる技能の修得を目指した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の分かりやすさ、シラバスとの整合性、授業内容に興味を持てたかの質問に対して、いずれも4.8の高得点を得ている。したがって、改善する項目は無いと考える。しかし、実習室が狭いため、学生たちが使いやすい環境とは言い難い。改善するとすれば、実習室の環境整備である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教員の話し方の明瞭さ、教科書の使用は適切であったか、PPTの使用の適切さ、遅刻や私語に対する対応、学生の授業参加への促しはいずれも4.8の高得点である。特に熱意のある授業であったかについては4.9である。したがって、改善する点はないと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	博物館学は広い学問分野であるため、様々な知識を学んで欲しいと考えている。また、楽しく授業に参加している学生が多く、教員としてもやりがいを感じている。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　教師論

教員名　乙須　翼

回答者数／履修者数　53／66

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今年度の教師論の満足度は平均4.7であり、昨年度と一昨年度の4.5を上回り、過去最高であった。回答者53名のうち満足度3が3名いるものの、多くの学生が満足と回答していた。ただし、受講者数に対してアンケート回答日の出席率（回答率）が80%とやや低かったため、欠席していた学生がどのように感じていたかも考えておく必要がある。今年度新しく始めたことはなく、今年度は受講生もやや多かったが、自由記述を見ると、後半のグループワークの満足度が高いようであった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	上にも述べているように、今年度に新たに始めた試みはないが、昨年度に比べると授業外の任意課題として課している新聞記事に対するコメントや読書記録のスレッドへの投稿が圧倒的に多く、また早い時期に投稿してくれた学生がいたため、他の学生も触発されて投稿する様子が見られた。また、教職への意欲が低い学生も多少いる中で、意欲が高い学生も多かったため、グループワークなどで刺激を受けた学生も多かったようである。ただし、定期試験の成績はここ数年と同じかそれよりも低いものがあり、基礎学力が乏しい、また試験勉強の仕方がわからない学生が多かったと感じている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容に関しては4.7と4.8であり、２や１と回答した学生がゼロであった。元々教職科目であり、内容は文科省のコアカリキュラムに準じているため変更できないものであるが、この数値も例年より0.2ポイントほど高かった。近年、教員に関するニュースや法改正が多くあるため、学生の関心も高かったと考えられる。ただし、上にも述べたように、定期試験で見る学生の理解度は例年よりも低い層も多く、興味はあるが理解したり、用語を覚えたり、自分の考えを言葉にしたりすることに苦手を感じている学生が多いように感じた。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業方法に関しても、4.7と4.8であり、高水準であった。授業方法については、レジュメ、動画、ディスカッション、グループワーク、スピーチなど、様々な方法を取り入れているため、学生は比較的新鮮に感じていたと思われる。また、文章を書くことが得意な学生、発表をするのが得意な学生、まとめ役が得意な学生など、それぞれの得意分野を活かせる複数の授業方法を用いた点が学生にとってはよかったのではないかと考えている。改善策としては、毎回のマナバへのレポートについて、文章力にばらつきがあったため、見本を見せるなどの工夫を毎回していく必要を感じている。今回も何度かは紹介したり、読ませたりしたが、文章を書くことが苦手な学生の練習にはつながらなかったようである。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度はスポーツ系の学生も多く、人数自体も多かったためそれほど高い授業評価を期待していなかったが、思いのほか学生が真剣に授業に取り組んでくれていた。また自由記述で、大学の授業で一番頑張った、久しぶり勉強した、など意欲的な取り組みが見られる記述もあった点はうれしく感じている。課題としては、準備学習の4.0や、先述した成績の部分であり、文章力や基礎学力、学習習慣の乏しい学生を教員として鍛えていく方策をもう少し考えていくべきだと感じている。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　乙須　翼

回答者数／履修者数　12／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	教養セミナーの満足度は平均4.5であり、昨年度と同程度であった。今年度は１２名と人数が過去最大であったが、満足度は大きな変化はなかった。ただし、全部の質問において３を付けている学生が１～２名いたため、それらの学生がどのようなことを考えているのかは考えておく必要がある。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年特に新たに取り組んだことはないが、様々なタイプの学生がいたため、それぞれの学生の良い点を伸ばすよう、毎回席替えを行い、役割を与えたり、発表させたりした。その結果、当初はなじめるか不安そうだった学生も半年間ほぼ欠席なく出席していた。一方で、レポート執筆などアカデミック・スキルの分野になると、高校までの基礎力による差が大きく、取り組む意欲がやや低くなる学生も存在していた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	授業の内容に関しては、平均4.4と4.5であり、昨年度、一昨年度より高い数値であった。ただ、この問いに関しても３と回答している学生がいるため、学習意欲の点でやや心配な学生がいることがわかる。前期の他の授業での取り組みなども確認しながら、離学とならないように注視していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	授業の方法については、4.4と4.8で例年並みであった。授業方法も例年と特に大きく変わりはないが、授業中に教科書を読ませたり、グループワークをさせたり、課題発表をさせたりしたものの、やや積極性に欠けるような学生も存在していた。課題の内容が難しすぎる、取り組む気にならない、面倒だ、などどのような気持ちでいるのかを後期もみていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は最初に述べたように人数が１２名と多く、出席率も比較的良かったので全員に目を配ることがやや難しかった。マナバの提出物などにはコメントを可能な限り返したが、中には提出物が提出されないままの学生もいた。スポーツ系の学生が半数近くで、その他の学生も個性豊かな学生であったため、それぞれの学生の個性を伸ばせるような授業が後期もできればよいと感じている。

アクションプランシート

2024年度前期 木2

科目名　観光学概論

教員名　城前　奈美

回答者数／履修者数　187／272

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今年度（2024年度）から担当することになった「観光学概論」は大教室実施であり、満足度評価は4.5であった。昨年度（2023年度）の大教室科目である「経済学」と比較すると、満足度評価は4.2であったことから、今年度（2024年度）の「観光学概論」は上回った。「観光学概論」は１年次必修科目であり、1/3の履修生が留学生であることから、グループワークやペアワークを多用し、アクティブラーニングを毎授業で実施したことが、高評価につながったと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	「観光学概論」は１年次必修科目であり、270名ほどの履修生があり、その1/3が留学生であることから、4101教室の座席を指定席にして、留学生と日本人学生がともにグループワークやペアワークしやすいようにした。この指定席については、数回に一度、席替えを実施し、交流を拡げられるように仕組んだ。 また、後半の授業では、国際観光学科で取得できる資格や検定の種類とその内容についての担当教員から紹介をしてもらい、資格取得への早期取り組みを促した。さらに、「国際観光学科」の学際的な学びを知るため、学科教員（ゼミ担当教員）が持ち回りで、研究内容やゼミ活動について紹介し、２年次に配属する専門演習の方向性を熟慮するようにして、ゼミのミスマッチが起こらないように早めに対策を打つことにした。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	Q3は4.5（昨年4.2（経済学））、Q4は4.5（昨年4.2）、Q5は4.4（昨年4.1）であり、昨年度の経済学と比較すると総じて「観光学概論」では高い成果であった。Q5の授業内容について、さらに例題を増やして改善を加えていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	Q6は4.5（昨年度4.4（経済学））、Q7は4.6（昨年度4.5）、Q8は4.5（昨年度4.6）、Q9は4.5（昨年度4.5）、Q10は4.5（昨年度4.2）、Q11は4.4（昨年度4.2）であった。Q8とQ9以外は上昇した。Q8の配布プリントについては、非漢字圏の留学生用に、漢字にフリガナを振ったプリントを用意したり、穴埋めの枠が非漢字圏の学生には小さいとの指摘を受けて、プリントを拡大して印刷することを試みたが、結果的に拡大版のプリントを使用する留学生は少なかった。Q9のパワーポイント資料の活用についても、漢字のフリガナをつけたことによって、読みにくいことにつながったかもしれないことから、今後の反応を注意して確認していく。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	・この「観光学概論」は、1年次必修科目で履修生が270名であることから、座席を指定席にして、TAによる目視での出席管理を徹底したことによって、ピー逃げもなく出席率が高く保たれたように思う。 ・非漢字圏の留学生が1/3の履修生であったことから、プリントにある漢字にフリガナを振り、学生が意味を調べやすいように努めた。 ・ペアワークやグループワークを増やしたことは、自由記述によると楽しかったグループと不満足であったグループに分かれ、評価が二分することが分かった。不満足であったグループは、メンバーが発言しないなど建設的なディスカッションにならなかったことが原因である

項目見出し	コメント
	ことが多かった。 ・「国際観光学科」での学際的な学びを知るために、学科で取得できる資格や検定についての説明や、学科教員による研究やゼミ活動紹介を組み込んだ。これにより、2年次からの学びのミスマッチを防ぐことができると考える。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーA

教員名　城前　奈美

回答者数／履修者数　11／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今年度は4.7であり、昨年度の4.3と比べると0.4ポイント上昇し、全体平均と同じであった。このまま継続していけるように努める。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年度の教養セミナーでは、履修学生の理解に合わせて進捗ペースを配分するよう心掛けた。また、学生の発言する機会を多く持てるように工夫した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q2は4.6（昨年度3.6、一昨年度4.0）、Q3は4.6（昨年度3.8、一昨年度4.2）であり、昨年度より大幅に上昇し、全体平均と同等の結果であった。引き続き、学ぶことへの意識づけを心掛けたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q4は4.8（昨年度4.7、一昨年度4.9）、Q5は4.8（昨年度4.9、一昨年度4.7）、Q6は4.9（昨年度4.9、一昨年度4.8）、Q7は4.9（昨年度4.7、一昨年度4.8）であり、昨年度より上がったものと下がったものが混在しており、Q6やQ7に関しては全体平均より上回る結果であった。Q5の学生からの質問に対して、もう少々誠実に回答することを図っていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度の前期教養セミナーでは、昨年度と比較して、多くの項目で大幅に上昇したことが成果であった。特に、学ぶことへの興味・関心を惹きつけることが私の課題であったが、これを克服できたのではないかと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 木5

科目名　国際関係論

教員名　滝　知則

回答者数／履修者数　113／141

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13　R5実績3.9、R6実績4.4、差異0.5 　授業に対する満足度は前年度に比べ0.5改善した。ただしこれは全体平均の水準であり、さらなる改善が必要である。授業の内容と授業の方法について、少なくとも下に示す改善を行う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	ア　授業日までの１週間における国際関係の主なできごとについて、簡潔に報告した。ロシアのウクライナ侵攻、パレスチナ・イスラエル紛争、イスラエル・イラン関係、また欧州議会選挙・イギリス総選挙・フランス総選挙などである。日本語での報道に基づいた説明が中心だが、英語での報道や国連の発表も用いた。 イ　授業内容の理解に資するため、YouTubeに公開された動画を一部の回で用いた（2022年3月2日の国連総会決議の模様など）。 ウ　レスポンの使用。担当教員が提示した質問に回答してもらい、受講生の考え方の状況をスクリーンで見てもらえるようにした（毎回ではなく、随時使用）。 エ　復習問題へのフィードバックの実施。提出された回答をマナバにアップロードした（氏名・学籍番号は非表示）うえで、担当教員のコメントを簡潔に述べた。 オ　プレゼンテーションの実施。プレゼンテーション用のスライドを、事前にマナバに投稿したうえで、最大8人のグループで行ってもらった。コーディネーターを事前に決めてもらった。比較的少人数のグループであること、コーディネーター役の学生がいたことが、発表する際の緊張感の減少に役立ったことを期待する。 カ　授業の中で、国際関係の歴史的経緯を理解してもらう回を設けた。国際経済の歴史（第８回）、南北問題の歴史（第９回）、環境問題の歴史（第10回）。 キ　教科書の図表の該当個所を説明した。前年度は、授業内容と教科書との関連が不明瞭との指摘があった。 ク　学期の開始時にクラスルールを示し、これを守ってもらうこととした。毎回の授業プリント冒頭に記載した。受講している学生はクラスルールを守ってくれた。授業中の私語はなかった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3　R5実績3.8、R6実績4.5、差異0.7 Q4　R5実績4.1、R6実績4.5、差異0.4 Q5　R5実績3.8、R6実績4.4、差異0.6 Q3〜Q5とも、昨年度よりは改善したが、次に示すさらなる向上に取り組む。 2025年度の授業では、米国を初めとする世界の国々における選挙の結果が国際関係にどう影響するかに注目し、授業で取り上げる。世界の各地域の紛争ではウクライナ紛争・中東情勢・アジア情勢などに引き続き注目する。海洋プラスチックゴミを規制する国際条約（作成中）を含む環境問題、また人権問題についても、2025年までのできごとを授業内容に反映させる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策	Q6　R5実績3.9、R6実績4.5、差異0.6 Q7　R5実績4.1、R6実績4.5、差異0.4 Q8　R5実績4.1、R6実績4.6、差異0.5 Q9　R5実績4.1、R6実績4.6、差異0.5

項目見出し	コメント
▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	Q10　R5実績4.1、R6実績4.6、差異0.5 Q11　R5実績4.0、R6実績4.5、差異0.5 　Q6～Q11とも、昨年度よりは改善した。ただし少なくとも次に示すことを行い、さらなる向上に取り組む。 　授業プリントは紙媒体を毎回配布している。欠席した回があった場合、研究室前の引き出しからプリント（紙媒体）を受け取る、またはマナバからダウンロードできるようにしている。 　板書の文字を見やすくしたり、大きくしたりすることについて、要望が出ている。可能な限りスライドを使用する。板書計画をより念入りに行う。板書をするときは、大きな字で丁寧に書く（一文字A5サイズを目指す）。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年度と比べて、Q3からQ11まで評価に改善が見られた。ただし全体平均と同じレベルであり、更なる改善に取り組む。 予習確認問題を実施することが評価されている。予習することは授業内容の理解にプラスになると考える。予習確認問題の回答率が上がるよう、受講生が関心を持つ予習問題を工夫する。 　講義では、自分が言いたいことを自分のペースで話してしまうような、自己満足の話し方を控えている。代わりに次のことを心掛けている。受講生に理解してもらいたいことを、理解しやすいように工夫して話す。文章をできるだけ短くする。話すスピードはゆっくりめにする。一方で、伝えるべき内容は薄めない。少なくともこれらのことを行い、授業内容をさらに改善させる。

アクションプランシート

2024年度前期 月2

科目名　トレーニング論

教員名　中山　忠彦

回答者数／履修者数　73／92

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業満足度は、昨年度より0.１ポイント低下したものの4.5、昨年度は満足度を2と回答した者が2名いたが、今年度は2以下を回答している者はいなかった。昨年度と比較して授業の満足度に大きな変化はなかったと考えられ、比較的高い評価が得たのではないかと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎年、授業時に中山作成の授業で使用するスライドに対応した講義ノートを用いて授業を行っている。配布した講義ノートは図表を中心としたノートテイキングできるよう作成しており、授業後の振り返りや定期試験に向けた学習の手助けになるよう工夫している。また、全15回のうち2回授業理解度テストをGoogleフォームを用いて実施し、学習内容の振り返りができるよう工夫した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問項目3について、昨年度より0.１から0.2ポイント低下している。要因として考えられるには、前半の授業の進行速度がやや遅く、後半の授業の進行速度を早めたため、シラバス通りに進行できなかったことが考えられる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	質問項目6は他項目と比較してもやや高めの項目であり、熱意を持ったわかりやすい工夫がなされていたのではないかと考える。 機器の使用で昨年度より0.１ポイント上回っていることから、今年度新たに使用したレーザーポインタにより、重要な箇所を拡大して表示することにより、学生にわかりやすく伝えられたのではないかと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	質問項目１「何らかの準備学習などをしましたか」について、平均値が他の項目と比較してやや低く4.２であった。しかし、昨年度と比較すると0.４ポイント向上しており、理解度テストを活用したことで振り返りや事前学習することにつながったのではないかと考える。さらに向上させる改善策として考えることは、理解度テストの頻度を増やすことである。 毎年、おおむね高い評価を得ているものの、今年度満足度が0.１ポイント低下したことは改善の余地があり、シラバスに沿った授業進行を行っていくことを心がけたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　教養セミナーＡ

教員名　中山　忠彦

回答者数／履修者数　9／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度4.８でありかなり高い評価を得ている。 昨年度が4.６であったことを考えると、今年度の取り組みによって学生の雰囲気が大変よく、大学初年次教育としての機能をしっかり果たせたと思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教養セミナーは予め授業内容は決められたものであるが、進め方、学生への問いかけについては担当する教員の裁量によって行われる。そのため、教員の経験則から授業を展開することが多いが年々その取り組み方が向上していると感じる。 今年度多く取り入れたのは、セミナーで座席を毎回変え、セミナー内のメンバーのコミュニケーションを良好なものになるよう工夫した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	今年度の教養セミナーでは、質問項目２において0.２ポイント向上している。教養セミナーの内容について興味をもてると高い評価を得ている。これは年々向上傾向にある項目であるが、教養セミナーが同じ内容で進んでいるものの教員の裁量によって大きく変化する項目であると考えられる。また、メンバーの雰囲気、良好なコミュニケーションの場合に高評価を得る項目であると考えられ、内容以前にセミナー内のコミュニケーションを促進させるための方策を検討した方が良いかと思われる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	該当質問項目全てが4.９を示し、かなり高い評価を得た。今年度はこれまでの年度と比較して大きく向上した。これは、取り組みをできるだけ講義形式で一方通行にならないよう、ファシリテーターとしての役割を徹底したものと考えられる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は、いずれの項目もこれまでの年度と比較しても大きく向上したのではないかと思われる。できるだけ、教員が話す時間を少なくし、ファシリテーターとしての役割に徹したことがこれまでと大きく変わった点である。 ただ、ファシリテーターとして授業を進行しようとするなら、ある程度のスキルが必要なため、そのような研修が必要になってくると考える。

アクションプランシート

2024年度前期 月1

科目名　日本語表現法

教員名　山内　美穂

回答者数／履修者数　94／128

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	受講者数は128名だが94名が回答している。欠席が重なり途中で来なくなった学生もおり、通常は90数名出席していたので、アンケートは最後まで出席したほとんどの学生は提出したといえる。Q１３の満足度については、平均4.6で、5点が63名いるものの、4点が25名、3点と答えた学生も6名いる。総合的に見ると、5点をつけた学生も多いものの、一部は2点や1点をつけた学生もおり、授業で満足を得られず、予習や適切な授業態度につながらなかった学生もいたことを受け止めなければならない。今後は2点や1点の回答があった項目を重点的に改善していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回違うテーマで日本語の表現法を学ぶ授業で、国内学生、留学生ともに大学や社会人としての日本語表現を向上させてほしいと様々な工夫を心がけた。内容的には、メールの書き方を講義後に課題として実践させたり、敬語の仕組みや使用法などのテーマも扱った。大学や社会における適切な言葉の使い方を向上させたいと望む学生にとっては、さまざまなタスクを通して日本語の表現力が語彙力が高まったと感じたのではないかと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	多くが5点と回答しているが、4点や3点と回答した学生も一定の割合いる。特に授業内容は興味があるものだったかについては、2点をつけた学生も1名いる。授業ではレスポンスなどで学生の意見を共有することも多かったが、さらに双方向のアクティブな授業を心がけ、学生の興味をもう少し把握しながら、授業内容を調整していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	この項目も5点や4点と回答した学生が多かったが、話し方や教科書の使用などの質問では2点と回答した学生もいる。話し方ははっきりゆっくり話していたつもりだが、講義中は早口になったこともあったかもしれない。また教科書はここ数年同じものを使用しているが、そろそろ教科書についても再検討が必要だと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	SNSなどでのやりとりになれている学生にとって、社会や大学でのメールやレポート表現などについては自信がもてない者も少なくない。多くの学生はそれらを向上させるために設けた課題やレポートにもしっかり取り組んでいた。また実用的なものばかりでなく、少し言語学や日本語学にも興味をもってもらうための問いかけやレスポンスなどで学生の興味を引き付けるなどの工夫もしたことが、まあまあの評価につながったと考える。しかし、低い点数を付けた学生も若干名いることから、教科書や内容の再検討をし、予習などを促す工夫を今後さらにしていく必要があることを痛感している。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　教養セミナーA

教員名　山内　美穂

回答者数／履修者数　9／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業に対する満足度は平均5点であった。全員が満足したといえる。このセミナーは日本に来たばかりのほとんど日本語が使えない学生で構成されていた。親切に分かりやすい説明を心がけたのがこの結果だと考える。後期も同様に丁寧に対応していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	一般の国内学生と同様の教科書を使い、シラバスに沿って授業をすることは不可能であった。まず、教科書を「やさしい日本語」に書き換えて、manabaにアップロードし、読み合わせをするなどして、学生の理解を深める努力をした。さらに、日本語のアカデミックスキルを高めるために、ライティングでは簡単な日本語作文を書いたり、リーディングでは多読の教材を使って、まとまった文章を読めるようになるためのタスクをした。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	これも平均で5点なので、後期もこのような丁寧な授業を実施したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	ほとんどが平均点5点だが、「あなたの疑問や質問に対して誠実に応えていましたか」の質問については4点をつけた学生もいた。全ての学生にゆっくり、はっきりした日本語で質問には丁寧に答えたつもりだが、私自身の向き合い方が足りない学生もいたことが考えられる。今後はもう少し全体的によく気を配って誠実に対応したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	このクラスは、日本語がまだ十分に使用できない留学生が対象で、また入国が遅れて途中からクラスに来る学生も数人おり、一般の教養セミナーのシラバスに沿いながらも、学生に合わせかなりアレンジや工夫が必要であった。しかし、留学生はこのクラスで大学のしくみや成績のことなどを知るため、少しでも理解できるような工夫を重ねた。学生もクラスメイトや教員に馴染んでほとんど欠席せずに参加していた。昨年度からはこのような日本語がまだ十分に使用できない学生が多数入学している。教養セミナーの運営も今後も工夫をしていかなければならないだろう。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　地理学

教員名　池永　正人

回答者数／履修者数　229／251

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	2023（令和5）年度：4.3（日本人学生4.3　留学生：4.5） → 2024（令和6）年度：4.5（日本人学生4.5　留学生：4.8） 受講者は2000年度開講以来最高の251人で、1101教室の座席は満席であった。過去2年間の受講者数の推移は132人→186人→251人のとおりである。受講者数が急増しているにもかかわらず、評価点も日本人学生、留学生ともに向上している。評価の理由は、授業内容の要点を整理した分かりやすい書き込み用配布プリントと説明用パワーポイント、毎回の授業の確認問題を宿題として与え、次回の授業時に解答・解説を丁寧に行ったことによるものである。このことは一昨年度、昨年度と同様であるが、授業内容と説明方法の改善に努めたことが功を奏したものと思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	昨年度と同様な授業内容であるが、重要な専門用語を確実に覚えさせる工夫を凝らした。配布プリントは重要な用語を記入する穴埋め方式にして、パワーポイントの説明内容と同じ様式とした。また、授業後にパワーポイントをPDFファイルにしてマナバに掲載したこと、確認問題の解答を期日までにマナバに提出させた。評価する意見として、「高校の授業や共通テストに出るような内容とは違い、新たな視点で地理を学ぶことができ、最後まで飽きずに楽しく講義を受けることができた。」、「授業で書き取れないところがあってもパワポ（PDF）が授業の後にあるので、プリントにしっかり記入することができます。」などが出されている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	2023（令和5）年度：4.3（日本人学生4.3　留学生：4.6） → 2024（令和6）年度：4.6（日本人学生4.5　留学生：4.8） 評価点は日本人学生、留学生ともに向上している。その理由としては、授業の項目ごとの時間配分や写真・動画の投影時間を適切な分量にするなどの改善に努めたことによるものと思われる。しかし、受講者からは、「時間配分に気をつけたほうがいいと思いました。」、「授業内容に入るのが遅くて、毎回授業ギリギリになってスピードをあげて穴埋めをさせてくるので、それはやめてほしいです。」といった意見が出されており、授業の時間配分については不十分であった。次年度は授業の時間配分の改善に一層努めることにする。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	2023（令和5）年度：4.4（日本人学生4.4　留学生：4.6） → 2024（令和6）年度：4.6（日本人学生4.5　留学生：4.7） 評価点は日本人学生、留学生ともに向上している。これまでの授業経験から、授業中にディスカッションを取り入れたアクティブラーニングは、200人を超える大人数の授業では十分な教育効果は期待できない。それ故に、従来実施している穴埋め方式の配布プリントに重要な用語を書かせること、確認問題の宿題を課すこと、地図・グラフ・表・写真などを挿入して直感的に理解できるパワーポイントの内容を充実させることは、効果的な授業方法であると考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	「地理学」の授業内容、説明方法、毎回の宿題「確認問題」については、改善の成果が得られた。しかし、「授業の時間配分」の改善が不十分であった。授業アンケートの自由記述からは、授業に誠実に参加している学生が多くいることがわかり、貴重な感想や意見を謙虚に受け止めて授業改善に取り組むことにする。

アクションプランシート

2024年度前期 木1

科目名　観光地理学

教員名　池永　正人

回答者数／履修者数　163／188

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	2023（令和5）年度：4.4（日本人学生4.3　留学生：4.7） →　2024（令和6）年度：4.4（日本人学生4.4　留学生：4.7） 受講者は昨年度に比べてやや減少（192人→188人）したが、評価点は日本人学生が若干向上し、留学生は昨年度同様である。評価の理由は、教科書の内容を整理した書き込み用配布プリントや説明用パワーポイントの作成、毎回の授業の確認問題を宿題として与えて復習を促したことなどによるものと思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教科書の内容を要点整理した説明用パワーポイントは、最新の統計数値や情報を加筆して更新した。また、定期試験に代えて毎回の確認問題（宿題）と2回の中間テストの採点で成績評価したことは、授業の出席を促すとともに復習による理解度を高める効果があったものと思われる。とりわけ、授業の復習ができるように、授業後にパワーポイントをPDFファイルに変換してマナバに掲載したことは好評を得ている。評価する意見として、「パワーポイントとプリントで分かりやすく授業が進められ、また、実際に先生が行った時に撮った写真や動画などを見れて観光についての興味がさらに沸きました。」、「毎回の確認問題や小テストで復習ができるのでいいと思う。」などが出されている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	2023（令和5）年度：4.4（日本人学生4.3　留学生：4.8） →　2024（令和6）年度：4.5（日本人学生4.4　留学生：4.9） 評価点は日本人学生、留学生ともに向上している。昨年度は授業の説明が詳しくなりすぎて脱線することが度々あったこと、写真・動画を一度にたくさん見せて授業内容の混乱を来したことなどの指摘があったので、今年度はこれらの改善に努めた。しかし、「時間配分に気を付けたほうがいいと思いました。」、「授業の最後の方が、はやあしになっていると思うのでゆっくりして欲しかった。」など、依然として改善されていないようなので、次年度は意識して改めることにする。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	2023（令和5）年度：4.5（日本人学生4.4　留学生：4.8） →　2024（令和6）年度：4.6（日本人学生4.5　留学生：4.9） 評価点は日本人学生、留学生ともに向上している。授業中の脱帽、私語の厳禁、飲食物を机上に置くことの禁止、これら３点は基本的な受講態度であり、授業環境を整える重要な要素である。脱帽については、室内で帽子をかぶって講義を受ける行為は世界共通のマナー違反であることを諭して理解を求めた。そのため受講者200人近くの「観光地理学」の授業においては、帽子をかぶっている人は一人もいない。このことは、受講者251人の「地理学」の授業でも同様である。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業改善の必要性を強く感じた点は、昨年度も指摘されていたが改善されていない本題から脱線した説明を改めること、多すぎる写真投影を選定して授業内容の時間配分を適正にすることである。このような履修者からのたくさんの意見・感想は、謙虚に受け止めて授業改善に取り組むことにする。 留学生と思われる自由記述に「誰で遅れず着いてこれる講義をしてくれて良かった。」の言葉がある。たどたどしい日本語ではあるが、とても励みになるありがたい言葉である。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　茶道文化ⅢＡ

教員名　安部　直樹（嶋内　麻佐子）

回答者数／履修者数　10／11

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.9、昨年度は4.4で、今年度は0.5ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、満足が9名、やや満足が1名である。 茶道文化ⅢAでは、これまでに習得してきた薄茶点前や濃茶点前を基本として、不時点前や逆勝手点前といった様々な種類の点前を習得し、もてなしについて考えることを授業内容にした。今年度は、後期に開講する茶道文化ⅢBでコロナ禍で中断していた観月茶会を5年ぶりに催すため、授業の中でも観月茶会に合わせて、亭主・半東の練習、接待（お運び）の練習、水屋での美味しいお茶の点て方の練習を取り入れた。点前だけでなく、茶会を開催するために必要な内容を幅広く授業で行ったことは、満足度向上の一因になったと思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度は、今年度は4.8、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.1ポイント高い。 茶道文化ⅢAでは、茶道文化ⅠとⅡで学んだことを活かし、不時点前や逆勝手点前という新しい点前を習得することを目標とした。不時点前や逆勝手点前などのこれまでに学んだことがない点前は、学生にとって目新しく、興味関心を引くものであった。また、茶道文化Ⅲでは、花生けについての講義も行っており、「真・行・草」といわれる格付けについても学ぶようにしている。毎回、授業で床の間に設えてある茶花が、どのような花と花入の関係性で生けられているのか、学生自身が興味を持って確認することにつながっていると考える。点前だけではなく、広く日本文化に触れることが学生の受講態度や学習意欲の向上に寄与していると思われる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.9、昨年度は4.9で、同数である。全体平均より0.3ポイント高い。回答者数を見ると、良いが9名、やや良いが1名である。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8、昨年度は4.9で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8、昨年度は4.8で、同数である。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 全体的に高い数値が出ており、全体平均よりも0.2～0.3ポイント高い数値が出ていることは良好である。授業内容については引き続き、高い数値が出るよう学生のニーズに合わせながら内容を検討していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.8、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.8、昨年度は4.8で、同数である。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.2、昨年度は4.7で、今年度は0.5ポイント低い。全体平均より0.5ポイント低い。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが2名、どちらとも言えないが3名である。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.2、昨年度は4.5で、今年度は0.3ポイント低い。全体平均より0.3ポイント低い。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが2名、どちらとも言えないが3名である。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していました

項目見出し	コメント
	かについての平均は4.7、昨年度は4.7で、同数である。全体平均とも同数である。回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが3名である。 　Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかについての平均は4.8、昨年度は4.9で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 　Q8とQ9については昨年度や全体平均との比較において、低い数値が出ている。しかし、茶道文化は実技を中心とした授業内容を行うため、機器を使用する場面がほとんどない。また、茶道文化ⅢAで学ぶ不時点前などは応用編となるため、基礎編の教科書には記載がないのが実情である。そのため、Q8やQ9の結果に関して、数値が伸び悩んでいると思われる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	茶道文化Ⅲまで履修している学生ということもあり、茶道に取り組む姿勢や、興味関心度は高い水準にあると考えられる。授業では、逆勝手点前の実技確認を行った。確認後は個別にフィードバックをすることで、学生が自分の点前の習得状況を理解することにつながり、改善点に注意しながら点前の稽古ができている。また、習得した点前がどのようにもてなしにつながっているのかを知るために、後期に行う観月茶会の説明や、茶会でのそれぞれの役割（亭主や半東、接待、水屋）の練習の中で確認するように授業内容を計画した。茶道文化Ⅰ、Ⅱを基礎とした応用としての茶道文化Ⅲの特性を出すことができたと思われる。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　茶道文化ＩＡ

教員名　嶋内　麻佐子

回答者数／履修者数　90／107

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかについての平均は4.7（留学生は5.0）、昨年度は4.6で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均とは同数である。回答者数を見ると、満足が63名、やや満足が23名、どちらとも言えないが4名である。 本クラスは履修者が107名と多く、自明堂と不息庵、2101教室の3会場を使用して授業を行った。本学に入学して初めて茶道を学ぶ学生がほとんどであり、初めてのことを学ぶ、日本文化を知るという新鮮さが満足度向上の一因になっていると思われる。少人数の班に1名の指導者を配置して授業をすることで、学生一人一人の課題にいち早く気づくことができる。その結果、学生の到達段階に合わせた丁寧な指導をできることが、学生からの好評につながっていると考える。また、茶道文化ＩＡの授業には、SAの学生も複数人、指導者として配置している。履修学生からするとSAの学生は先輩に当たるため親近感が湧き、コミュニケーションが取りやすいというコメントがあった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度については平均が4.6（留学生は5.0）で、昨年度は4.5で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.1ポイント低い。回答者数を見ると、熱心が59名、やや熱心が27名、どちらとも言えないが4名である。 薄茶点前（前半）の実技確認を行うことは、学生にとって1つの目標が設定されることになる。その結果、毎回の授業への取り組みに対して、さらに身が入り充実した時間を設けることにつながった。また、昨年度、実技確認の内容を広く設定したため、初めて茶道を学ぶ学生にとっては難しいとの声もあり、苦戦している様子が見受けられた。今年度は、茶室での自主練習ができるように案内を出し、実技確認専用の動画を作製してmanabaに掲載するなど、学生が自主的に学ぶことができる体制づくりを行ったことが学習意欲の向上につながったと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分かりやすかったですかについての平均は4.7（留学生は5.0）、昨年度は4.6で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが63名、やや良いが24名、どちらとも言えないが3名である。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はあったかについての平均は4.6（留学生は5.0）、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均より0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが64名、やや良いが20名、どちらとも言えないが5、あまり良くないが1名である。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.5（留学生は5.0）、昨年度は4.5で同数である。全体平均より0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが55名、やや良いが28名、どちらとも言えないが7名である。 授業内容についての結果に関して、Q3は今年度、0.1ポイント高い結果が出ており、良好である。Q4、Q5は全体平均との比較で0.1ポイント低い結果となっている。この点については、必修科目で、なおかつ初めて茶道を学ぶということもあり、興味関心が低くなったのではないかと考える。しかし、学生のコメントを見ると、「乗り気ではなかったが、やっていくうちに楽しくなった」との声もあり、授業内容については肯定的に捉えている面もある。引き続き、学生のニーズを把握して、授業内容の改善に努めていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.6（留学生は5.0）、昨年度は4.6で、今年度は同数である。全体平均とも同数である。回答者数を見ると、良いが64名、やや良いが19名、どちらとも言えないが6名、あまり良くないが1名である。

項目見出し	コメント
▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.7（留学生は5.0）、昨年度は4.7で同数である。全体平均とも同数である。回答者数を見ると、良いが63名、やや良いが25名、どちらとも言えないが2名である。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.6（留学生は5.0）、昨年度は4.6で、今年度は同数である。全体平均より0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが58名、やや良いが25名、どちらとも言えないが7名である。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.3（留学生は5.0）、昨年度は4.3で、今年度は同数である。全体平均より0.2ポイント低い。回答者数を見ると、良いが50名、やや良いが18名、どちらとも言えないが21名、あまり良くないが1名である。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応したかの平均は4.6（留学生は5.0）、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均より0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが61名、やや良いが23名、どちらとも言えないが5名、あまり良くないが1名である。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかについての平均は4.6（留学生は5.0）、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均より0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが57名、やや良いが27名、どちらとも言えないが6名である。 授業方法に関して、今年度は概ね昨年度と同様の数値が出ているが、Q9の板書や機器の使用については、全体平均より0.2ポイント低い数値となっている。これは、茶道文化が実技を主とする授業の特性を持っていることから、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが要因と考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	初めて茶道を経験する学生がほとんどであるが、全体的には概ね良い結果が出ていると思う。授業の構成に関しては、実技確認という一つの目標を設定したことで、学生の授業への取り組む姿勢がより積極的になったようである。また、茶道を通して礼儀作法や人との接し方などを学んでおり、日常生活と結び付けていることも満足度の向上に影響しているものと思われる。一方で、対面授業では指導者によって教え方が異なるとの指摘もあることから、指導者間の統一を図っていきたい。 なお、本クラスは、茶道文化ⅠAの中でも履修者が100名を超え最多数である。少人数での指導体制を組むために3会場（2会場は茶室、1会場は通常の講義教室）を使用し、会場は毎週ローテーションして授業を行った。そのため、3回に1回は畳や床の間という日本文化の佇まいがない教室で授業をせざるを得ない状況であった。しかし、講義教室でも花を設え、禅語や花の紹介をし、点前の稽古については茶道文化研究所の動画も活用して、割り稽古を徹底して行った。そして、講義教室で学んだことを茶室で実践できるような体制をつくり、授業環境を整えることに注力した結果が、授業アンケートの好評につながったと思われる。また、SAの学生と交流ができたことは学生にとって良い刺激となり、学習意欲の向上に寄与していると考える。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　茶道文化ⅣＡ

教員名　嶋内　麻佐子

回答者数／履修者数　9／10

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.9、昨年度は5.0で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、満足が8名、やや満足が1名である。全体平均との比較において高い数値が出ており良好である。 今年度も大学が連携協定を結んでいる波佐見町にある波佐見町歴史文化交流館にて、茶道文化ⅣAの学生が茶席を設けた。学内で学んだことを学外でアウトプットし、外部の方々に評価をもらうことは学生にとって大きな刺激となり、それが満足度の向上につながっているものと考える。また、学生は亭主や接待、水屋などの様々な役割が一丸となって茶会を開くことができると実感している。チームで取り組むことやコミュニケーションの大切さを培うことができたことも大きな要因と思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度についての平均は4.6、昨年度は4.8で、今年度は0.2ポイント低い。全体平均より0.1ポイント低い。 昨年度開催した「波佐見茶会」の反省を活かしながら、学生が主体的に考えておもてなしをすることを重視し、茶会に向けての練習や本番を行った。茶会本番では、その場その場に合わせた臨機応変な対応をとることができた。4年間学んできた集大成として、客を迎えての茶会を実施できたことは、学生の受講態度の向上に大きく寄与していると考える。 また、授業では逆勝手の点前を学ぶ時間も持つことができた。茶室や客の位置に合わせた茶室の使い方を学ぶことで、広く茶道に興味を持つことにつながっている。引き続き、学生の興味関心を引き立てる授業内容を心掛け、今後も実践していきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.7、昨年度は4.9で、今年度は0.2ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが1名、どちらとも言えないが1名である。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8、昨年度は5.0で、今年度は0.2ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8、昨年度は5.0で、今年度は0.2ポイント低い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。 昨年度よりは低い数値が出ているものの、全体平均との比較においては、すべての項目で高い数値が出ており良好である。茶会を経験することで、学生は茶道に対する興味がとても高まっているようである。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.7、昨年度は5.0で、今年度は0.3ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが3名である。 Q7の熱意の感じられる授業の平均は4.8、昨年度は5.0で、今年度は0.2ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.6、昨年は4.6で、同数である。全体平均より0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが6名、やや良いが2名、どちらとも言えないが1名である。 Q9の板書や機器の使用は適切でしたかについての平均は4.3、昨年度は4.9で、0.6ポイント低い。全体平均より0.2ポイント低い。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが2名、どちらとも言えないが2名である。

項目見出し	コメント
	Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたかの平均は4.8、昨年度は4.9で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。 Q11学生の授業参加を促すような工夫がなされていたかの平均は4.8、昨年度は5.0で、今年度は0.2ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが2名である。 授業方法に関しても昨年度よりは低い数値が出ているものの、全体平均との比較においては、概ね高い数値が出ており良好である。茶会に向けての取り組みの中で指導者や同じクラスの学生と交流を深めることができたことも向上の一因であると考える。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	茶道文化ⅣAでは、連携協定を結んでいる波佐見町で「波佐見茶会」を開催し、学外で一般の方を客に迎えての実践的なおもてなしの場を設定している。学内だけでなく、学外で活動することは学生にとって刺激となっており、茶道に対する興味関心を高めることにつながっているようである。茶会の開催に向けての授業では、学生同士で意見を出し合いながらで取り組んでいる様子が見られた。学生は茶会本番を通して、茶会を開催した満足感や達成感が溢れていた。茶道文化Ⅳは集大成の年であり、学生が社会に出た際に活かすことのできるスキルを身につけることができるよう、今後も学生主体を中心とした授業内容を展開していきたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　茶道文化ⅡA

教員名　嶋内　麻佐子

回答者数／履修者数　26／26

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.8、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、満足が21名、やや満足が4名、どちらとも言えないが1名である。 本クラスは、履修者が26名である。自明堂で授業を行うことで、点前の練習の際は1人1釜を使うことができ、充実した練習環境を提供することができた。また、少人数の班編成を行い、各班に1名の指導者を配置している。学生が質問等をしやすい環境を整えたことが、点前技術の習得につながり、満足度の向上に寄与しているものと考える。また、今年度もハイスクール茶会の学生スタッフとして茶会運営に携わる授業内容を取り入れた。学内だけの学びではなく、学外で高校生や一般の方々との交流の機会を設けたことで、多様な方々との交流を通して、コミュニケーション能力を養うことができたことも満足度を上げている要因につながったと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度についての平均は4.7、昨年度は4.7で、同数である。全体平均とも同数である。回答者数を見ると、熱心が21名、やや熱心が3名、どちらとも言えないが2名である。大半の学生が熱心・やや熱心であると回答している。 今年度は、昨年度の比較及び全体平均との比較においても同数である。前述のようにハイスクール茶会への参画は、茶会運営の中で様々な場面に遭遇したときに、自分で考え行動する力を発揮する機会となり、自主性や課題解決力が求められる。また、茶会当日に向けて役割の確認、資料や備品の準備、会場の視察などを授業の中で5回行った。そのような事前準備を念密に行ったことで、茶会当日も積極的に活動している様子が見受けられた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.6、昨年度は4.6で、同数である。全体平均とも同数である。回答者数を見ると、良いが18名、やや良いが6名、どちらとも言えないが2名である。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが20名、やや良いが6名である。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが22名、やや良いが3名、どちらとも言えないが1名である。 授業内容については、昨年度と同数または0.1ポイント高い。また、全体平均とは同数または0.1～0.2ポイント高く、概ね良好である。点前に関しては、茶道文化Ⅰで学んだ薄茶点前を基本にして濃茶点前（前半）の習得を目指した。点前技術の習得とハイスクール茶会の参画の2つの大きな内容を中心に授業を展開できたことも興味を高めることにつながったと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	Q6話し方は明瞭であったかの平均は4.8、昨年度は4.6で、今年度は0.2ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが21名、やや良いが4名、どちらとも言えない1名である。 Q7の熱意の感じられる授業であったかの平均は4.7、昨年度は4.8で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均とは同数である。回答者数を見ると、良いが20名、やや良いが5名、あまり良くないが1名である。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.4、昨年度は4.4で、同数である。全体平均より0.3ポイント低い。回答者数を見ると、良いが16名、やや良いが6名、どちら

項目見出し	コメント
	とも言えないが3名、あまり良くないが1名である。 　Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切であったかの平均は4.4、昨年度は4.3で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.1ポイント低い。回答者数を見ると、良いが16.名、やや良いが5名、どちらとも言えないが5名である。 　Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかについての平均は4.5、昨年度は4.4で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.2ポイント低い。回答者数を見ると、良いが18名、やや良いが3名、どちらとも言えないが5名である。 　Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかについての平均は4.8で、昨年度は4.4で、今年度は0.4ポイント高い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが21名、やや良いが5名である。 　授業方法に関しては、昨年度との比較や全体平均との比較において、一部改善傾向であるものの、低い数値が出ている項目もあり改善が必要である。特にQ10に関しては、他の学生にも不利益を被る可能性があるため、指導者間で共有をして指導をして改善に努めていく。茶道文化は実技を主とする授業の特性を持っていることから、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。そのため、Q9の板書や機器の使用については、低い数値となっていると考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	点前技術の習得については、少人数グループに分かれて行うことで、一人一人の学生が点前を練習する機会を設けることにつながり、良好な点であった。また、各班の指導者については茶道専門家だけでなく、SAを配置することで、より質問のしやすい環境を作ることができ、学生と指導者の相互交流促進のきっかけとなった。茶道文化Ⅰや茶道文化Ⅱは履修者が多いクラスもあるため、SAを有効に活用して学生の理解力の向上に今後も努めていきたい。 　また、ハイスクール茶会の開催に当たっては、茶会運営には多くの学生スタッフが必要となる。昨年度に引き続き、茶道文化Ⅱの学生が中心となって運営スタッフとして参画した。学生にとっては、普段、学内で学んでいることを学外で発表する機会となっており、茶会を催すための裏方（水屋）の大切さを理解することにつなげている。授業の中では各担当校のマニュアル等を確認し、現地視察も行うことで、茶会当日のサポートにしっかりと取り組むことができていた。各高校の顧問や外部講師、高校生からは学生スタッフの活動に大変良い評価を得ており、学生スタッフの力なくして茶会の成功はなかったものと思われる。次回以降も学外で学生が主体的に活動し、アウトプットができる機会を設けることができるように授業内容等を検討していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　茶道文化ⅢＡ

教員名　嶋内　麻佐子

回答者数／履修者数　10／11

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかの平均は4.9、昨年度は4.4で、今年度は0.5ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、満足が9名、やや満足が1名である。 茶道文化ⅢAでは、これまでに習得してきた薄茶点前や濃茶点前を基本として、不時点前や逆勝手点前といった様々な種類の点前を習得し、もてなしについて考えることを授業内容にした。今年度は、後期に開講する茶道文化ⅢBでコロナ禍で中断していた観月茶会を5年ぶりに催すため、授業の中でも観月茶会に合わせて、亭主・半東の練習、接待（お運び）の練習、水屋での美味しいお茶の点て方の練習を取り入れた。点前だけでなく、茶会を開催するために必要な内容を幅広く授業で行ったことは、満足度向上の一因になったと思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度は、今年度は4.8、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.1ポイント高い。 茶道文化ⅢAでは、茶道文化ⅠとⅡで学んだことを活かし、不時点前や逆勝手点前という新しい点前を習得することを目標とした。不時点前や逆勝手点前などのこれまでに学んだことがない点前は、学生にとって目新しく、興味関心を引くものであった。また、茶道文化Ⅲでは、花生けについての講義も行っており、「真・行・草」といわれる格付けについても学ぶようにしている。毎回、授業で床の間に設えてある茶花が、どのような花と花入の関係性で生けられているのか、学生自身が興味を持って確認することにつながっていると考える。点前だけではなく、広く日本文化に触れることが学生の受講態度や学習意欲の向上に寄与していると思われる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.9、昨年度は4.9で、同数である。全体平均より0.3ポイント高い。回答者数を見ると、良いが9名、やや良いが1名である。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.8、昨年度は4.9で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8、昨年度は4.8で、同数である。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 全体的に高い数値が出ており、全体平均よりも0.2～0.3ポイント高い数値が出ていることは良好である。授業内容については引き続き、高い数値が出るよう学生のニーズに合わせながら内容を検討していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.8、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.8、昨年度は4.8で、同数である。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.2、昨年度は4.7で、今年度は0.5ポイント低い。全体平均より0.5ポイント低い。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが2名、どちらとも言えないが3名である。 Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.2、昨年度は4.5で、今年度は0.3ポイント低い。全体平均より0.3ポイント低い。回答者数を見ると、良いが5名、やや良いが2名、どちらとも言えないが3名である。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していました

項目見出し	コメント
	かについての平均は4.7、昨年度は4.7で、同数である。全体平均とも同数である。回答者数を見ると、良いが7名、やや良いが3名である。 　Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかについての平均は4.8、昨年度は4.9で、今年度は0.1ポイント低い。全体平均より0.1ポイント高い。回答者数を見ると、良いが8名、やや良いが2名である。 　Q8とQ9については昨年度や全体平均との比較において、低い数値が出ている。しかし、茶道文化は実技を中心とした授業内容を行うため、機器を使用する場面がほとんどない。また、茶道文化ⅢAで学ぶ不時点前などは応用編となるため、基礎編の教科書には記載がないのが実情である。そのため、Q8やQ9の結果に関して、数値が伸び悩んでいると思われる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	茶道文化Ⅲまで履修している学生ということもあり、茶道に取り組む姿勢や、興味関心度は高い水準にあると考えられる。授業では、逆勝手点前の実技確認を行った。確認後は個別にフィードバックをすることで、学生が自分の点前の習得状況を理解することにつながり、改善点に注意しながら点前の稽古ができている。また、習得した点前がどのようにもてなしにつながっているのかを知るために、後期に行う観月茶会の説明や、茶会でのそれぞれの役割（亭主や半東、接待、水屋）の練習の中で確認するように授業内容を計画した。茶道文化Ⅰ、Ⅱを基礎とした応用としての茶道文化Ⅲの特性を出すことができたと思われる。

アクションプランシート

2024年度前期 土3

科目名　茶道文化ＩＡ

教員名　嶋内　麻佐子

回答者数／履修者数　48／52

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13の授業に参加して満足できましたかについての平均は4.9（留学生は5.0）、昨年度は4.7で、今年度は0.2ポイント高い。全体平均より0.3ポイント高い。回答者数を見ると、満足が44名、やや満足3名、不満足が1名である。9割を超える学生が満足していると肯定的な回答をしている。 本クラスの履修者は61名である。自明堂と不息庵を使用し、1班を7～8名の少人数に編成して授業を行っている。各班には1名の指導者を配置している。大学で初めて茶道を学ぶ学生がほとんどのため、少人数での授業は丁寧に指導を受けることができ、不安がある学生も落ち着いて受講できているようである。少人数制での授業は、質問しやすい環境づくりになっており、満足度の向上に大きく影響していることがわかった。また、これまで触れることがなかった茶道という日本文化を学ぶ機会となったことも満足度に寄与しているものと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度については平均が4.9で（留学生は5.0）、昨年度は4.8で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、熱心が43名、やや熱心が5名である。 茶道文化は実技を伴う科目で、学生の理解度を図るために薄茶点前（前半）の実技確認を実施した。学生にとっては1つの目標が設定されたことで、毎回の授業への取り組みに対して、さらに身が入り充実した時間を設けることにつながった。また、本クラスは薬学科の学生がほとんどであり、学生の中には自然の中に咲く花や禅語に触れることが精神的な安らぎにつながっているものと思われる。禅語や花を設えることは茶道の基本であり、茶道が持つ芸術性や、そこに含まれる精神的な意味を伝えることができるよう、禅語の説明や季節の花の紹介をしていることが良かったのではないかと推察される。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	Q3の授業はよく編成され、まとまっており、分りやすかったですかについての平均は4.8（留学生は5.0）、昨年度は4.8で、同数である。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが43名、やや良いが3名、どちらとも言えないが1名、あまり良くないが1名である。 Q4のシラバスと授業内容に整合性はありましたかについての平均は4.9（留学生は5.0）、昨年度は4.9で、同数である。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが44名、やや良いが3名、どちらとも言えないが1名である。 Q5の授業内容は興味あるものでしたかについての平均は4.8（留学生は5.0）、昨年度は4.7で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが41名、やや良いが5名、どちらとも言えないが1、良くないが1名である。 授業内容に関しては概ね良好な数値が出ている。学生からは「茶道を習うということはこの大学ならではだと思う」とのコメントがあり、本学の教育の特色が活かされている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	Q6の話し方は明瞭でしたかについての平均は4.9（留学生は5.0）、昨年度は4.9で、同数である。全体平均より0.3ポイント高い。回答者数を見ると、良いが43名、やや良いが4名、あまり良くないが1名である。 Q7の熱意の感じられる授業でしたかについての平均は4.9（留学生は5.0）、昨年度は4.8で、今年度は0.1ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが45名 、やや良いが3名である。 Q8の教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかについての平均は4.9（留学生は5.0）、昨年度は4.6で、今年度は0.3ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者を見ると、良いが41名、やや良いが7名である。

項目見出し	コメント
	Q9の板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかについての平均は4.5（留学生は5.0）、昨年度は4.2で、今年度は0.3ポイント高い。全体平均と同数である。回答者数を見ると、良いが34名、やや良いが4名、どちらとも言えないが10名である。 Q10の遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応したかの平均は4.9（留学生は5.0）、昨年度は4.7で、今年度は0.2ポイント高い。全体平均より0.2ポイント高い。回答者数を見ると、良いが43名、やや良いが4名、どちらとも言えないが1名である。 Q11の学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかについての平均は5.0（留学生は5.0）、昨年度は4.8で、今年度は0.2ポイント高い。全体平均より0.3ポイント高い。回答者数を見ると、良いが46名、やや良いが2名である。 授業方法に関しては、全体的に昨年度よりも高い数値が出ており、良好である。Q9の板書や機器の使用については、全体平均と同数となっているが、茶道文化は実技を主とする授業の特性を持っていることから、板書やOHPなどの機器を使用することはほとんどないのが現状である。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生のコメントを見る中で、各班の指導者の丁寧な説明が良好であることがわかった。特に、茶道文化Ⅰの授業ではSA（先輩学生）を配置しており、より質問のしやすい環境を作ることができ、学生と指導者の相互交流促進のきっかけとなっている。今後もSAを有効に活用し、さらに学生の理解力の向上に努めていきたい。また、実技確認という一つの目標設定は、学生の授業への取り組む姿勢がより積極的になったようである。一方で、指導者によって教え方が異なるとの指摘もあることから、教科書の使用や指導者の研修の機会を増やし、実技の統一にも力を注いでいきたい。 本クラスは、ほとんどが薬学科の学生が履修しており、学科の専門科目の学びに対して不安を抱えている学生も多く見受けられる。そのような中、学科の専門科目とは全く異なる性質を持つ茶道文化の授業は、ある意味で学生にとって新鮮で憩いの時間にもなっているようである。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　ホテルビジネス実務エキスパート

教員名　落合　和昭

回答者数／履修者数　54／75

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	回答率は72.0％と一定以上を確保できたうえで、満足度は4.5となり、開講初年度としては充分な結果と判断される。なお、不満足が1名見受けられるが、自由コメントには該当が予測される具体的な記載が無く、大きな問題とは考え難い。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	説明がわかりやすい、回答の解説が良い、問題を数多く解いて楽しくなってきた、話し方も明瞭だ、など、新規に開設した講義としては、ホテルビジネス実務検定の団体受験準備に特化した内容が評価されたものと思われる。結果として、11月に開催予定の本試験には、17名（前回4名、前々回12名）を上回る申し込みがなされている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	問題番号を記載して欲しい、小テストをやって欲しい、などの自由意見があり、次年度へ向けての検討を行いたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教室が大きすぎる、関心の無い学生がもっと興味を持てる授業が期待される、などのコメントが該当すると思われる。教室については関係部署と協議するが、ホテルに関心の無い学生に団体受験を通じて興味を喚起できるか、については、今後の課題としたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	初年度での評価を踏まえて、今後はもう少しメリハリのある授業内容を検討したい。また、アクティブラーニングの実践を強化し、本試験への参画をさらに強化していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　教養セミナーA

教員名　落合　和昭

回答者数／履修者数　9／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	アンケート主旨の説明には充分配慮したが、回答率は75.0%と一定水準にあるものの、前年を下回ってしまった。満足度は4.6で、且つ全員4以上であったが、前年には届かなかった。引き続き向上を図る方法について検討したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	セミナーの効果性については高い評価を得ており、自由コメントにも主旨を反映した記述がある。これらの講義や活動を通じて、セミナーの主旨が一層反映できるよう留意したい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	セミナーの内容については全体を下回る満足度にあり、特性上大幅な変更は難しいものの、興味を喚起できる表現や取り組み方法などを検討したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	担当教員の取り組みについては、全て4以上を得ており特段の課題を見受けないが、その中では学生の参加に関する項目が最も下位に属するため、今後は一層の授業参画を促していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	一定の評価には達しているものの、回答率や満足度には更なる改善の余地を見受ける。今後は定められた内容の範囲でも、より学生の興味を刺激し、自主的な参画意欲が湧くような授業運営を検討したい。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　コンピュータ基礎ⅠA

教員名　尾場　均

回答者数／履修者数　66／71

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今回も多少の授業内容の見直しを行ったが、学生の評価に大きな変化は見られない。そのため、次年度も同様の内容で授業を進める。自由記述によるアンケート結果から、学生の満足度も高いことが確認できた。 学生からの意見を総合すると、最も改善すべき点、かつ学生が最も重要だと認識しているのは、やはり授業前の準備学習であるQ1の準備である。ただし、学生自身は、これらの課題を予習・復習とは捉えていないという点も明らかになった。このスコアが伸びず課題などを実施するべきか検討する。 毎回提出する復習や宿題は、学生の負担を考慮しながらも、スキル向上に繋がると学生自身が理解している。自由記述からは、自分の努力が結果として明確に現れることで、学習意欲が向上していることが伺える。 また、数年前と比較して、授業の進度をゆっくりにし、同じ内容を繰り返し行うことで、学生の理解度が深まり、評価に繋がっていると考える。 本授業では、学生が個々に問題解決に取り組むことを重視してる。そのため、質問しやすい環境づくりや、じっくり考える時間を確保するなど、学生が主体的に学習できるような授業展開を心掛けた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	ほぼすべての学生が、カリキュラムで設定された目標を達成することができた。また、再履修生を除き、すべての学生が宿題を提出するなど、学習に対する意欲も高かったと考えられる。授業を通じて、学生のスキルが向上したことを実感した。 ポートフォリオシステムや掲示板などを積極的に活用することで、学生の学習意欲を向上させることができた。特に、学部別の教材を提示したことで、学生はより身近な内容で学習に取り組むことができ、今後も、このような取り組みを継続していく予定である。 学生アシスタントとの情報交換や、授業中の質疑応答を通じて、授業の進め方を柔軟に修正することが可能となりました。自由記述のアンケート結果からも、このことが授業効果に大きく貢献していることが確認できる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	2024年Q3 4.3　Q4 4.6　Q5 4.4 2023年Q3 4.6　Q4 4.7　Q5 4.5 2022年Q3 4.5　Q4 4.7　Q5 4.4 シラバスと授業内容に整合性があるにも関わらず、例年と同じ、それ以上の取り組みであったが、スコアは向上しなかった。シラバスと授業内容の整合性、そして反復練習の導入が、学生のスキル向上に繋がったと考えらるが、すべての学生が内容を理解できているとは言い切れず、より実践的な内容を取り入れるよう工夫したいと考えている。 この分野が不得意な学生への配慮として、授業を中断して全体の説明を行ったり、重要な部分を繰り返し解説したりするなどの工夫を行った結果、理解が難しい学生や苦手意識を持つ学生への配慮として、授業時間を余裕を持って設定したことは効果的であった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11	学生が利用する機器と大学のシステムのバージョンが一致したことで、課題や宿題の円滑な実施が可能になっている。教室を移動しながら学生の進捗状況を確認したり、アシスタントから情報を得たりすることで、授業の理解度を把握し、必要な説明を繰り返すなど、よりきめ細やかな指導を行うことができた。 また、今年度も私語や遅刻がほとんど見られなかったことから、授業内容に魅力を感じ、積極的に参加している学生が多いことがうかがえ

項目見出し	コメント
スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	る。授業の最後に、学んだ内容がどのように活かされるのかを説明することで、学生の学習意欲を高めることができたと考える。 学生からの評価を見ると、私の熱意や説明の分かりやすさは伝わっている。しかし、授業内容に興味を示さない学生もいる。次年度は、授業中に学生の様子を注意深く観察し、必要に応じて個別に対応するように努める。 応用問題や実践的な内容を多く盛り込み、丁寧に解説することで、学生の理解を深めるよう努めました。また、授業の進度が速いと感じる学生が減ったことから、授業方法の改善に繋がったと考えられる。 さらに、教室を移動しながら学生の進捗状況を確認したり、アシスタントから情報を得たりすることで、授業の理解度を把握し、必要な説明を繰り返すなど、よりきめ細やかな指導を行うことができた。教材の提示方法についても、視覚的に分かりやすい工夫を凝らしました。 後期の授業でも、同様の工夫を継続し、学生がより理解しやすい授業を目指す。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	毎回の授業の前半に復習時間を設け、学生の理解度に合わせて授業を進めるなど、学生一人ひとりの学習状況に合わせた指導を行った。特に、理解が遅れている学生に対しては、アシスタントと丁寧に個別指導を行い、必要な復習を徹底した。 授業アンケートの結果から、復習時間の有効性と、最新のICTに関する内容の評価の高さが確認できた。学生の理解度が低い箇所は、復習時間の中で再度説明することで、より深く理解を促すことができた。 また、社会で役立つ実践的な知識や技術を授業に多く取り入れることで、学生の学習意欲を高め、興味を持ってくれることは、学生自身のスキルアップにつながると考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 火5

科目名　映像文化論

教員名　尾場　均

回答者数／履修者数　66／92

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	前回4.5　今回4.7 映像教材を効果的に活用することで、学生の理解度を深めることができていると考えている。具体的には、高画質な映像や、時代背景や文化的な要素を盛り込んだ資料を豊富に用意し、学生の興味を引くような授業展開を心掛けている。昨年度、学生からの意見を参考に、SNSに関連する映像の制作や広報（広告）に関する内容も追加した。現代社会との比較や、歴史的な背景を踏まえた解説など、学生が自ら考え、学ぶきっかけとなるような内容を意識的に取り入れることで、より深い理解へと繋げることができたと考えている。 今回も、映像の内容と質の向上、教材の選定に力を入れたことが、今回の高評価につながったと考えている。今後も、質の高い映像教材と、学生の興味関心を刺激する内容で授業を展開していく。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	現代は、インターネットを通じて様々な情報に簡単にアクセスできる時代で、授業では、学生自身が積極的に映像作品を探求し、自ら考えを深めることができる内容したいと考えている。 映像文化の授業では、学生が身近なYouTubeやTikTokなどのプラットフォームを起点に、様々な国の映像作品に触れ、それぞれの文化や時代背景について深く理解することを目指した。具体的には、多様な国や地域、文化、時代を代表する映像作品を厳選し、詳細な解説を行った。その結果、多くの学生が授業に積極的に参加し、レポート提出率も高く、レポートの内容からは学生が映像作品に対して深い興味と関心を抱いていることが伺えた。 また、授業後に学生たちの意見を共有することで、歴史や文化により深い理解へと繋がったと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	2024年Q3 4.8　Q4 4.7　Q5 4.9 2023年Q3 4.5　Q4 4.5　Q5 4.5 授業アンケートの結果からは、学生の満足度が高いことが伺える。 例年通り、1回の授業時間で1つのテーマを完結させることで、次の授業とのつながりを明確にし、学生がより深く内容を理解できるように努めた。毎回、テーマを完結させ、最新の情報を盛り込むことで、学生の興味を引きつけ、学習意欲を高めることができたと考えています。また、課題の量を増やしたにも関わらず、学生から不満の声は上がらなかったのは、授業内容が魅力的であったためと考えられる。授業アンケートの自由記述からは、学生が授業内容に興味を持ち、積極的に学習に取り組んでいると思われる。 シラバスとの整合性は保たれていたが、今年も授業中に機材トラブルが発生し、予定していた内容を変更せざるを得ない状況も何度かあったが、事前の準備と経験を活かして、臨機応変に授業内容を修正することができた。学生の不満も見当たらない。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	本年度の授業では、学生からの評価が大幅に向上した。特に、「映像に関する知識を幅広く得ることができました。」「楽しい」という肯定的な意見が見られた。今回も授業資料を別途配布したところ、資料のわかりやすさにより高い評価を得ることができた。この資料で、学生が授業に集中しやすくなったことが大きく影響があり（個別での学生の意見）、そして、授業内容に興味を持って自ら学習を進める意欲が高まったことが要因と考えられる。取り上げた映像文化には、広報や地域活性化といったテーマもあり、学生の将来のキャリアを考えるきっかけとなり、関心を集めたようだ。 準備学習については、今後は、授業の最初に予習・復習の重要性を改めて説明し、具体的な方法を提示することで、学生の自主的な学習を促したいと考えている。課題なども検討する。 大教室での授業であり、学生たちは熱心に授業に参加していたが、途中で帰る学生も見受けられた。次年度は対策を考える。

項目見出し	コメント
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業内容は興味あるものでしたか　4.9 昨年度よりすべてに対してスコアを伸ばしている。 学生自身が映像について興味を持っている時代であること、そして歴史により、現代の映像があること、世界の文化歴史、映像や音楽を知ることに興味を持ったことで、学習意欲の向上にもつながったと思う。毎回の授業アンケートには、授業の感想に加え、そのテーマに関連する提案や助言などもあり、今後の授業の参考になる部分も多かった。次年度は質問１の「準備学習の向上」に工夫をしたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　　教養セミナーＡ

教員名　　尾場　均

回答者数／履修者数　8／11

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本年度の授業では、昨年度に引き続き、同じシラバスと共通の教科書を使い、個別で時事的なニュースなどを盛り込み、学生の興味を引くような授業内容を心掛けた。また、自由な意見交換の機会を設けることで、学生の主体的な学びを促そうと努力した。 しかし、昨年度同様に、学生からの積極的な発言が少なかったように感じられた。授業には参加し、課題やレポートもきちんと提出しているが、学生同士の活発な議論や、授業内容に対する深い思考が見られないケースもあり、テーマを決めて行うディスカッションでは、活発な意見交換が期待されたものの、実際のところ、意見が出しにくい雰囲気であった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本年度の学生は、比較的に内向的な印象を受け、学生同士のコミュニケーションを促進するため、グループワークやディスカッションを取り入れたが、活発な意見交換には至らず、各自が個人でテーマに関する資料収集を行っている状況であった。 また、発表に向けての相談など、有益な私語を促すような工夫も試みたが、昨年度同様に活発な議論は生まれず、結局は教員の指示のもと課題に取り組む形となったが、レポートはとても丁寧であり、しっかりとした内容で毎回、提出された。 今後の授業改善の課題とする。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	本年度の授業でも、学科共通のカリキュラムに基づき、毎年同じ内容を使用した。学生の評価は低い。 学生は課題に対して、十分な興味関心を示しているとは言い難く、活発な意見交換も少なかったことから、学習意欲がやや低いと感じている。但し、発表やディスカッションでは積極性は感じられないが、レポートはしっかりと回答されていた。 授業では、教科書の例題に独自の問題を追加するなど、学生の興味を引くような工夫を凝らしたが、評価は良好でありながら、より学習意欲を持つような内容への改善が必要だと考えられる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	本年度の授業では、学生の授業への参加を促すため、ディスカッションやグループワークを積極的に取り入れた。その結果、教員の熱意や、相談に対して高い評価を得ることができた。アンケートの結果で授業の方法に関しては問題ない。学生参加型の授業を重点をおいたことに評価され、学生とのコミュニケーション不足を解消するための努力が、教員への熱意や対応に対しての評価であると思える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	次年度も、同様の共通の授業内容を軸に、教養基礎の内容を充実させよと考えている。現在、欠席者が多いという課題に対しては、後期面談などを通じて学生一人ひとりの状況を把握し、個別に対応することで改善を図る。 また、学生の学習意欲を高めるため、他の教員と連携し、より効果的な授業展開について意見交換を行いたいと考えたい。授業内容の共通部分をより分かりやすく、興味深いものにすることで、全ての学生が満足度の高い学びを得られるよう、指導方法の改善にも努めていく。

アクションプランシート

2024年度前期 金5

科目名　美術と観光

教員名　川上　直彦

回答者数／履修者数　20／24

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	履修学生のこの授業に参加しての満足度は、4.8と非常に高かった。そのため、来年度に向けて特に講義内容等を変更する必要はないと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義、視聴覚映像、講義中における学生への問いかけ、課題、小テストと１５回の授業をつうじて色々なことをやらせて学生に飽きさせないようにしたことが良かったと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問3-5についても、それぞれの評価が、4.8、4.7、4.5と非常に高かったので、非常に良く１５回の授業内容が構成されていたといえる。来年に向けて、特に改善する必要なないと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	質問6-11についても、それぞれの評価が、4.7、4.8、4.8、4.5、4.9、4.7とすべて非常に高かったので、非常に良く１５回の授業方法についても構成されていたと自己評価できる。来年に向けて、特に改善する必要なないと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は、非常にまじめで科目に興味を持つ学生が多数いたとかんじている。それが良い評価へと繋がっと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　川上　直彦

回答者数／履修者数　11／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	このセミナーに参加しての満足度は、4.0であった。３名の留学生がゼミに参加していたが、例年よりも日本語のレベルが非常に低くかったため、すべての学生が理解できるスピードで授業をこなしていくのが非常に難しかった。日本語のレベルがあまりにも低い留学生については、日本人学生と同じクラスにしない方がいいのではないかと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	とにかく学生とたくさん会話をするということが必要であると考える。ただ今年度担当学生は、やる気がある学生が少ないと感じたため、学習意欲の向上につながる手ごたえは、たくさんのコミュニュケーションをつうじて得られなかった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	内容については、学年全体で同じ内容なので個人的に改善し、評価の向上を図ることができない。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	質問５について、評価が3.9と低かった。口頭発表の代表者選出で自己推薦でやりたい学生がいなかったため、日本人の学生が優先的に代表になるように選出したため、その点において、代表になった学生が多少の不満を持ったため評価が低くなったのではないかと考える。日本語のレベルが非常に低く留学生の扱い方についてもっと気を使う必要があると考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	繰り返しになるが、例年よりも日本語のレベルが非常に低くかったため、すべての学生が理解できるスピードで授業をこなしていくのが非常に難しかった。日本語のレベルがあまりにも低い留学生については、日本人学生と同じクラスにしない方がいいのではないかと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　日本語Ⅳ

教員名　佐野　香織

回答者数／履修者数　3／3

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	全員が満足できたとの回答であった。レベルにあった内容であったと思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	インタラクティブな授業内容であったからであると推察するが、今後も学生にあわせて考えていく
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	1名、レベル的に難しい内容であった学生がいたため、宿題や課題について難しいと感じた可能性はある。しかしその課題をがんばった成果が表れたということも考えられる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	１限の授業のため、どうしても起きてこられず毎回のように遅刻をする学生がいた。小テストを授業開始時に設定するなどの工夫をした。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	ほぼ学生の満足度は高かったと思われるが、レベル差が年々開いていくことに課題を感じている。今後の授業方法において、お互いにサポートできるような方法を考えていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　教養セミナーＡ

教員名　佐野　香織

回答者数／履修者数　12／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	12名中11名満足と回答しているため、満足度は高かったと思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	生活必須事項、日本の大学教育システム、単位の意味を学ぶ、キャンパスライフで今すぐ学生に役に立つこと、コミュニケーションできることを取り入れたことが学生の学習意欲向上につながったと思われる。自由記述にも同様のことが書かれていた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	本来であれば、情報保障が必要な事項は大学教育の授業内で扱う内容ではない。AI翻訳は精度が低く、正確に情報が伝わっているのかは分からない。今後もＮ２に満たない日本語力の低い留学生を多様な国・地域から受け入れる見込みがあるのであれば、情報保障のための多言語化は必須であると考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	留学してきたにもかかわらず、留学生のみで「隔離」状態であることが留学生にとってあまり好ましい状態ではないため、今後の課題であると思われる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	受講生はこのアンケートに答えるのにも、翻訳アプリが手放せず、翻訳アプリを使っても分からないことが多かったと思われる。アンケートをきちんと理解し書いたのかどうかも実はよくわからないため、評価もこのまま受け取って良いものではないと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　地域観光研究B（ｱﾒﾘｶ･ﾖｰﾛｯﾊﾟ）

教員名　竹田　文雄

回答者数／履修者数　97／124

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	・受講者数124名、総回答者数97名、留学生以外83名、留学生14名。授業満足度総平均4.6。 ・当該授業に対する評価（満足度/コメント双方）は年々向上している。 ・学生の集中が切れることの無いよう、適宜ビデオ視聴なども入れての切り替えを心掛けていた。 ・また台本の音読に終始しないよう留意してきた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	・まずは教員の「人となり」を出すことに留意した。 ・今年度からフル対面型となったことから、1101教室の受講での「ライブ感覚」の向上に努めた。 ・とにかく飽きさせない為に、毎回の授業直前までレジュメ、パワーポイント資料、そしてアドリブ的な動画の差し込みを上手く使いまわす手法を練っていた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	・「レジュメを紙で配って欲しかったです。」に対しては、全学での学生アンケートに対する学科回答のとおり、マナバ掲載を続けていきたい。 ・シラバス、自身の週次シナリオ、パワーポイント資料、差し込み動画を組みあわえて１回分の授業準備を終える為に、相変わらず授業前日に半日程度を費やしている。それでも授業開始直前まで調整を続けてしまう状況であり、この状況の効率化をなんとか進めていきたい。 ・次年度以降は、資料作成の時間が軽減出来るかも知れないが、疲労感を授業本番にまで引きずらないように留意していく。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	・知識定着のために、そして出席管理の目的も兼ねて、毎回それぞれ5問程度の小テスト（マナバ利用）の実施を検討していく。また重要事項をポイントアウトするための改善策も検討していきたい。 ・上述のとおり、結局、毎回の事前準備が臨界点にまで達してしまっていた為に、さらなるも打ち手を施せなかった。この実態を強く感じており、今後改善策を見出していきたい。 ・自身の出力アップも然ることながら、一連の授業準備内容の効率化追求も課題である。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	「私が想像する講義とは少し違い、雑学を聞いている様な講義内容で、とても面白かった。」 「世界の様々な景観や遺産を先生が紹介しつつ資料の提示をしていたのでとてもイメージがしやすかったし実際に行ってみたいという気持ちになった。何より、高校までで勉強した世界史より深い内容だったのでとても面白かった。」 「授業の最初にある質問返しがためになりました。」 ・このようなコメントを頂けるということが、毎年そうですが教員冥利に尽きると言うことなのでしょう。 ヨーロッパ・南北アメリカ地域は以前より専門方面であるので、次年度は学生から頂いたアドバイスも組み入れつつ、効率化も念頭におき

項目見出し	コメント
	ながら、さらにバージョンアップさせていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　竹田　文雄

回答者数／履修者数　10／11

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度平均4.0P。 ・前年度前期の教養セミナーでは、まず会話を増やすことを心がけて、相応の意識のキャッチボールができていたが、当年度は学業に無関心な複数の学生を振り向かせることに大変苦心した。 ・「効率的な」「ポイントを押さえた」進行よりも、話すことや一緒に笑うことに重きを置いてみた。ただし結果は上述のとおり、終始セミナーに無関心な学生を鼓舞しきることはできなかった。 ・なお、これらの学生に意識を集中すると、やる気のある学生が物足りなくなってしまう結果を招くこととなる。このバランス取りが難しかった。 ・今後ある程度は、個別施策的な対応を施す方向にシフトしていくことで対応してみたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	・きちんと筋道を立てて話をすると、内容を理解してくれるようである。 ・テーマの目的を事前に説明し、望ましい展開手法をその都度説明していくと、理解度は深まるようでもある。 ・とにかくコミュニケーションを取る。仮に「くだらない」と感じることでも、頭から否定するのではなく、こちらから一歩前に出て話を聞いてみることで相互理解も生まれるようである。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	・テキスト内容を踏まえながら、如何に飽きさせず、興味や関心を持たせられるか？ この部分においては、担当教員の「トッピング」をもっと増やしていかねばならない。 ・「興味が持てるもの」から「興味深いもの」に置き換えるべく、話し方やリードの仕方に更なる工夫をこらしていく。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	・担当教員が、セミナーの意義と目的を学生に対して、より明確に伝えていきたい。 ・モニターに投影して話をするのではなく、テキストを読み上げて、学生に読ませる形のほうが学生の参画意識を高められるようである。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	教養セミナーをしっかりとマネジメントできなかったことで多少なりとも学生に不安感を与えた可能性は否めない。 ・後期に向けてしっかりと準備していきたい。 ・学生の集中が切れることの無いよう、適宜ビデオ視聴なども入れての切り替えを心掛けていく。 ・前期は学生の意識をまとめられなかったが、後期は担当教員がまとめるのではなく、学生自身が自分たちでまとまるような手法を模索していきたい。 ・従前以上に毎週の予習の時間を確保していく。

項目見出し	コメント
	・毎週フリートークの時間を少しでも確保し、人前できちんと話をする練習をすることでコミュニケーションの深化につなげたい。 ・留学生（1名）は前期途中より欠席が続き、F判定を余儀なくされた。マナバでの伝達事項などは既読になっているが、メールで連絡をしても返信がなく、期末に足を怪我したと連絡してきたが、当該ゼミナーには出席しなかった。留学生アンケート１名分の評価がすべて「1」となっているのは、F判定が確実になった後でのアンケート実施であったための、心情的な結果であるのかもしれない。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　英語ⅠA

教員名　Thom W. Rawson

回答者数／履修者数　19／21

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	18 out of 19 students were satisfied with their participation in the class. The average is 4.5. I am satisfied with this result. Only two students failed to complete the requirements of the course mostly due to absence.
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	Each week, the materials were clearly explained in a predictable format. Ample time was given during class to finish the materials each week. It was a successful English reading and writing workshop.
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	The average score in this section is 4.8. The course follows the syllabus clearly and the weekly class materials are easy to understand that which is required to be done.
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	The majority of the students chose 5 for this score and the overall averages were between 4.6~4.8. I'm satisfied with this score.
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	I'm not sure why students would suggest that the use of textbooks reference books and handouts would be inappropriate, but three students chose a 3 for that score. The course did not have handouts or a reference book. And the textbook was an online digital library.

アクションプランシート

2024年度前期 木2

科目名 Practical English IIIA

教員名 Thom W. Rawson

回答者数／履修者数 18／20

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	I received a 4.9 in this section. I'm satisfied with the result. I think students were also satisfied with the course.
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	The course followed the formula of preparing for a discussion by watching an English presentation with different complex ideas. Then the students would participate in discussion about the ideas and from there they would reflect on their performance in each project.
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	The average of 4.8 in this section shows that the course was organized well and allowed students time to complete each assignment.
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	The average in this area is 4.9. Students felt the materials were well-organized and easy to follow. Clear instructions were given for each assignment and each activity and project.
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	I hope to continue encouraging students to present complex ideas in English through group discussions on presentation topics.

アクションプランシート

2024年度前期 金1

科目名 English Writing Skills III

教員名 Thom W. Rawson

回答者数／履修者数 18／20

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	The score in this class is 4.9 on average. I'm very satisfied with this result.
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	The course follows an extensive writing format. The students are expected to contribute to a weekly blog by writing one topic and responding to the topics of the other classmates. In addition, the students worked on a project to write a 6 chapter novel in English. I think their efforts and results gave them great satisfaction with the course.
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	4.9 average in these three areas means that the weekly classes were easy to follow, the organization of the course was something every student could be an active participant in contributing, and the students found the course interesting. I am satisfied with this result.
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	The average of 4.9 in these areas shows that the materials for the course were very well prepared. I'm satisfied with this score.
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	I will continue to try and make this course interesting for students practicing their English writing skills for the purposes of creative writing.

アクションプランシート

2024年度前期 金4

科目名 Practical English Ⅰ B

教員名 Thom W. Rawson

回答者数／履修者数 19／22

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Score of 4.4 was lower than I anticipated. However, there were several students who performed poorly in this class perhaps due to a lack of motivation or experience studying on a regular basis. I hope this number will be improved.
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	I think the weekly activities and intense course load is a kind of shock to new students. Some students say (in Japanese) "I like English" but what they don't realize is that developing English proficiency is a very challenging and time-consuming task. In the future, I hope students can make a better-informed choice before joining this course and ending their studies being dissatisfied.
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	It is hard to understand the 4.3 average in this section. Two students (2) scored a 1 in this section which lowered the average. Mostly, I think the level of some of the students is quite low and that leads to their dissatisfaction with their own performance in the course. Again, we continue to try and make the course more accessible to all learners.
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	The average in this section is 4.4. The students reported for the most part that they are happy with the way the course materials are organized and presented. A few students were not happy, but we will continue to try and encourage positive participation in the course.
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	The Practical English B series focuses on debate skills and communication skills, so students have to work hard to perform each week. In the future, we will try to encourage positive learning in this course.

アクションプランシート

2024年度前期 土2

科目名　国内旅行実務

教員名　森尾　真之

回答者数／履修者数　70／113

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	毎年のことであるが、国家試験受験対策の講義として実施しているものの、受講生の半分以上は試験の受験者ではなく、国家試験受験者とそうでない学生の受講態度の乖離が年々ひどくなっている。そのため、授業運営は非常に難しいなかでの評価としては、一定の評価だと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	特に対策として、注意して実施したことはない。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	運賃計算の説明が早すぎるという指摘については、真摯に受け止めて、次年度以降留意したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	次回以降、単元ごとに授業内容を振り返るように仕向けるために、中間試験の実施を検討したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	オンラインでのアンケートでは、面倒だと思う学生は回答しないので、好意的な意見がどうしても多くなる傾向になり、評価そのものの正当性に疑問がある。

アクションプランシート

2024年度前期 土4

科目名　国内観光資源

教員名　森尾　真之

回答者数／履修者数　97／154

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	評価としては、それほど高くはないと思われる。オンラインでのアンケートの回答率は一定以上上がらないので、まだまだネガティブな意見は一定数存在することを考えると、このアンケートでの振り返りそのものの意味についても疑問を感じる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	特にない。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	昨年のアンケートで、国家試験受験者が、もっと試験よりの講義をしてほしいという要望があり、選択必修科目から除外してもらったが、試験よりの講義にした結果もあり、D判定が半分近くを占めた。自分自身も講義をしててもあまりモチベーションが上がらず、少なくとも学生にそのことが影響しているとすれば、再度試験対策ではないかたちで、これまで通り日本の観光のすばらしさを説く講義に戻すことも検討したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	特にない。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートそのものの是非については、本人への気づきや振り返りとしては一定の意味があるとは思うが、提出するというプロセスにどのような意味があるのかを（提出されたデータをどうしているのかも含め）、機会があれば説明を受けたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　教養セミナーA

教員名　森尾　真之

回答者数／履修者数　10／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	一定の評価があったと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	昨年よりおこなっている「チェックイン」の効果がある程度認められると思われる。授業開始時に教員が今日のお題を与え、それについてセミナー内で1対1でコミュニケーションを行うもので、特に相手の話を聞くことを重視するように指導している。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	カリキュラムの内容については、それなりにハードルの高いものであるが、自分なりに解釈して授業を進めたつもりである。評価としては良かったのかどうかはわからない。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	一定の評価があったものと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	留学生の取り扱いを含め、毎年難しさを感じる。特に本を読んでいない学生がほとんどなので、そのレベルに合わせた内容に調整しているつもりだが、それでよいのかという疑問が付きまとう。

アクションプランシート

2024年度前期 木1／4

科目名　English Reading Skills Ⅰ

教員名　井畑　敦子

回答者数／履修者数　21／22

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	数値から見れば高いが、一名2を選び、恐らく自由回答にも改善点を指摘していると思われる。そこにもあるように、この授業は初めの30分、ほぼ毎授業、Xreadingというサイトで読める英語の本を、学生がピックアップして読む自習の時間である。ただ読んでいるだけであるので、その間を利用して、教員が次の授業や採点、評価基準などの打ち合わせをすることが多い。その話声が集中を妨げると思われ、教員もウィスパーでありながらずっと意見交換することが多いので、来期からは自重したい。しかしこのことは担当しているライティングでも同様であるが、自由記述で指摘があったのはリーディングだけであり、今後の改善点としたい。BGMに関しては、もう一人の教員が良かれと思い流している。これらのことは今年から担当になる前よりずっと遂行されてきたカリキュラムでもあり、初めてということと、既存の形態を変えないよう昨年のコース長より強く言われたこともあり極力干渉を避け、介入しないようにした。添削や採点など事務的な部分は互いに分担し毎回授業前後に設計や進め方などを討議し、同程度に授業構成や進行に関与したが、基本的なデザインや内容はそのままであった。いくら学生が家で読まないあるい1万5千字以上/週のノルマ達成が難しいとはいえ、貴重な授業時間の30分を丸々自習に使うスタイルは、自由回答にもあるが確かに眠気を誘いがちで非常な集中力を要する。故に教室でされるということになるかもしれないが、一人でできることにあえて時間を割かずにクラスメートとともにやる必要がある内容のものに変えていくことが肝要かと思われる。また、学生の語学力や学力が中学レベル以下の者が多数を占めるといえど、極端にそれだけに合わせていくと、本来大学生として、また留学に必要とされる語学はもとよりアカデミックスキルがつく機会も失われるので、ある一定の水準を保つ必要性も強く感じた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	上記と対照的であるが、あくまでも入学時の英語レベルに沿った平易な内容であり、Xreadingのテストも自ら簡単な絵本や漫画を選べるので、着実な成長が見られたことは大きいと思われる。リスニングについてはほぼネイティブの教員がオールイングリッシュで普通のスピードで話すので、当初はかなり困惑が生まれるようだが、鍛えられることになるので伸びは早いと思う。スピーキングに関しても、本を読んだ後ペアで意見交換するのである程度は伸びるし、恐らく内容的に表現できることと相応すると思われる。論理的客観的な思考や分析的で創造的な意見やディスカッションにつながる機会は少なく、高学年のGTが他のコースの授業を受講したりゼミで卒論を書くにあたり支障になっているのを見受けられるので、大学レベルのアカデミックな内容にシフトしていく必要性を感じる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	上述のように、この授業はリーディングであるので、ある程度の読解力と理論的な文章の理解度の向上につながることが望ましい。楽しんで学ぶことは孔子も言うように一番身につくとは思うが、瞬間的快楽的なものではなく、初めは困難を極めるかもしれないが、真に知識を得て地平が開け明るくなっていく学びの楽しさが得られる本やテキストを読んでいく機会が与えられるのも大事ではないかと考える。ここは英会話教室でも学校でもないので、大学に相応した高校の教科書以上のリーディングが可能となるように導ければと考える。しかし実際はほぼ英語力０で入ってくるものも多いので、せめて高校の教科書はさらっと読めるようになるのが理想である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策	大学入学前の英語教育はそもそもリーディングと文法中心であり、すでにリーディングスキルはある程度見込まれるはずであるが、実際はそうでなかったので、学生の個々の進捗に合わせて進めていく必要性を感じる。しかし一部、2，3人であるが、高校までに基礎的な力がついているものも見受けられるので、そうしたものが置き去りにならな

項目見出し	コメント
▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	いように、手ごたえのある学びにつながる教材発掘に尽力したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	世代的に本を読まないといわれ、読解力も国際ランキングにおいても低下の一途を辿るなか、特に読むのが苦手な層が集まっている大学である。リーディングの授業というだけでかなり挑戦的なところ英語でもあり、これまでの学校英語で苦手意識が醸成された要因でもあるので、かなりの工夫が要求されるクラスである。そうしたことに長年学生の反応を見ながら調整し今に至った感もあり、なるべく効果的な面はそのまま引き継ぎ、学生の声を聴きながら、改善点に取り組んでいきたい。と思うが、教員の移動にともない、担当するのは今回のみである。教員が変わることでガラッと変わるのではなく、誰が担当しても効率的に着実に学生の力となるようにカリキュラム内容にしていくことが望まれる。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　　教養セミナーＡ

教員名　　井畑　敦子

回答者数／履修者数　10／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	留学生のみ受け持ったが、一名、留学生以外となっている。恐らく理解ができずに答えたと思われるが、翻訳されてもこのようになるのは、アンケートの信憑性が疑われる。留学生のほとんどが、アンケートの翻訳を見て訳が機械的過ぎておかしいと笑っていた。精度が低い個別言語のグーグル翻訳より、正確な英語翻訳の方が正答に近づくと思われる。また、そのレベルの英語が理解可能な留学生が入学できるよう、スクリーニングする必要があると思われるし、そうした学生が受講可能な英語での授業がなく、バイリンガルではなく日本語のみで教える大学としてＪＬＰＴのＮ２以上ないと入学できないとしている大学であるのだから、そもそもこのレベルの日本語のアンケートに答えられる学生が入学しているはずである。ちなみにＮ２以上でないと日本の大学入学資格が得られないと法務省の入管のＨＰに明記されているので、今後の入試や面接の在り方について再考を要する。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	12名のうち、日本語を理解するのは皆無であり、一名、英語もままならない者もいた。英語も一名を除き理解度は高いといえない。ヒンディー語なら理解できるので、質問があるときは対応した。日本語では右から左になり全く残らない様子であったので、効率と時間を考え、英語ミディアムにした。でないと、ひらがなも読めずカタカナで自分の名前も書けない学生相手では授業が成立しないからである。教養セミナーは日本語の語学クラスではない。しかし、ほぼ日本に対する予備知識なく入国していることもあり、留学生の基本的な生活に関する質問と国民年金、ゴミ出しなど最低限のマナーに関する情報提供や、大学での履修やと日本で暮らす上で不可欠な基本的ニーズに関する情報提供が主となった。本来、国際交流センターが担当する内容であるので問い合わせたところ、留学生本人が本来調べて知っておくべきこと、とのことであった。しかし、何を知るべきでありどう調べたらよいかも不明な様子であるので、日本の生活はもとより、学業に困らないためにもそうしたことにほとんどの時間を費やした。 需要に応えたことで評価に反映されているとみられるが、アカデミックな内容を教授できる以前の語学能力であるので、本来の教養セミナーをカバーすることはもとより、教科書はやさしい日本語にしても理解不能でそれについてディスカッションすることも困難な様子であった。よって、アンケートを取る意義も感じられず、取る以前に大学として取り組むべきものがあるのではないかと考える。特に国際交流センターも人手不足であるので、早急な人材確保が望まれる。 こちらとしても、最高学術機関において知の探究を探求する土台作りに貢献したいと考えるところであるが、肩透かしとなっている。ちなみに、学生からの質問で「専門学校と大学の違いは何か」というものがあり、入学前の段階で区別がついていないようであった。もっとも、これは日本人学生についてもいえる者が多い。よって、授業レベルや内容も学業以前のレベルとなり、受講者の素養に合わせたものとならざるを得ない。 国際がつく大学であり、国際観光学科であることから、留学生に関しては教養セミナーを英語で提供した方がよいのではないかと考える。そうすればネイティブの教員も受け持つことができ、すでに超過している日本人専任教員の負担を減らすことにつながる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5	同じ国同士が固まるとそこだけでその国の言語で私語が始まり授業にならないということで、各国分散させた学生の構成になっているとのことであるが、観察していると、日本語はもとより英語でも理解できない者が多いので、同じ国の学生の理解力がある者に授業内容を聞く必要から私語と捉えられているきらいがある。今後はせめて英語だけでもリスニングできるかどうかを面接や筆記で見たほうがよいのではないかと考える。日本語に関しては、このクラスに限っては全員Ｎ５コース時に面接を受けて入ってきているのでそもそも望めない。

項目見出し	コメント
教養セミナー　Q2〜Q3	半年以上通ったはずであるが、Ｎ５をはだれ一人持っていない。 あるいは、ネパール人であればほぼヒンディー語でコミュニケーションが取れるので、全く英語が理解できないネパール人のみのクラスを一つ作りヒンディー語ができる者が担当になる方がよいのではと考える。新任やはじめてその国の学生に接する先生方は、なまりが強すぎて互いに理解できず、私語がひどく、扱い方に困っているという話を聞くにあたり、やはり英語で受け持てる教員を増やすなど教員の負担軽減に向けて真剣な議論の必要性を感じる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	特にこの項目に関しては上述の通り、教科書に入る以前の語学力であるので、８と９は特に厳しい。また、この科目に限らずこのアンケートは学生と教員の意欲と態度を混合しており、一概に円グラフやGPAの様に段階評価で数字化するのは、真摯に授業改善に取り組む教員達に不必要に圧がかかる結果になっている。尤もＱ１は教員側の評価とは直接つながらないにもかかわらず、点数化され一元的な評価につながるので、問題視している。 教養セミナーでは一名を除き真面目に取り組む学生がほとんどであったので数値も高いが、アンケートの日にその一人は欠席しており、後日も答えていないので、相対的に高くなっている。ちなみに昨年は日本人学生のみのセミナーを担当し、平均的に数値は低かった。ランダムに構成される教養セミナーに関しては、その年の個々の受講生の特性や資質により評価が左右されるので、累計ではなく一過性の数値のみで査定することに限界を感じる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生にではなく、教職員にまず、アンケートを取り、状況改善を図ってはどうか。そもそも学生のみに一方通行で情報収集するのは公平と言い難く、こうした授業アンケートは欧米では実施自体が近年再考されてきている。 また、制度的にこなすだけでなく、結果を受けて今後にどうつなげるかの導線がないと、互いに記述や内省に時間をかけたことが生かされない。今回の結果を受けて、今後の留学生はもとより、学生のフィードバックを基にして、セミナー自体の在り方が検討される必要があると考える。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　　ＩＣＴを活用した教育の理論及び方法

教員名　　浦郷　淳

回答者数／履修者数　28／28

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度については4.6と高めの評価であるものの、３をつけている学生が2名見られることから、内容の見直しが必要であると感じる。特に初開講の科目であったため、内容・方法についての具体を再考していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	初開講の授業でもあり、会場も教職の科目としては珍しいメディアルームであったその分の珍しさはあったと考えられる。新しい情報を提供することを心がけていたことから、その点が評価につながったのではないかと考察する。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	「授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですか」について4名が３をつけていることから、編成方法やまとめ方、理解度といった点での改善が必要であると感じる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	今回の科目では、ICT科目ということもあり紙ベースでの提示を行わなかった。次年度以降は紙ベースでの用意も考えていきたい。遅刻や私語が気になる学生も一定するいることが見取れることから、この点も注意していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	どの項目も4点台の平均ではあるものの、4点代前半の項目も一定数あるため、これらの項目を今後の授業改善に活かしていく必要がある。

アクションプランシート

2024年度前期 金2

科目名　教育課程論

教員名　浦郷　淳

回答者数／履修者数　27／30

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度については、4.4であったものの、3と評定している学生が3名，4と評定している学生が9名であった。この満足度を高めていくために，学生がより主体的に参加する授業だけでなく，目的意識をもった上で学修に取り組めるようにしていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業の中において①現代的な課題の提示②学生に必要な知識の教授③グループワークという3点から例年通り取り組んだ。一方で更なる満足向上のための新規性の部分が限られていたため、今後のの改善につながるようにしていきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容について、構成や理解度で２の学生があった。このことから、理解度のチェックができるような取り組みが必要であると考察する。 シラバスとの整合性についても３の学生が1名あることから、シラバスの内容に沿った授業になるように見直しを行いたい。 興味についても、全部が4以上になるように内容の精査を行いたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方、遅刻や私語への対応、学生参加の所で２を付けている学生がいたことから、この部分の対応を行っていきたい。さらに、他の項目でも３の評価が昨年度より増えているので、対応できるように指導方法を工夫していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体として平均を超えている回答が多いが、２や３の回答をした学生のいる質問項目もあることから、改善を図っていきたい。特に座席指定をして取り組んだものの、私語・遅刻への対応や話し方等授業の内容以外の部分への対応も必要であるといえ、工夫を行っていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　教養セミナーＡ

教員名　浦郷　淳

回答者数／履修者数　11／11

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	全員が５ないし4という回答であったことから、概ね満足は得られていると思われる。全員が満足となるように、学生にリフレクションの部分での工夫を行っていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の声を拾いながら、全員が参加できるように努めた。また、欠席だった場合、次の時間での学生の対応をしっかりとできるように努めた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	どの学生も４か５の回答であったが、４での回答が多いことから、何のためにこの学習を行っているのかという目的意識をしっかりともって学習に取り組めるように工夫していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	ディスカッションについて３をつけた学生がいたため、学生が問いをもって学習にとりくめるように授業設計を行いたい。あとの質問については４ないし、５であること、また５の回答が多いことから、さらに充実が図れるようにしていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概ね４ないし、５であるが、4への回答が多い質問分野が幾つかある。それらの部分については、教養セミナーBで対応を行うようにしていきたい。また３と回答された項目については、その学修がより実感できるような価値づけとリフレクションを図っていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月3

科目名　発育発達論

教員名　江島　弘晃

回答者数／履修者数　93／119

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	発育発達論では講義形式のため、119名の受講者数に対して93名の回答（78.2%）があり、受講者のアンケート回答をすべて反映しているものとはいえないが概ね履修学生の意見を反映している結果だと考えている。設問の授業に対する理解度・満足度は、45名が満足の5であり、41名が4と平均が4.4という前回の結果を上回る結果であった。設問12の授業内容を理解出来ましたかに関しては、設問13とほぼ同様の結果となったことから平均が4.5以上となるアンケート結果は受講した学生が満足のいくものとなったと捉えている。実際、自由記述に関しては学生の記載がわかりやすいという回答が多かった。数値上では平均を4を超えたため学生も納得のいく授業展開が出来たのではないと考えている。専門演習と異なり、学生一人一人との面談を重ねて個人の状況を把握するということは出来ないが、学生が履修しやすいような学習環境を整える必要性があると感じている。円グラフ上では、理解度・満足度は5の評価は53.8%と半分以上、4の評価は39.8%以上と全体制で見ても満足のいく結果だったため、評価結果には満足している。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	まず、学生の理解の浸透度を高めるために各授業毎に重要と記載したスライドの記載を自身のノートに促した。これはスライドの内容と同様のもので学生にはスライドを見ながら、手元のノートで複写する形式をとった。これは授業の教室が広く、学生は集中力が欠けるため、聞き逃しを防ぐために実施した。結果的には学生がスライドを見ながらノートに複写するようにして学生も集中する環境つくりを意識し、学生の学習意欲の向上につながった方法であると考えている。実際、授業後に小テストで学生がしっかり理解できているかどうか確認することが出来たためプリントで学生の受講態度も評価することが出来ると考えている。今回はテストの際に持ち込みなしとしてしっかりテストに臨む環境を整備した。また小テストの回答を授業開始時にスライドで提示し、復習に努めるよう環境づくりを意識した。また、発育発達論の講義を行う際、身体のうごきなどはイメージがしにくいためスライドの中で図示を多用することで学生の理解、学習意欲の向上を促した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては57名がよい、30名が4と平均が4.5以上の良いという評価だった。専門演習と異なり、履修学生もある程度多人数の中での数値は授業内容に問題はないと考えられる。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、53名がよいの5、33名が4とこちらも平均が4.5以上という同様の回答結果であった。実際、授業展開としてはシラバス通りに展開した結果が評価につながったと考える。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、上述の問いとほぼ同様の52名がよい、34名が4と平均が4.5以上の結果となった。（3）に関しては3つの設問ではすべて4.5以上の数値という結果となり、前回の4.3の結果を上回ったことは及第点としてとらえている。授業の内容自体は学生たちは関心があると感じた。反省点は、出席状況が良くない学生が散見され、講義後の小テストの回答のみ集中している学生が数名いた気配があったことから、次年度では授業の講義途中で学生に質問することで授業の内容を把握できているのか試すなどをすることで、授業の内容を発展させていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問	話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が55名、平均が4.5、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは平均が4.3と同様の数値であった。したがって平均が4.0以上と学生は方法に関してとても良い回答を行っていた。板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかの問いは、45名が最高の5にしており、配布プリントの

項目見出し	コメント
一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	効果が大きかったのではないかと推察している。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が4.6という評価を得たがこれは学生が基本的に私語厳禁にした配慮が大きかったと考えている。これは履修した学生全体の意欲にもつながるため、継続していきたい。学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかの問いには、平均が4.5と他の設問とほぼ同様の結果となった。まとめとして、学生の回答はすべてが4.5以上であり方法に関しては多数の学生が履修した講義の中で良い評価の回答結果だったと考えている。次年度はこのアンケート結果と同等の数値またはそれ以上となるように継続性を保つことで学生の意欲を向上させていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートの結果を見る限りでは学生は満足のいく講義を履修してくれたと考えている。前回は持ち込みありの定期試験を実施したが、今年度は持ち込みなしの定期試験を実施した。定期試験の影響で単位取得不可の学生も多くみられ、テストの難易度も今後探りたいと考えている。アンケートでの評価を詳細に検討すると授業の内容は5が50.0%、授業の方法は5が62.5%、理解度、満足度は53.8%と学生の満足度が明確になったのではないかと考えており、この評価を継続できるようつとめていきたい。一方で、態度に関してはばらつきが見られた点と、自己評価は平均が4と他の項目よりも数値が低く、より多くの学生が予習・復習を行えるように復習を行ったか確認するなどの対策を講じたい。毎授業開始時に復習の時間を設けているがその際に学生がきちんと履修できているのか実施する予定である。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　専門演習ⅢＡ

教員名　江島　弘晃

回答者数／履修者数　8／8

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業に対する理解度・満足度は7名が「できた」と評価し、学生達が満足いく専門演習を実施してくれたと感じている。またQ12の授業内容の理解に関しても納得のいく「できた」と評価してもらった。自由記述の記載に関しても学生1名から「貴重な経験が出来そうで最高です」という記載には教員としての満足のいく結果である。この評価は今後も大切にしたい。しかし、学生が8名と今年度も人数が少なかったため、学生個人に十分な学生指導が出来たことがその要因であるとも捉えることが出来る。次年度は学生が10名と今年度より増えるためその点の配慮も慎重にし、学生一人一人の専門性を高めるよう個別指導を積極的に展開したいと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	専門演習ということで主に卒業研究の論文制作に注視した。学生には目標課題を各自達成させるとともに共通の条件も設けた。共通の条件は規定にあるように2万字の文章に達していない場合は卒業研究の論文を満たしていないというものである。この共通の条件は各自が目標達成出来るように学生の意欲向上につながったのではないかと考えている。そして最も工夫した点は一度学生全員で進捗報告を設定したことになると考える。これは各自がどの程度進捗しているのか把握できる点や自分自身の位置状況も把握できる点が効果的だったと考えられる。確かに進捗状況を発表した後は学生の受講態度の変化も見られたと考えられる。この内容は次年度でも展開させ、内容自体の良さであるのか本年度の学生のみに適用できたのかを検討したい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	授業の内容に関して8名は設問の3つに対して「良い」の評価を得たため、授業内容に関心を持って受講してくれたものだと考えている。その一方で、2名が授業内容は興味あるものだったかは「4」と平均的な回答だったため、改善する必要があるようである。改善策としては主に個別での指導を積極的に導入していく点やシラバスでの内容を教員と学生双方で相互確認し合うことで改善が期待できると考えている。平均的な数値は4.9以上であったため概ね満足のいく結果だと捉えている。次年度では学生も変わり、人数も増えるため、授業の内容を適時修正しながら対応していく予定である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	授業の方法に関しては1名を除く7名が5と評価しアンケート評価が良かった。話し方の明瞭は平均が4.9であり、最大評価の5、熱意の感じられる授業の問いには7名が「5」を記載していたため、熱意のある授業展開にできたと思う。教科書、参考書、配布プリントの使用の適切さは7名が「5」だった点や板書や機器の使用の適切さに関しては7名全員が「5」であったため、プロジェクタースクリーンやスライドを用いての進捗状況の各自の発表方法が良かったと考えている。また遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応をしていたのかの問いに関しては1名のみ4であり、私語厳禁を学生に指導することを次年度で展開していきたいと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	専門演習ⅢAに関しては、学生からのアンケートを見る限りは7名全員が満足いく結果であったという一方で、授業の方法に関しては改善する必要があると捉えている。授業の内容に関しては概ね「良い」のアンケート回答が多かったため、内容の修正ではなく方法を修正するということが理解できた。これは学生に専門性を高めるための内容自体は把握していることで、方法をもっと学生が理解できるようなものとして伝える必要があると考えている。ただ、本年度から担当した専門演習の学生がおり、なかなか専門性のある理解を伝えるということは難しかった。そのため、次年度の専門演習ではもう少し学生が理解できるよう方法などを模索する必要がある。学生の自由記述から卒論

項目見出し	コメント
	作成を頑張りたいという記述があり、教員自身の専門演習を本学で実施していく中で問題はないように捉えている。今後、これらの評価を継続して次年度につなげていきたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 水その他

科目名　　卒業研究

教員名　　江島　弘晃

回答者数／履修者数　8／8

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業に対する理解度・満足度は7名が「できた」と評価し、7名が5に値するアンケート評価をしていた。この結果は、履修者数が少ないため評価のしがいがないが、学生達が満足いく卒業研究を実施してくれたと感じている。また設問12の授業内容の理解に関しても納得のいく「できた」が7名と同様の結果と評価していた。自由記述の記載は良かったと専門演習ⅢAと同様の評価であると捉えている。平均は4.9以上と概ね良い評価であったと考えており、今後も次年度の卒業研究制作でも同等の評価を得る必要があると考えている。しかし、専門演習ⅢAと同様に学生が8名と今年度は昨年度よりは人数が多いが、学生個人に十分な学生指導が出来たため、次年度も継続したいと考えている。次年度は学生が10名と今年度より人数が若干増えるため個人個人の制作に関しても十分時間を確保したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	卒業研究は8名がこれまでの担当教員の専門による内容であり、主に教員自身の専門性のある動物実験を用いた骨格筋の解析による研究を実施した。また、今年度よりバレーボールを専門にした学生に対しては自身の専門性のあるバレーボールやに実験系に関するものを実施した。その際、後者は学生が理解しやすい内容である一方でデータ整理に注視させた。動物実験に関する卒業研究を担当した6名の学生はまず実験などに関する理解・知識が圧倒的に不足していたため個別指導を実施した。以上のように学生達には公平性を保つようにばらつきがないように指導を実施した。後期では卒業研究発表会が控えており8名全員が満足のいく発表を行ってくれるよう注視したい。卒業研究を執筆する際にも規定を満たすように設定したことは学生自身が目標を持って取り組む姿勢になると考えており、学習意欲の向上につなげる。反省点としては、2名が専門外の内容を卒業研究として実施したことから専門性に欠ける論文と現状なっている。この点は次年度から解消できるため対応できると捉えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては7名がよいという最高の評価であったため授業内容といえる卒業研究に関心を持って取り組んでくれたものだと考えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、同様に7名がよいという評価であり、実際整合性のある卒業研究制作に取り組めていくことが出来たと考えている。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、上述の問いと同様に7名がよいという評価であった。このことから7名は最高の5という回答で、全体的な内容理解に携わる必要があったのではないかと考えている。次年度では学生も10名と増えるため、学生一人に対する指導の時間を増やし内容の適時修正しながら対応していく予定である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が7名と平均が4.9、熱意の感じられる授業でしたかとの問いもほぼ同様であり、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは質問6と同様の4.9の数値であった。これらの問いは概ね平均が5.0以上と学生は方法に関し良い回答を行っていた。とくに、配布プリントは最近の研究論文を提示することで学生主体の考察力などを育くんだ結果、良い回答に繋がったのではないかと考えている。板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかの問いは、7名が最高の5にしており、実際パワーポイントを多用することで理解促進につなげた点と学生たちの現状把握につなげていった。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が4.9と良い評価を得ることが出来た。これは学生たちの意欲も関係していたと考えている。学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかの問いには、熱意と同様の回答結果であった。これらの回答結果を統合すると、学生の回答はすべてが4以上であり方法に関して満足の

項目見出し	コメント
	いく結果になったと考えられる。次年度は学生が10名と人数が増えるため学生に指導する方法に関して今回のアンケート結果の数値が継続できるよう柔軟に対応したいと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	卒業研究に関しては、学生からのアンケートを見る限りは半数以上の学生が満足いく結果であったということで専門演習ⅢAと同様な回答結果と捉えている。また、専門演習ⅢAでは授業の方法に関しては改善する必要があると考えていたが卒業研究はとくに改善する必要はなさそうで、授業展開を創意工夫すれば、おのずと卒業研究で満足いく結果になるのではないかと考えている。実際、自由記述のところでは改善してほしいところはありません。分からないところは教えてくれるので、理解しながら書き進められています。という記述がされていたため満足のいく内容だったと考える。専門演習同様、授業の内容に関しては概ね「良し」のアンケート回答が多いという結果と捉えている。次年度の学生は専門演習Ⅰから指導しているため、より深い専門的な卒業研究の制作が可能と考えている。学生の自由記述はとくによかったとい記載のみだったため、その点を改善できるよう積極的に記載を促すようにしたい。

アクションプランシート

2024年度前期 木1

科目名　専門演習ＩＡ

教員名　江島　弘晃

回答者数／履修者数　9／9

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	専門演習ＩAでは、主に2年生の9名を対象に専門演習を展開した。2年生ということで専門的な学習を導入した。教員が専門とする運動生理学の研究を紹介しながら、各自興味のある研究や論文を輪読する作業を実施した。学生9名に対して、授業に対する理解度・満足度は8名が「できた」に値する5と評価し、1名が4のアンケート評価を回答した。平均は4.9と他の専門演習と比較すると、数値は高く、勤勉な学生が多かった印象があるため、学生が授業構成に理解感を得ていると思われる。他にはこの授業に対して満足出来ましたかの問いには7名が満足の5と評価し、平均が4.8と高い数値だった。後期では専門演習IIの準備になるため、専門演習ＩＩと同様に教員自身の専門性のある授業を展開していくことが必須と捉えている。円グラフ上でも理解度・満足度は5の評価は83.8%と全体的に見ても学生は満足していると考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	専門演習ＩAでは学生がどのような研究に興味があるのかサイトや論文輪読などを活用して自分自身で調査させた。この際に学生の取り組みの姿勢などを伺ったが、熱心に取り組む学生が大半という印象をもった。しかし、予習を設けなかったためその点を後期では行い、終始徹底させることを次年度での専門演習で活用したいと考えている。学生の受講態度は私語などはせず、よく質問してくれる学生が多い印象を持った。また、学生の理解の浸透度を高めるために授業に教員作成のスライドでのプレゼンテーションを視聴させることで理解促進につなげた。結果としては理解度が見られ、満足度は高かったため、学生自身は満足していると捉えている。また、学生に体力測定を実施させることで自身の運動能力を把握させる実践的な取り組みを行うことで学生には良い勉強になったなどの意見をもらい学習意欲の向上につながったのではないかと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	専門演習ＩAでは他の専門演習IIAと同程度の人数のゼミ生ということもあり、他の専門演習との比較も検討した。授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては8名がよい（5）、1名が4と平均が4.9以上の良いという評価であり、他の専門演習より概ね良いの評価であったと考えている。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、6名がよい（5）、3名が4と平均が4.7以上という上述の設問と近似した回答結果であった。授業展開としてはシラバス通りに運動処方の理解や運動する意義などを理解させるような従業展開が評価につながったと考える。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、6名がよい（5）、3名が4と平均が4.7以上の授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いと同様であった。これらを踏まえると、専門演習ＩＩAの授業の内容自体は学生たちは関心があると感じた。反省点としては、予習の課題を多く設け自宅学習での時間を確保させればよかった。結果が学生の理解につながったのかを簡易テストなどを用いて把握するべきだったと考えており、次年度の課題としたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	各設問に対する回答結果を考察していく。話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が8名と平均が4.9、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問い、板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかの問いは5が8名、4が1名と平均が4.9と3つすべてが同様の数値であった。したがって4つの上記の設問に関しては平均が4.9以上と学生は方法に関して9名の受講生ながら良い回答を行っていた。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が4.9と若干他の問いより数値が低下したが、これは学生に基本的に私語を厳禁にした配慮と遅刻だけはしないように終始

項目見出し	コメント
	徹底させたことが大きかったと考えている。学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかの問いには、平均が4.9と他の設問とほぼ同様の結果となった。まとめとして、学生の回答はすべてが4.0以上であり方法に関しては9名の学生は概ね良いという評価の回答結果だったと考えている。次年度は9名の学生がそのままゼミを変更しないかは定かではないが、このアンケート結果と同等の数値またはそれ以上となるように学生の意欲を向上させていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートの回答結果では、学生は他の専門演習と同様に内容の理解や満足のいく演習を履修してくれたと捉えている。その一方で、設問1または2の学生自身の復習・予習、態度はよい数値の評価を下しておらず、平均は4.0という値であった。このことは、学生自身の根本的な学習意欲を変える必要があると捉えている。予習や復習を徹底させることは他の授業にも活用できる行為であることを学生自身に理解させ、次年度から実施を試みたい。各設問の評点が5を記入した学生の比率は、授業の内容は74.1%、授業の方法は83.3%、理解度・満足度については83.3%と回答しており、総じて5と評価した学生の平均比率は80%を超えているのは他の担当授業と比較しても教員自身は満足のいく結果ではなかったと考えている。一方で、学生による自由記述はなかったため、次年度よりより積極的に記載の促しを強化したいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 木2

科目名　健康科学

教員名　江島　弘晃

回答者数／履修者数　56／81

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	健康科学では講義形式のため、81名の受講者数に対して56名の回答（69.1%）があり、全受講者のアンケート回答を反映してはいないがおおよその回答数であると考えている。設問の授業に対する理解度・満足度は、39名が満足の「5」であり、13名が4と平均が4.6という結果であった。設問12の授業内容を理解出来ましたかに関しては、設問13とほぼ同様の結果となったことから平均が4.6以上となるアンケート結果は受講した学生が満足のいくものとなったと捉えている。実際、自由記述に関しては大半の学生が分かりやすかったと述べる一方で、スライドの再提示の要望が記載しており、学生も納得のいく授業展開が出来た半面、次回の課題として掲示を挙げたいと考えている。専門演習と異なり、学生一人一人との面談を重ねて個人の状況を把握するということは出来ないが、学生が履修しやすいような学習環境を整える必要性があると感じている。円グラフ上では、理解度・満足度は5の評価は69.6%、4の評価は22.3%以上と全体制で見ても満足のいく結果だったため、評価結果には満足している。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の理解の浸透度を高めるために前期の開講講義である発育発達論と同様、各授業毎に重要を記載したスライドの箇所をノートに記載するよう指示した。これはスライドの内容と同様のもので学生にはスライドを見ながら、手元のノートで確認する形式をとった。これは授業の教室が広く、学生はスライドを確認できない恐れがあったこと、聞き逃しを防ぐために実施した。結果的には学生から授業の復習ができ良かったと好評だったように自由記述に記載があったため、学生の学習意欲の向上につながった方法であると考えている。実際、プリントがないと難しいとの意見もあったが、授業後にミニレポートで学生がしっかり理解できているかどうか確認することが出来たためプリントで学生の受講態度も評価することが出来ると考えている。一方で授業進行が早いという指摘もあり次回の課題にしたい。テストの際に持ち込みありにしてほしいなどの意見もあった以前にあったため、学生の意見を取り入れた。そのため、テストの難易度を上げたため、成績の分布もある程度良かったと思う。また、授業中のレポートに取り組ませる行為は今後の授業に活用したいと考えている。また、発育発達論、運動生理学の講義と同様に、身体のうごきなどはイメージがしにくいためスライドの中で図示を多用することで学生の理解、学習意欲の向上を促した。これが学生の分かりやすかったという評価の回答になったと思うので次年度も活用していきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては35名がよい、17名が4と平均が4.5以上の良いという評価だった。専門演習と異なり、履修学生もある程度多人数の中での数値は授業内容に問題はないと考えられる。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、40名がよいの5、14名が4とこちらも平均が4.7以上という同様の回答結果であった。実際、授業展開としてはシラバス通りに展開した結果が評価につながったと考える。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、上述の問いとほぼ同様の37名がよい、13名が4と平均が4.5以上の結果となった。（3）に関しては3つの設問ではすべて4以上の数値という結果となり、授業の内容自体は学生たちは関心があると感じた。反省点は、出席状況が良くない学生が一定多数おり、講義後のミニレポートのみ集中している学生が数名いた気配があったことから、次年度では授業の講義途中で学生に質問することで授業の内容を把握できているのか試すなどをすることで、授業の内容を発展させていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善	話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が32名、平均が4.4、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは平均が4.5と同様の数値であっ

項目見出し	コメント
策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	た。したがって平均が4.4以上と学生は方法に関してとても良い回答を行っていた。板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかの問いは、37名が最高の5にしており、配布プリントの効果が大きかったのではないかと推察している。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が4.6という評価を得たがこれは学生が基本的に私語厳禁にした配慮が大きかったと考えている。これは履修した学生全体の意欲にもつながるため、継続していきたい。学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかの問いには、平均が4.6と他の設問とほぼ同様の結果となった。まとめとして、学生の回答はすべてが4.5または4.6以上であり方法に関しては多数の学生が履修した講義の中で良い評価の回答結果だったと考えている。次年度はこのアンケート結果と同等の数値またはそれ以上となるように継続性を保つことで学生の意欲を向上させていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケートの結果を見る限りでは学生は満足のいく講義を履修してくれたと考えている。今年度は定期試験を実施し、持ち込みなしにしたが次回の定期試験の持ち込み条件は検討したい。アンケートでの評価を詳細に検討すると授業の内容は5が66.7%、授業の方法は5が64.6%、理解度、満足度は69.6%と学生の満足度が明確になったのではないかと考えており、この評価を継続または内容を50%以上に底上げしたい。一方で、態度に関しては平均が40.2とばらつきが見られた点と、自己評価は平均が4と他の項目よりも数値が低く、より多くの学生が予習・復習を行えるように復習を行ったか確認するなどの対策を講じたい。毎授業開始時に復習の時間を設けているがその際に学生がきちんと履修できているのか実施する予定である。

アクションプランシート

2024年度前期 金3

科目名　専門演習ⅡA

教員名　江島　弘晃

回答者数／履修者数　9／10

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	専門演習ⅡAでは、主に3年生を対象に卒業研究の制作に向けた準備段階として専門的な演習を展開した。学生10名に対して、授業に対する理解度・満足度は3名が「できた」に値する5と評価し、6名が4のアンケート評価を回答していた。これは授業の理解に関しても同様であった。したがって評価は平均が4.3となる結果であり、専門演習Ⅲと同様に4以上の概ね学生からは満足のいく回答結果だと考えている。今後、評価をさらに向上させるためには学生の要望を聞きながらも教員自身の専門性のある授業を展開していくことで数値も向上し、評価が高まると考えている。評価が高まれば良いわけではないが、学生一人一人との面談を重ねて個人の状況を把握する必要があると考えており、双方納得のいく専門演習を通して卒業研究の制作につなげていくのが良いととらえている。円グラフ上でも理解度・満足度は5の評価は50.0%と半分以上、4の評価は50.0%以上と全体制で見ても満足のいく結果だったのかもしれない。他の授業と比較しても専門演習では比較的学生から満足のいく回答が得られているととらえている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度をよくするために個別での授業展開を導入した。グループを作成し、そのグループで課題を行う形式を実施した。また、パワーポイントやwordを用いた課題を個人で実施することを徹底させた。その課題は卒業研究につながる課題とし、達成することは自身のためであると理解させることで学習意欲の向上を図った。今年度の専門演習Ⅱでは比較的学習意欲の高い学生で構成されており、学習意欲をより向上するための展開を実施した。学生自身が卒業研究に向けて大まかなテーマを決めることが出来たのは学生の学習意欲の向上につながるものであり、次年度での専門演習と卒業研究に今後生かせていけると捉えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	授業はよく編成され、まとまっており、わかりやすかったですかという問いに関しては6名がよい、3名が4、と平均以上の良いという評価であったため授業内容に関しては理解などの下回ることはなかった回答結果であったことから専門演習に関心をもって取り組んでくれたものだと捉えている。 シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、同様の回答結果であった。実際、授業展開としても整合性のある専門演習に取り組めていくことが出来、平均を上回ることが出来た。授業内容は興味あるものでしたかという問いに関しては、4名がよい、4名が4、と平均が4.3と良い結果だった。このことから、授業の内容自体は学生たちは関心があるように見受けられる。次年度では履修する予定の学生も8名と同様のため、内容の適時修正しながら対応していく予定であり、この点は卒業研究でも記載した。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	話し方は明瞭でしたかとの問いは良いに値する5が4名、4が5名、と平均が4.4、熱意の感じられる授業でしたかとの問い、教科書、参考書、配布プリントの使用は適切でしたかとの問いは質問6より若干上回る4.7だった。したがって平均は4.6であり、平均が4.5以上と学生は方法に関して、良い回答を行っていたことが伺える。とくに配布プリントは各学生が関心のある論文を提示し、読ませることで、学生主体の考察力と論文を執筆する上での技法を学ばせる意図であると認識させる方法がアンケートの回答結果に繋がったと捉えている。板書や機器（OHP、パワーポイントなど）の使用は適切でしたかの問いは、6名が最高の5、3名が4、専門演習Ⅲおよび卒業研究に比べて同様の結果が見られた。これはパワーポイントを多用することで理解促進につなげる方法をとったが、その方法がそぐわない学生もいた結果であると捉えているため、パワーポイントではない別の方法を模索する。具体的には板書を用いるなどの代替を用いることで方法の手法を変更すれば学生の理解も高まると考えている。遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたかの問いに関しては、平均が

項目見出し	コメント
	4.6という評価を得たがこれは専門演習Ⅲと同等の数値であるため次年度も数値を保つよう妨げにならないような配慮を行っていきたい。これは学生たちの意欲にもつながるため、注意するものである。学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたかの問いには、熱意とほぼ同様だが、平均が4.7と他の設問と比べて若干下まわった結果となった。回答結果を統合すると、学生の回答はすべてが4.5以上であり方法に関しては他の授業アンケートと同様に満足のいく結果になったと捉えている。次年度は学生が9名とおおよその変化はなくこれまで通り学生一人一人に対して積極的に指導する方法を行うことで学生の意欲を向上させていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	設問のあなたの授業を受けた態度については、平均の3が1名おり、準備学習を徹底させるよう指導が必要であると感じた。また、授業中のあなたの態度（敏捷性、私語、遅刻、途中退出、居眠りなど）を自己評価してくださいの問いには、不熱心と回答した学生はいなかったものの、4と回答した学生が6名おり、授業内容や方法、理解度、満足度の回答と比べて平均が下回った点は改善するよう課題を常に設定する、態度を改めさせるよう終始徹底指導することに努めていきたいと考えている。学生からの自由記述はなかったため、全員が何らかの記載を促すように対応したいと考えている。今後は、専門演習ⅢAを履修した学生は卒業研究の制作に携わってくるためより専門のある知識習得に向けた授業展開を実施していく予定である。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　スポーツ実習Ａ

教員名　江島　弘晃

回答者数／履修者数　31／32

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	スポーツ実習Aでは、一般の他の授業とは異なり、設問の10のこの授業に参加して満足できましたかという問いに満足の5を記した23名、4に7名という結果で平均が4.7だった。これはこれまでのスポーツ実習と比較して概ね良い結果であり、履修学生は実習に関して満足しているものと捉えている。他には、この実習に対して無回答が1名という結果は対応しなければいけないと感じている。自由記述も学生からは概ね好評の意見をもらっており満足いく結果だと考えている。結果として回答の平均が4.7以上と履修した学生はすべてに満足感を得ていることが推察でき、次年度の実習で活用していきたい。またほかの自由記述に関しては全く関わり合いのない学生とも交流が深めることが出来たと交流の意義がスポーツで学べる事は良い学習効果になったと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	スポーツ実習Aでは、31名の履修となったが、皆受講態度も良く熱心にスポーツに参加している印象をうけた。実際、自由記述にも満足いく回答をしており、学習意欲は高い授業を展開できたと捉えている。しかし、学生が楽な授業を展開したわけではなく、授業の主旨であるスポーツの意義を学習させるために健康面での利点や心拍数の簡易な測定方法、またそこから導き出される運動強度の算出方法などを指導することで学生からの評価を得て、学習意欲の向上につながったものと考えている。授業展開の際、学生の受講態度としてはとくに私語などはせず、熱心に聴講してくれた。とくに率先して授業で使用する体育関連用品を迅速に準備してくれた学生が大半であり、この点は次年度の実習でも学生に伝え態度の良さとして伝えたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	スポーツ実習では実習独自の設問ということで他の授業との比較は実施していない。シラバスと授業内容に整合性はありましたかという問いに関しては、24名がよい（5）、6名が4、と平均が4.7の良いという評価であり、実技に関する説明や話し方は明瞭でしたか、学生の質問に適切に対応していましたか、授業の時間配分は適切でしたかなどの他の設問もほぼ同様の数値を示していた。とくに2以下の回答をした学生はおらず、授業の方法に関してはとくに大きな反省点はなかったと考えている。しかし、感染症拡大防止による学内立ち入り禁止時では実技の実施も執り行うことが出来なかったため急遽課題による実施に変更したため、学生には常に不測の事態を想定させることを次年度では周知徹底させたいと考えている。円グラフ上では、全体で74.2%が良いの5であり、多数の学生が良いの5を記入しているようでスポーツへの関心の高さと自身の実習はさらに学生が満足と理解のいく内容を展開したいと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	スポーツ実習における各設問に対する回答結果を考察していく。熱意の感じられる授業でしたかの問いには、良いに値する5が26名、4が4名と平均が4.7、他実技に関する説明や話し方は明瞭でしたかの問いは5が25名、4が5名と平均が4.7であり、学生の質問に適切に対応していましたか、授業の時間配分は適切でしたかなどの問いには5と4の若干の人数の変動はあるものの平均が4.7または4.8と同等の数値という結果であった。円グラフ上の全体で見ても5が80%以上、4が15.0%以上の自身のアンケート結果および全体的に見ても授業の方法の展開に関してもとくに学生は満足しているように感じられる。反省としては、昨年度同様、授業を展開する際に整列を上手く指示することができなかったため、次年度ではアンケートには記載のない詳細な授業な方法に関して注意することで学生の満足のいく実習が実現できると考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	スポーツ実習は前期のみならず、後期も実施していたが、学生からのアンケート回答はすべての設問に対して平均が4以上と学生は概ね満足のいく授業展開を行えたと捉えている。自由記述の所にも数名が記

項目見出し	コメント
	載しており、すべてが楽しかったなどの印象の良い回答をしていることから、推測している。ただ、自由記述の所には肯定的な意見もある一方で、改善点を求める意見もあったため、次年度から改善するかは要検討としたい。次年度ではより一層スポーツの普及として、学生に運動の意義などを伝えるよう実習に取り組んでいきたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーA

教員名　江島　弘晃

回答者数／履修者数　14／14

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	教養セミナーでは、一般の他の授業でのアンケートと異なり、設問の10のこのセミナーに参加して満足できましたかという問いに満足の5を記した14名という結果で平均が4.4だった。これは、授業に十分満足している学生が多数ということであり、概ね良いの評価を下していると捉えている。実際、説明をわかりやすく丁寧に答えてくれたなどの自由記述の所でも記載があり満足いく回答に繋がったと感じている。などの肯定的な評価を得た。また、ビブリオバトルでの発表の時のスライドの助言や修正など支援したことや、発表の仕方などについて学ぶことが出来たなどの学生自身がセミナーを通して学習していたことが満足感を得た結果に繋がったのではないかと考えている。課題に関しては、学生もよく対応する学生と積極性が感じなれない学生とで分かれており、マニュアル通りの授業展開に加えて教員自身のアレンジも学生の学習意欲の向上に生かしたいと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教養セミナーでは、他の担当教員と同等の14名の履修であり、学生の配属は専門演習とは異なり、学生自身の意思とは無関係である。そのため、学生の雰囲気も手探りの状況の中で前期を終えた。率直な印象としては勤勉な学生と集中力に欠ける学生とに分かれ、個々の特性を大部分把握することが出来た。単位取得も後者の学生たちが圧倒的に不足しているため積極的な指導が後期で必要と考えている。今回、担当した14名の学生は、全員が真面目な学生達とは言い難く若干の学生の授業出席も悪く、更正の必要がある。マナバでのアンケート回答や課題提出などは教養セミナーで学習していくため、セミナーの出席をよく指導するなどを後期では積極的に介入していきたい。反省点としては勤勉ではない学生に集中し、真面目な学生に十分な指導が出来なかった点であり、後期からは満遍なく指導していきたい。ある程度のグループが出来ていたことからグループ間でのいざこざなどはなく、今後は学外授業も増えるためより交流が深まるような授業展開を実施できるよう計画していきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	教養セミナーでの（3）に関する記述は、内容は興味が持てものでしたかおよび学ぶことに対して興味・関心が増しましたかの2つの設問に関しては満点の5の記載が8名、4が3名と平均が4.4と他の授業のアンケートの回答結果と同様の数値だった。これは教養セミナーがある程度実施する内容に統一性があったため内容自体を大幅に変更することは出来なかったが、教員自身が多少のアレンジを加えたことで得た数値ではないかと考えている。基本的なマニュアルに沿った授業展開に加えて、図書館の利用法や施設案内の紹介を独自にスライドやインターネットで提示するなどを行ったことが評価につながったと考えている。これは前年度に実施したビデオやスライドを用いた視覚的な理解などを多用することで学生にはよりよい理解促進につながるのではないかと考えている。今後の改善策としては、昨今の学生の実態を詳細に把握し興味関心があるもの、大学教育としてのシステムや親切丁寧な指導教育を行えばより学生から授業内容を理解してくれるものと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教養セミナーにおける担当教員の取り組みに関して各設問に対する回答結果を考察していく。教員はセミナーに対して熱意をもっていましたかの問いは、良いに値する5が10名、と平均が4.6、あなたの疑問や質問に対して誠実に答えていましたかの問いは、良いに値する5が5名、と平均が4.2と高い水準だったのではないかと捉えている。これは前年度よりも高い数値だった。また、学生の参加を促していましたかの問いには5が8名、と平均4.4の評価を下していた。あなたの相談などに対して誠実に対応していましたかの問いには11名が5、と平均が4.7と低い結果となった。今後は内容を多少学生が理解しやすいような取り組みを増やすとともに相談などに積極的に対応していきたいと

項目見出し	コメント
	思う。新年度の学生への取り組みとして十分注意しながら行うこと、今まで以上に誠実に対応することで学生の満足度は高まるのではないかと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	率直な意見としては教養セミナーの取り組みを理解し、新入生の担当教員として誠実に学生に対応できたと考えている。とくに前期オリエンテーション後の単位取得の制度をよく学生に指導したことは、学生が教員の誠実に対応していたという回答結果に表れたのではないかと考えている。その一方で、セミナーの内容に関しては要改善が必要ではないかとも思える。これは内容の統一性の中から教員自身のアレンジを加える必要があり、より学生の理解促進に繋がるよう映像での理解やより分かりやすい説明・スライドの使用を行い、学生に内容理解に努めていきたい。専門演習と同様に少人数だからこその授業展開をよりよく活用し、学生一人一人の丁寧な指導を次年度ではより展開したいと考えている。後期からは学外授業が始まり、充実した内容を予定しておりそれを実施することでさらに国際観光だからこそ取り組めるオリジナルのある内容を展開したいとも考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 月1

科目名　教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ を含む。)

教員名　川上　知子

回答者数／履修者数　24／29

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	大まかには満足傾向であったが，学生の満足度は，どんな基準によるものなのかは個人に委ねられている。本科目は，教育実践をするにあたり，土台となる「生徒理解」と密接につながる領域であるため，本授業の学びが学生自身の実生活も含んだ自他理解に及んでいることを願うばかりである。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生自身の毎回の学びをファイリングし，学生自身が自分の学びの状況やこれまでの内容を確認できたことが一つあると考える。また，学生の毎回の授業のワークシートを教員も確認し，個人や次の授業でフィードバックしたことも意欲向上につながったのではないかと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容に関しては，教職を目指す意識の程度とも比例すると考えている。授業をする側も，その目指す意識の程度を可能な限り把握し，その実態に応じて，専門的な視点を学生自身の身近なテーマとして受け取りやすいものに変換したり，実際の学校現場に特化しないテーマにしたりなど対応した。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	年度により，学生の実態も大きく変化するので，学生の実態把握は今後も丁寧におこなっていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	まずは，アンケート実施のための授業時間での確保が不十分であり，また介護等体験の期間にアンケート実施を行ったところは，次年度の反省点としてあげたい。授業に関しては，全体としては，現在の取組を維持しつつも，個人レベルで学生を見る視点も引き続き大事にしながら，丁寧に授業を進めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 金1

科目名　特別活動論

教員名　川上　知子

回答者数／履修者数　19／29

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	全体としては，満足度は安定している傾向にあるが，何をもって満足と捉えているのかについては，学生との対話の中で，明確にしながら，より教育実践の質向上につながる満足度として，本授業が有効に機能しているのかについて，今後もこだわりをもって，追究していきたいと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生自身の毎回の学びをファイリングし，学生自身が自分の学びの状況やこれまでの内容を確認できたことが一つあると考える。また，学生の毎回の授業のワークシートを教員も確認し，個人や次の授業でフィードバックしたことも意欲向上につながったのではないかと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	本科目は，学生自身が受けてきた特別活動を入り口として，教員の視点に見る特別活動へと捉え方を移行させていく必要があり，教員による模擬授業や学生自身の発言，模擬授業を柱に授業を展開した。しかしながら，学生の実習等々と重なることが多く，学生自身の実践部分に十分な時間をかけることができなかった反省点がある。次年度も同様な傾向にあると考えるので，授業の組み立て，時期も含め再検討したいと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業のワークシートを作成するにあたり，その授業で何を学生に獲得させたいかを整理することができる。学生の実態を丁寧に把握しながら，毎年同じシラバスであっても，学生の実態，意識をベースに授業を展開する気持ちを大事に授業を展開していきたいと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	まずは，実習等と重なる時期にアンケート実施を行った点が大きな反省点である。回答率をあげて，多くの学生の意見をくみ取り，今後の授業につなげていきたいと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーA

教員名　川上　知子

回答者数／履修者数　11／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	学生の満足度は高かったが，学生の生活に本当に活用されているか，その後の姿も確認しながら，アンケート結果に甘んじない姿勢を持っていたいと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	一人一人に声をかける意識を大事にしたこと。配慮学生や留学生が在籍したこと，不安の強い学生が在籍していたこともあり，例年以上に，授業の雰囲気づくりとして，多様な価値観を重んじる授業展開を意識した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	全学科が同じ授業の流れで展開することの良さと難しさもあり，セミナー内の学生の実態に応じた，授業の題材，テーマを工夫することは今後も必要であると考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	人数が多いので，全ての学生が困ったタイミングで対応できていたかは自信はないが，学生なりに感じ取ってくれていたように考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	色々な背景や事情をもつ学生が多く在籍しているので，今後も，個人を尊重しつつ，集団としての規律も大事にしながら，授業を展開，学生対応を行っていきたいと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　保健体育科教育法Ⅳ

教員名　神野　周太郎

回答者数／履修者数　10／20

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	学ばせるべきことと、学生が楽しいと思うことが必ずしもイコールではない中での満足度向上は工夫が必要であると感じた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	実践を多く取り入れた内容は、受講生にとって意義あるものと捉えられたと考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	ストーリー立てた内容が展開できた。従って、構造的な展開によって学びを生じさせることができたのではないかと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	こちらの熱意があるかどうかを、学生は見ていることがよくわかった。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	知識教授と実践体験の両輪の困難さと、それをできた時の学生の成長具合が体感的にわかるよになってきたのではないだろうか。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　スポーツ原理

教員名　神野　周太郎

回答者数／履修者数　112／150

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度向上のための工夫として、スポーツや体育の事象を可能な限りストーリー仕立てで表現し、適宜知識を付帯的に教授していった。知を切り離した記号とせず、ストーリー仕立てにすることで、自身の経験とリンクする余裕を与えることで、知を実感あるものとして学修させる工夫に努めた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	導入に現実の体育スポーツ現象を取り入れたことは、受講生にとって滑らかな学びの入り口になったのではないかと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	シラバスの進行に適宜修正や補足を加えつつも、ストーリー立てた内容が展開できた。従って、構造的な展開によって学びを生じさせることができたのではないかと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	こちらの熱意があるかどうかを、学生は見ていることがよくわかった。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概念や歴史を扱う座学においては、クラシカルなテキストベースの教授方法も重要である一方で、時代に即した媒体での教授方法も必要であることが実感された。理想はテキストを用いたいが、テキストがただの錘にならないような工夫も検討事項の一つである。

アクションプランシート

2024年度前期 木5

科目名　保健体育科教育法Ⅱ

教員名　神野　周太郎

回答者数／履修者数　20／21

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	必須の学修内容と、学生が楽しいと思うことが必ずしもイコールではない。しかし、本授業では、教職課程で学ぶことを強く求める学生が多い。従って、満足度向上は彼らの今後の学びのためにの重要なことであった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	模擬授業を多く取り入れた内容は、受講生にとって意義あるものと捉えられたと考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	なぜ模擬授業をしなくてはならないのか、その体験を経て何が学修されたのか、それらを常に考え、系統立てた内容が昨年度よりも展開できた。従って、構造的な展開によって学びを生じさせることができたのではないかと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	学生は、教師の熱意の有無をよくみているということが、ひしひしと実感された。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生がないを体験し、学び、成長するのか。彼らの経験をより俯瞰的に考えられるようになってきた。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーA

教員名　神野　周太郎

回答者数／履修者数　10／11

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	学ばせるべきこととが、必ずしも学生が楽しいと思うことではない。しかし、楽しいと思うことは学びの一歩でもあるのではないかと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	身をもって（実際に動いてみたり、調べたりすること）を多く取り入れた内容は、受講生にとって意義あるものと捉えられたと考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	ストーリー立てた内容が展開できた。従って、構造的な展開によって学びを生じさせることができたのではないかと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	学生は、こちらの熱意があるかどうかをしっかり見ているのが実感された。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大学の導入の重要性は、教員キャリアを重ねるごとにより自覚できるようになった。

アクションプランシート

2024年度前期 月5

科目名 Practical English Ⅰ A

教員名 John Patrick Owatari-Dorgan

回答者数／履修者数 19／22

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 **▽該当質問** **一般** Q13 **スポーツ実習** Q10 **教養セミナー** Q10	For Q13, students gave me a 4.8 which show that students are generally satisfied with the course. Despite this high score, I would like to work on making the students more satisfied. Regardless, I will do my best to continue to increase student satisfaction. I plan to do this by trying to include a wider range of activities in the class and provide students with more opportunities to shape the design of the class. I think that student satisfaction can be improved by reducing the amount of work and giving the students more time to complete the assignments.
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	To improve satisfaction, I will work to provide students with more face-to-face feedback and try to keep activities engaging. Moreover, I will also work to include more activities that focus on student expression. I will also try to help students understand the connection between the class activities and their study abroad opportunities. I think this will improve student satisfaction and give them better motivation.
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 **▽該当質問** **一般** Q3〜Q5 **スポーツ実習** Q2〜Q5 **教養セミナー** Q2〜Q3	For Q3~5, the students gave me good scores but they are lower than I would like. Overall, I believe that most students were satisfied with the content of the course. On the other hand, I think that the course has too much content and students felt a lot of pressure. Since this class is a high-level English communication class (Global Tourism), it is natural that the material was difficult for students to understand. I think some students may have felt overwhelmed. I will try to continue making the purpose more clear and explain the reasons for my assignments better.
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 **▽該当質問** **一般** Q6〜Q11 **スポーツ実習** Q6〜Q9 **教養セミナー** Q4〜Q7	In Q6~11, student gave me high scores. Based on this, I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, materials and teaching methodology in class and enjoyed the improvements made to the class. I hope to increase student satisfaction with these elements in the class by developing stronger relationships with the students. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with my materials or methods. Moreover, I will try to give the students even more opportunities to express their opinions in class.
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	I found the results of this survey very helpful and I now have a clear understanding of what I should do to improve this class and student satisfaction with this class. The survey has made it clear that many of the changes made to the class were successful. In my mind, the student survey process is vital and I am very pleased with the results of this survey. Students wrote many comments on the survey. This allowed me to better understand their thinking. I also hope that I can continue to improve my classes to make them better for students.

アクションプランシート

2024年度前期 火5

科目名　English Reading Skills III

教員名　John Patrick Owatari-Dorgan

回答者数／履修者数　16／20

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 **▽該当質問** **一般**　Q13 **スポーツ実習**　Q10 **教養セミナー**　Q10	For Q13, students gave me a 5 which is slightly above the score of the previous year. As such, I believe that students were very satisfied with this class. Of course, I would like to continue to improve this class. Specifically, I think I can make the class more interesting by introducing more interactive activities to the class. While it seems that satisfaction was perfect this year, I think I can still improve and I will strive for that in the future. The students enjoyed being able to study in person and participate in discussions together.
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	To maintain student satisfaction with this class, I will try to make the activities more engaging and use more active learning techniques. I will do my best to give the students more useful feedback to increase their satisfaction. Finally, I will try to reduce the amount of work that students must do outside of class. In recent years, I have reduced the amount of outside homework and I believe that students have been pleased with that. I will also find ways to incorporate reading into the students' everyday lives.
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 **▽該当質問** **一般**　Q3〜Q5 **スポーツ実習**　Q2〜Q5 **教養セミナー**　Q2〜Q3	For Q3~5, the students gave me excellent scores but I think they can be improved in various ways. These scores were slightly better than the scores from previous years. Overall, I believe that most students were satisfied with the content of the course. Of course, I will work to improve student opinions of the content. Since this class is a high-level English communication class (Global Tourism), it is natural that the material was difficult for students. Obviously, the students were well prepared for the difficulty of the course. Many students seemed to enjoy the content of the class. I think that making the content of the course more engaging and having more variety will make student happier.
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 **▽該当質問** **一般**　Q6〜Q11 **スポーツ実習**　Q6〜Q9 **教養セミナー**　Q4〜Q7	In Q6~11, student gave me scores that show they were very satisfied with the materials and teaching style. These scores are better than the scores from last year. Based on this, I believe that students were pleased with my communication, enthusiasm, materials and teaching methodology in class. I believe that students were very satisfied because I tried some new and interesting materials for this year. I hope that this will make students more comfortable with expressing problems they are having with my materials or methods. Moreover, I will try to give the students even more opportunities to express their opinions in class.
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	I found the results of this survey very helpful and I now have a clear understanding of what I should do to improve this class and student satisfaction with this class. I am pleased to see that the changes I have made to the class have made the students happy. In my mind, the student survey process is vital and I am very pleased with the results of this survey. I am very pleased with the number of comments that students made on the survey. I also hope that I can continue to improve my classes to make them better for students.

アクションプランシート

2024年度前期 水1

科目名　スポーツ社会学

教員名　末永　貴久

回答者数／履修者数　97／142

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	平均4.5であり、学生がある程度の満足感を得たことは良好な結果だと考える。講義の準備や教材研究には毎回時間を割いていることから、実際の授業においても余裕を持って取り組むことができている。今後もこのような結果を維持できるよう、スポーツと社会の情勢や学生のニーズも捉えながら、参加意欲を高く持たせるよう心がけたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	「スポーツ社会学」という講義であるため、まずはその時のタイムリーなスポーツの情勢を幅広く伝え、自分のこととして考えさせることから取り組ませている。毎回のように、スポーツの本来あるべき姿、光と影、利用されるスポーツ、スポーツと施策、そして「する・みる・支える」スポーツについて、多方面から捉え、考察させている。また、その日の授業のトピックにあわせて、社会学的に課題をいくつかピックアップし、それについて個人の意見、グループワーク、発表なども盛り込んでいることが、積極的な受講態度につながっていると考えられる。 授業の開始時には、前回の課題についてフィードバックしている。一部を紹介することで他の学生がどのように考えたかを共有したり、課題提出の励みにさせている。時事の紹介では、インターネットからだけではなく、なるべく新聞からスポーツ社会学に関連する記事を紹介し、興味を持たせている。同時に、動画も活用し、授業の流れに飽きないような対策をとっている。 課題はほぼ毎回出している。内容については、まずは短時間で取り組むことができる設問や、自身のアイデアにつながるような事柄、さらに授業で考えた内容をさらに深めるようにして、提出しやすいことを心がけている。そのことにより、課題に取り組むことで予習・復習が自然にできるようになったと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	前述のように授業の構成には力を入れているため、学生はわかりやすいのではないかと考える。ただし、情報量が多かったり、説明が長くなることもあるので、授業の流れや強弱にはより気を遣いたい。 授業の基本となる内容はほぼシラバスに照らし合わせて進めている。時事の紹介や課題のフィードバックにも時間を取っているため、多少次回に繰り越すこともあるが、その場合もよい振り返りの機会として捉え、実施している。 授業内容への興味も全体的には良好であることから、あまり興味が高くない学生に対しても、ある程度の意欲を持って取り組ませることができていると考える。ただし、５の評価と４の評価がほぼ同数であることから、もう一歩踏み込んでスポーツの現状を伝えることに加え、学生がより興味を持つ内容や、印象に残ることを探求したい。 受講人数が100人を超える授業であるため、全体を見渡すことが難しく、中には授業以外のことをしている学生も存在していると思われる。動画の視聴や、グループワークのタイミングを上手く活用することで、授業への集中力を高めさせたい。また、授業に関する質問が少ないため、質問しやすい環境を作ってく必要があると感じている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問	自分の専門種目や興味のある内容についての現状を把握させることで取り組みの動機付けを高め、授業に現実感を持たせている。その上で個人の調査、グループワーク、発表などを行わせ、積極的な参加を促している。また、出席カード提出や授業中の課題提出、またレスポンスも活用することで授業への参加を促し、不正出席（ピー逃げ）対策にも取り組んでおり、そのことは学生にも伝わっている。

項目見出し	コメント
一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体としての授業評価は良好であり、授業全般で準備し、実施し、考えさせるアクティブな授業をしているつもりではあるが、質問1.2を見ると、まだまだ学生が受け身になっていると見受けられる。 本授業では課題への取り組みが「予習・復習」の意味合いを持たせているが、その趣旨が伝わっておらず、学生自身が準備学習をしたと捉えていないと考えられる。課題の内容を工夫し、学生が思考する時間や密度を増やすことで、準備学習と感じるよう見直していく必要がある。 また、授業中の学生自身の態度・積極性などについても、積極的な学生が存在する反面、不関心や、実際、居眠りしている学生も見受けられることから、より学生の積極性を導き出すことが課題であると捉え、改善していきたい。 この授業は1年生の前期が基本の開講のため、スポーツへの関心を高め、スポーツへの多様な捉え方を学ぶ機会と位置づけている。また、教員の経験測に基づき、できるだけ現実的に繋げて考えさせることを心がけているので、スポーツの奥深さを感じる、様々なスポーツへの関わり方を考える機会になっていると思われる。これらのことからも本授業は、学生が将来、そして生涯にわたりスポーツに何らかの関わりをもつ礎になっていくと考られる。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーA

教員名　末永　貴久

回答者数／履修者数　11／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	2年目の教養セミナーであったが、授業への満足は4.6であり、良好な評価だったと考える。授業の進め方や資料も全て準備してあり、とても取り組み易かったことや2年目であったことから、余裕をもって取り組むことができ、学生のリアクションを見ながら展開することもできた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	まずは学生同士のコミュニケーションに力を入れた。最初の複数回は、レクリエーションも入れ、学生が気軽に話し合える環境を作った。内容はほぼマニュアル通りに進めたので、特に工夫したことはないが、できるだけ学生が現実の生活や授業のことを関連付けて考えることができるように、様々な事例を付け加えて示しながら展開した。また、例えば動画を見るだけの内容であっても、実演もさせ実感できるようするなど、工夫した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	教養セミナーの内容について、興味度が4.2であり、与えられた教材を活かすことはできたのかは微妙である。学びへの興味関心が増したか、は4.3であり、判定の3〜5の間であったが、ばらついた結果であった。これらの結果は、内容によっては私自身がその必要性に疑問を持つこともあり、マニュアル通りに進めたものの、学生が興味関心を高めることにつながらなかった可能性がある。今後は、与えられた教材に頼るのではなく、自分自身が自信をもって授業できるような工夫をし、より学生の学ぶ意識を高めていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教員の取り組みはの評価は4.7〜4.8あった。良好な結果であると思う。まずは学生同士のコミュニケーションを大切にして、異なるメンバーでグループを作るなど工夫をし、笑顔になる時間を持つことを心がけた。そういった「熱意」も学生に伝わり、学生の参加を促すことへの高評価につながったのかもしれない。また、学生に質問されても、即答できないこともあったが、中途半端な回答ではなく、必ず他の教員や事務局に確認し、その日のうちにはメールなどで対応した。また、相談もさほど多くはなかったが、しっかりと聞き、アドバイスもできたと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	積極的なセミナーへの参加は4.6であり、教養セミナーという様々なタイプの学生が混在する中、良好な結果であると考えられる。しかし、毎回学生同士のコミュニケーションには力を入れたので、前期の途中で元気がなくなってきたり、態度が悪化しつつあった学生もいたが、後半では笑顔が多くなったり、態度の改善につながった事例もあった。 また、ビブリオバトルでは、クラスから選出された3名が合同プレゼンでも1〜3位を取り、大変な盛り上がりや団結が生まれた。いずれも個性派であったが、それぞれの特徴が活かされ、このクラスの象徴的な姿であった。後期も引き続き楽しく指導していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　マーケティング論

教員名　張　美慶

回答者数／履修者数　108／160

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	マーケティング論の授業満足度は受講者数160人、回答者数108人のうち、非常に満足している,満足している学生を合わせて84人である。「普通」と答えた学生は19人である。「普通」と回答した学生19名を満足の授業に導くために学生が理解できるように適切な事例を適用する。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生たちが授業に集中できるように授業途中に授業内容を復習できる問題を与える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の構成つくりに頑張ります。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	単語などの発音にもっと気をつけて説明をする。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生の反応を見ながら授業を進める。

アクションプランシート

2024年度前期 木5

科目名　環境デザイン論

教員名　張　美慶

回答者数／履修者数　26／29

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	学生のモチベーションを上げるために先週行った授業の内容をもう一度確認後、学生　　の意見を聞くようにする。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生自らフィールドワークを通じて体験できるようにした。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	多様な側面が必要な授業でした。今回の授業経験をもとに次の授業では学生がより理解できるように長崎県の事例にもっと注目したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教科書、参考書、配布プリントをもっと適切に使える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生が授業を受ける姿勢を高めるためよく答えた学生は必ず褒める。

アクションプランシート

2024年度前期 金3

科目名　観光事業論

教員名　張　美慶

回答者数／履修者数　169／238

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業途中にも学生に質問の機会を与え、円滑な授業の流れを作り出す。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の発表についてはなるべくコメントをするようにした。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	何をするかをもっと明確にする。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方は明瞭にするために重要な内容はさらに、強調する。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	観光産業に興味を引くため観光コンテンツについてもっと説明が必要だと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーA

教員名　張　美慶

回答者数／履修者数　9／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業満足度(4.7)を維持すために学生の声に関心を持ちます。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業中に植物を実際に植える授業を行った。 4年後の成長を植物を通して感じてほしかった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容がキャンパス生活等に必要な一般的な内容なので多少興味がなかったかもしれない。授業の途中に関連ある事例などを紹介する。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	学生全員がディスカッションに参加できるよう意見を取りまとめてテーマを決めるようにする。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	何より学生との距離が近くて良かったです。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　日本語コミュニケーションＡ

教員名　東出　朋

回答者数／履修者数　19／23

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	概ね高評価を得ている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	グループワークをたくさん取り入れた点 毎授業、学生一人一人への声かけを心がけた点
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	概ね高評価を得ている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	概ね高評価を得ている。 学生の授業参加を促すように、アンケートやゲームなどを取り入れる工夫をする。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	他者の授業の工夫を学ぶ。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　教養セミナーA

教員名　東出　朋

回答者数／履修者数　10／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	概ね高評価を得ている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎授業、学生一人一人への声かけを心がけた点
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	概ね高評価を得ている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	概ね高評価を得ている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	他者の授業の工夫を学ぶ。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　専門演習ⅡA

教員名　小泉　優莉菜

回答者数／履修者数　2／4

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	受講生の満足度を確認できた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	発言を促すような声がけを行った。 それぞれの興味関心を引き出せるような、情報取得の方法や、フィールド・ワークの方法を提案したり、一緒に実施したり、多方面からアクセスを試みた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	卒業論文執筆や進路決定の面では、指導が行き届いていなかったように反省している。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	個々人の意見や進路の模索に、沿いすぎてしまった感もある。 後期では、前期に得た知識や情報を活用してもらい、卒業論文や進路決定をもう少し具体化したいと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	一人ひとりの興味関心を探りながら、それぞれが自身の考えを自発的に言葉にできるような環境づくりをおこなっている。後期もこの方法で運営していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水1

科目名　博物館実習B

教員名　小泉　優莉菜

回答者数／履修者数　5／9

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	概ね授業の内容には満足の評価となっている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	博物館学芸員が、実際に業務に当たる際に行わなければいけない一つ一つの作業を、丁寧に学び進めることが出来た。 また、自身の実際の学芸員時の経験の話を交え、より具体化した話題を元に授業を進めることで、臨場感を出すことが出来たと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問⑤と⑩については、他の項目よりもやや評価として低い評価となっている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	⑤については、更に一人ひとりに目を向け、それぞれの学生が興味を持って取り組めるような内容や、声がけを行っていきたい。 ⑩については、確かに特定の学生が遅刻を繰り返していたため、授業の進行が中断されることが時々あった。当該学生には少人数授業であることや、実習科目であることの意義と注意点を伝え、意識の改善に取り組みたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学芸員にとって必須の科目であり、また、他館で受け入れていただく学芸員実習Cに直接的につながる科目でもある。 学芸員として身に付けなければならない技術ももちろんのこと、心構えや社会的礼儀なども伝えていきたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　教養セミナーA

教員名　小泉　優莉菜

回答者数／履修者数　12／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	一つ一つの単元がなぜ大切なのかを伝え、授業に集中する環境つくりをおこなった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年の教養セミナーについては、一人ひとりの性格や興味が多彩であり、「全体として何かを行う」という意識が薄いことが問題だと思っている。 そのため、授業の終了時にミニゲームなどをして、連帯感が少しでも生まれるようにしている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	概ね授業には満足をしているという評価であった。しかし、上述したように全体感がまだ希薄のため、声がけをしていく方向性を考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	とくになし
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大学生活を送るうえで、なぜ教養ゼミが大切となるのかを伝え、一コマ一コマに自律性をもって学んで行けるような環境つくりをしている。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　ジョギング・ウォーキング

教員名　長津　恒輝

回答者数／履修者数　34／41

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	4.6というスコアは私としては決して低くない評価を受けたと感じている。ただし、Q1はがくんと低い。実際に予習、復習を強制する授業ではなかった。本来、授業時間外の学習も必要であり、その時間も含めた単位認定であるので、より学びが深められるようにも次回からは工夫していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本授業は、前半で理論的な内容を押さえ、後半は関連することを実際に歩いたり走ることで体験する形式を取っていた。その授業展開が功を奏し、学習意欲は高められたと思う。頭にインプットしたものを、即自的に自身の身体でアウトプットするこの方法は、受講者の大半がスポーツツーリズム所属の学生である本授業において適していた。また、日々の歩数を計測・記録するスマートフォンのアプリケーションを活用したこともよかった点であろう。身近な物を利用し、科学的な知見に繋げる数値を測定できるので、学生たちも興味をもって取り組み、最終レポートでは自身の歩行習慣について考察し、まとめられていた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	私自身の研究テーマとマッチする授業であるので、これまで行ってきた実験の方法や結果を提示する機会が多かった。もちろんその分熱意も高かったと思うが、それが裏目に出たような感触があった。やはり、専門性が高い内容になってしまい理解が難しかったと思われる。専門分野であるからこそ、わかりやすい説明ができなければ意味がないので、学生に伝わるようにかみ砕いて説明できるようにしたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	気になったのはQ8〜10である。２と評価した学生がいることは改善の余地が大きい。確かに、教科書は使用せず、基本的に資料もパワーポイントで提示するのみで配布しなかった。体育館のモニターはキャパシティから考えると大きくなく、見づらい学生もいたのかもしれない。次回から事前にmanabaに添付し、手元でも確認できるような方策を取りたい。また、授業後半は実践が多く、自由度が高い場面も設定されていた。ディスカッションも促すことも多かったが、そこに私語が含まれていたのだろう。私自身がいい意味でさらに介入し、やらなければならないことにフォーカスできる雰囲気を作っていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業は、座学と実技を組み合わせたようなものであり、体育館や多目的グラウンドを利用して行った。評価としては悪くないのかもしれないが、授業の環境や道具が整備できればさらに授業のクオリティーを向上させることができると考えている。また、学生の表情や様子をその時々で読み取って対応する力があれば、理解度は高まっていただろうと、今振り返ると痛感する。実践的な授業であり、多様性も持たすことができるので、そこに注視して学生の学びを最大化できるように努めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月1

科目名　スポーツ実習Ａ

教員名　長津　恒輝

回答者数／履修者数　35／43

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	非常に多くの学生が満足であると回答してくれている。本授業は毎回、受講学生が夢中になってスポーツに取り組んでいたので、授業アンケートは純粋にそれが反映された結果であろう。スポーツはそれ自体に素晴らしい魅力が詰まっているので、その力が発揮されただけである。ただし、やり方によってはその魅力を半減させてしまうので、そうならないように教員がスポーツの本質を捉えられるようにしなければならないと思う。また、安全への配慮は実技科目において非常に重要なことなので、そこだけは怠らないように注意していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	スポーツの実技ということもあって、多くの学生がはじめから態度は良く、意欲は高かった。その中で気をつけたことや方策がいくつかある。1つ目は、「できない」を感じてもらうことである。強化指定部の学生は特に運動能力が高くある程度のことはこなせる。そのような彼らでも「できない」高さのハードルを設定し、練習をすることで「できるようになる」という経験をしてもらった。「できるようになること」の嬉しさが態度や意欲に繋がっていったと感じている。2つ目は、ルールの設定と徹底である。スポーツはルールがあることで成立し、崩れることで面白さが消失する。学生の様子をみながら独自のルールを作成したり、ハンデを付加したが、そういったものも含め全員が楽しめるような工夫を行った。3つ目は性差への対応である。男女平等や多様性が謳われる社会であるが、運動能力には絶対的な性差が存在する。本授業では、安全性を優先し、男女別で実施する場合と、性差を互いに感じ取ってもらうためにも合同で実施する場合を設け、それぞれ意図を伝えていた。それは人生を通して大切なことを学ぶ機会になっていることを期待している。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	Q３において２や１と回答した学生がいることは見逃してはいけない点である。本授業では、フライングディスクを用いるアルティメットや、バスケットボール、バドミントン、ユニバーサルホッケーをメインに展開した。それら種目の選択がよくなかったのであろう。学生の希望を取りながら行ったが、もちろん全員の意見を聞き入れることはできない。私自身が授業で実施できるレベルにある種目にも限りがある。その中で全員の興味がある内容を実施することは難しい。ただし、これは環境的なところも含めたどうしようもない制限であり、そこからが教員の腕の見せ所であろう。はじめ興味がなかった内容でも、実践していくうちに面白く感じてもらえれば、きっとこのアンケート結果は変わったはずである。どうすれば興味を持ってもらえるか、それぞれのスポーツが持つ魅力を最大限に伝えられるようにしたい。また、時には教員が同じ土俵にあがってともにプレーすることも、１つの手立てであるので、全体に目を向けつつ参画する頻度を増やしていこうと思う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	該当質問の評価は悪くないが、私としてはQ7の評価はもっと低いと予想していた。技術的な指導をする場面において、一般的な方法で改善がみられなかったら、自身ができるようになった過程に落とし込んむしかできなかった。プレーヤーとしての感覚に頼っていることが多いので、改善点を見抜く観察眼やテクニックを向上させるためのアプローチの仕方を身に着ける必要がある。そのために、スポーツを観客としてではなく指導者としての視点で観る回数を増やしたり、知識の引き出しを増やしていきたい。また、初任ということで環境や道具に不慣れなことから、準備などの指示もあいまいになってしまう場面があった。これは本学のシステムを知って慣れるしかないので、スポーツの教員としてスポーツ現場の環境整備として何度も足を運びたいと思う。

項目見出し	コメント
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	Q５において高評価を得られたことは私自身満足している。生涯にわたってスポーツに親しんでいくことのできる資質・能力を育んでいくことは、現在スポーツ界におけるテーマであるので拘っていた。高校までの体育と異なり、あくまでスポーツの授業であるので、スポーツをする楽しさや心地よさといったスポーツが持つ価値が伝わっていたら嬉しい。今後もこういった評価をもらえるように邁進していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　教養セミナーA

教員名　長津　恒輝

回答者数／履修者数　11／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	72.7%の学生が評価５を選択し、27.3%の学生が評価４を選択した。評価１～３を選択した学生はいなかったことになる。概ね満足度が高い授業であったといえるのではないだろうか。本授業は指南書のようなものが提示されており、私は基本的にそれになぞらえて授業を展開した。よって、指南書の評価が高いといっても過言ではない。とはいえ現場で学生と対峙している以上、授業は生ものであり、場に合わせた対応も評価に影響を与えたと考えている。留学生含め、様々な学生がいるので全体で話をする場面と個に着目する場面の両者をバランスよくできたのがよかったのかもしれない。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容はビブリオバトルに関するものである。プレゼン資料作り等の準備からセミナー内発表、セミナー合同での発表会まで複数回にわたって展開されたが、学生は非常に意欲的に取り組んでいた。この授業も基本的には指示に従い展開したが、独自のパワーポイントやプレゼンのコツのようなものを伝えると興味を示していた。初めてのこと、効率化できる方法、将来活かせそうなことは関心がある様子だったので、今後もそういったことを絡めながら学びを深めていきたい。また、得手不得手はあるものの好きな物をアピールすることに夢中になっていた。これも授業を展開する手がかりとしたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	アンケートの該当質問について集計結果をみるとどれも4.5を超えているので、全体の評価としては低くない印象をもった。ただし、授業を個別に振り返ると改善が必要であった回があり、それはライティングに関する内容である。今後レポートを書く際に守らなければならないルールや一般的な文章構成を学ぶ回であったが、最低限のことを教示するにとどまった。学生が作成した新聞記事の要約やミニレポートに対し、個別に評価することがあまりできなかった。良い箇所、改善箇所は学生それぞれで異なっていたので、個別にコメントを残せるようにしたい。また、模範解答や「私だったら」という例示を示すことができたらなおよかった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	アンケートの該当質問について集計結果をみるとどれも4.5を超えている。一方で、他のセミナーの話を伺うとまだまだ授業の方法として改善の余地を感じている。ある程度展開は決まっており、ディスカッションの時間も設けられているので学生は議論を行っていたが、こなしている感を感じた。『なんとなくそれっぽいことを言っている』『どこか遠慮して、自身の考えを伝えきれていない』様子であった。より一層、白熱したディスカッションになるようにするには、さらに互いに互いを深く知ることが重要であるように思う。将来的には初対面の人が相手でも議論を活性化できることが求められるが、本授業は初年次教育であり、まずは話しやすい環境の整備をすることが重要であった。他のセミナーを見習い、席替えなどを多く取り入れ、誰が相手であってもトークを繰り出せるような関係性を作りたいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的に評価は低くないと受け取っている。（１）で述べたように、本授業は素晴らしいマニュアルが存在するので、それに沿って授業を展開した結果である。さらにクオリティーを向上させるためには、マニュアルから外れないことを前提として、教員としてのオリジナリティを発揮することが重要であると感じた。やはりベテランの先生方の話を伺うと、様々な工夫を取り入れられていた。踏襲させてもらいながら、その場の受講学生の様子に即して対応できる力を身に着けていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月3

科目名　社会保障Ⅰ

教員名　余　乾生

回答者数／履修者数　53／58

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今回は初めての授業アンケートで、満足度は3.8となっております。満足度を向上させるためには、総合的な対応が必要です。具体的には、①もっと具体例を入れて授業を行うこと、②重点や難しいところを意識して、話すスピードを落とすこと、③穴埋めの答えを別紙で添付し、受講生自身が答えを入れる作業を要求すること、④今後はTVではなく、文字の大きいスクリーンを使用すること、⑤もう少し画面を拡大することです。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	①穴埋めの形で、授業参加を求めること、②授業中の過去問や確認問題の練習や授業後の練習問題の復習、そして、次回の授業中の解説を通じて、勉強を促すことでした。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	はじめてのアンケート結果として、授業のわかりやすさや授業内容に対する興味は3.8です。 対策としては、上記（１）の①〜⑤と同様です。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	はじめてのアンケート結果として、「教科書、参考書、プリントの使用は適切でしたか」は3.7です。 対策としては、上記（１）の③〜⑤と同様です。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	はじめてのアンケートで、課題がもろもろ見えてきました。改善して参ります。

アクションプランシート

2024年度前期 火5

科目名　経済学

教員名　余　乾生

回答者数／履修者数　136／147

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	はじめての授業アンケートで、満足度は3.9です。 授業自体が難しいので、満足度向上のために以下の2点を行う予定です。 ①PPTとは別に、穴埋め形式の授業ノートを作成する予定です。 ②計算過程が難しいため、授業ごとに計算過程をmanabaにアップする予定です。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業中の練習問題を準備して、学生の参加度向上に使用しました。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	はじめての授業アンケートで、Q3〜Q5は4.0〜4.2です。 授業内容自体が難しいので、上記（1）①②の方法で対応する予定です。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	はじめての授業アンケートで、Q6〜Q11は4.0〜4.3です。 授業内容自体が難しいので、上記（1）①②の方法で対応する予定です。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業の課題がみえてきて、今後対応して参ります。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　刑事司法と福祉

教員名　余　乾生

回答者数／履修者数　49／55

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	はじめての授業アンケートで、満足度は3.8です。 向上策として、自由記述の課題に対応したいです。 ①私語のコントロールや教室の温度管理などをもう少しまめに行います。 ②話し方に「あ～」「え～」の使用頻度や授業のスピードを抑える努力をします。 ③穴埋めの授業ノートを使用して、授業参加（書く行動）を増やす予定です。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の授業の最後に確認問題を用意して、授業の復習を行い、授業参加を促しました。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	はじめての授業アンケートで、Q3～Q5は3.8～4.1です。 改善策として、上記（１）の③を行う予定です。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	はじめての授業アンケートで、Q6～Q11は3.8～4.4です。 改善策として、上記（１）の①②③を行う予定です。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケートにより、課題がみえてきて、今後対応改善する予定です。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　教養セミナーA

教員名　余　乾生

回答者数／履修者数　13／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今回初めての授業アンケートの「授業に対する満足度」は4.8です。 今後も基本的には日本語が入門レベルの受講生に寄り添う姿勢で、大学からの情報や要求を丁寧に説明する予定です。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	①受講生に寄り添う姿勢で、大学からの情報や要求を丁寧に説明しました。 ②日本語がわからない場合、英語で説明しました。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	今回初めての授業アンケートの「内容に対する興味」は4.7で、「興味・関心の増加」は4.8です。 自由記述で、「日本語を上達させる方法・日本社会を知る方法が欲しい」などの要望があり、今後は③外国人として日本語を勉強するときの経験や大学からの就職やイベントの情報を伝える予定です。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q4〜Q7の初めての評価結果は4.8〜4.9です。 今後は、上記（２）①②および上記（３）③を行う予定です。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	受講生の要望が伺えまして、今後の改善策の土台になっております。

アクションプランシート

2024年度前期 木1

科目名　宗教学

教員名　木村　勝彦

回答者数／履修者数　89／107

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	この授業に対する満足度を問う質問項目Q13の平均値は4.6で、例年に比べて幾分か高い評価を得ることができた。5と回答した者が58名、4が26名、3が5名で、2以下をつけた者や無回答の者はいなかった。同様の評価傾向は理解度を問う質問項目Q12についても見られ、平均値が4.5で100名を超える受講者の授業としては高い数値を示し、5が50名、4が31名、3が8名で、2以下をつけた者や無回答の者はいなかった。Q12とQ13を合わせて、5及び4という評価値をつけた受講生の割合が全体の82.7％になっており、総じて高い評価を得ることができたと言ってよいであろう。その要因としては、まず授業内容の精選と授業時配布資料の改訂を挙げることができる。説明のポイントを見直して過度に難解な部分を削除し、より理解しやすい内容と表現に作り替えると共に、資料も要点を分かりやすく示したものに改めることで、理解度・満足度の向上につなげることができたと自己評価している。また授業方法として、具体的な宗教の事例を説明する上で、可能な限り映画等の視聴覚教材を取入れるように努めたことも、学生の理解に資するところ大であったと考えている。今後さらにこうした内容・資料の改訂や、視聴覚教材の吟味・精選に努めていく所存である。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	準備学習に関する質問項目Q1の平均評価値は3.6で、全13項目の評価項目の中で低い値となり、内訳も5と回答した者28名、4が25名、3が20名、2が6名、1が10名と各評価値に分散する傾向が顕著であった。マナバの小テスト機能を利用して毎回の授業の確認テストを実施しており、それを解答・提出することを平常点として評価する旨を受講生に伝えることによって準備学習を促しているところであるが、実効性が上がっていないことは明らかである。この点については大いに反省しており、小職の授業における最大の欠陥と認識している。授業中の受講態度に関する質問項目Q2の平均評価値は4.2で、内訳も5が34名、4が39名、3が16名で、2以下をつけた者や無回答の者はいなかった。授業そのものは熱心かつ積極的に受講していると評価することができるであろう。Q1とQ2を合わせて、5及び4をつけた者の割合は70.8％で、3をつけた者も加えると91％に上ることから、宗教学の授業における受講態度は総じて良好であり、学習意欲も高い者と評価するができると考えられる。その要因としては、まず宗教現象あるいは宗教学そのものに対する受講生の関心が高く、この授業がその関心を裏切らないものになり得ていたというところに求めることができるであろう。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の編成・まとまりに関する質問項目Q3の平均評価値は4.7で、高い値を得ることができた。内訳も5と回答した者61名、4が25名、3が3名で、2以下をつけた者や無回答の者はいなかったことが示しているように、ほとんどの学生が授業内容をよく編成され、まとまりのあるものとして受けとめていたことを示している。シラバスとの整合性に関する質問項目Q4の平均評価値も4.7と高い値を示しており、内訳は5が62名、4が23名、3が4名で、2以下をつけた者及び無回答の者はいなかったところから、シラバスに記載通りの順序で計画通りに授業を進めることができていたものと考えている。授業内容の興味深さに関する質問項目Q5の平均評価値は4.5で、前2項目と比較するとやや低目ではあるものの高い数値を示していると考えられる。内訳も5と回答した者55名、4が24名、3が10名で、2以下をつけた者や無回答の者はいなかったことから、宗教現象を取り扱う授業内容そのものに対する興味・関心はほとんどの学生において高かったものと言うことができるであろう。総じて授業内容に関するQ3からQ5を合わせて、5及び4の評価をした者が93.7％に上ることから、授業内容の面ではこの授業は高い評価を得ることができていたものと評価してよいであろう。その要因としては、混迷する現代社会において宗教紛争や民族紛争など宗教に起因する文明的危機が頻発している国際情勢や、統一教会

項目見出し	コメント
	をめぐる諸事件などにより、宗教に対する学生の興味・関心が高まっていることがあると考えられる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法に関するもののうち話し方の明瞭さに関する質問項目Q6の平均評価値は4.7で、高い評価を得ることができ、内訳も5をつけた者が64名、4が20名、3をつけた者が5名で、他は0名であった。熱意に関する質問項目Q7の平均評価値も4.7で高い数値を示し、内訳は5が67名、4が19名、3が3名で、他は0名であった。教科書、参考書、配布プリントの使用に関する質問項目Q8の平均評価値は4.8で、今回のこの科目に関する評価では最高の数値を示しており、内訳は5が71名、4が15名、3が3名で、他は0名であった。教科書、参考書は使用していないことから、配布プリントが高い評価を得たものと思量される。板書やパワーポイントの使用に関する質問項目Q9の平均評価値は4.7で、これも高い数値を示しており、内訳も5が68名、4が17名、3が4名で、他は0名であったことから、パワーポイントでスライドを示し、重要語句を配布プリントに記入させるという方法が大部分の学生に評価されていると考えられる。遅刻や私語に対する対応に関する質問項目Q10の平均評価値は4.5で、これもこの種の項目としては高い数値を示しており、内訳も5が57名、4が23名、3が9名で、他は0名であった。そもそも授業の中で私語や遅刻を注意した記憶がないが、小職の関知し得ないところで若干の私語・遅刻等があった場合に、適切な指導を行わなかったと評価された面があったものと思われる。学生の授業参加に関する質問項目Q11も小職にとっては弱点の一つであるが、今回は平均評価値が4.5で高い数値を示しており、内訳も5が52名、4が29名、他は8名であった。特別にアクティブラーニングを試みた訳ではないものの、視聴覚教材等の使用により学生を授業内容に惹きつけることができたものと考えている。総じてQ6からQ11を合わせて、5及び4の評価をつけた者が94％に上っていることから、宗教学における授業方法は高い評価を得ることができたものと言ってよいであろう。今後もこの傾向が続くように、授業方法の更なる熟達に努める所存である。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	宗教学の授業は毎年前期に実施しており、受講生からは比較的高い評価を受けてきているが、今年度は特に高い評価を得ることができた。例年の受講者の内で多数を占める国際観光学科の2年生に関して、同一時間に学科の必修科目が配置されたこともあって、例年と比較して半数程度の受講者数にとどまったことも要因であると考えられるが、小職は取り組んできた授業内容の精選・改訂と授業方法の改善が効果を挙げたものと自己評価している。特に世界三大宗教とされるキリスト教、イスラーム教、仏教に関しては各2時間を配当し、それぞれに学生の興味関心を惹きつけながら、それらの宗教の正しい理解に資するような映像作品を探して視聴させており、その効果は非常に大きいものがあったと考えている。ともすれば特定の宗教団体の反社会的行為に起因する先入観によって、学生たちは宗教現象そのものに忌避感を抱きがちであるが、宗教学の講義において小職はそうした言われなき忌避感を学生から取り除き、現代社会と人類自然体を俯瞰する上で不可欠の課題として宗教理解が位置づけられるべきことを熱心に説いた。そうした小職の熱意と意図も学生たちには適切に受容され、授業内容に対する興味・関心の高さにつながったものと考えている。準備学習の促し方が不足している点や、アクティブラーニングの要素の希薄であることは小職の授業（多くの受講生を対象とする講義型授業では致し方ない面もあると思うが）の課題として認識しているが、そうした限界を超えて今年度における宗教学の授業に対する学生の評価に関しては、十分に満足すべき結果が得られたものと言ってよいであろう。今後とも、授業内容及び授業方法の精選・吟味を重ねていくと共に、アクティブラーニングの要素をいかに組み入れていくかについて検討していく所存である。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教育心理学

教員名　柳　智盛

回答者数／履修者数　46／47

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本授業の満足度は平均4.6の結果であり、前回の同アンケートの満足度が4.4であり今年度0.2の増加であった。本授業は教職課程の分野の中でも、主な授業内容は教師として心理学的な知識を修得した上で、学校現場での児童生徒理解を促すことが授業の目的である。その知識を活用しながら児童生徒の諸問題についても自分が教師になることを目指していることを意識しながら展開することであった。教師であることを意識させることで、授業の内容が少し難しい内容であったにも関わらず、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたことから授業の展開はしやすかった印象を持っている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本学の教職課程の必修科目として、卒業後に現場に出た際に児童生徒と関わる際の基礎的な知識を身につけたいという意識も高く、多くの受講生の受講態度も高く評価できる。授業の方法として、知識伝達は教科書の内容をパワーポイント資料に大事なところをまとめ、学生自ら記入するようなプリントを毎回の授業で使用したことで学習意欲の向上を図った。しかし、心理学的な理論に比べて実践的な体験が少なかったこともあったため、次年度以降も工夫する必要があると考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容については、3つの項目の平均が4.6であったことから、受講生には一定の興味や理解を持たせられたのではないかと考えられる。今後、授業内容については教科書の内容に合わせて現場で実践的に活用できるような内容をより多く取り入れながら授業を展開していきたいと思う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法については、4.5〜4.7の評価で、項目によっては少しばらつきがあったものの、毎回の授業において教科書の内容をまとめてプリントで提示し、大事な内容については学生自ら記入させることでより学習効果がみられたと考えられる。しかし、児童生徒に関する諸問題をテーマとしたグループワークを取り入れるなど受講生に取って知識伝達とグループワークのバランスを考慮した授業方法の進め方について今後も改善を検討していきたいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業は教職課程の分野の中でも、主な授業内容は教師として心理学的な知識を修得した上で、学校現場での児童生徒理解を促すことが授業の目的である。受講生に対しては、自ら考えて答えを出せるような形式で、児童生徒の諸問題についても受講生自身が教師になることを目指していることを意識しながら展開することであった。教師であることを意識させることで、授業の内容が少し難しい内容であったにも関わらず、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいる。さらに、授業アンケートの回答においても受講生47名中46名が回答し、回答率は97.9％であった。

アクションプランシート

2024年度前期 木1

科目名　心理学

教員名　柳　智盛

回答者数／履修者数　38／43

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本授業の満足度は平均4.6の結果であり、前回の同アンケートの満足度が4.4であり今年度0.2の増加であった。心理学という科目であることから、受講生の高い興味関心をもっていることも多く、受講の際には積極的に授業を受ける受講生が多かったが、授業内容の理解（Q12）が4.3の結果から考えると授業内容の伝え方をさらに検討する必要があると考える。さらに、本授業は社会福祉学科1年生から社会福祉士国家試験の必修科目になったため、国家試験に見据えた授業内容の展開ができたが、1年生の教養科目であることとのバランスを考えながら心理学の様々な理論や知識などを15回の授業の中で出来るだけ分かりやすく伝えていく工夫をしていきたいと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	基本的に心理学の授業への関心・学習意欲が高い受講生が多い印象であった。しかし、大学で初めて接する科目であり、心理学の理論など難しい内容になると集中ができない学生もいることから、出来るだけ授業の内容に注意を向けさせるようなパワーポイントを作成し、大事な内容は学生自ら記入するようなプリントを毎回の授業で使用している。また、心理学という授業の特性を生かし、自分の性格や行動パターンなどの自己理解を促すような心理テストを行うことで、授業に対する関心を高めることと、個人シートの記入など授業の参加度を高めた。また、授業内容に合わせて小テストを実施することで受講生自ら考える機会を与えることなど授業に対する学修意欲を保てるようなことに繋がったと考えられる。特に、全受講生が回答してくれたリフレッションカードの内容や小テストの結果をデータ化し比較する等、受講生の参加方授業が出来るように工夫を行った。しかし、毎回の授業で予習を促してはいたが、準備学修の項目の学生の自己評価が3.6で、全体平均より低かったことなどの課題として残されたと思うので、来年度以降具体的な工夫が必要であった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	「授業の内容について」の評価は、3つの項目において平均が4.6～4.7であった。また、基本的にはシラバスに示して授業内容に沿って、教科書の内容から大事な内容を中心にピックアップし、毎回の授業のプリントを配布していた。心理学の中でも難しい内容の場合は、学生が興味を持ちやすい心理学実験や事例を用いて説明するなど工夫を行った。また、その内容に関連する補足資料と個人ワークを用いて理解を促すこととした。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	「授業の方法について」の評価は、4.4から4.8であり前回と比較すると増加である。項目の中で、「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していましたか」の項目では4.8で、「熱意を感じられる授業でしたか」「教科書・参考書・配布プリントは適切でしたか」「板書・機器使用は適切でしたか」の項目では4.7で、「学生の授業参加を促すような工夫がなされていましたか」の項目では4.5で、「話し方は明瞭でしたか」の項目では4.4の評価であったため、評価が低かった部分の改善に向けて工夫が必要であると考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全学共通科目の位置づけながら社会福祉学科の学生は、社会福祉士国家の必修科目としての「心理学」であるため、4年後の国家試験を意識した授業展開を行ったことで、授業に対する高い期待と関心を感じられる授業であった。しかし、関心が高く予習・復習をしっかりやっている受講生と、国家資格への意欲をあまり持っていなくて予習・復

項目見出し	コメント
	習をやっていない受講生の授業内容の理解に差がみられることから、今後の改善点としてあげられる。全ての受講生において準備学修が出来るような具体的な課題提示を考えながら教科書の内容を授業前に予習できることを工夫していく必要があると思った。しかし、今年度においても心理学の理論的な基礎知識をより楽しく学べるように工夫していくことで、受講生の学習意欲も向上していくことを実感することができた。毎回の授業で実施しているリフレッションカードでの感想や質問などを次の授業で必ずみんなで共有するように取り組むことで、受講生の意欲も高まったのではないかと考えられる。さらに、授業アンケートの回答においても受講生43名中38名が回答し、回答率は88.4％であった。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　社会学概論

教員名　大畠　啓

回答者数／履修者数　124／169

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業評価の満足度は、全体平均と同程度であった。自由記述は多く寄せられ、概ね好評であった。肯定的意見（話がとても面白い、興味深い、今後の人生に役に立つ、聴いていて不思議な気分になった）がほとんどで、一見のみ否定的意見（やや早口）があった。授業ペースの調整がうまくいき、15回ムリなく授業を進行することができた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生に興味を持ってもらうために、PPやプリントに多くのイラストや画像や図、時事的知識などを配置し、無味乾燥な内容にならないよう努めている。毎授業に課題を出し、その回答をポートフォリオに提出させることで出席にえるようにしている。受講生の回答や意見、感想をフィードバックした次回の資料やPPはすこぶる評判がよいので、今後も継続していきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業編成はシラバスに従い、整合性を持たせた。内容も時事的、歴史的なトピックを適宜挿入し、興味関心を高めるよう努めた。学生の反応としては、内容は難しいが話がおもしろい、解説が分かりやすい、時代背景等の話が興味深いというものが例年多い。アンケートの自由記述の反応も上々である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方や熱意、配布資料の使用法については、一定の評価を得ていると考えている。早口についての指摘が、今年は1件のみあった。早口は癖なので以前からゆっくりと話すことを心掛けており、最近は指摘も減ってきていた。引き続き注意したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	社会学概論は観光学科の科目であるため、特に知識伝授を意識しない、受講生の興味関心を喚起する自由な授業を心掛けている。受講生のモノの考え方や意見を広く集約し、資料作りにフィードバックして、教員と受講生のコミュニケイションを強く意識する内容や授業方法となっている。評判は大変よい。自分としてはこの授業スタイルは成功していると考えているので、意見集約やレジュメ作成のさらなる効率化を図る形で、引き続き努力していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月5

科目名　卒業研究

教員名　大町　いづみ

回答者数／履修者数　3／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	いつ何をどのように実施していくのか、個々人のペースや、卒業論文内容に合わせて計画的に実施していった。最後に、コロナ感染に罹患した人と、一人他国で調査をしなければならない学生がいたことは、満足度に影響を及ぼした可能性が考えられる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	それぞれの研究について、随時、ゼミ内で、発表の機会を設け、他学生とのディスカッションを取り入れていった。また、調査時の依頼の時は、ゼミメンバー全員で協力するようにした。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	特になし
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	特になし
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	ゼミ生全員で協力して、調査実施までできたことによって、協調性や、意欲向上にもつなげることができたことはよかったと考える。誰一人、休んだり、協力しない人はいなかったことが授業担当者としても、メンバーへ感謝したい。

アクションプランシート

2024年度前期 木5

科目名　専門演習A

教員名　大町　いづみ

回答者数／履修者数　1／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	アンケート実施の案内が、４年生の中間報告会参加日と重なってしまったことで、メールでの案内となってしまった。 アンケート回答者が少なかったために判断ができない。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	同じく、アンケート回答者が少ないことから、判断ができない。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	同じくアンケート回答者が少ないことから判断ができない。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	同じく、アンケート回答者が少ないことから判断ができない。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケート実施日について、進行と合わせて、吟味して、決定していくようにする。

アクションプランシート

2024年度前期 金1／2

科目名　介護における医療的ケアⅠ

教員名　大町　いづみ

回答者数／履修者数　8／8

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	概ね、満足の回答を得られたものの、３の評価者については、原因を追究していく必要がある。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	演習を後半多く取り入れたことはよかったと思うが、もともと、興味館員が低いと思われる学生がいたことによって、クラス全体の雰囲気を低下させてしまったことが影響していたのではないかと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	医行為に関するそもそもの、興味関心をどのように引き出すかが今後の課題である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業導入（授業の最初の１から３回までの間）において、興味関心が持てるような内容の授業を今後工夫していく。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的に、どの項目も、4.4〜4.5をキープしており、満足度が高かった授業として判断できるが、今後さらに、 医行為に対する、基本的な知識、興味、関心が持てるような基本的な導入に対する授業の工夫、組み立てを再考していく。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　国家試験演習（社会）Ⅰ

教員名　梅野　潤子

回答者数／履修者数　33／44

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本科目は今年度新規開講科目であった。授業への満足度は概して高くなっているが、前年度までの比較すべきデータがないため、次年度以降評価の推移を注視し、改善に努めたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本科目はオムニバスによる授業であったが、教員間で進行の仕方を統一し、グループ学修を中心とした授業を展開した。受講者同士の教え合いが意欲向上につながったと思われる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容に対する評価は概して好ましく、今後もこれらを維持していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	上記のグループ学修は、学生によって合う・合わないがあるようである。特に学習意欲の低い学生がいることにより、他の学生に影響を及ぼす様子も見られた。今年度は試行的にグループ学修を中心とした指導を行ったが、次年度以降、科目担当者間で協議しよりよいスタイルを確立していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度からの新規科目において、試行的に取り組んだ授業方法であったため、受講者からのフィードバックを得る貴重な機会となった。今回の結果を受けて、科目担当者間で情報共有を行い、授業改善に取り組んでいきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　ソーシャルワーク実習指導（社会）II

教員名　梅野　潤子

回答者数／履修者数　7／8

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業に対する満足度は概して高く、以前同様の科目（旧カリキュラム）で行ったアンケート結果とも類する結果となった。今後も一人ひとりの実習状況に即した指導を行っていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講者はいずれも社会福祉士国家資格を取得するために履修している学生であり、もともと学習意欲が高い対象であることが挙げられる。そのため受講態度も概ね良好であった。ただし、一部提出物や出席状況に問題が見られる学生もおり、その際には個別指導を徹底した。また、現場を想定した課題や具体的な助言も意識したことが、今回の評価につながったと見られる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容に対する評価は概して好ましく、今後もこれらを維持していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業内容に対する評価は概して好ましく、今後もこれらを維持していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業担当者の実務経験や、長崎県内での実践研究、人的ネットワークを活かしながら授業を展開したことが、受講者からの高評価につながっていると思われる。今後も継続して、授業の充実に努めていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 金2

科目名　児童・家庭福祉

教員名　梅野　潤子

回答者数／履修者数　38／60

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	総合的な満足度の平均値は、以前同科目で実施した際から0.3ポイント下回っており、今回フィードバックのあった資料提示に関する点を改善していきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講者の受講態度がやや消極的で受け身であったが、キーワードを記入する形式の配布資料やmanabaレポート機能を活用して双方向での授業の展開に務めた。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	概ね良好であったが、近年の児童福祉政策の動向を反映し、より幅広い領域の内容を扱っていくことができるよう、シラバスの再検討を行っていきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	配布資料の提示や教材の投影において、一部見えづらさがあった点は改善が必要である。大型モニターではなくスクリーンを使用する、受講者に見えやすい位置に誘導するなど配慮したい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	中規模での講義の運営には、受講者の学修到達度や受講意欲に幅があり、難しさを感じている。今回の結果を踏まえ、さらに受講者が能動的に学修することができる手法を開発していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火5

科目名　ソーシャルワーク実習の理解

教員名　野田　健

回答者数／履修者数　7／7

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13の評価は、5.0であったため、特に否定的にならず、そのままの結果を受けとめたい。 ただし、本科目は、クラス制を取っており、同じ内容を学生に提供するものである。そのため、どのクラスにおいても同じような結果が出るよう、プログラム自体を点検・更新していく必要があるともいえる。 以上を踏まえ、今後は1つずつのプログラム内容（教授マニュアル）をまとめつつ、また、実習支援システム（実習記録等の電子化）を導入したことも受け、その点の内容も含んだ冊子を作成する予定である。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	この科目は、学生が実習に向けて準備する演習科目であり、学生が考え、相談しながら能力を高めるプログラムが中心となっている。そのため、実習に行く学生が履修する科目であること、ならびに一般的な授業と比べ、作業が多いことから、自然と学生の受講態度や学習意欲等は高まるものと考える。 ただ、その中で教員に求められることは、学生一人ひとりに目を向け、どの能力が向上し、またどの点に悩んでいるのかを把握し、助言することである。その点に関して言えば、Q13の評価で5.0であったにせよ、今期は他の業務に追われることも多くあり、十分に指導できたとは言えない。その点が反省としてある。 改善点は、この科目に限らず、1つひとつの科目に充てる時間の確保である。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3は4.7、Q4は4.9、Q5は4.9であり、一定の評価ができる。 この点に関しても上記したとおり、学生は実習に行く準備として本科目を履修しており、学生一人ひとりのモチベーションは高く、プログラムの質が高ければ、おのずと高い点数がつく。ただ、そのプログラムの質が良い状態であることを裏付ける結果になったともいえる。 今後は、自分のクラスだけでなく他の教員のクラスにおいても同じ質の教授ができるよう、プログラムの質を向上することが求められると考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6からQ11の評価は、4.9や5.0であった。 この結果を踏まえ、はじめに話し方や熱意に関しては、自分自身が社会福祉士ということもあり、専門職の先輩としてのふるまいができていたと考える。 また、教科書、板書等に関しては、上記したとおり、プログラムに沿った資料等がある程度出来上がっていたことから、良い結果を得られたと考える。 そして、遅刻等への対応、参加を促す工夫に関しては、学生のモチベーション維持が重要であることから、上記の熱意等をもって接することが、この評価につながったものと考える。 ただ、何度も述べるが、元々学生のモチベーションが高かったことが今回の結果につながったものとも考えられるため、慢心することなく、さらなる教育の質の向上に努めたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回の結果は、クラス制のプログラムを作成する私にとって、非常に嬉しい結果であった。まだ十分にプログラムが仕上がっているとは言えないが、学生から一定の評価を得られたとも判断できるため、すべてのクラスで質の高い教育を行えるよう、上記した「冊子作り」に今後力を注ぎ、来年度以降に備えたいと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 木2

科目名　福祉サービスの組織と経営

教員名　野田　健

回答者数／履修者数　47／58

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13は、4.3という評価であった。5年前から科目担当として授業をしてきた科目であるが、まだ学生にわかりやすく説明しきれていない部分や、授業に自分自身が没頭し、学生一人ひとりを見て授業できてないことが点数に表れたものと考える。 また、自由回答欄を見ると、「教科書を購入したが、あまり使用しなかった印象があるため、勿体無いと少し感じた」とある。授業内容は、テキストをベースに配布プリントを用いて授業をしていることが、どうしてもプリント重視で説明ばかりしてしまう癖がついてしまっているため、このような感想につながったものと考える。 今後は、この指摘を大事にし、テキストにも触れながら授業を進め、よりわかりやすい授業を展開したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	この授業に限った話ではないが、「ピ逃げ」に関する件数が増えている傾向にあったため、途中で厳しく指導した。また、時折、抜き打ちで徹底した出席確認（授業中に点呼を取り、出席カードリーダーの結果と見比べ、ピ逃げがいないかを確認する）を実施した。 その結果、自由回答欄に「ピ逃げについて全体の前でダラダラと話すのは時間の無駄なので、やった奴にだけ注意すればいい」という指摘を受けた。これに関しては、このコメントを書いた学生のいうとおり、この授業をまじめに受けに来た学生にとっては無駄な時間になったため反省したい。ただ一方で、ピ逃げの横行が蔓延しており、改めて大学生として学ぶことの意味を問う必要があったため、副学科長として時間を費やしたことについては学生に理解を求めたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3からQ5は、4.3〜4.4であり、及第点であると判断する。 「わかりやすさ」や「興味あるもの」については、経営学自体が生活をする上で必ず関係してくるものであるため、できる限り興味が持てるよう事例等も含めて話す必要があったと考えるが、それができていない結果であると考える。 シラバスとの整合性に関しては、それほど大きな授業変更をしておらず、ほぼシラバスどおりの内容であったことから、少し疑問が残る。ただ、学生がそのように感じたという点がとても重要であり、この点数はこの授業自体に「不明瞭さ」があった証拠であると考えられる。ついては、最初の言葉に戻るが、いかにして授業全体が「わかりやすく」「興味を持ちやすい」ものにプログラムを立てるかが問われているといえる。 ついては、上記した部分を見直すべき点として、しっかりと来年度までに修正したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6からQ11に関しては、4.4〜4.6の結果となり、及第点は取れたと判断する。 着目する点としては、Q9の板書等、Q10の遅刻や私語、Q11の参加を促す工夫に関して、3点台が5人以上いたことである。 Q9に関しては、プリントは自由記述欄から一定の評価を得ていることは確認できるが、板書があまり良くないため、その点を強化する必要がある。 Q10に関しては、遅刻や私語に関しては上記のとおり、指導はするものの、私自身も授業に集中してしまう癖や、長々と説教をしてしまう癖を直す必要があると考える。 Q11に関しては、授業参加を促す工夫として、授業後に必ずmanabaにて課題を設け、理解度を上げていきながらモチベーションを高めたいと考えていたが、その方法に改善の余地があると考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回の評価を受け、プリントに頼った授業であったことがわかる。授業編成、板書、遅刻等への指導、授業参加を促す工夫に関して、授業案の見直しを行い、1つずつ改善していく。 具体的には、授業編成は、もう少し日常的な話を加えながら、理解度

項目見出し	コメント
	を高める。板書は、ある程度板書する内容を事前に確認・用意する。遅刻等への指導は、適時遅刻等をする学生への指導をするほか、授業中においても広く学生の顔を見て授業を行うようにする。授業参加を促す工夫は、予習・復習の内容の改善を図り、授業内容に入りやすくモチベーションを高められるようにする。 以上の改善を図り、来年度以降は学生満足度を高められるようにしたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月5

科目名　　卒業研究

教員名　　韓　榮芝

回答者数／履修者数　6／7

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本授業の受講者は7名で回答者数が6名（うち留学生3名）から満足度の平均評価は4.8(今年から始めてアンケートを実施したため過去のデータがない)であった。6名の回答は、評価5が5名、評価4が1名となった。向上策として、学生の要望や進み具合を把握し、メリハリのある授業を取り組めた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	コロナ感染が収縮する傾向にあるが、受講生に対する心のケアを継続していくことは依然として重要である。そのため、学生個々の実情に応じて相談を行ったり、新カリキュラム（実施とした最初の年度生）に関する対応を丁寧に行いながら講義を進めていた。ゼミ生の学習状況（卒論）や就職上の悩みに対しきめ細やかな相談をし、国試対策においては学内だけでなく学外の学修もグループで実施し互いに学び合い活動を通じて全員一致で合格できるような雰囲気をつくる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問３から質問５の平均点は、Q３：4.５、Q４：4.7、Q５：4.7 (去年実績がない)。改善策として、学生の疑問や連絡に対してより細やかな対応、個々のニーズや状況に対応して個別相談を行い、学生の話しを真摯に受け止め、ゼミ運営は全員で参画し、互いにアイデアを出し合って学生同士の間や教員との信頼関係を築くように心かけたこと。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	質問６から質問11の平均点は、Q６：4.７、Q７：4.7、Q８：4.４、Q９：4.7、Q10：4.7、Q11：4.7 (去年実績がない)。改善策として、学習意欲を高めるために、学生自身が課題を見つけ取り組めるように事前学習を促し、互いに学び合えるように授業中に課題発表やディスカッションを行い、知識や情報を共有していくこと。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	4年のゼミ生に対し今回は始めてアンケートを取った。少人数のゼミであるため、学生らとの距離が近くマンツーマンで学生の実情や要望をよく把握できた。また、ゼミ生と一緒に授業運営を進めていくことができた。今回の授業アンケートを踏まえて今後学生のご意見を授業運営に反映していき、学生らの関心・興味を持つように、学習意欲を高めるように学修環境を作ることが重要だと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 木2

科目名　福祉特論D

教員名　韓　榮芝

回答者数／履修者数　29／31

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	受講者31名のうち回答者人数は29名で（うち留学生５名）回答率は93.5％となった。その解答から授業内容に参加して満足度できたのは4.4であった(今年から開講された科目で過去の実施がない)。29名の回答はそれぞれ次のようである。評価５が15名、評価4が11名、評価３が3名となった。向上策として、学生の要望や進み具合を把握し、メリハリのある授業を取り組めた。特に予習及び復習ができるように、授業前に参考資料の配布や課題を出し事前発表準備を促す。授業中にグループ内の話し合い、まとめ及び発表準備等々の役割を果たす。事例を中心に毎回学んできたことやグループ発表を通じて事後にレポートでまとめ提出する。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	コロナ感染状況を見据えながら、グループワークを進めていき、受講生に対し安心してグループディスカッションができるように留意すること。そのため、学生個々の実情に応じてながら丁寧に対応していく。グループを組む際に日本人学生と留学生を交えてそれぞれの役割を果たせるように工夫して成長していくこと。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問３から質問５の平均点は、Q３：4.１、Q４：4.４、Q５：4.２(去年実績がない)。改善策として、学生の疑問や意見に対し耳を傾けより細かな対応をしていく。個々の状況に対応し個別指導を行い、授業を進めにつれ学生の話しを真摯に受け止め、受講生全員が授業を積極的に参加する。特に留学生と日本人学生と互いに学び合い、アイデアを出し学生同士間の交流ができるように心かけている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	質問６から質問11の平均点は、Q６：4.２、Q７：4.４、Q８：4.０、Q９：4.３、Q10：4.１、Q11：4.２(去年実績がない)。改善策として、学習意欲を高めるために、学生自身が課題を見つけ取り組めるように事前学習を促し、互いに学び合えるように授業中に課題発表やディスカッションを行い、知識や情報を共有していくこと。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回の授業は３年生以上の学生しか履修できないことでもある。そのため、事前に事例を用意し、予習と復習をしっかり行うように、学生自ら課題を見つけ、グループワークで事前に取り組んできたことを共有し、互いに協力し助けながら発表会まで経験した。今回の授業アンケートを踏まえて今後学生のご意見を授業運営に反映していき、学生らの関心・興味を持つように、満足度の高い授業ができるように頑張る。

アクションプランシート

2024年度前期 木5

科目名　専門演習A

教員名　韓　榮芝

回答者数／履修者数　7／10

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業の受講者は10名で回答者数が７名（うち留学生４名）から満足度の平均評価は4.７(今年から始めてアンケートを実施したため過去のデータがない)であった。７名の回答は、評価５が４名、評価4が３名となった。向上策として、学生の要望や進み具合を把握し、メリハリのある授業を取り組めた。特に、今回のゼミ生の中で留学生が多く、内日本語が堪能でない中国からの編入生3名もいって、バランスよく考えて授業を進めていくこと。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	ロナ感染が収縮する傾向にあるが、受講生に対する心のケアを継続していくことは依然として重要である。また留学生が多く占めている。そのため、学生個々の実情に応じて授業だけでなく個別相談も丁寧に行いながら講義を進めていた。ゼミ生の学習状況や悩みに対しきめ細やかな相談や学習支援（日本語）を行った。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問３から質問５の平均点は、Q３：4.６、Q４：4.６、Q５：4.６(去 年実績がない)。改善策として、学生の疑問や連絡に対してより細やかな対応、個々のニーズや状況に対応して個別相談を行い、学生の話しを真摯に受け止め、ゼミ運営は全員で参画し、日本人学生と留学生と互いに学び合い、アイデアを出 し学生同士の間や教員との信頼関係を築くように心かけたこと。 。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	問６から質問11の平均点は、Q６：4.７、Q７：4.6、Q８：4.７、Q９：4.６、Q10：4.7、Q11：4.7 (去年実績がない)。改善策として、学習意欲を高めるために、学生自身が課題を見つけ取り組めるように事前学習を促し、互いに学び合えるように授業中に課題発表やディスカッションを行い、知識や情報を共有していくこと。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	３年のゼミ生に対し今回は始めてアンケートを取った。少人数のゼミであるため、学生らとの距離が近くマンツーマンで学生の実情や要望をよく把握できた。また、ゼミ生と一緒に授業運営を進めていくことができた。今回の授業アンケートを踏まえて今後学生のご意見を授業運営に反映していき、学生らの関心・興味を持つように、学習意欲を高めるように学修環境を作ることが重要だと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 金2

科目名　ソーシャルワーク演習（精神）Ⅱ

教員名　足立　孝子

回答者数／履修者数　8／10

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は「5.0」であり、学生全員から満足の評価をもらっている。 ３年生と４年生の混合クラスであり、グループワークを行いやすくするため、 クラスの雰囲気づくりに配慮した。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	クラスの雰囲気を良くするために、学年の枠を越えたコミュニケーションが活発になる ように努めた。具体的には、授業が始まる前に「アイスブレイク」を導入した。 「アイスブレイク」では、カードゲーム等を取り入れ、和やかな雰囲気をつくり、 学年の違いに関係なく、意見が言えるような場をつくった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	シラバスとの整合性について「４」と評価した学生が１名あった。 やむを得ず、シラバスを変更する場合は、事前に周知する必要がある。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応していたかに対して、「３」と評価 した学生が１名あった。 柔らかい雰囲気づくりとはいえ、規律は守ってもらうという厳しい態度も必要である。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	クラスの雰囲気や学年を超えたコミュニケーションなど、クラス運営は上手くいったと 感じている。授業のメインである「事例検討」を行うにあたり、３年生と４年生の 混合グループにおいても、活発な意見が出されていた。３年生は４年生の言動に刺激を 受け、４年生は３年生を意識することにより、向上心が芽生えたと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　　教養セミナーＡ

教員名　　足立　孝子

回答者数／履修者数　7／7

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は「4.7」であり、多くの学生の満足を得ることができている。しかし、留学生の 満足度が「３」であった。はやくクラスに溶け込めるように、様々な工夫をしたつもり ではあるが、留学生に対しての個別の細やかな配慮にやや欠けていたかもしれない。 学習面だけでなく、生活面等についても、留学生に対してはきめ細やかな対応が必要で ある。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	初対面の学生同志の集まりであり、しかも、様々な年齢層であったことから、できる限り 楽しい雰囲気をつくろうと配慮した。授業の導入部分で「チェツクイン」として、 呼ばれたい名前や今の気分、最近の出来事などを発表してもらう時間を作った。 授業の最後には、「チェックアウト」として、今日の感想や学びなどについて 発表する時間をつくった。また、必要に応じて「アイスブレイク」を取り入れ、様々な ゲームを行うことで、お互いを良く知る機会をつくった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	内容への興味や学ぶことへの興味・関心について、「４」と評価した学生が１名ずつ あった。今後の学びにつながるような工夫が必要であった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	こちらも、多くの学生が「５」と評価しているが、１名の評価が「４」や「３」で あった。留学生に対して、細やかな配慮に欠けていたためであると考える。 ディスカッションへの参加を促したり、相談等をもっと積極的に受けるべきであった。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概ねクラスの雰囲気は良好であったと思う。「アイスブレイク」を取り入れることに よって、場の雰囲気に早く馴染むことができた。積極的かつ活発な意見交換ができた。 その結果として、ビブリオバトルにおいてチャンプになることができた。 ただ、留学生が取り残されたと思っていたのかと思うと残念である。

アクションプランシート

2024年度前期 月2

科目名　生活支援技術ⅢA

教員名　浦　秀美

回答者数／履修者数　8／10

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	昨年度も授業アンケートを実施したため、昨年度の平均値と比較してみる。 昨年度は4.8ポイントであったことに対し、今年度は4.5ポイントであった。0.3ポイント低下してしまった。全体の平均値と比較すると概ね同等の結果であったため、概ね良好であったと考えている。 自由記述をみると、介助の実際を行い、介助される側の気持ちを詳しく理解できたという満足度の高さにつながるコメントもあれば、もう少しはやく喋ってほしいといった、満足度の低下に影響をもたらしたかもしれないコメントもある。 留学生も受講していたため話す速さをコントロールしたつもりであったが、コメント者には満足度を下げさせた要因かもしれないことから、次年度は受講学生の様子を見ながら、なぜ話すスピードが速いのか、ゆっくりなのかを伝えていきたいと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業の受講態度をよくするためには、一人ひとりに関わる時間を極力増やすことを意識した。本科目は演習科目であることから、学生同士がペアになり演習を展開する。ペアでの実施時に必ず関わり、良い点や工夫が必要な点をコメントするように心がけた。 学修意欲の向上に向けた取り組みとしては、本科目が実習時にどのように役立つかということを伝え、実習の準備において、身につけておく必要性に働きかけた。 今後の工夫としては、受講態度を適宜評価し（良い態度と改善が必要な態度）、学生一人ひとりの様子を確認した上で授業に取り組んでいこうと考えている。また、授業構成についてもさらに工夫をしていこうと考えている。学生が授業に飽きないように、興味をもつように、授業導入時・授業展開時・授業終結時にmanabaのrespon機能を活用した、リアルタイムレポートの提出や、レポート内容の共有等、実施をしていきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	①授業編成、②シラバスとの整合性、③授業内容の興味について、昨年度のアンケート結果と比較する。 ①4.7→4.6、②4.6→4.6、③4.5→4.8であり、授業編成は0.1ポイント減、シラバストの整合性は同値、授業内容の興味については0.3ポイント増という結果となった。大きな増減もなく概ね良好な結果となったと考えている。 授業編成とわかりやすさについて、3をつけている学生が1名いることから、今後はわかりやすさをさらに追求していこうと考えている。そのためには、編成部分に課題があるのか、まとまりの部分で課題があるのか、わかりやすさの部分で課題があるのかを明確にしていく必要があることから、授業アンケートとは別に、授業内でアンケートや確認を図っていきたいと考えている。 授業内容の興味のポイントが増加したことは、評価したい。興味を持ち取り組むことで、習熟度も増すと考えていることから、現場の現場の明示や、現場の現状に合致した福祉用具の紹介や使途等、さらに踏み込んだ授業内容にしていきたいと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	①話し方の明瞭性、②熱意の有無、③テキスト等使用の適切性、④板書や機器使用の適切性、⑤遅刻・私語対策、⑥授業参加の促進への働きかけについて、昨年度のアンケート結果と比較すると以下のようになる。 ①5.0→4.8、②5.0→4.8、③5.0→4.6、④4.9→4.6、⑤4.8→4.8、⑥4.9→4.5となり、同値・0.2から0.4ポイント減であった。大きな増減もなく、概ね良好な結果となったと考えている。 テキスト、配付プリントの使用の適切性については、0.4ポイント減という結果であったが、テキスト使用の際のmanabaによるアナウンス、欠席時の配付プリントのmanabaでの閲覧が可能となる工夫、

項目見出し	コメント
	一週間後ぐらいまでは、申し出によりプリントアウトした資料の個別配付という対応をしていたのだが、ポイント減となったため、その原因については明確化していく努力をしたい。 　また、授業参加の促しについても0.4ポイント減という結果であった。少人数クラスでの授業であることから、可能な限り学生全員へ声をかけたり、コメントしたりしているが、ポイントが下がってしまったため、資料配付の適切性と同様にポイント減の原因について明確化している努力をしたいと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年度に続き、配付資料のみやすさ（文字の大きさ、色使い）等の工夫をしたが、まだまだ工夫が不足している部分があるのかもしれないと考えさせられた。さらなる工夫を継続していきたいと考える。話し方のゆっくりさの指摘についても、課題である。理解を促すために繰り返したり、強調したり、抑揚をつけることに留意していたが、話し方について「ゆっくり」であることの指摘は今回が初めてであったため、現状に慢心せず、伝え方についても工夫を重ねていきたいと考える。 　今回の該当質問になかった項目として、学生による準備学修の数値が芳しくない。授業内での復習レポート（manabaへ直接入力・提出）、次回授業に向けての予習（調べ学修）も適宜行っていたが、高評価に結びついていない。予習・復習がある程度できているのに、取り組んでいる実感を得られていないと推察するから、予習・復習の取り組み状況の現状と評価をさらに明確に学生には伝えていきたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 火5

科目名　介護援助技術

教員名　浦　秀美

回答者数／履修者数　10／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本科目において授業アンケートの実施は昨年度が初めてであった。昨年度の満足度と比較すると、5.0から4.5（留学生4.6）となり、0.5（留学生0.4）ポイント低下してしまった。ただ、社会福祉学科・3年生・演習科目といったカテゴリ別の数値と比較すると平均値と同等、もしくは上回る結果を得ることができた。 本科目はコミュニティコースに配当されている科目であるため、そのコースの学生が受講するが、教職科目でもあることから、授業への受講姿勢に幅がある。今年度は教職希望学生がいなかったことから、若干受講に対し消極的な学生もいた。 次年度は、受講学生の状況をこれまで以上に丁寧に把握し、受講学生のニーズにより合致した授業構成に留意していきたいと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本科目は10名程度の履修者であること、授業教室も小教室と介護実習室を使用していたため、学生全員に目が行き届きやすかった。 受講学生の中には留学生もいたことから、ペアワークの際のグルーピングには留意した。その効果もあり、受講者同士が多くやりとりができた。また、最終評価での実技チェックに際しては、例年通りではあるが、早い段階でテーマや留意点や採点項目などを開示した。演習内容も受講学生同士でやりとりをさせるものが多く、主体的に学修することができたと推察する。また、他者と協力しながら取り組まなければ演習ができない（車いす操作等）ものもあり、演習中は受講学生同士が協力して取り組んでいた。以上のことから、受講態度の良さや学習意欲等の向上につながったと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	①授業編成、②シラバスとの整合性、③授業内容の興味について、昨年度の平均値と比較すると、①4.8→4.6（留学生4.3）、②4.8→4.7（留学生4.3）　③4.8→4.6（留学生4.3）とのことで、0.1から0.5の範囲でのポイント低下があった。留学生以外の評価平均値は微減であるが、留学生からの評価平均値は低下をしていた。他のカテゴリの平均値と比較すると平均値を下回ることはなかったため、概ね良好であったと判断している。 授業のわかりやすさについては、留学生に対しては十分な配慮はできていなかったかもしれないと反省している。本科目はコミュニティコースの配当科目であることから、今後留学生も履修することが推測される。わかりやすさや編成、興味をもたせるための工夫は今後十分な検討が必要であると考える。 演習に取り組む際も、まずは教員がデモンストレーションを行う場面を観察させ、次に日本人学生の様子を見せ、その後実施させる等を実践していきたいと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	①話し方の明瞭性、②熱意のある授業、③資料の適切性、④板書等の適切性、⑤遅刻や私語対策、⑥授業参加の促しについて、昨年度の平均値と比較をしてみた。 ①4.8→4.7（留学生4.3）②4.8→4.7（留学生4.3）③4.8→4.7（留学生4.3）④4.8→4.7（留学生4.3）⑤4.8→4.7（留学生4.3）⑥4.2→4.6（留学生4.0）ということだった。授業参加への促しについては昨年度より改善できていたが、それ以外の項目は微減であった。 昨年度と同等の数値に改善させるためには、工夫が必要であると考える。特に留学生への対応については理解の確認や、話すスピードや話し言葉の意味の理解等、個別に適宜状況の把握を行い、話し方を変えたり、分かりやすい言葉で伝えたりしていきたいと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は昨年度より評価平均値を下回る結果となってしまったことは真摯に受け止め反省していこうと思う。 受講学生の中には、テキストを購入しない、筆記用具を持参しない

項目見出し	コメント
	、実習室での授業時の服装等の不備が一定数おり、都度指摘や注意をしたが改善が図れなかった。このことを改善するためにどのような方法を用いてよいか、現時点でよい案が浮かんでいない。根気よく関わり、声かけをし続けていこうと考えている。 　本科目は演習科目であることから、なるべく福祉機器に触れさせながら取り扱い方法を学ばせたり、利用者を体験させ、支援のヒントを見つけることに重点を置いているが、次年度以降の実習指導によっては、座学を少し増やす等、授業構成や展開方法をさらに充実させていきたいと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　教養セミナーA

教員名　浦　秀美

回答者数／履修者数　5／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今年度の授業満足度は5.0であった。 昨年度も5.0であったことから、良好な評価を継続できており、受講学生の満足度は大変高いものであったことがいえる。 教養セミナーは全学で共通のシラバスがあり、テキストも共通のものである。学生のわかりやすさや安心感を増すための工夫は昨年度同様行った。習熟度に応じた補足説明や、補足資料を作成し配付する等、授業を行ったことが、ポイントの向上につながったのではないかと考えている。 最高得点であることから、向上策はないが、この数値を保つことができるように、一人ひとりの学生に応じた応対に努めていきたいと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年度の学生は、フレッシュマンセミナーから欠席する学生もおり、気になっていたが、セミナー活動全般で振り返ると、大変熱心であった。比較的控えめな学生は少なく、控えめな学生も他の学生に促されながら、あったかい雰囲気の中で活動ができていた。また、学生の方から質問や相談も多めで、不明な点は早めに解決をする必要性を感じている受講学生が多かった。可能な限り迅速に対応した。 さらに、学生側からすると苦手意識のある分析力や考察力を向上させるために、既存の資料に補足資料を作成し、配付した。補足資料にはQRコードをつけ、閲覧のしやすさや取り組みやすさの工夫を図った。 授業内での発言に対し、真摯に向き合い、良い捉え方をしている事柄については強調し受講学生全体で共有した。はじめに良かった点を示し、さらに工夫をすると良い事柄を丁寧に伝えたことが今回の高評価につながったものと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	興味の持てる内容であったか・学ぶことに対しての興味・関心が増したかについて、両方とも4.6の評価を得ることができた。昨年度の受講生からの結果と比較すると0.4ポイント減少しているが、全般的な平均値と比較すると劣っていないことから良好であったと認識している。 授業導入時に、授業の流れや学びの必要性を時間を設け伝えることに心がけた。また、学びへの興味・関心を持たせるために、個人面談で把握をしていた取得したい資格や興味のある分野に関するテーマを設定しディスカッションをさせる等の工夫を行った。さらに、前期の授業で学修しているであろう事柄を授業展開時にリンクさせたり、後期以降の授業で詳細な学修が始まることを紹介したりする等、セミナーの学修が他の科目や取り組みに連動していることを意図的に伝えたことが、学生の興味・関心につながったのではないかと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	教員のセミナーへ対する熱意（5.0）、学生の疑問や質問に対する誠実な対応（5.0）、学生とのディスカッションの促し（4.8）、相談等への誠実な対応（5.0）の評価を得ることができた。 教員が1年生の取りまとめ役（部会長）を担当していることもあり、全体会では司会進行を担うことが多く、担当学生への対応が不足することがあった。このことはあらかじめ予測できることであったため、全体会まえにアナウンスし、運営に協力してもらったり、全体会の後には礼を尽くすなど、意識的に行った。 学生のディスカッションへの参加では、事前に例を伝え、イメージをさせた上で発言を促す工夫をしてみた。授業の際、可能な限り一人一言は発言することを目指していることを学生と共有し、取り組むことで、促しはある程度できていたと認識している。 学生からの相談については、セミナーの時間帯、個別対応（研究室対応・電話対応・メール対応）を適宜行った。可能な限り迅速に対応

項目見出し	コメント
	し、早期解決を図ることを意識して取り組むことができた。 　以上のような工夫が高評価と結びついたのではないかと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目の評価として、自由記述を確認した。 ・授業では一人一人を見てくれていると思った。 ・距離が近くて、教員とも同じゼミの仲間とも話し合えることができた。 ・困った時や分からない所があったら迅速に対応してくてくれて嬉しかった。 ・スライドで困っている人がいたらどのように改善した方が分かりやすいかアドバイスをなさっている所がとても良いなと思った。 ・楽しく受けれたのでとても良かった。 ・セミナーの科目以外で何かみんなとしてみたかった。 ・浦先生最高 というコメントをしてくれていた。 入学してからの半年間で大学に慣れることや不明な点を解消することは重要であることから、適切な距離とはどのようなものか考えながら関わったが、概ね良好な評価をもらえたことは、自身の学生アセスメントが適切なものであったと考えている。ON/OFFの切り替えを意識した展開も好評であったのだと考える。 「授業外でも何かしらの取り組みを一緒に行いたい」という希望を持った学生もいたことから、たとえばボランティアやその他の活動をセミナーメンバーで行う等、今後工夫をしていきたい。また、学生との関わりを多く持ち、よりよい関係性を築いていきたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　臨床心理学

教員名　中村　尚生

回答者数／履修者数　95／104

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本授業では、履修生の一定程度の満足度が得られたと考えられる。しかし、アンケートにおける授業の方法に対する評価（Q6〜11）と比較すると、授業理解度（Q12）の評価が相対的に低かった。授業内容の一部には心理療法の流派や技法に関する学修が含まれていたが、教室の構造や受講者数に鑑み、ペアやグループワークによる技法体験を実施しなかったことが関係していると考えられる。カウンセリング技法のように体験的に学修する方が望ましいと考えられる場合は、安全に体験ワークなどができる授業環境や方法を検討し、柔軟な運用を図るべきであったと考えられる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本授業は、薬学科の開講科目であった。そのため、臨床心理学の知識を概説することに加え、薬剤師を志す履修生の対人援助技術の向上に寄与する授業内容を取り入れた。例えば、服薬指導の基盤となる学習理論やカウンセリング技法などの内容が挙げられる。そのような内容を学修するにあたり、視聴覚教材を多く取り入れ、具体的なコンテンツから知識を構築できるように留意した。また授業で使用するスライド資料は、文字情報よりも図や絵などの視覚情報を用いて、受講生にとって情報が把握しやすい構成・デザインとなるように配慮した。これらの取り組みが履修生の学修意欲や注意集中の維持に肯定的に作用したと考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3-5の質問項目に対する評価をみると、受講生は本科目の内容について、一定程度の関心をもち、授業内容の編成を評価していたと考えられる。しかし、全体的な授業評価（Q12-13）の結果と照らして考えると、授業内容には興味・関心があったものの、理解度や満足度につながっていない可能性が考えられる。次年度は、臨床心理学の概論について日常の体験と関連づけながら具体的に解説することを意識したり、服薬指導やそれに関連するコミュニケーション・カウンセリング技術を踏まえた臨床心理学の知識や技術を体験的に理解してもらうことで、受講生の興味関心と理解・満足度を両立した授業展開にしていく必要があると考えられる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q10の質問項目である「遅刻や私語が授業の妨げにならないように対応」することが十分にできていなかった可能性が考えられる。受講生が100名以上いる授業のため、授業時の全体的な状況に注意を配ることができていなかった可能性がある。次年度は、授業初回時に受講のルールをしっかり提示し、授業の枠組みを作ることや、適宜机間巡回をおこないながら受講生の様子を観察することを心掛けたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業では、履修生の準備学修の時間があまり確保できていなかったと考えられる。これに照らすと、授業担当者は履修生が予習・復習の意義を感じられるような授業設計をおこなうべきだと考える。例えば、反転学習を取り入れ、授業課題が次回の授業内容と明確な連続性をもつように工夫したり、復習の必然性を高めるために随時試験を授業内で複数回実施したりすることが挙げられるだろう。また、服薬指導と臨床心理学の関連性を踏まえた知識や技術を、授業内容に積極的に取り入れることで、学修意欲や知的好奇心を高め、授業外学修を積極的に推奨していくことも重要だと考えられる。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　教養セミナーA

教員名　中村　尚生

回答者数／履修者数　5／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本授業では、指導学生より一定程度の満足度が得られたと考えられる。例年、セミナーの効果性については平均得点が相対的に低く、授業展開に課題を残していた。しかし今年度は、基礎的なスタディスキルや論理的思考、創造的思考などの物の見方・考え方に対するセミナーの効果性を担保することができたと考えられる。本結果を踏まえると、受講生一人ひとりの学修内容の理解度を考慮しながら全体指導と個別指導をバランスよくおこなっていくことが重要だったと考えられる。また受講生の理解度が異なれば、課題を進めるスピードにも差異が生じる。学生一人ひとりの学修の進捗状況をきちんと想定し、受講生の学修到達度に合わせて学修課題のバリエーションも確保することも必要であった。さらに、一人ひとりの学生が学修到達度を実感できるように科目担当教員によるフィードバックを細やかに行っていくことも肝要であった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本授業は、グループワークを多く取り入れた演習形式でおこなわれた。受講生の一部には、強い対人緊張を有していたり、自発的にコミュニケーションをとれなかったりした。また今年度は留学生もいた。そのため、安心して演習に参加ができるように、セミナー内の人間関係を丁寧に構築し、意見交換やディスカッションをおこないやすい風土を醸成する必要があった。そのため、初期のセミナーではグループ形成ためのアイスブレイクや協力型のグループワークを多く取り入れた。それにより、セミナー内での相互交流に対する不安や緊張を緩和し、グループワークおよびディスカッションを活性化することができたと考えられる。また、必要に応じて個別相談の時間を設け、学修における心配（発表が不安など）が和らぐようにかかわったことも有効だったと考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	本授業は初年次教育として位置付けられ、大学入学後の学修に関する基礎的能力の獲得や、人間関係への適応を促進する目的がある。学修面についてはスタディスキルを教授することが中心となる。本授業でスタディスキルを学修する意義を伝えて学修の動機づけを十分に高めたうえで、スタディスキルの獲得や、主体的な学修態度の形成を促したことが有効だったと推測される。特に、1年次の学修習慣や学修スタイルが大学4年間の学修の質を大きく左右することなど、大学生活4年間を見通した学修の意義を伝えたことは受講生の学修意識に肯定的に作用したと考えられる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	該当する質問項目では、受講生より一定程度の評価が得られたと考えられる。特に教養セミナーの受講生は、担当学生でもあるため関係性を構築する貴重な機会になったと考えられる。関係を構築する中で、入学後の孤立感や不安感を緩和し、本学への所属意識や学修意欲を高めることにつながったと考えられる。今後も担当学生からの相談などに対して誠実な対応を図り、一人ひとりの悩みや困り感に気を配ってゆきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	ほとんどの受講生からアンケートの回答を求めることができ、この授業に対する全体的な印象や評価を把握できたと考えられる。本授業では、一部の項目を除き一定程度の学生の満足度を得られたと考えられる。基礎的なスタディスキルや論理的思考、創造的思考などの物の見方・考え方を教授する際には、各受講生の理解度を適切に把握し、全体指導と個別指導のバランスを柔軟に変えていくことが重要であった。そのようなサポートが、受講生のセミナーに対する参加態度や意欲

項目見出し	コメント
	、興味関心の高まりにつながると考えられる。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　専門演習A

教員名　久田　貴幸

回答者数／履修者数　6／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	専門演習の受講者6名については、学修態度に問題はなく、しっかりと取り組んでくれた印象である。満足度の高さは、学生たちの意欲の表れであると感じる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生たちの将来に対する考えや現状の興味関心をしっかりと聞き取った上で、スタディースキルの向上並びに将来のビジョンに結びつくような取り組みを行った。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	これまでの専門演習の中で、最も高い評価であった。これからも継続できるよう努力したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	改善が必要と感じられる項目は特にないと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生とのやりとりを重視したことで、今回の高い満足度に繋がったと感じる。これからもこの評価を維持できるよう取り組みたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月5

科目名　卒業研究

教員名　久田　貴幸

回答者数／履修者数　5／7

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は、4.8と高い状態であった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今回の学生については、通常の学習に対する意欲や取り組み意識が低い学生で構成されていた。その状況を踏まえて、授業レベルの調整や学生との接し方を工夫したことで高い満足度に繋がったと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	卒業論文の執筆を中心とした授業であったため、学生の興味は低いものもあった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の内容に興味が高くない学生もいたようであるが、卒業論文の執筆という授業の特性を考えると、この数値は問題となるものではないと感じる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今後も全員が無事に卒論の執筆ができるように指導をしたいと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　介護基礎学Ⅰ

教員名　久田　貴幸

回答者数／履修者数　21／27

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	この授業の満足度は、4.8とこれまで実施した中で最も高い結果となった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	福祉の授業の中では、理系の要素が強い科目であり、学生たちに苦手意識を持つものも多い。その中でもわかりやすいよう資料や授業内容の工夫を行なった。授業の進捗についても、できる限りゆっくりと進めたことで、学習意欲の向上につながったと感じる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	（２）でも述べたが、学生にとって理解しづらい科目であるため、今後も理解しやすさを目指した授業の構成を考えたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	特に見直しが必要と感じる項目はないと感じる。今後も同様の評価が得られるよう授業に取り組みたいと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	留学生も受講しており、かつ学生の苦手意識もある科目であったが、結果としては満足できるものであった。今後も学生の立場に立った授業を展開していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　生活支援技術ⅠA

教員名　久田　貴幸

回答者数／履修者数　9／10

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	この授業の満足度は4.8であった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本事業では、介護福祉士の基本的な介護技術を習得するためのものである。介護実習での実技を中心として知識を身につけることを目的とした。実技と座学の配分の工夫がこの結果につながったと感じる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	アンケートの結果から、特に改善が必要とは感じない。今後もこの評価が得られるよう取り組んでいきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業方法に関する評価については、特に改善を感じない。介護実習室の特性上や実技科目であるため、Q９、10についての配慮を忘れず授業に取り組みたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生の理解度や意欲の違いがあり、それに対してなるべく個別に対応していけるよう取り組んだ。その結果、今回の高い評価につながっていると感じる。今後も継続できるよう取り組んでいきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 金5

科目名　介護過程ⅡA

教員名　久田　貴幸

回答者数／履修者数　6／8

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本授業の満足度は、4.8と例年通りの結果となった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生によって理解度や取り組み意識に違いがみられた。ワークの際に学生に声をかけ、必要に応じて個別指導を行なったことが学習意欲の向上につながったと感じる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容について、アンケートの結果から改善の必要性を感じない。今後も高い評価が得られるよう取り組みたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法については、改善の必要性を感じない。今後も高い評価が得られるよう取り組みたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生によって理解度や取り組み意識に違いがみられた。ワークの際に学生に声をかけ、必要に応じて個別指導を行なったことで学生の意欲と理解が得られたと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　教養セミナーＡ

教員名　久田　貴幸

回答者数／履修者数　7／7

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本セミナーの満足度は4.7であった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生との対話ややりとりを重視した授業展開を心がけた。それが学習意欲の向上につながったと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容については、全学的に作られたシラバスとテキストの通りに実施した。学生の反応を見て微調整を行ったことが今回の結果に繋がったと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教員の取り組みについては、特に改善の必要を感じない。これまでとおりに取り組んでいきたいと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回の学生は、学習意欲や学力に問題がない者で構成されていた。全学のシラバスとテキストに基づいて行なったことが今回の結果につながったと考える。今後も同様の取り組みを継続していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火3／4

科目名　ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ

教員名　裵　孝承

回答者数／履修者数　8／8

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	おおむね満足していると推察できるが、一人の学生の不満足の結果があった。実習指導は、SWワーカーになりたい学生に限定しているが、本当になるかどうかについて確認＆細かな面談をしなかったことがその原因と考えられる。今後、学生との本授業の意義について一緒に検討する必要がある。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	個別指導を行い、個人のペースと能力に合わせて授業を行った。また、細かく添削も行うことで、直接指導を行っている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	他のクラスとのオムニバス授業であり、授業内容も同じである。基本的にSW資格を目指している学生が受講しているにも関わらず、2名ほどは低い点数であった。 授業内容がそもそも楽しい内容ではないが、なぜ、やらないといけないのかについて、学生本人が納得できるように話合う必要性感じている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	おおむね満足しており、オムニバス授業であるため、一部改善できないこともあるが、話方や学生に対する熱意や参加に関しては改善が必要である。その方法として、今後、学生が理解できないことを質問しやすくするツールや雰囲気を作る。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業は、実習準備という重要な役割を持っており、学生主体性が高く問われる授業であるが、アンケート結果からは、その主体性に問題があるのではないかと推察している。授業内容は、資料、マナバに明確に提示しているにも関わらず、板書や機器類などの使用に一部の学生の点数が低いことの理由については具体的に知りたいと考えている。ただ、本授業は、ダブル資格を目指している学生で構成されており、課題も多いため、一部の学生が負担を感じたのではないかと考えているため、今後は学生のメンタルに関しても関わっていく必要がある。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　教養セミナーA

教員名　裵　孝承

回答者数／履修者数　4／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	学生に丁寧に関わることを心かける。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生は全般的に静かだったが、誠実な学生が多かった。時には、学生の視線に合わせてゼミを進行した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	特にない。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	特にない。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	教養セミナーの学生さんのバランスが良く、一人一人に対して関心を持った結果であると思う。また、留学生の対応に日本人学生が待つことも多かったが、協力する姿勢があった。教養セミナーは、最初の雰囲気づくりが一番重要であると考えており、その雰囲気づくりに力を入れている。

アクションプランシート

2024年度前期 金4

科目名　精神障害リハビリテーション論

教員名　丸山　貴志

回答者数／履修者数　16／16

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	受講者数が少なく、精神保健福祉士の国家資格指定科目でもあるため学生の多くは熱心に授業を受けていた印象である。その分、授業する側も的確でかつ分かりやすい内容にしたこと、また時に実践内容を紹介しながら授業を進めたことなどが良い満足度につながったのだと思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	実際に実施されている病院や施設のリハビリテーションについての説明を、授業のなかで行ったことで授業内容がイメージしやすく、また学生の意欲向上にもつながった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3〜Q5のアンケート回答の平均は4.8〜4.9であった。多くの学生が良いと評価していたため、内容については良くまとまって、要点をしっかり伝えることができていたと感じた。今後も引き続き理解しやすい内容の授業になるよう心がけたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法については、多くの項目が平均4.9〜5.0であったが、Q2だけ平均4.6とわずかだが低かった。国家試験の指定専門科目ということもあり、内容をしっかり伝えることに注力しすぎたことが原因だったのではないかと思われる。今後は、もっと一人ひとりがより興味関心を引くような授業の進め方に心がけたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目は、精神保健福祉士の指定専門科目であるため受講者数が少なく、また学生の取り組む姿勢も全般的に前向きで積極性が感じられる授業であった。そのことも学生からの良い評価の要因の一つであったと思われる。今後も引き続き理解しやすくまた興味を引くような内容の授業に取り組んでいきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水1

科目名　心理学

教員名　針塚　緑樹

回答者数／履修者数　90／91

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本授業では，アンケートの結果より一般学生，留学生ともに概ね高い満足度が得られたと考えられる。本授業は既存の教材を使用せず，教員が準備した配布資料をもとに授業を行った。そのため，授業の方法に対する評価（Q8）や自由記述などから，一部の学生にとっては配布資料が使用しにくいと感じた面もあったようではあったが，授業自体の満足度に影響することはさほどなかったようである。その背景として，自由記述にも挙げられていたように，出来る限り受講生が日常生活や自身を振り返りながら取り組めるよう，理論の説明においても具体例の提示や動画を提示することで理解が深まり，結果として満足度に繋がったと考えられる。そのため，今後もできる限り受講生にとって身近なテーマを取り上げながら心理学や人の心理について興味関心をもってもらえるようなテーマを選定することが必要と考えられる。また，今回は受講生の人数の都合上グループワークは1回のみの実施であったが，受講人数に応じてより柔軟に体験的ワークをもっと取り入れながら受講生間で意見交換ができるような工夫が必要と考えられる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本授業は薬学科1年生を対象に開講された科目であった。薬学科では，4年次に再度臨床心理学が必須授業としてあることを踏まえ，まずは心理学という人の心理全体について興味関心を持ってもらうことや，薬剤師という医療職，対人援助職を志す受講生が自らの心身の健康や人と関わることについて日頃から振り返られるような授業テーマを設定した。服薬指導に繋がるようなカウンセリングに関わる臨床心理学だけでなく，さまざまな心理学の分野を学ぶことによって，他者や自己を理解するために多角的な視点を持つきっかけとなれるよう，新しい理論や一般的にトレンドになっていることから，心理学の基礎知識を学べるよう留意した。そのため，授業の資料は動画を含めた視覚情報を多用し，さらに体験的学びとなるようなワークも導入した。これらの取り組みにより，受講生にとって主体的・経験的な学びとなり授業の注意集中の維持に繋がったと考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容に関するＱ３～５に対する評価からは，受講生は本授業について授業内容の構成を一定程度評価し，関心をもって授業に臨んでいたと考えられる。このことは，全体的な授業評価であるQ12〜13の結果と同様の結果であり，授業内容の評価が全体的な満足度・理解度に繋がったと考えられる。自由記述からは，受講生にとって身近なテーマ設定が学びやすかった点と知らないことだからこそ興味を持てた内容とがあったようである。授業内でも，心理学の専門用語についてSNSなどの影響から意外に一般的に認知されていることと，心理学の基礎ではあるが受講生にとっては初めて聞く用語もあったようであったため，そういったことも確認しながら引き続き受講生に理解しやすいよう丁寧に解説し展開していくことが必要と考えられる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q8の「教科書，参考書，配布プリントの使用は適切でしたか」の質問項目でやや低い結果が示された。また，Ｑ９の「板書や機器（ＯＨＰ，パワーポイントなど）の使用は適切でしたか」においては，1名が「良くない」と回答していた。恐らく，Ｑ８，９については，自由記述から配布資料は穴埋め形式の資料をＰＤＦでmanabaにアップしていたが，穴埋めではなく全て予め書いていてほしかったなどの意見があり，上記の結果となったことが推察された。一方で，同じ自由記述からは穴埋めだったため，自分で工夫して確認テストなどとして使用できたやメモを取りやすかったという意見もあった。学習教材は個々人の工夫が重要と考えており，穴埋めにすることで授業や重要な用語に対して注意関心を持ってもらえるよう工夫していた点でもあったため，次年度は教員の意図を受講生に伝えることやPC操作が難しい希望者のみ配布資料を用意するなど学生が不利益とならないよ

項目見出し	コメント
	う配慮を心掛けたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本授業では，概ねどの評価においても一定の理解度や満足度を得られていたと考えられるが，他科目と比較して唯一受講生の準備学習が著しく低かったこと、また学生の受講態度の自己評価についてやや不熱心であった学生がいたことが示された。授業内における理解度の高さにも起因していたかもしれないが，受講生がより学びを深めたいという自主的・積極的な自己学習意欲に繋がらなかったと考えらえる。そのため，復習学習の意義や予習学習が次回の授業内容と繋がるような，学習の連続性を意識した授業展開が必要と考えられる。そのためには，授業内で随時試験を実施することや，課題を設定するなどの工夫が挙げられる。しかしながら，最も重要なことは受講生の知的好奇心を刺激するような授業テーマを設定し，受講者が自ら授業外学習に取り組むような働きかけや推奨を行うことと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅱ

教員名　山下　彦

回答者数／履修者数　6／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本授業は実習に向けた書類作成が主である。学生の主体性を出すような授業展開を意識したが平均4.3でした。今後は4.5以上を目指したいです。そのためにはQ6話し方は明瞭でしたかの回答に「1」があるため、明確に伝えることを意識たいと思います。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生には実践現場のことを意識した教材とそれに合わせた経験談を取り入れた。学生からの質問は適宜受付け、その場で返答する方法を取り入れた。今後は、この方法を踏まえ、さらに充実させたものにするよう考えたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	本授業は実習に向けた書類作成が主であるが、実習でどのようなことを学びたいか常に学生に問い続け、授業内容に興味を持つよう心掛けました。今後も主体的に授業及び実習に取り組めるよう働きかけたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方の明瞭さ、熱意の感じられる授業、学生の授業参加を促すような工夫は、他の授業においても意識したいと思います。 本授業は、専門職を目指す学生が現場での実習にむけた準備の授業です。授業方法は授業資料に合わせ実習では何を学びたいか学生が主体的になるよう教材を通して働きかけました。働きかけ方にも多少のズレがあると思われるので、学生に確認しながら授業展開したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケート評価を真摯に受けとめ他の授業においても改善したい。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　教養セミナーＡ

教員名　山下　彦

回答者数／履修者数　6／7

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	学生の主体性を出すような授業展開を意識した。今後は話し方の明瞭さ等を意識し取り組みたいと思います。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生からの質問は適宜受付け、その場で返答する方法を取り入れた。今後は、この方法を踏まえ、さらに充実させたものにするよう考えたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	教養セミナーの授業内容について教員間ですり合わせを行いたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業における疑問や質問、学校生活の相談等は今後も誠実に対応したいと思います。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケート評価を真摯に受けとめ他の授業においても改善したい。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　微生物学

教員名　野村　秀一

回答者数／履修者数　69／75

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	全体の評価は4.4で、講義科目の平均評価とほぼ同等であった。例年と比較してもほぼ同等の評価で、つりあえずは安堵したが、別の項目において評価1ノ学生があり、入学生の学力低下によるものかと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	例年と同等の評価であり、例年、できるだけ学生にも関心が持ってもらえるような感染症に関与する題材を提示した後に、これらの題材の内容を理解するのに必要な基礎的な知識について、配布資料を中心にして講義していることがそれなりに効果が出ている要因と考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	この項目の評価は、4.4で前年と同等であった。高校時代に生物・化学の基礎知識のない学生の中で、特に免疫学領域の内容が全く理解できない学生が存在していることで、栄養の生物基礎等他の基礎学力に関与する講義で知識の修得してもらいたと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	この項目の評価は。平均4.5で、昨年とほぼ同等で亜tttが、評価1の者があったが、そのような評価をおこなった意図が不明であるので、悪い評価をつけた小目には、評価した学生のその理由を明確に記載して頂きたい。 学生本人がまともな受講準備、受講後の学習を行わない学生による評価は全くい意味をなさいの元考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	毎年のことであるが、基礎学力の全くない学生が多数入学するようになり、これまでのような講義内容では、まったく理解できない学生が多数存在する現状である。これらのことは、教員がどのように努力して学生対応を行っても、これから学んでいく科学的な内容を理解できないことを危惧している。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　解剖生理学Ⅰ

教員名　熊井　まどか

回答者数／履修者数　67／70

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業の満足度の評価は4.8であり、昨年度より0.1ポイント低下した。授業内容や授業方法の評価については昨年度より向上しているが、理解度が低下しているため、配布資料等を見直しブラッシュアップを行う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	理解度の向上と授業外学修を促すために実施しているmanabaの復習ドリルや授業動画の配信は、高い評価が得られているため、今後も継続して実施する。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容に関わる項目は、Q3（4.9）、Q4・5（4.8）であり、昨年とほぼ同様の結果であった。関連するトピックスの説明やmanabaを活用してリフレクションカードの質問に対して丁寧に回答していくことで、学生が人体の構造と機能に興味を持ってもらえるよう努める。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業方法に関わる項目の評価は、Q6〜10（4.9）、Q11（4.8）であり、昨年とほぼ同様に高い評価が得られた。配布資料については、多くは高評であるが、「簡潔で分かりやすいが、見返した時に少しわかりづらい。」とのネガティブコメントもあるため、見直しを行う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	例年のことであるが、理解度と満足度の評価に乖離がみられる。高校で生物を履修していない学生も多いため、この差を縮めることの難しさを感じている。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　熊井　まどか

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	セミナーに対する満足度の評価は5.0であった。大学の学修・生活に慣れてもらえるよう、様々な学習課題に取組む中でコミュニケーションを図り真摯に対応する。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	少人数であるため、学生自身が受け身ではなく、授業に参加していることを強く意識できたことが満足度に繋がったと思われる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	セミナーの内容に関わる項目の評価は、Q2（4.8）、Q3（5.0）で、高い評価が得られた。初年次の導入科目であることから、高校までの学修との違いを伝え、能動的な学修ができるよう促す必要がある。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教員の取組みに関わる項目の評価は、Q４（4.8）、Q5〜7（5.0）であった。学生とコミュニケーションを図り、学生が発言しやすい雰囲気作りを継続する。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	この科目は、大学の学びを身に付けるだけでなく、大学生活に慣れてもらう要素が強いため、学生同士、また学生と教員間の関係を築くよい機会になっていると感じる。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　調理科学（食品加工学を含む）

教員名　古賀　貴子

回答者数／履修者数　45／55

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	2024年度は、受講者（在籍者）数が少ないため、1クラス（A,Bクラス合同）での開講となった。 質問13の評価結果は4.7（2023年度は4.7と4.6、2022年度は4.8と4.7）で評価はほぼ定着している。 2020年度よりパワポの資料を多く使用して授業をしているが、資料をさらに見直して、特に最新のデータ（法改正に伴う部分など）を入れるなどより良いものとするように努めた。学生からのコメントでも、最新の数値などをしっかりと訂正していたので、今後の勉強で訂正していないものを覚えるよりも効率が良いと思った。プリントは教科書の重要なところがきちんとまとめられていて分かりやすかった。との意見があった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	資料をさらに見直して良いものとするように努めたり、国家試験に出題される内容にもふれながら授業を進めた。学生からのコメントでも、習ったことをすぐ使い問題を解いたので理解しやすかった。過去の国家試験に出題されたものも含めて、授業が構成されていた。といった意見が挙がっていた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	評価は、4.7，4.5，4.6（2023年度は4.5，4.7，4.8と4.4，4.5，4.6、2022年度はAクラスBクラスともに4.6，4.8，4.7）であった。パワーポイントの文字を大きくしてほしい。練習問題もプリントとして配布して欲しいです。小テストを行ってほしかった。との意見が学生からのコメントにあり、パワーポイントの配布資料の文字を大きくすること、小テストを1回取り入れることを次年度行いたいと思う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	評価は、4.6，4.8，4.6，4.8，4.7，4.6（2023年度は4.6，4.7，4.6，4.8，4.8，4.6と4.6，4.6，4.6，4.4，4.6，4.7、2022年度は4.6，4.6，4.7，4.6，4.7，4.7と4.4，4.6，4.7，4.6，4.6，4.5）であった。2023年度のアンケートの自由記述には、わかりやすいのですが、少しはやいですとの意見があり改善したいとしていたが、2024年度はそのような意見はなかった（ただし、Q6:話し方は明瞭でしたかに「2」と回答した学生が1名みられた）。話すスピードについては引き続き気をつけていきたいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	国家試験の「食べ物と健康」の箇所に関わる科目であり、覚えることも多い科目であると思うが、重要な所をしっかりと伝えながら授業を進めていきたいと思う。これまで通り、学生には多く質問をしながら質疑応答形式を取り入れた授業進行にし、一方通行の授業にならないように努めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 木3

科目名　調理学

教員名　古賀　貴子

回答者数／履修者数　61／72

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	質問13の評価結果は4.6（2023年度は4.7、2022年度前期は4.5）であった。 2020年度よりパワポの資料を多く使用して授業をしている。今年度さらに資料を見直し、より分かりやすい内容とするように努めた。資料と教科書を両方使って大事なところを学べるから理解がより深まってよかった。化学変化など例を使って説明をしてくれるためわかりやすいです。この講義を受けて料理に対して興味がより深くなるきっかけになりました。授業は用語やしくみなど分かりにくいところがたくさんありましたが、古賀先生がたとえ話など分かりやすく説明してくださりイメージが湧けてとてもよかったです。教科書やプリントを使い、専門用語などを簡単に説明していて分かりやすく、一つ一つの用語を関連付けて学べるのでとても知識を身につけることが出来る。調理や食材に関することにすごく詳しく、好きなのかなと感じました。教科書に載っていないこともお話してくださるので毎回初めて知ることばかりで楽しいです。詳しく説明してくださるため、わかりやすいです。日常で疑問に思っていたことが解決されたりとても面白い内容で毎授業吸収することが多くてうれしいです。ホワイトボードを使って補足してくれるのが凄くありがたいです。また、同じような内容が出た時に比較して例を上げてくれるのも、まとめて覚えられるので助かります。講義の熱意等はどの科目よりも伝わっていたため凄く良かった。調理実習で学んだこともう一度詳しく知ることができ調理のことについて深く学べて楽しい。調理学で学んだことが調理実習で生かされているので、もっと復習して理解を深めていきたいです。教科書も丁寧に使って、どこが大切か教えてくれるので分かりやすくてとてもいいです。栄養・調理・食品においての基礎となるため多少難しいところもあったが、大切なところがまとめられておりとても分かりやすかったです。しっかり復習したいと思いました。といった資料に関する肯定的な意見が多く書かれていた。その一方で、話し方について、話す速度をもう少しゆっくりにしてほしい。授業のペースは速い。といった意見もあったため、この点についてはさらに引き続き改善したいと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	小テストを行うことで、大半の学生にとっては復習を行うきっかけとなったようであった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	質問3～5の評価結果は、4.5，4.6，4.7（2023年度は4.7，4.8，4.8、2022年度前期は4.4，4.7，4.5）であった。
（4） 改善が必要な授業の方	質問6～11の評価結果は、4.5，4.7，4.7，4.8，4.8，4.5（2023年度

項目見出し	コメント
法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	は4.7，4.8，4.7，4.7，4.8，4.7、2022年度は 4.3，4.4，4.5，4.5，4.6，4.3）であった。Q6:話し方は明瞭でしたかについて、「2」や「1」と回答した学生がそれぞれ1名みられ、この点について、授業のペースや話す速度に十分配慮したいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	栄養、健康に関わる「食べ物と健康」の領域のうち、主に「食事設計と栄養・調理」の知識を修得することを授業の目標としている。そのため、具体例を挙げながら身近に感じて理解しやすいような講義を心がけていこうと思っている。Q1（なんらかの準備学習などをしましたか）の評価は、例年、質問項目の中で最も低い。2023年度は4.4、2022年度は4.0、2021年度は3.9で上昇傾向にあったが、2024年度は3.8と低くなった。小テストをしたにもかかわらず、Q1：なんらかの準備学習などをしましたかの評価が「2」または「1」と回答した学生が9名もいた。小テストの点数は標準偏差が大きく、定期試験では再試験受験者が多く、選択必修科目であるものの単位未修得者が多かった。他の教科も含め自学自習について1年次入学当初から学生にしっかりと伝えていく必要がある。

アクションプランシート

2024年度前期 金2／3

科目名　調理学実習Ⅰ

教員名　古賀　貴子

回答者数／履修者数　28／34

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13の評価は、4.7と4.8であり（2023年度は4.9と4.9、2022年度は4.7と4.8）で、多くの学生が興味関心をもって受講していると思った。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業についてのアンケート自由記述に、実習の内容だけでなく、講義（調理学や食品学）などを含めながら授業を進めているところがいいです。調理学と結びつけながらやるのでとてもわかりやすいです。調理学と結びついているので復習や予習になってとても助かります。調理実習を通して、調理学で学んだことも取り入れながら授業出来たので勉強になりました。調理学の復習になることを話しながら実習をしてたから理解しながらできることが良いと思いました。実習の時に先生がいろんなところから関連して繋げて話してくれたのでイメージができました。といった意見がアンケートの自由記述に書かれていた。また、師範についても、日本料理や西洋料理、中華料理などいろいろな系統の調理の仕方や文化などを知れてよかった。また、技術の方も身につけれてよかった。実際に前で調理をしながら食材の色素や働きなどを教えて貰えたり、ポイントを言って貰えるので調理の技術と知識が身についてると感じる。調理の仕方を見せながら説明されたので、わかりやすかった。といった意見がアンケートの自由記述に書かれていた。2023年度、2022年度も同様の意見が多く見られたので、これからも充実した師範を行い、その後の実習に繋げて行きたいと考える。また、調理科出身の学生が毎年複数名いる一方で、ほとんど調理経験のない学生もいるため、実習中は全員が調理に携われるよう、楽しく調理できるように、学生同士にコミュニケーションをとりながら進めることを促している。毎週実習が楽しみで、とても楽しく実習ができたので良かったです。もっと調理技術を伸ばしていきたいです。たくさんのことを学べていいです。班での調理中にアドバイスや説明を声かけしてもらった。みんなで協力しながら実習を行うことができる。といった意見がアンケートの自由記述に書かれていた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3〜5は、4.8，4.9，4.8と4.7，4.8，4.9（2023年度はAクラス、Bクラスともに4.8，4.9，4.9、2022年度は4.7，4.7，4.7と 4.6，4.9，4.9）であった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11	Q6〜11は、4.8，4.8，4.9，4.6，4.8，4.8と 4.7，4.8，4.7，4.7，4.7，4.7（2023年度は 4.8，4.9，4.7，4.7，4.9，4.9と4.9，4.9，4.8，4.8，4.8，4.9、 2022年度は4.4，4.7，4.6，4.5，4.5，4.7と 4.2，4.6，4.6，4.4，4.7，4.7）であった。たまに見にくいときがあったりしたのでしっかり聞いて、まとめて調理技術の向上を目指したいと思います。栄養価計算の張り出しの前で書き写す作業は効率が悪

項目見出し	コメント
スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	いと思った、次回からは解答プリントを配布するか、manabaに上げてほしい。少しスピードが速く追いつかないので、少しゆっくり話していただけると助かります。といった意見がアンケートの自由記述に書かれていた。これらの意見については、モニターの画面が緑色になったりと調子が悪いため、修理等をお願いしたこともあり、学生からも実習中に指摘があった。話し方については改善したい。課題に関し解答はこれまで通り、掲示のみとしたい（解答が容易に出回ることは避けたい。この点については後期に再度学生にアナウンスして理解を求めたい）。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	様々な調理の基礎技術を身につけること、関連講義科目（主に調理学）の理論が実習で体得できるようにすること、この点を目標に今後も実践的でわかりやすい実習を心がけていこうと思っている。アンケートの自由記述に記載の意見を含め、総体的に学生は有意義に実習を進めていると感じた。また、取替をしていただいたモニターの調子が悪い箇所がある、実習台の水道の蛇口が外れたりするなど、修理が必要な点については今後も引き続き対応をお願いしたい。

アクションプランシート

2024年度前期 金4／5

科目名　調理学実習Ⅰ

教員名　古賀　貴子

回答者数／履修者数　31／35

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13の評価は、4.7と4.8であり（2023年度は4.9と4.9、2022年度は4.7と4.8）で、多くの学生が興味関心をもって受講していると思った。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業についてのアンケート自由記述に、実習の内容だけでなく、講義（調理学や食品学）などを含めながら授業を進めているところがいいです。調理学と結びつけながらやるのでとてもわかりやすいです。調理学と結びついているので復習や予習になってとても助かります。調理実習を通して、調理学で学んだことも取り入れながら授業出来たので勉強になりました。調理学の復習になることを話しながら実習をしてたから理解しながらできることが良いと思いました。実習の時に先生がいろんなところから関連して繋げて話してくれたのでイメージができました。といった意見がアンケートの自由記述に書かれていた。また、師範についても、日本料理や西洋料理、中華料理などいろいろな系統の調理の仕方や文化などを知れてよかった。また、技術の方も身につけれてよかった。実際に前で調理をしながら食材の色素や働きなどを教えて貰えたり、ポイントを言って貰えるので調理の技術と知識が身についてると感じる。調理の仕方を見せながら説明されたので、わかりやすかった。といった意見がアンケートの自由記述に書かれていた。2023年度、2022年度も同様の意見が多く見られたので、これからも充実した師範を行い、その後の実習に繋げて行きたいと考える。また、調理科出身の学生が毎年複数名いる一方で、ほとんど調理経験のない学生もいるため、実習中は全員が調理に携われるよう、楽しく調理できるように、学生同士にコミュニケーションをとりながら進めることを促している。毎週実習が楽しみで、とても楽しく実習ができたので良かったです。もっと調理技術を伸ばしていきたいです。たくさんのことを学べていいです。班での調理中にアドバイスや説明を声かけしてもらった。みんなで協力しながら実習を行うことができる。といった意見がアンケートの自由記述に書かれていた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3〜5は、4.8，4.9，4.8と4.7，4.8，4.9（2023年度はAクラス、Bクラスともに4.8，4.9，4.9、2022年度は4.7，4.7，4.7と 4.6，4.9，4.9）であった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11	Q6〜11は、4.8，4.8，4.9，4.6，4.8，4.8と 4.7，4.8，4.7，4.7，4.7，4.7（2023年度は 4.8，4.9，4.7，4.7，4.9，4.9と4.9，4.9，4.8，4.8，4.8，4.9、 2022年度は4.4，4.7，4.6，4.5，4.5，4.7と 4.2，4.6，4.6，4.4，4.7，4.7）であった。たまに見にくいときがあったりしたのでしっかり聞いて、まとめて調理技術の向上を目指したいと思います。栄養価計算の張り出しの前で書き写す作業は効率が悪

項目見出し	コメント
スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	いと思った、次回からは解答プリントを配布するか、manabaに上げてほしい。少しスピードが速く追いつかないので、少しゆっくり話していただけると助かります。といった意見がアンケートの自由記述に書かれていた。これらの意見については、モニターの画面が緑色になったりと調子が悪いため、修理等をお願いしたこともあり、学生からも実習中に指摘があった。話し方については改善したい。課題に関し解答はこれまで通り、掲示のみとしたい（解答が容易に出回ることは避けたい。この点については後期に再度学生にアナウンスして理解を求めたい）。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	様々な調理の基礎技術を身につけること、関連講義科目（主に調理学）の理論が実習で体得できるようにすること、この点を目標に今後も実践的でわかりやすい実習を心がけていこうと思っている。アンケートの自由記述に記載の意見を含め、総体的に学生は有意義に実習を進めていると感じた。また、取替をしていただいたモニターの調子が悪い箇所がある、実習台の水道の蛇口が外れたりするなど、修理が必要な点については今後も引き続き対応をお願いしたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　古賀　貴子

回答者数／履修者数　6／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	評価は5.0であって、2021、2022年度と同じであった（2023は担当なし）。 教養セミナーAを全学共通の内容で進めることとなり、毎年、前年度の授業評価（学生および教員）を受けて、全学の教養セミナーのワーキンググループで、授業内容の検討がなされており、それが評価の改善につながっていると思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	セミナー内の授業の中で各自の意見を述べ、ディスカッションを多く取り入れたことで、発言力に学生の個人差が多少はあったものの、それぞれ概ね積極的にセミナーに参加できたようであった。 入学後慣れない学生生活の中で、友人をつくるきっかけにもなっており、また、大学生活を送る上で必要な事を知る機会をこの授業で得ることができたようで、「セミナーを通して色々なことを学び、試すことができたからこの学びを活かせるように頑張っていきたいと思います。レポートの書き方や授業中のメモの仕方、勉強方法など学ぶことが出来た。」といった意見があがっていた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	評価はともに5で、6名全員が5と回答していたため、概ねセミナーの内容は良いのではないかと思われる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	評価はいずれも5.0（2021、2022年度と同様の評価）であった。 1年次前期の少人数での授業であるため、学生ひとり一人が大学生活をスムーズに行えるように、真摯に対応していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	毎年、前年度の授業評価（学生および教員）を受けて、全学の教養セミナーのワーキンググループで、授業内容の検討がなされており、年々セミナーは順調に進めることができていると感じている。セミナーの効果性に関する質問項目の評価が5.0であったことから、概ね効果があったものと感じている。自由記述にもこの点に関し肯定的な意見が書かれていた。また、2024年は全学の教養セミナーのワーキンググループ長を務め、毎回のセミナーの案内や資料配信等をマナバで行ったが、各授業日の2週間前を目安に、早めに案内や資料を配信することで、特に初めてセミナーを担当される先生方にとって予習期間に余裕ができたと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 火2／3

科目名　治療食実習

教員名　林　俊介

回答者数／履修者数　26／28

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今回は4.5/4.5 (A/Bクラス)の評価だった。R5年度は4.5/4.7、R4年度は4.3/4.6、R1年度は4.1/4.0、30年度は4.4/4.3であった。 この数年は、安定して全体の平均値と同等なスコアで評価を得られている。 実習と演習の内容は臨床栄養学と栄養教育論の授業とも関連付けて学ぶようにしている。講義科目での基礎的知識を基に本実習ではそれぞれの疾患に対する食事療法のための献立作成、調理技術などを習得することで本科目の学習の達成感、満足度の向上に繋がるものと思うので、学生の自主的、積極的な取り組みを促すように進めたいと考えている。また、病院栄養士を目指していなくても、今後の授業や臨地実習、様々な就職先でも本科目で学修したことが必要となることを何度も繰り返し説明し、意欲的に学修に取り組むように促した。それは、一定の理解をしてもらえていると感じています。 アンケートのコメントを見ると、「事前の準備がしっかりされているため実習がとてもしやすいです!」、「初めて知る調理のポイントや展開後の食事、特殊食品を実際に食べ、知ることができ、学べて良かったです。」などのコメントをもらった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本実習を通して、具体的なそれぞれの疾患や病態に対して必要な治療食のための調理技術、各種の特殊食品、栄養剤の使用方法、摂食・嚥下食に関わる調理、栄養素別、疾患別の治療食での対応、コントロールについて実践的に学ぶことで、学修効果が高まったと考えている。 今回の授業アンケートでは、「それぞれの疾患や病態に対しての治療食を学習できました。使ってはいけない食材や切り方、調理方法など身になることを学べたと思います。」、「非常に理解がしやすく、楽しい講義であった。」などのコメントをもらった。通常の調理では扱わないような特殊食品や補助食品の使用、食形態の調整などの作業は、興味を持って臨んでくれているようである。 本実習での学修が、その他の科目や今後の臨地実習へ繋がることを十分に意識付けが出来たことで学習意欲の向上にも繋がったと思います。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	R6年度　質問3(4.3/4.5)　質問4(4.5/4.7)　質問5(4.5/4.7) R5年度　質問3(4.3/4.8)　質問4(4.9/4.9)　質問5(4.6/4.7) R4年度　質問3(4.3/4.7)　質問4(4.7/4.8)　質問5(4.5/4.7) R1年度　質問3(4.3/3.6)　質問4(4.3/4.1)　質問5(4.2/3.8) この数年は、だいたい安定したスコアでの評価の結果を得られている。 「話すスピードが速いので、もう少しゆっくり言ってくれると分かりやすいと思った。」、「配布資料で書き込みをしたいが、その余白が無いのでメモスペースを作ってほしい。」というコメントをもらった。 実習レポートの作成は、授業後の課題として取り組みを行うこととしている。レポートの内容も資料等を活用し、時間を掛けて、振り返りと調べ学習を促すようにしている。 次年度以降、授業の内容や進め方、配布資料の構成など検討し、実習、演習の内容や意味、目的などを十分に伝えられるよう努力していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策	R6年度 質問6(4.1/4.3)　質問7(4.4/4.7)　質問8(4.6/4.6)　質問9(4.3/4.3)　質問10(4.5/4.7)　質問11(4.5/4.6) R5年度 質問6(4.1/4.1)　質問7(4.8/5.0)　質問8(4.3/4.7)　質問9(4.4/4.8)　質問

項目見出し	コメント
▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	10(4.5/4.6)　質問11(4.6/4.7) R4年度 質問6(3.6/4.4)　質問7(4.3/4.8)　質問8(4.6/4.8)　質問9(4.1/4.6)　質問10(4.4/4.8)　質問11(4.3/4.8) R1年度 質問6(4.1/3.5)　質問7(4.2/4.0)　質問8(4.2/4.1)　質問9(4.1/3.8)　質問10(4.2/3.9)　質問11(4.1/3.9) 　この数年は、だいたい安定したスコアでの評価の結果を得られていたが、今年度の評価は、例年よりも向上している。 　本実習は様々な疾患に対する栄養管理を演習と治療食として実際に調理することで食事療法を実践的に学ぶ科目である。 　「話すスピードが速いので、もう少しゆっくり言ってくれると分かりやすいと思った。」、「配布資料で書き込みをしたいが、その余白が無いのでメモスペースを作ってほしい。」というコメントをもらった。これは改善が必要であると考えています。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	質問1は今回、4.2/4.2であった。R5年 4.2/4.2、R4年 3.4/3.7、R1年 3.9/3.6、H30年 3.6/3.9であった。2年続けて両方のクラスで4を超えた。 　各回の実習レポートでも、各自で調べ学習に取り組むようにし、課題だけでなく、更に自己学修を促すような対応をしたことが、これに繋がったと思われる。 　演習時に出来るだけ丁寧に説明するようにした。コメントにも「疾患合わせて制限すべき栄養素などを学び、食事内容の展開のポイントを理解し、食事の展開力をつけることができるようになったため良かった。」などあり、十分に伝えられていると考えられる。 　実習と演習の授業、課題学修などを組み合わせて、効果的な授業展開ができていると考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 火4／5

科目名　治療食実習

教員名　林　俊介

回答者数／履修者数　26／27

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今回は4.5/4.5 (A/Bクラス)の評価だった。R5年度は4.5/4.7、R4年度は4.3/4.6、R1年度は4.1/4.0、30年度は4.4/4.3であった。 この数年は、安定して全体の平均値と同等なスコアで評価を得られている。 実習と演習の内容は臨床栄養学と栄養教育論の授業とも関連付けて学ぶようにしている。講義科目での基礎的知識を基に本実習ではそれぞれの疾患に対する食事療法のための献立作成、調理技術などを習得することで本科目の学習の達成感、満足度の向上に繋がるものと思うので、学生の自主的、積極的な取り組みを促すように進めたいと考えている。また、病院栄養士を目指していなくても、今後の授業や臨地実習、様々な就職先でも本科目で学修したことが必要となることを何度も繰り返し説明し、意欲的に学修に取り組むように促した。それは、一定の理解をしてもらえていると感じています。 アンケートのコメントを見ると、「事前の準備がしっかりされているため実習がとてもしやすいです!」、「初めて知る調理のポイントや展開後の食事、特殊食品を実際に食べ、知ることができ、学べて良かったです。」などのコメントをもらった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本実習を通して、具体的なそれぞれの疾患や病態に対して必要な治療食のための調理技術、各種の特殊食品、栄養剤の使用方法、摂食・嚥下食に関わる調理、栄養素別、疾患別の治療食での対応、コントロールについて実践的に学ぶことで、学修効果が高まったと考えている。 今回の授業アンケートでは、「それぞれの疾患や病態に対しての治療食を学習できました。使ってはいけない食材や切り方、調理方法など身になることを学べたと思います。」、「非常に理解がしやすく、楽しい講義であった。」などのコメントをもらった。通常の調理では扱わないような特殊食品や補助食品の使用、食形態の調整などの作業は、興味を持って臨んでくれているようである。 本実習での学修が、その他の科目や今後の臨地実習へ繋がることを十分に意識付けが出来たことで学習意欲の向上にも繋がったと思います。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	R6年度　質問3(4.3/4.5)　質問4(4.5/4.7)　質問5(4.5/4.7) R5年度　質問3(4.3/4.8)　質問4(4.9/4.9)　質問5(4.6/4.7) R4年度　質問3(4.3/4.7)　質問4(4.7/4.8)　質問5(4.5/4.7) R1年度　質問3(4.3/3.6)　質問4(4.3/4.1)　質問5(4.2/3.8) この数年は、だいたい安定したスコアでの評価の結果を得られている。 「話すスピードが速いので、もう少しゆっくり言ってくれると分かりやすいと思った。」、「配布資料で書き込みをしたいが、その余白が無いのでメモスペースを作ってほしい。」というコメントをもらった。 実習レポートの作成は、授業後の課題として取り組みを行うこととしている。レポートの内容も資料等を活用し、時間を掛けて、振り返りと調べ学習を促すようにしている。 次年度以降、授業の内容や進め方、配布資料の構成など検討し、実習、演習の内容や意味、目的などを十分に伝えられるよう努力していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策	R6年度 質問6(4.1/4.3)　質問7(4.4/4.7)　質問8(4.6/4.6)　質問9(4.3/4.3)　質問10(4.5/4.7)　質問11(4.5/4.6) R5年度 質問6(4.1/4.1)　質問7(4.8/5.0)　質問8(4.3/4.7)　質問9(4.4/4.8)　質問

項目見出し	コメント
▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	10(4.5/4.6)　質問11(4.6/4.7) R4年度 質問6(3.6/4.4)　質問7(4.3/4.8)　質問8(4.6/4.8)　質問9(4.1/4.6)　質問10(4.4/4.8)　質問11(4.3/4.8) R1年度 質問6(4.1/3.5)　質問7(4.2/4.0)　質問8(4.2/4.1)　質問9(4.1/3.8)　質問10(4.2/3.9)　質問11(4.1/3.9) 　この数年は、だいたい安定したスコアでの評価の結果を得られていたが、今年度の評価は、例年よりも向上している。 　本実習は様々な疾患に対する栄養管理を演習と治療食として実際に調理することで食事療法を実践的に学ぶ科目である。 　「話すスピードが速いので、もう少しゆっくり言ってくれると分かりやすいと思った。」、「配布資料で書き込みをしたいが、その余白が無いのでメモスペースを作ってほしい。」というコメントをもらった。これは改善が必要であると考えています。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	質問1は今回、4.2/4.2であった。R5年 4.2/4.2、R4年 3.4/3.7、R1年 3.9/3.6、H30年 3.6/3.9であった。2年続けて両方のクラスで4を超えた。 　各回の実習レポートでも、各自で調べ学習に取り組むようにし、課題だけでなく、更に自己学修を促すような対応をしたことが、これに繋がったと思われる。 　演習時に出来るだけ丁寧に説明するようにした。コメントにも「疾患合わせて制限すべき栄養素などを学び、食事内容の展開のポイントを理解し、食事の展開力をつけることができるようになったため良かった。」などあり、十分に伝えられていると考えられる。 　実習と演習の授業、課題学修などを組み合わせて、効果的な授業展開ができていると考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 水2

科目名　栄養教育論III

教員名　林　俊介

回答者数／履修者数　59／62

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今回は4.5 (A/B合同クラス)の評価を得た。令和5年度は4.3(A/B合同クラス)、令和4年度は4.3/4.7、令和1年度は4.3/4.1、平成30年度は4.5/4.1、平成29年度は4.5/4.1であった。 　ここ数年は、安定したスコアでの評価結果を得られていると思います。 　栄養指導のロールプレイを授業内で各単元の学修で必要な対象者の症例などを用いた設定でくり返し実施し、自分で患者や対象者への指導内容を状況に合わせて考えることをさせた。一方的な「知識伝達型授業」にならず、学生が積極的に授業に参加するようにアクティブラーニングの手法を用いた授業展開を行っていった。ロールプレイも、個人指導の例は、全員が様々な役割を体験できるようなやり方で授業展開を行っている。 アンケートコメントからも「病院で働いたら、栄養教育が必須となると思うので、この授業で学べて良かったです。学んだことを生かして将来頑張りたい。」、「現場で使える知識や技術をたくさん教えていただき、ためになることばかりでした。1つ1つしっかり身につけ、活かしていけるよう復習に取り組みたいと思った。」というものもあった。この授業に対し能動的に学修活動に取り組んでいることが分かる。集団を対象としたもの、個人を対象とした栄養指導のロールプレイを行い、授業に学生が主体的に参加したことで、満足のいく学修につなげることが出来ていると考えている。 　その他に実際の栄養教育の場面を映像で視聴したりすることでイメージを高められたと思います。この科目の特性を実践的な学修で学ぶことが出来たと思います。満足度が更に向上するように努めたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	この授業では、様々な疾患の対象者に対しどの様に栄養教育を行っていくか、各疾患の患者を想定してロールプレイング(患者役、家族役、栄養士役)を授業の中で適時行っている。それぞれの疾患、対象者の特性を踏まえて、指導方法、指導内容を学生に考えさせ、実際にみんなの前で指導(ロールプレイ)をする「発表型授業」と、個人指導を小グループに分け、役割を割り振り、クラス全員で一斉にロールプレイを行うスタイルで、それぞれ行っている。 　実際に私も栄養士役で、患者・家族役の学生に対し栄養指導を実際にやって見せたりしている。「ロールプレイで栄養指導のイメージがついてよかったです。」、「ロールプレイは苦手だったけど、他の人の考えなどを聞くことができて良かったと思う。」などのコメントも多数あり、授業時の学生の反応も良かった。今回も、A/Bクラス合同での授業実施をしたため、ロールプレイの際は、普段、交流が無い人同士で組むこともあり、良い意味で緊張感を持って臨むことができたようである。３年次編入学の学生もこの科目を履修するため、交流を広げることに繋がっている。 　授業を通して、他の科目には無い学びの形で学修活動を実践することが出来たと思います。栄養教育のレベルで必要とされる知識と技能、また個人指導と集団指導での指導方法の違いを自ら考えさせ、学修を深化させることが出来たと考えている。何回かロールプレイングを繰り返すことで、指導内容を考えるコツが掴めるようになったと授業の最終回での出席カードにもコメントをもらう。 　この科目の課題レポートでも実際に患者さんにインタビューを行うような取り組みにも挑戦してもらった。実際に身近なところにいる患者さんから管理栄養士からの栄養指導についてのコメント等をもらうことで、患者から求められていることが理解でき、学修に励む意欲の向上につながったものと思われる。 　また、授業の中で各種疾患の理解をより深めるためにスライドや様々なビデオ映像を視聴させるようにしている。出来るだけそれぞれの疾患の患者や家族、また治療に関わる医療者の映像を視聴させ、栄養

項目見出し	コメント
	教育の実践が感じられるようにした。また治療に用いられる各種の特殊食品、栄養剤、補助食品などを実際に使用しての栄養指導を意識しての授業を行うよう心掛けた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	R6年度　質問3(4.5)　質問4(4.6)　質問5(4.5) R5年度　質問3(4.1)　質問4(4.6)　質問5(4.5) R4年度　質問3(4.2 /4.6)　質問4(4.5/4.8)　質問5(4.4/4.5) R1年度　質問3(4.3 /4.0)　質問4(4.3/4.3)　質問5(4.3/4.1) 　ここ数年は、安定したスコアでの評価結果を得られていると思います。 　学生の興味関心をより高めるために授業内容、教材を精査し、身近な話題・ニュース、また最近の話題・ニュースから授業内容を作り上げ、マンネリ化しないように、栄養指導・教育レベルへと講義の展開を充実させる事が出来たと考えている。アクティブラーニングを取り入れた学修の授業スタイルもできてきたと考えている。集団に対する栄養教育と個人(患者・家族)を対象とした栄養指導など考えられる様々なケースを学修できるように配慮している。 　後期からの臨地実習に対応できるような授業内容、課題の設定となるようにしている。また、臨床栄養管理学Ⅲと治療食実習との横の繋がりを持ってバランス良く授業を進行することが出来たと思いますが、「ロールプレイは実習のように感じるので座学じゃない気がする。」、「なぜ実習でもないのにロールプレイがあるのかが分からない」というコメントもあったため、授業の進め方、説明の仕方に、より配慮、工夫がこれまで以上に必要性を感じた。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	R6年度 質問6(4.4)　質問7(4.7)　質問8(4.4)　質問9(4.4)　質問10(4.7)　質問11(4.6) R5年度 質問6(4.1)　質問7(4.7)　質問8(4.3)　質問9(4.5)　質問10(4.4)　質問11(4.5) R4年度 質問6(4.2/4.5)　質問7(4.4/4.9)　質問8(4.5/4.7)　質問9(4.4/4.7)　質問10(4.5/4.7)　質問11(4.4/4.8) R1年度 質問6(4.2/4.0)　質問7(4.3/4.2)　質問8(4.3/4.3)　質問9(4.3/4.1)　質問10(4.2/4.0)　質問11(4.2/4.2) 　ここ数年は、安定したスコアでの評価結果を得られていると思います。今回も、A/Bクラス合同での授業実施をしたため、人数が多い分(62名)、授業の進行の難しさはあったが、評価を落とさずに授業を行うことができた。 　アクティブラーニングを用いた学習方法を取り入れて、学生の授業参加をより促すように取り組んでいる。栄養教育のロールプレイのやり方を様々なケースで設定して行っていくようにしたが、アンケートのコメントでも、苦手意識や座学の授業でロールプレイを行うことに対して否定的なものもいくらかあった。「ロールプレイがあることで、自分の勉強範囲内では学ぶことができていない内容も学習することができたため、授業内容はとても良かったと思う。」のようなコメントも多数あり、この授業方法を続けたいと考えている。 　今回のアンケートでは、「板書の字が小さかったり、ホワイトボードに赤い字なのが見えにくい時がある。」、またプリントのことについてのコメントもあったので、丁寧に伝えていくことを意識したい。 　また、授業の中やマナバを活用して、読書管理にも役立つように各授業で扱った授業内容に関連する書籍などを紹介している。少しでもこの科目、臨床の分野に興味・関心を高められるように努力していきたい。
（5） 授業アンケート評価を	本科目(栄養教育論Ⅲ)では、栄養教育論Ⅰ・Ⅱで学んだことを発展

項目見出し	コメント
受けての授業担当者の所感	させた学修に取り組むことができるように、アクティブラーニングの手法に基づく授業の進め方を更に深めたことで、より深い学修へとつなげることが出来たと考えている。これまでの授業科目の学修を土台に、その知識を患者教育という形に表していくことができるようになるという学修目標に到達へ導けるような授業展開ができていると考えている。 　また、課題レポートにも併せて取り組むことで、様々な疾患の対象者に対して、どのような栄養教育、管理栄養士としての介入が必要とされているのかを自覚できるように課題設定を行ったことで、それらについて理解を深めることができた学生も多かった。 コメントにも、「実際にロールプレイングをすることで自分にとって良い経験ができると思いました。」などのコメントもあり、講義科目としてはかなり学生参加型の実践的な授業展開が出来ていると多くの学生も感じていると思うが、逆にこのような授業展開では、講義科目なのにロールプレイが多いとのコメントも例年いくらか寄せられる。講義と実技のバランスを取りつつ、授業展開を組み立てていきたい。 　同時に履修している臨床栄養管理学Ⅲと治療食実習でのアンケート結果とも合わせて考えると、これらの科目と関連して、ある程度、臨床分野へ興味・関心を高めることがでたと思われる。今後も少しでもこの科目、臨床の分野に興味・関心を高められるように努力していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 金5

科目名　臨床栄養管理学III

教員名　林　俊介

回答者数／履修者数　62／64

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今回は4.6 (A/Bクラス合同)の評価を得た。令和5年度(4.3) (A/Bクラス合同)、令和4年度(4.3/4.7)、令和1年度(4.2/4.2)、平成30年度(4.5/4.3)、平成29年度(4.4/4.1)。 　今回も、学生数(64名)の関係でA・Bクラス合同で授業を実施したが、概ね例年並みの評価を得られている。 本科目は臨床栄養管理学Ⅱ(2年生後期)からの継続する内容であり、それを踏まえて同時期(3年生前期)に栄養教育論IIIと治療食実習を合わせて学修する。それぞれの科目の特性を踏まえて、繋がりを持って学修が出来るようにシラバスを調整してある。 　アンケートのコメントでは、「他の科目と一緒に勉強するとより理解が深まりました。」「教科書にはない、さまざまな事項をその都度たくさん教えてくださったので、非常に有意義で勉強になる科目でした。」「動画を多く見せてもらうことで、実際にその疾患の人の生活などをたくさん知ることが出来た。」などあり、この科目で学んだことを治療食実習や栄養教育論の授業に活用出来るように授業展開をしていったことが、満足度向上に繋がったと考えている。 　また、後期からの様々な講義、実習、臨地実習や将来の仕事などにつながることを意識付けし、学生の興味関心を高めるような授業展開をしていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	出席カード(リフレクション・カード)を活用し、学修のふり返りなどを行い、受講生の授業への参加を促すように取り組んでいる。 　アンケートのコメントにも、「導入部分があることでその後の授業が理解しやすくなると思ったので、最初に軽く導入部分があった方がいいと思いました。」「授業の最初に復習ができるので、より理解を深めることができた。」との記載もあった。 　また、各種疾患の理解をより深めるためにスライドや様々なビデオ映像を視聴させるようにしている。出来るだけそれぞれの疾患の実際の患者の映像を視聴させ、治療の実態が感じられるようにした。疾患に関連するニュース動画もできるだけ最近の話題を使用するようにしている。また食事療法に使われる種々の治療用特殊食品や栄養剤を教具として用いることで、より実践的な授業が出来たと考えている。学生の興味・関心を高めることが出来たと思います。各種疾患の診療ガイドラインも最新のものを使用し、今覚えるべき内容を伝えている。国試対策にも繋がるよう配慮した情報提供を行うようにしている。 　アンケートのコメントにも、「映像やプリントなどの使い方が上手くて、分かりやすかったし、理解しやすかった。」「先生が経験されたことをお話してくれて、分かりやすかった。」「とても興味深い内容で、様々な病態について深く学ぶことができた。」「毎回、授業の配付プリントが凝っていて凄いなと思いました。身近なニュースなどの映像を使用されることが多く、とても分かりやすかったです。」などもあり、様々なニュースの映像や治療用特殊食品、栄養剤を教材として効果的に利用したことが学生の理解と興味の向上や評価の向上につながったと思われるので、引き続き適した良質な教材を準備し、授業の中で活用して行きたい。 　課題レポートにも併せて取り組んでもらい、実際に患者さんやご家族がどのように治療や食事療法に日常的に取り組んでいるのか、病気に対する思いなどを知る機会を作り、この分野を学ぶ意識、意欲向上につながるように取り組んだ。 　読書管理システムの取り組みにも役立つように、授業の中、また、授業で取り上げた疾患などに関連した書籍を授業プリントに記載したり、実物を見せたり、マナバを使用して紹介するようにしている。それらも学修活動の向上に繋がっているものと思われます。 　様々な取り組みをして授業改善に努めたい。

項目見出し	コメント
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	R6年度　質問3(4.5)　質問4(4.7)　質問5(4.6) R5年度　質問3(4.9)　質問4(4.8)　質問5(4.6) R4年度　質問3(4.4/4.7)　質問4(4.6/4.8)　質問5(4.3/4.7) R1年度　質問3(4.3/4.2)　質問4(4.3/4.3)　質問5(4.3/4.2) 30年度　質問3(4.5/4.3)　質問4(4.5/4.4)　質問5(4.5/4.3) 本科目は種々の疾患・病態に対する栄養管理・食事療法を学ぶもので臨床分野での管理栄養士を目指す者には中心的な科目である。概ね例年並みの評価のスコアであった。 管理栄養士養成のコアカリキュラムに基づいて学修内容を設定し、シラバスを作成している。2年次の臨床栄養管理学Ⅱから継続した学修内容で学べるように構成されている。ガイドラインなども常に最新のものを取り入れ、ブラッシュアップしていくようにしている。 アンケートのコメントには、「いろんな資料、実際の食品などを手にとって見れるようにしてくださる点が、他の講義に無い点だと思います。」「非常に理解がしやすい。先生の準備時間が長いように感じられる。授業への熱意が感じられる。」などの内容をもらえた。 学生の興味関心をより高めるために授業内容、教材を精査し、身近な話題・ニュースから基礎の病態レベルへと講義の展開を充実させていきたいと考えています。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	R6年度 質問6(4.4)、質問7(4.7)、質問8(4.5)、質問9(4.5)、質問10(4.7)、質問11(4.5) R5年度 質問6(4.2)、質問7(4.8)、質問8(4.4)、質問9(4.5)、質問10(4.4)、質問11(4.4) R4年度 質問6(4.0/4.6)、質問7(4.4/4.8)、質問8(4.5/4.8)、質問9(4.3/4.8)、質問10(4.3/4.7)、質問11(4.4/4.8) R1年度 質問6(4.3/4.0)、質問7(4.3/4.2)、質問8(4.3/4.2)、質問9(4.2/4.2)、質問10(4.2/4.0)、質問11(4.3/4.1) ここ数年は、安定したスコアでの評価結果を得られている。今回の評価のスコアはA・Bクラス合同での授業実施で、クラスの人数(64名)は多くなったが、概ね例年並みの評価のスコアであった。 これまで授業の中で様々な治療用特殊食品や栄養剤、映像資料などを教具として使用し、活用してきた。学生の興味関心を高めるのにはとても効果的であった。クラスサイズが大きくなったため、製品のサンプルを手に取って回すのに時間がかかるようになったため、その方法の改善が必要と思われる。 課題レポートの内容を見直し、より興味を持って自己学修、調べ学修に繋がるように改善した。レポートに書かれたコメントを見ても、課題への取り組みが、学修の深化に繋がったようである。 出席カードに記載された質問等も授業時とポートフォリオを活用し、全て回答をするようにしている。また、授業時間外の学修を促す工夫として、補足資料、参考となるホームページや図書などの紹介、YouTube等で閲覧できる映像等があればポートフォリオに掲載し、復習などに活かせる様に配慮している。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年度からA・Bクラス合同での授業実施となり、クラスの人数は多くなり、教室のサイズと履修者数のバランスで、やりにくいところもあったが、今回のアンケートの評価を見る限り、本科目で学生に学んで欲しいことは理解され、伝わっていると感じている。本科目の到達目標も多くの学生が達成できているものと考えている。 授業の中で、治療に利用される様々な治療用特殊食品や補助食品を教材として提示することや疾患の治療に関する動画を数多く視聴させ、理解が深まるようにしていることが、学生の興味関心を高め、飽きさせない授業になっていると思います。また、教材も常に見直しをして新しいものに更新を怠らないようにしている。 「疾患について難しい内容が沢山であったが、授業内で復習しながら理解を深めることがでたためよかったと思いました。」「林先生の授業は面白くて楽しいです。」「毎回の配布資料がまとまっていて分かりやすです。」など、授業展開が、学修の向上に繋がっていると思

項目見出し	コメント
	われる。 　3年生後期には臨床栄養管理実習や栄養教育論実習などもあり、臨地実習も始まるので、それに対応出来るだけの臨床の基礎力をこの授業を通して養いたい。そのために授業方法を改善させ、より授業の理解度、満足度を高めていきたいと思います。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　林　俊介

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今回は4.8の評価を得た(担当学生5名・23期生)。令和5年度(22期生) 4.8(5名)、令和4年度(21期生) 4.4(5名)、令和2年度(19期生) 5.0(5名)、平成30年度(17期生) 4.4(5名)であった。 　前期の教養セミナーAは、全学部共通プログラムで学習教材(テキスト)を用いた形式で実施され、プログラムや学修内容の見直しを図り、今期の授業を展開していった。 　本科目は新入生が今後の大学生活をスムーズに開始できるようにする大切な導入科目である。様々な学びが出来るように構成されたプログラムである。また、同じセミナーの学生同士、学生と担当教員との十分なコミュニケーションを取れるように授業内容・展開を考え、組み立てている。 　コメントには、「先生の連絡を怠らないことや、授業も分かりやすく学生に寄り添ってくださるところがとてもありがたいです。セミナーを通して人としての学びを得て、成長していけると感じました。」などの記載もあり、少数のメンバーの中で、しっかり、学生とのコミュニケーションを取り、授業内での発表や発言が出来る環境を作ってあげることが、満足度を向上させることに繋がっていると思います。 　共通の教育内容での授業実施ではあるが、その中でそれぞれの学生の特性に応じたきめ細やかな学生生活・学修への支援をしていきたいと考えています。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	「大学について知る」やミニレポートなど、自分で責任を持って調べ、他者に伝えることやビブリオバトルを通したプレゼンテーション、コミュニケーションを学修する取り組みは、学生の授業参加を促し、新入生がお互いを知る機会ともなり、学習意欲の向上につながったと考えている。 コメントにも「大学生活を快適に送れるように、レポートの書き方や定期試験の受け方などを学ぶことができとてもよかった。」などの記載があった。 また、ビブリオバトルやミニレポートなどの取り組みを通してセミナーでの一体感が作られるようになったと感じられた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	令和6年度　質問2　5.0　質問3　5.0 令和5年度　質問2　4.8　質問3　4.8 令和4年度　質問2　4.4　質問3　4.4 令和2年度　質問2　4.5　質問3　5.0 全学部共通プログラムで実施し、この質問に関しては、例年とほぼ同等の評価、スコアとなった。コロナ禍の大変な時期が過ぎ、落ち着いて授業を行うことができた。授業展開を工夫して、健康栄養学科の学生が取り組みやすいようなものに調整を加えていくことで、興味・関心を高めて、学修ができるようにした。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	令和6年度　質問4　5.0　質問5　5.0　質問6　5.0　質問7　5.0 令和5年度　質問4　4.8　質問5　4.8　質問6　4.8　質問7　4.8 令和4年度　質問4　4.8　質問5　4.8　質問6　4.8　質問7　4.8 令和2年度　質問4　5.0　質問5　5.0　質問6　4.5　質問7　4.8 このアンケートの部分は、担当教員の取り組みに関する質問であるため、授業内容だけでなく、学生と教員のコミュニケーションなども評価されていると考えている。だいたい安定したスコアで評価を得られていると考えている。 コメントには、「いつもありがとうございます。理解力がない自分が先生の丁寧な説明のおかけでわかりやすく授業を受けれてます。これからも勉強頑張りますのでお世話よろしくお願いします。」というものもあり、丁寧な対応、授業展開を行っていくことが必要であると思

項目見出し	コメント
	われる。 今後、さらに学生と教員のコミュニケーションを図れるよう取り組みたい。私自身が1年生の科目を担当していないため、普段の学生の学修・生活の様子が分からないので、教養セミナーの授業を通して状況を把握し、支援をしていきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本年度のセミナー学生も授業への遅刻・欠席は殆ど無く、順調に大学生活を過ごせていると考えている。授業への取り組み状況はまずまずできているかと思う。それぞれの授業の中で、セミナーメンバーで協力し、課題に取り組み学修を進めて行くことができた。 様々な学習活動に取り組んだことで、セミナーの連帯感を持って活動できたことが良い雰囲気を作り上げることができたと考えている。 この教養セミナーをバネに更に今後の学修を高めて行ってもらいたいと考えます。特に大学に入り、生活が大きく変わったが、教養セミナーを通しての学生同士の仲間作り、教員との対話をかなりできたものと考えている。 保護者面談では、教養セミナーでの学修活動について、保護者の方へ伝えて、入学後の生活についても説明している。 後期の教養セミナーBでは、ホスピタリティ・ルーブリックを用いた学生との面談なども実施され、さらにきめ細やかな指導を行っていきたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 木1

科目名　臨床医学入門Ⅰ

教員名　廣田　昌彦

回答者数／履修者数　41／52

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	テキストで授業の内容は決まっています。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	テキストの内容に関連するものを、何か一つ、話題に加えるようにしています。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	おとなしい人を、いかにグループワークに参加させるかが、むずかしい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	おとなしい人を、いかにグループワークに参加させるかが、むずかしい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	教養セミナーは、教え方がむずかしいです。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　廣田　昌彦

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	・授業の内容は、大学全体で統一されていますので、その中で、補足できることを補足しています。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	・授業の内容は、大学全体で統一されていますので、その中で、補足できることを補足しています。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	・授業の内容からして間延びしがちなので、適宜、アイディアにつながるようなアドバイスは行っています。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	・テーマに沿ったビデオを流す授業日があってもよいのではないかと思っています。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	・教養セミナーは、担当教員にとっては、やり方がむずかしい授業だと思います。

アクションプランシート

2024年度前期 月2

科目名　応用栄養学III

教員名　松尾　嘉代子

回答者数／履修者数　32／34

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	例年と変わらず、平均以上の満足度を得ることができているので、今後も、継続して授業内容の充実を図っていきたい。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の小テストで、予習復習を行うことを習慣化できていることが、学生の授業態度や意欲向上に繋がっていると考える。小テストの準備は、教員側にとっても準備に要する時間がかかるが、学生が学習意欲を高める要因となるため、引き続き実施していきたい。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	最初の授業の際に、シラバスを配布し、授業の進め方を説明しているので、学生もそれに合わせて授業の準備等対応ができていると考える。今後も、継続していきたい。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	いずれの項目も、平均点を超える評価を得ている。管理栄養士として働く際の参考になるような実践的な内容を汲みこんで授業を行っているため、学生が興味を持つことができていると考える。今後も継続して実施していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	自由記述内も高評価を得られているので、今後も、内容をブラッシュアップしながら学生にとって有意義な授業を進めていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　応用栄養学III

教員名　松尾　嘉代子

回答者数／履修者数　28／30

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	例年と変わらず、平均以上の満足度を得ることができているので、今後も、継続して授業内容の充実を図っていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の小テストで、予習復習を行うことを習慣化できていることが、学生の授業態度や意欲向上に繋がっていると考える。小テストの準備は、教員側にとっても準備に要する時間がかかるが、学生が学習意欲を高める要因となるため、引き続き実施していきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	初回授業の際にシラバスを配布し、授業の進め方を説明しているので、学生もそれに合わせて授業の準備等対応ができていると考える。今後も、継続していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	いずれの項目も、平均点を超える評価を得ている。管理栄養士として働く際の参考になるような実践的な内容を汲みこんで授業を行っているため、学生が興味を持つことができていると考える。今後も継続して実施していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	自由記述内も高評価を得られているので、今後も、内容をブラッシュアップしながら学生にとって有意義な授業を進めていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　応用栄養学Ⅰ

教員名　松尾　嘉代子

回答者数／履修者数　45／47

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業に対する満足度は、例年の結果と大差なく、平均よりも高い評価となっている。 授業内容が難しい範囲ではあるが、出来る限り学生が理解しやすいように進め方の工夫などを行い、今後も学生が満足できる授業展開を実施したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回小テストを行っているので、授業に予習復習を行う施設は身についていると考える。また、小テストの内容を授業中に解説するので、大事なポイントも分かりやすくなっているのではないかと推察する。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容は、シラバスに沿った内容で専門科目と必要不可欠な内容であるため、改善が難しいところがあるが、出来る限り学生に分かりやすい授業展開を行っていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教科書や資料の活用方法について、自由記述でも意見があるため、今後検討していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	決められた範囲を限られた授業時間の中で進めていく必要があるので、授業に臨むにあたっては、事前の予習が必要不可欠となる。その点を学生にも再度説明し、毎回の授業内容を理解できるよう準備して臨むように促していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　松尾　嘉代子

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	例年通り、高評価を得ることができている。新生活に慣れない時期の授業であるため、早く大学に馴染めるようにサポートしたことが、評価につながったと考えている。今後も、学生が大学生活を送りやすい環境づくりを進めていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生1人1人のニーズや、能力に合った対応を心掛けており、全員で話し合えるよう授業の雰囲気づくりに努めている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	特に、改善が必要な項目はないが、今後も学生にとって有意義な授業となり高評価が得られるよう、工夫していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	特になし。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	毎年、学生のニーズに合った授業運営ができるよう、学生とのコミュニケーションを重視しながら進めていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 金3

科目名　臨床栄養管理学Ⅳ

教員名　山口　留美

回答者数／履修者数　56／60

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	昨年度よりポイント数が上昇し、良好な結果であったと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	前回の授業内容の復習および小テスト解説を、しっかりと行ったことが満足度の向上につながったのではないかと考える。また授業の中でも、特に押さえておきたいポイントに関しては、資料に書き込みをさせるなど、授業に集中できる時間を取り入れる工夫を行った。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	昨年度よりポイントがアップしており、良好な結果だったと考える。ただ、授業内容は興味があるものだったかの問いに対し「4」と回答した学生が23%いたことから、臨床に興味がない学生に対しても、疾患に対する栄養管理の必要性が感じられる内容にするなど、内容や方法を検討していく必要があると思われた。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	例年、問10・11に関して、他の項目より若干低いポイントとなっている点に関してどのように工夫すべきかが難しく感じられる。座学であるがため、授業参加への工夫を今後考えていく必要があると思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	小テストを復習の意味で毎回行っていたが、予習の点からも次回の授業内容の問題も組み込むことが必要であると思った。予習を行うことで、授業内容の理解も深まり準備学習などの向上にもつながると考え、これからの授業の行い方を工夫したいと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　山口　留美

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は5点であり、問題なかったと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	大学生活が始まり、また他の学生との交流も少ない中、できるだけ学生の発言させることを心掛けた。学ぶ中でも他の学生との交流の場となるよう進めていったことが、学生にとって良かったと感じることにつながったと感じる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	学ぶことへの興味・関心については、授業内容が動画配信の場合、どうしても集中力が切れてしまっていることが多い感じた。そのため動画を視聴させる際、一度に視聴させるのではなく、途中で区切りを入れるなどの工夫をする必要があると感じた。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	概ね良好と思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	徐々に打ち解けて、セミナー内でのまとまりができてきたように思う。そのことにより、積極的な発言もできるようになり、また、お互いの課題等に対しても助け合う姿勢がみられ、良かったと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 木3／4

科目名　スポーツ栄養学実習

教員名　小田　和人

回答者数／履修者数　11／11

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	昨年度と同じく、今年度も大半の学生が満足（平均5.0）していることから、今後もこの結果を継続できるよう、より理解しやすく興味の持てる授業を行うよう努力する。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	スポーツ栄養マネジメントに沿った内容とし、競技特性の把握やマネジメントの目的を明確にした上で個別栄養指導および集団栄養教育を各自が他グループへプレゼンを実施することにより、他競技へのサポート方法や目的の違いによる栄養指導の注意点やポイントを説明することができた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	今年度は、一部変更する内容はあったが、基本は予定通りの内容を実施することができた。授業が臨地実習と重なることから、進捗スピードを考慮しており、授業のたびに次回以降のスケジュールおよび授業内容の説明を行うなど予習や事前準備の時間を確保できるよう調整した。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	ディスカッションの時間を増やし、共通認識の上で作業を行えるよう工夫していく。公欠を含む欠席者の進行状況をこまめに把握しつつ、内容を修正しながら進めるようにする。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	4年生の授業のため、臨地実習や就職活動による公認欠席があることから、日程によっては参加者数が異なるため、学生の理解度に差が出ないよう進捗状況をこまめに把握し、毎回のスケジュールを確認させながら授業を行う必要がある。

アクションプランシート

2024年度前期 金4

科目名　運動生理学

教員名　小田　和人

回答者数／履修者数　23／24

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	昨年度同様の結果であり、今年度も大半の学生が満足（平均4.7）しているが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。出来る限り個々の理解度を細かく把握しながら授業を実施する必要がある。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	シラバスの流れに従って講義を実施し、スライド内容も修正を行ったことから、昨年度よりも授業内容・方法に対する評価は向上した。毎授業後、確認問題やアンケートをmanabaにて実施し、理解度の確認を行い、次の授業にて再度その分野のポイントについて説明を行った。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	内容が理解しづらいところもあるため、もっとかみ砕いた表現での説明が必要だと感じた。学生たちの興味・関心を向上させるためには、具体的なトレーニング方法や実際の現場での活用法について幅広くする説明する必要がある。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	今後は、学生がより授業に参加できるよう身近な例を増やして、検討する時間を確保したいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大半が満足していたが、より多くの学生に知識の修得とともに受講して良かったと思わせる授業ができるように心がけたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　小田　和人

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	全員が積極的にセミナーに参加しており、進捗状況に応じて内容を調整したこと
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	内容に関して特に問題はなかったように感じた。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	方法に関しても問題はなかったように感じた。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	意識も高く、積極的にセミナーに参加していた。興味がもて、更に自ら学ぶ姿勢が出るような内容への改善が必要と感じた。

アクションプランシート

2024年度前期 木5

科目名　栄養の化学演習

教員名　川内　美樹

回答者数／履修者数　52／56

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	質問13の平均点は4.4であった。昨年度は4.7であったため大幅に減少していた。昨年度から本科目は化学の成績別にクラス分けを行い、私は化学が苦手な学生のクラスを担当しているが、昨年度の学生よりさらに成績が悪く化学が苦手な学生が多かったように思う。コメント欄には、「わかりやすかった」や「苦手だった化学がわかるようになった」と前向きなコメントが多いので、一部の学生がついてこれていなかったと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年度は、昨年度から引き続き初めに試験を行った成績順にクラス分けを行った。ただ1年生の過半数は化学が出来ず、とてもバランス的には悪く、人数も多くなってしまうため教室がうるさいのが気になった。 こちらのクラスは化学が苦手な学生なので、少しでも興味を持ってくれる授業を心がけた。なるべく基礎の基礎から始め、演習なので問題数も多くすることで自分で解けるようになる自信をつけさせるようにした。最後まで興味を持てない学生がいたようだが、多くの学生はコメント欄を見ても化学に興味を持ってくれたようでとても嬉しく思う。本試験の結果も昨年度と違い、再履修者が多いので年々の学力低下にあった授業をするのは大変難しく、困難である。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	全体的に平均点が高い評価であったが、質問５が低い結果であった。化学が苦手な学生ばかりを集めたクラスなので多少はやむを得ない結果かとは思うが、やはり化学はこれからの科目の基礎であるので全員に化学を克服してほしかった。ここまで基礎から行って興味を持てない学生をどうすればいいのか至難の技である。しかし、多くの学生が興味を持ってくれたようで本当に良かったと思う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	質問6から11に関する項目は、質問6と7が低い結果であった。これは昨年度と大きく異なる点である。人数が多く教室も大きいので伝わりにくい点があったのかもしれない。そのほかは平均点が高い評価であった。苦手なりにも多くの学生が真面目に取り組んでくれたようで大変うれしく思う。学生のコメントでも書いてくれているように、苦手な化学でもなるべくわかりやすい言葉で説明することで、学生も授業に参加でき、多くの問題を解くことで勉強しやすかったようである。今後も続けていきたいと思う。また、予習から授業、復習と繋げていく授業方法が、よかったのではないかと思う。化学がわからない学生が本当に多く、２クラス授業に限界を感じる。さらに下のクラスを作ることで今回のことは解決するのではないかと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回のアンケートの結果から、少しでも化学嫌いを克服した学生がいることを嬉しく思う。リメディアル授業と並行して行うことでより理解が深まったことを願う。 コメント欄からは化学は難しく感じながらも学生が前向きに授業に取り組んでくれたことがうかがえる。どうしてもこれから化学生物の知識が必要となってくるので、リメディアル授業も含め化学に触れ合う機会を多く作っていく必要性を感じた。 これについてこれない学生をどうしたらいいのか今後担当教員間で話し合いが必要かと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 金1

科目名　栄養代謝学

教員名　川内　美樹

回答者数／履修者数　52／54

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	質問13の平均点は4.7であり、昨年と同じ結果となった。今年度は一クラス開講で、広い教室だったが、満足度が高く安心した。コメント欄をみると、「わかりやすかった」や「勉強がしやすかった」と前向きなコメントが多く、こちらとしても大変うれしい結果であった。 ただ、縦長の教室なので少し授業はやりにくかったのが残念である。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今年度は、一クラスだったので、昨年度とは違いクラスによる差というものはなかったが、学力差がある中で全体に理解してもらえる授業は大変難しく感じた。しかしコメント欄を見ても授業に興味を持ってくれたようでとても嬉しく思う。小テストや本試験の結果は年々下がってきているのでさらに対策は必要かと思う。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問5に関しては、平均点は4.4と低い評価であったが他の質問は例年通り高い平均点となった。コメントに多く書いてくれてるように、学生が興味を持ってくれたようで本当に良かったと思う。今後も国家試験でも大切な科目であるのでこの調子で頑張って欲しいと思う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	質問6から11に関する項目は、全て平均点が5.0近くで高い評価であった。これは昨年度と同じである。 多くの学生が真面目に取り組んでくれたようで大変うれしく思う。学生のコメントでも書いてくれているように、授業内容は難しいが、なるべくわかりやすい言葉で説明し板書を丁寧にすることで、学生も授業に参加でき、ノート作成しながら勉強しやすいようである。時間はかかるが、丁寧に取り組むことは今後も続けていきたいと思う。また、予習から授業、復習と繋げていく授業方法が、よかったのではないかと思う。ノート作成といった学生の努力が形に残る方法はとても有効である。国家試験に出るポイントを交えて講義を進めるのが評価が高いようである。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今回のアンケートの結果から難しく感じながらも学生が前向きに授業に取り組んでくれたことがうかがえる。しかし、例年のことながら質問１の準備学習の取り組みの平均値なかなか上がらないのが非常に残念である。予習プリントを配布して準備学習しやすいようにしていても、してこない学生がいること、さらに興味ないと答える学生、再履修の学生もいることから、もっと勉強の仕方などを具体的に伝えていくことで、これからの試験対策として勉強の意欲につながって欲しいと思う。再履修の学生も多くなっていることから学力の低い学生への対応が急務であると考える。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　川内　美樹

回答者数／履修者数　6／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は4.7であった。昨年は5.0であったので減少した。 今年度の教養セミナーは6名であり、みんな元気でワイワイと仲良くしていたが、少し騒がしすぎるところがあったのが気になった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	少人数制での実施のため、ひとりひとりに目が届きその点は大変良かったと思う。実施内容も全学で決まっており、また内容自体も取り組みやすかったように感じた。メンバー同士が大変仲良くしてくれたことはよかった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問2と3の平均点は4.3であった。昨年より下がっていた。例年同じ内容で実施しているが、今年の学生はあまり興味関心を持ってくれなかったようだ。来年度は今年度の反省を踏まえて、積極的な実施を心がけたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	質問4から7に関しては昨年度は全て5.0と高い評価であったが、今年度は全体的に下がっていた。全ての回において少人数での実施だったが、騒がしすぎてあまりいい雰囲気ではなく個人に丁寧に対応できてなかったかもしれない。 後期は早々に面談も実施することで、大学生活の悩みや不安についても早急に対処していきたいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	満足度は下がってしまったがセミナーの集まり自体は好きだったようで息抜きの場になっていたようだ。今年度は例年以上にみんなが仲良くてセミナー中も騒がしい状態が続いており、なかなか制御できなかったのが昨年度とは大きく異なる点である。 後期は学科別の実施で行われ全体での実施が増えるため、セミナー毎で集まる機会が減ってくるのと、また前期よりも悩みが増えてくる時期でもあるので個別対応をしっかり行い、サポートしていきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　公衆栄養学Ⅰ

教員名　川野　香織

回答者数／履修者数　43／47

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は4.5点で全体平均と同等であった。初めて担当する科目であったため、学生の理解状況の確認や興味を持ってもらう工夫が足りなかったと考えられる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	自由記述に記載が多かった配布資料のわかりやすさや、学生の意見や質問への対応が適切であったことがよかったと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3の授業のわかりやすさ、Q5授業内容への興味が全体平均より低かったため、改善が必要である。自由記述に記載があった「法律や決まり事の難しさ」を感じている学生がいたため、次年度はこの点をわかりやすく授業できるように心がけたい。具体的には複数の法律をまとめた資料の作成など検討する。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q8の教科書やプリントの適切な使用について、全体平均より低い点数だった。自由記述に記載されている「マーカーの色が多くて大事な点がわかりづらい」について改善を行う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生にとって、興味を持ちにくい科目でもあるため、いかに興味を持って学修してもらえるかが大切であると考える。そのため、身近な事例を取り入れ、理解しやすい資料作成を行うことによって、次年度はより良い授業にしていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月3

科目名　食教育論

教員名　髙江洲　有沙

回答者数／履修者数　13／13

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は平均4.9と昨年度から向上しており、概ね満足いただけたと思う。同様に授業内容の理解度も向上していることから理解度を高めることが満足度にもつながることを改めて実感したため、今後は理解度を確認しながら授業を進めるように取り組んでいきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講人数が少なかったので、学生一人ひとりが発言できるような内容で授業を構成し、教員側からの声掛けも行いながら日常生活と関連させて授業を進めることや、動画視聴など視覚的アプローチも取り入れ、学生自ら考える時間も設けることなどが、学習意欲の向上につながったと考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	概ね良い評価をいただけたと感じている。授業内容の興味関心事は学生との対話を通して理解し、また、常に新しい食や健康に関する情報を取り入れながら、その都度でも改善させていきたいと思う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法や配布資料について、概ね良い評価をいただけたと思う。今後はさらに、授業参加を促すような声掛けを細目に行い、学生自ら考えてメモをとれるような内容を取り入れ、記録時間も進捗状況を見ながら授業を進めていきたいと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	受講者数は少なかったものの、概ね良い評価をいただけて安堵した。自由記述においては、グループワークを通して自分たちで食について考える機会がよかった、映像やデータを用いたことで分かりやすかったなど、授業をしっかりと聴いている様子が伺える意見があり、これまでの教材研究や学生の実態に合わせた授業を実践することで、少しずつ良い効果に向かっているように感じた。 また、配布資料の穴埋めで見逃しもあったとのことで、授業展開において記録時間の配分、配布資料の内容見直しなど、改善できるところは今後検討していきたいと思う。 これまでと同様に、学生自らが考えて能動的な学びとなるように授業内容を充実させ、積極的な発言を促す声掛けなど、アクティブラーニ

項目見出し	コメント
	ングを取り入れた授業を展開していくために日々の教材研究などを継続して行っていく。

アクションプランシート

2024年度前期 月2

科目名　食品学Ⅰ

教員名　藤井　俊輔

回答者数／履修者数　67／73

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本講義の満足度は、ほぼ例年通りであった。基礎科目という性質上、一定数の学生の苦手意識は強いものであると考えられるため、満足度の結果としては悪いものではないと感じている。自由記述欄においても、両極端な意見がみられるが、国家試験の受験や基礎科目であるということを考慮すると、問題はない結果であると考えている。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	身近な現象に例えることで、理解を促す工夫をしている。また、講義ごとに課題を課すことで、自己学修の確保もできているようであり学k集意欲の向上につながったものと感じている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	本項目は4.6〜4.8ポイントで推移しており、問題ないと感じている。シラバスに沿って授業を行っているかの項目が最も低いポイントとなっているが、完全にシラバスに従って講義を進行しているので、回答した学生がシラバスを熟読していない可能性が考えられる。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	本項目は4.6〜4.8ポイントで推移しており、問題ないと感じている。授業の実施方法に関しては、毎年少しずつではあるがブラッシュアップを行っているので、次年度以降も継続して講義資料や講義内容について、学生が興味が持てるような内容に更新していきたい。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本講義の満足度および、理解度はほぼ例年通りのポイントで推移している。満足度は、学生の学力と正の相関性が認められるため、近年の学力の低下に対応する必要があると考えられる。単に簡単にするのではなく、学生が興味を持てるような内容と講義の展開を今後も継続したい。

アクションプランシート

2024年度前期 月4／5

科目名　食品学実習

教員名　藤井　俊輔

回答者数／履修者数　23／23

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本項目の満足度は例年と比較しても高い傾向がみられた。また、学科内の基礎科目の中で最も高い満足度であった。しかしながら、今年度はクラス間の学力差が大きく出ており、本調査の結果は成績が良く、活動性が高い学生が大部分を占めるようなクラスであったことが要因として考えられる。昨年度も同様のケースが認められた。したがって、授業アンケートの満足度のポイントは、学生自身の成績と活動性にある一定の相関性があることが示唆される。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	実習の中で、学生が自らプロトコルを考え、実験し、実験結果を基にさらに次の実験に進む簡単な実験内容を今年度から取り入れた。また、実習内容のプレゼンテーションを実習内に組み込んだことで、学生は自発的に調べ、質問することができていたように感じた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	本項目はすべての項目において4.9ポイントであり、問題はないと感じている。今後も学生が興味を持ち学べるような工夫を継続して行っていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	本項目は4.6〜4.9ポイントで推移している。したがって大きな問題はないと感じている。しかし、板書に一部不満を持つ学生が見られるため、パワーポイントの使用を含めた方法に変更を検討したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年に引き続き、クラス間の学力差がある状態での本実習であったが、成績が良いクラスほど満足度が高い傾向がみられたことは、クラス編成のための重要な資料になったと感じている。一方で、成績が低い方のクラスの対応も考えなければならないことも明らかとなった。一定の内容は維持しながらいかに理解を促すか、この点について今後検討したい。

アクションプランシート

2024年度前期 木5

科目名　栄養の化学演習

教員名　藤井　俊輔

回答者数／履修者数　18／19

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本講義の満足度は4.4ポイントであった。本学科では化学を苦手とする学生が大部分を占めることから、この結果になったと考えられる。一方で理解度は4.6ポイントであり、「5」をつけた学生数が満足度の「5」をつけた学生数よりも多いという逆転現象がみられた。本講義は演習科目であるので、問題演習を中心に構成したため、他の講義のような+αの情報を付け足す部分が少なかったように感じている。したがって、次年度以降は+αの部分を意識して講義を構成したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	基本的には、高校化学の復習をメインとする科目であるが、今年度は生命科学系の学生が大学で学修するような内容を一部取り入れた。一部の学生からは新しい知識が得られたと好評であったが、全ての学生が受け入れることができたとは感じ取れていない。次年度以降は、学生の理解度を見ながら内容を柔軟に変化させていきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	本項目は4.4〜4.6を推移しており、学科全体のアンケート結果のおおよそ中央値の結果であった。本学科における「化学」という科目の性質上、致し方ない結果ではないかと考えている。年度によって学生の取り組みの様子や理解度は大きく異なるため、大きな改善点は無いかもしれないが、状況を確認しながら可能な限りの向上を目指す。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	本項目は4.6〜4.8ポイントで推移しており、自身の他の講義とほぼ変わらない結果であった。したがって講義方法の方向性として大きな改善は無いのではないかと考える。繰り返しになるが、年度によって学生の取り組みの様子や理解度は大きく異なるため、学生の状況を確認しながら可能な限りの向上を目指す。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本学科における「化学」という科目の性質上、なかなか高い満足度を得ることが難しい。一方で、理解度が満足度よりも高いということは、一定の学修効果は得られていると感じている。他の科目も同様であるが、満足度のポイントにとらわれることなく、理解度のポイントを向上するよう、講義としての本質を見失うことが無いよう改善を続けていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 金4／5

科目名　食品学実習

教員名　藤井　俊輔

回答者数／履修者数　22／22

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	講義の満足度は4.6ポイントであり、例年並みの結果であった。他のクラスと比較すると0.3ポイントの差があるが、この要因としてクラス間の成績の差に由来することが考えられる。昨年度も同様の結果が認められたため、成績と満足度は正の相関性があることが示唆される。また、実習内容の受け取り方もクラス間で大きく異なるため、学生に合わせた展開をクラスごとに考える必要があると考えられる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	座学で学修した内容を、実際に実験で確認する実習となるため、比較的学習意欲は高く維持できる実習であると感じている。実際に、学生自身の取り組み状況も4.7ポイントと高いことでも示されている。 引き続き、高い学修意欲が維持できるような実習内容に努めたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	本項目はすべて4.8ポイントであり、大きな問題はないと感じている。したがって、今年度の反省を反映しつつ次年度の実習へと継続していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	本項目は4.5〜4.9ポイントで推移しており、ほぼ例年通りの結果を得ている。そのため大きな改善点は無いかと感じている。 他のクラスと同様に板書等の使用に関する項目のポイントが低い傾向がみられるため、次年度以降はパワーポイントの使用も含めた方法を検討したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	満足度および、理解度が他のクラスと比較すると低い傾向が結果として示された。主たる要因としてクラス間の成績の違いが挙げられ、昨年度も同様の傾向がみられたことから成績と満足度は正の相関性が示唆される。したがって、クラスごとにある程度分けた指導方法の必要性が考えられるため、学生の理解度や取り組み状況に応じた対応をさらに求められていると感じた。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　藤井　俊輔

回答者数／履修者数　4／5

項目見出し	コメント
(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度に関しては、例年よりもやや低い傾向を示しているが、母数の少ないアンケートであることが要因の一つとして考えられる。4人中3人が「満足」としているため、教養セミナーの実施自体に問題はないと考えられる。残る一人の回答に関しては何が原因なのか、尋ねなければ推測の域をでない。
(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回、全員の学生に発言をしてもらえるような機会やきっかけづくりを心掛けている。
(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	本項目はいずれも4.3ポイントであった。教養セミナーは全学統一した内容で実施しているため、内容の変更などに関する検討は、一個人としてはできないが、取り組みを促すことはできるため、今後も継続して行う。
(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	本項目は4.0〜5.0で推移している。母数が少ないためポイントが大きくばらつくが、半数以上の学生が「良い」の評価をしているため、大きな問題はないと感じている。
(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	コミュニケーションの量が、大きく本調査の結果に影響することが推察される。また、全学共通で実施している内容であるため、各セミナーで授業アンケートを実施するよりも、全体に対してアンケートを実施した方が内容の精査等に活かすことができるのではないかと考える。また、このように母数が極めて小さい回答に対してアクションプランを考えることにどれほどの意義があるのか疑問である。

アクションプランシート

2024年度前期 月3

科目名　公衆衛生学Ⅱ

教員名　宮原　恵子

回答者数／履修者数　52／58

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	昨年度よりは改善したが、全体平均より低かった。授業内容の難しさが関係していると考えられるため、本年度は授業の進行等を工夫したが、評価としては効果がみえなかった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	一部の回であるが、授業内容について少人数で考える機会をつくった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q5が特に低かった。興味につながるよう、実生活に結び付けて話すことでイメージしやすくなればと考えたが、あまり伝わっていなかった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	全体平均と同様ではあるが、昨年度はクラスによっては平均点が高かったため、もう少し改善可能と考える。学生の受講態度に自身も影響を受けるので、冷静に対応したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	年々、改善することが難しく感じていて、実際、この評価の数値もなかなか伸びない。国家試験はもちろんであるが、大学での学修のためには、授業内容のレベルを落とすわけにはいかないので、どうすればいいのか日々検討している。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　宮原　恵子

回答者数／履修者数　5／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	教養セミナーの授業内容からすると、このような評価が妥当かと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	少人数で進行状況に合わせて、調整ができる点。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	テキストの内容のレベルが適切でないと感じるため、テキストの見直しが必要と考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	受講する学生の態度に差があり、スムーズに進まなかったこともあり、それが影響していると考えられる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生からすると、テキストの内容が大学生に入学して学ぶものなのかと思ってしまうのではないかと年々感じるようになった。そのため、個別に何か内容を検討する必要がある。

アクションプランシート

2024年度前期 金4／5

科目名　基礎栄養学実習

教員名　吉村　亮二

回答者数／履修者数　18／24

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は、4.3でした。このことから実習内容は学生に適したものであると考えられますが、より高得点となるように実習中の説明などを改善していきたいと思います。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生へ実験計画を考案する回を導入したため、それが良い結果につながっていると思います。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	すべての項目が4以上であり、概ね学生の興味のある実習項目となっていると考えます。今後も学生の意見を聞きつつ、改善に努めます。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方や説明が明瞭でなかった点があったと考えれれるため、説明内容などの改善に努めたいと思います。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	満足度は4.3であるが、理解度が4.2と低いため、解説の回数を増やすなど改善に努めたいと思います。

アクションプランシート

2024年度前期 土4／5

科目名　基礎栄養学実習

教員名　吉村　亮二

回答者数／履修者数　21／23

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は、4.4でした。このことから実習内容は学生に適したものであると考えられますが、より高得点となるように実習中の説明などを改善していきたいと思います。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生へ実験計画を考案する回を導入したため、それが良い結果につながっていると思います。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	すべての項目が4以上であり、概ね学生の興味のある実習項目となっていると考えます。今後も学生の意見を聞きつつ、改善に努めます。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方や説明が明瞭でなかった点があったと考えれれるため、説明内容などの改善に努めたいと思います。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	満足度は4.4であるが、理解度が4.0と低いため、解説の回数を増やすなど改善に努めたいと思います。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　吉村　亮二

回答者数／履修者数　6／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は、5.0と以前と同様であった。引き続き、学生の理解度等を把握しながら授業を進め、高い満足度となるように努めます。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の参加を促すことができたため、満足度をはじめとする評価につながったと思います。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	以前よりも向上しており、来年度も同様に高得点となるように努めます。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	以前と同様に、すべて4.5以上でした。来年度以降も対話を重要視した授業に努めたいと思います。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学生の参加を促すことができ、高い評価が得られました。引き続き、改善に努めたいと思います。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　栄養の生物学

教員名　射場　仁美

回答者数／履修者数　27／32

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は4.4であった。昨年より上昇した。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の授業で最後に復習問題を解かせた。重要な点が分かりやすくなり、意欲の向上につながった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	低い評価のものはなかった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方の点で低い評価が1名いた。マイクを使わないので、スライドに重要な点を記入して、わかりやすくなるように努めたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	満足度や理解度は高かったが、試験の成績はそれほど高くなかった。学生の自己評価と客観的な理解度は一致していない。試験での評価でも理解度が高くなるようにしたい。

アクションプランシート

2024年度前期 木2／3

科目名　食品衛生学実習

教員名　射場　仁美

回答者数／履修者数　23／23

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	4.4で高い評価であった。例年と同等の評価であった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	レポートの添削をしっかり行った。コメントをしっかり残すことで、次からのレポート作成の参考になり、意欲が高まったと思う。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	低い評価のものはなかった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方で低い評価が１名あった。 実験室が広いので、マイクの音量を上げて対応したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	おおむね高い評価であった。Q1の予習をする者の人数が少なかった。レポートに課題を追加するなどして、実習前の予習時間を上昇させるような取り組みをしたい。

アクションプランシート

2024年度前期 木4／5

科目名　食品衛生学実習

教員名　射場　仁美

回答者数／履修者数　22／24

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	4.7で高い評価であった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	レポートの添削をしっかり行った。コメントをしっかり残すことで、次からのレポート作成の参考になり、意欲が高まったと思う。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	高い評価であった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方で低い評価が１名あった。 実験室が広いので、マイクの音量を上げて対応したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	おおむね高い評価であった。Q1の予習をする者の人数が少なかった。レポートに課題を追加するなどして、実習前の予習時間を上昇させるような取り組みをしたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　射場　仁美

回答者数／履修者数　4／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は4.8で高かった。昨年度と同様であった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生が自主的に意見を発言することが少なかったので、発現を促すよう努めた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	高い評価だった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	低い評価のものはなかった。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	満足度は高かった。１年生の前期で大学生活に慣れていない学生も多いので、大学生活や学修の面でもサポートしていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　栄養の生物学

教員名　菊地　優子

回答者数／履修者数　36／37

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	R5年度が4.8であり、本年度は4.7とやや低下したが、R4年度は4.6であったため、例年とほぼ変わらない。 ほとんどの学生が5または4なので大きな問題はないと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業内容に関連した動画を使用してよりイメージしやすいように工夫した。 復習のプリントを見直して例年と少し変更したが、学生からもよい復習となった等のコメントがあり、一定の学習効果はあったようだ。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	問3は昨年度4.5であったが、4.7と上昇し、問4は4.9から4.7に低下した。問5は前年度と同じであった。 内容に関しては大きく変えていないため、3や2を回答した学生がいたことが低下の原因であると考えられる。 高校生物の復習を行っているが、授業内容をもう少し大学で学修する範囲にしぼると興味をもつ学生が増えるのかもしれない。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	例年と比べ大きな差はないように思えるが、問11に「1」と回答があった。実際にどのような形を望んでいたかは自由記述からも読み取れないが、もう少し学生発言する機会を増やしてみたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目は高校までの復習科目であるので、初めから学生間の理解度の差が大きく、その差が段々広がっているように 思える。生物に興味がない学生が今後本学科の授業をうけていくのは大変困難なことなので、基本的な知識の習得だけでなく、興味をもってもらえるような工夫が必要だと感じた。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　菊地　優子

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本年度は5名全員が「5」と回答した。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	初めは皆緊張していて、発言が少なかったが、後半になると学生間で自然と話せる関係性になったことで、授業が楽しいと思えたのではないか。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	内容に興味があるかという問いは5ではなかったが、4.8であるため、良好であると考える。実施する内容は決まっているため、より身近な話題を出して学生の興味をひくことが必要である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	複数のセミナーで1つの教室を使用するより、1セミナーで1教室の方が実施しやすいと感じる（学生もそちらを希望していた）。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本年度はすべての項目で高い値となったが、実施内容や実施方法は例年と大きな変更はなく、セミナーのメンバー同士が仲良く取り組むことができたことが要因であると考える。

アクションプランシート

2024年度前期 月1

科目名　給食経営管理論Ⅰ

教員名　吉永　奈津希

回答者数／履修者数　45／46

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業に対する満足度は平均4.2であり、回答1・2の不満足・やや不満足との回答はなかった。今年度初めてアンケートを実施したため、過去の評価との比較はできないが、自由記述欄に声が聞き取りづらい、説明が早いとの意見があることから、話し方やスピードに注意し、専門用語の理解ができるように、より丁寧な説明を心掛けることで、満足度の向上につなげたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生の受講態度に関わる項目の評価は、Q1が3.4、Q2が4.2であった。小テストの実施、レポートの提出、manabaでのドリル等は、復習につながると考えていたが、Q1の結果から復習につながっていない学生もいることがわかった。配布資料が穴埋めになっているため、居眠りや私語の抑制につながり、受講態度は比較的良好であったと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容に関わる項目の評価は、Q3は3.9、Q4は4.5、Q5は4.1であった。最も評価の低いQ3については、回答2（やや良くない）が約4%いるが、回答5・4（良い・やや良い）が約73%を占めていた。自由記述においても授業やスライド（配布資料）のわかりやすさに対する意見が分かれており、今年度の結果のみでは具体的な改善策を示すことができないため、次年度以降の結果も合わせて検討したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	各項目の平均は、Q6が4.1、Q7〜9が4.3、Q10が4.6、Q11が4.4であった。Q6の話し方は明瞭であったかの項目が最も低く、自由記述には、声が聞き取りづらいときがあった、説明が早くて何言っているか分からない、たまにボソボソ喋ってるように聞こえるなど、話し方に関する意見が複数あったことから、今後話し方やスピードに注意して授業を行う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目については、今年度より担当しており、Q6や自由記述の結果から、話し方や話すスピードを改善する必要があるとわかった。また、自由記述には、オリエンテーションで説明済みの内容についての指摘が複数あることから、再度周知する必要があると考える。理解度の平均が3.9と他の項目と比較して低く、自由記述にわかりにくい、難しいなどのコメントもあることから、今後理解度向上のために何ができるか模索していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 木1／2

科目名　給食経営管理実習（学内）

教員名　吉永　奈津希

回答者数／履修者数　26／28

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度の評価は平均4.7であり、回答1・2（不満足・やや不満足）はいなかった。昨年度は4.6/4.9とクラス間で差はあったが、平均すると4.75であり、今年度も昨年度と同程度の満足度が得られたと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	これまで学んできた基礎的知識を活かして、実際に学生、教職員を対象とした給食を実施する実習であり、実習の計画から実施、検討、評価を学生自身の手で進めなければならないため、学生の受講態度は比較的良好であった。取り組み姿勢には個人差があるが、教員側からの声掛けも行いながら、進めることができたと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容に関わる項目の評価は、Q3は4.5、Q4は4.9、Q5は4.7であった。昨年度と比較し、Q3・Q5は同程度、Q4は向上していた。Q3の評価が最も低かったが、回答1・2（良くない・やや良くない）の回答はなかった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法に関する項目の評価は、Q6・8は4.6、Q7・10は4.7、Q9は4.5、Q11は4.8であった。昨年度の評価と比較すると、Q6・9は0.1ポイント減少したが、その他の項目に変化はなかった。パワーポイントを使用した説明等は行っていないため、必要な場面があるか今後検討したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	これまで学修してきた内容を復習した上で実習に臨んで欲しいと考えるが、Q1で準備学習をしていない学生がいたため、予習・復習の取り組みの必要性を改めて伝える必要があると感じた。また、今年度より外部講師によるクックチルに関する授業を加え、授業後は良い経験になったとの意見が多かったため、次年度も実施する予定である。

アクションプランシート

2024年度前期 木3／4

科目名　給食経営管理実習（学内）

教員名　吉永　奈津希

回答者数／履修者数　26／26

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度の評価は平均4.8であり、回答1・2（不満足・やや不満足）はいなかった。昨年度は4.6/4.9とクラス間で差はあったが、平均すると4.75であり、今年度も昨年度と同程度の満足度が得られたと考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	これまで学んできた基礎的知識を活かして、実際に学生、教職員を対象とした給食を実施する実習であり、実習の計画から実施、検討、評価を学生自身の手で進めなければならないため、学生の受講態度は比較的良好であった。取り組み姿勢には個人差があるが、教員側からの声掛けも行いながら、進めることができたと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容に関わる項目の評価は、Q3は4.6、Q4は4.9、Q5は4.6であった。昨年度と比較し、Q3・Q5は同程度、Q4は向上していた。いずれの項目も回答1・2（良くない・やや良くない）の回答はなかった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法に関する項目の評価は、Q6は4.7、Q7・10・11は4.8、Q8・9は4.6であった。昨年度の評価と大きな変化はなかった。評価の低かったQ9に関しては、本実習ではパワーポイントを使用した説明等は行っていないため、必要な場面があるか今後検討したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度より外部講師によるクックチルに関する授業を加え、授業後は良い経験になったとの意見が多かったため、次年度も実施する予定である。また、自由記述欄には、帳票作成についてもう少し詳しく教えてほしかったとの意見があったが、2年次の科目で説明しており、記入例を配布している。もう一度説明することは実習スケジュールの関係で難しいため、配布している記入例を参考することで再提出の際の修正を減らすことができることをしっかり伝える必要があると考える。学生の作業負担の偏りについては、今後の検討課題としたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水2

科目名　ホスピタリティとSDGs

教員名　中村　誠司

回答者数／履修者数　262／467

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本大学での初めて講義でしたので、なるべく平易な言葉も使って講義をしましたが、不満足な学生がいなくいなるように改善したい。また、重要な用語は多国語でも示せればと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今回は初回なので判断不可。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	この講義は難しくする必要はなく、一番大切なことを理解してくれたらいいので、とにかく平易な言葉を使って、どの学生にも理解できる講義にしたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	この講義に関しては時間は十分にあるので、よりポイントを絞った講義にしたい。ただし、オンデマンドの授業なので工夫はしづらい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	まずはどの程度の学生が満足・理解できたかを把握できて有用でした。今後はさらにブラッシュアップして、より良い講義にするつもりです。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　基礎の数学

教員名　藤田　英明

回答者数／履修者数　20／26

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13に比べてQ12が低いのが問題だと思う。 学力が低い学生が一定数いるためと思われる。 放課後等に希望する学生に補習を行う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義中と講義後に小テストを実施した。 毎回の小テストのための予習を促している。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	薬学の専門科目において最低限必要な項目について授業を行った。 CBTや国家試験における数学の必要性について意識させる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	板書でできるだけゆっくりと説明した。 配布資料も書き込み前提で作成している。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	一部学生は中学生レベルの数学から理解できていない。 項目を絞っているが、ゆっくり進行するため、時間配分が難しい。

アクションプランシート

2024年度前期 土1

科目名　機能形態学Ⅰ

教員名　藤田　英明

回答者数／履修者数　86／93

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13に比べてQ12が低いのが問題だと思う。 学力が低い学生が一定数いるためと思われる。 補習でキャッチアップできるように工夫したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義前と講義後にmanaba小テストを実施した。 予習を促進するため次回講義資料を前週に配布した。 人体模型を用いた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	自分の体について興味を持つように促した。 CBTや国家試験との関連性を強調した。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	講義中心であるため、学生の参加を促す工夫が必要かもしれない。 できるだけ講義中に学生に発言させる機会を増やしたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	後半、講義のペースが速いと感じる学生が散見された。 ペース配分を可能な範囲で調整したい。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　基礎の数学

教員名　椛島　力

回答者数／履修者数　42／42

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は4.8であり、概ね満足してもらったと思う。次年度以降も、維持・向上できるように努める。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	前半は高校数学の復習を中心に講義し、後半は、これらの内容が薬学の専門科目にどのように応用できるか関連性を説明した。また、授業中に演習問題を多く取り入れ、分かりやすく解説した。さらに、授業内容に関する質問をマナバでも受け付け、次の時間に解説した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容については、4.7-4.9であり、概ね評価してもらったと考える。1年の基礎の物理学や2年次以降の薬学専門科目との関連性を説明したのは良かったと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業方法は4.5-4.8であり、特に大きな問題もなく講義できたと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	コメントも好意的なものが多く、特に大きな問題もなく講義することができたと考える。授業の進行スピードについては、受講生間の理解度に差があり、調節するのが難しいが、授業外に積極的に質問するように促すなどして対応する。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　基礎の物理学

教員名　市川　和洋

回答者数／履修者数　20／34

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	担当Cクラスは、成績最下位層（未履修者）学生を対象としています。理解度3.6、満足度3.8は例年と同程度で、担当学生層を考慮すると一定の成果があったと考えます。後述の理解度・満足度向上を図っていきます。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	3クラス制によりきめ細やかな対応を目指しました。少人数のため、学生は講義中に行うやり取りに参加をせざるを得ず、緊張感をもって講義に臨むよう促せたと考えています。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	本科目の授業内容は、高校物理のうち薬学専門科目への橋渡しとして再確認・新規習得を目指すもので、内容自体は適切であったと考えています。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業方法に関する項目の平均は理解度と比べて高く、方法自体は適切であると考えています。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	物理プレイスメントテストを全学生について実施するようになり6年目となりました。択一形式であることを考慮すれば、20点以下のほぼ理解がないグループが2/3を占める状況です。Cクラスの学生はこの層に当たります。 必要な項目を絞っているにせよ、高校の履修時間（物理基礎、物理）の1/10程度の時間設定で、新たに学ぶには無理があること、補習の努力にもかかわらず、物理に限らず論理的思考法が身についていないことが見受けられます。 薬学専門科目への橋渡しになるよう目指していますが、内容や方法の評価に比べて理解の評価が低い状態が続いています。必要と思うけど分からない、を克服するすべはなかなか見当たりません。数年来要望

項目見出し	コメント
	している通り、高校出の履修者・未履修者を別科目建てとして、到達目標を大きく変えていくことが一案として挙げてきました。ご検討をよろしくお願いします。

アクションプランシート

2024年度前期 土1

科目名　薬品物理化学Ⅰ

教員名　市川　和洋

回答者数／履修者数　108／119

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	実際と講義内容の対比を明示し、講義内容への関心を引くよう努力しました。薬剤師業務との関連などをさらに加えることで、関心度の向上を目指します。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	SBOの明示、各回の講義まとめとSBOに対応する理解項目のまとめをいれるなどの変更を行いました。小課題を課すことで、勉強への意識を高めるようにしました。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	国家試験での必要性とSBOを意識させ、重要ポイントについては教科書をかみ砕く資料作成などを通じて学習意欲の向上を図りました。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	2年前・後期に物理化学系2講義、1演習では、講義2科目は時間に余裕を持った進行を心掛けています。後期「物理化学演習」内で講義の補足を行う形で進めています。科目設定の都合上、前期に演習科目が設定できませんが、引き続き経年変化を注視して効果を確認していきます。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	前年の基礎の物理学の結果から判断して、十分学力が整わないまま、2年次の物理化学専門科目を迎えています。授業内容や方法について評価は十分に得られていますが、授業理解度の評価が低いことも、必要なのはわかっても理解が付いて行っていない、ことを示していると考えています。 物理化学系科目は、数学であり理論・理屈であり、個別の科目ではない、考える習慣が不足していると感じます。数年来の低成績学生を入学させざるを得ない状況が、これら困難な学生層を増やしていると考えます。そのなかで、考える学びにつながる仕組みに5次カリでは改善を要望します。

アクションプランシート

2024年度前期 月2

科目名　和漢薬概論

教員名　宇都　拓洋

回答者数／履修者数　84／88

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度4.7ポイントであることから多くの学生が満足している様子が分かる。しかしながら、３と評価した学生が4名、2と評価した学生が1名いるので、これらの学生がなぜ低評価だったのかを考察したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	ドラッグストアで売られている漢方薬を紹介したり、CMや漢方メーカーの動画を見せることで学生の興味を促した。 講義プリントを事前に配布することで、予習を促した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	3つすべてが4.7以上の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	すべての項目が4.6以上の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	コロナでのハイブリッドでの講義の経験も導入して以前の対面よりも工夫したが、おおむね学生は満足したと思われる。自由記述欄もポジティブコメントが多い。毎年言えることではあるが、多くの学生が４か５の評価する中で、２や3の評価を行う学生がいる。その場合、なぜそのような評価をしたのかが不明で対応のしようがないと考えている。評価で１もしくは２と記入した際、その理由を問う項目を設定することで、改善につなげていきたいと考えているが、それらの学生は理由を書かない場合は多い。今後、対応を考えたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　生薬学Ⅰ

教員名　宇都　拓洋

回答者数／履修者数　104／107

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度4.9ポイントであることから多くの学生が満足している様子が分かる。今後も、５に近い評価になるように講義を充実させていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義プリントを事前に配布することで、予習を促した。 １５回目の講義時に、暗記項目のテストをゲーム方式で実施した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	3つすべてが4.8の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	すべての項目が4.7以上の評価であることから、多くの学生が高評価であったと考えている。 Q11が4.7で他に比べて低い。授業参加を促せるように、学生が積極的に講義内容に取り組める内容を来年度は取り入れたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	コロナでのハイブリッド形式での講義の経験も導入して、以前の対面よりも内容が工夫されており、おおむね学生は満足したと思われる。自由記述欄もポジティブコメントが多い。毎年言えることではあるが、多くの学生が４か５の評価する中で、3の評価を行う学生がいるが、それらの評価項目について改善していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　宇都　拓洋

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	平均値が4.8なので、多くの学生の満足度は高かったと思われる。後期もこれを維持したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生が自主的に課題に取り組めるように工夫した。 また学生間のコミュニケーションを多くとれるような工夫をした。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	教養セミナーの内容が今の薬学部生にマッチしていないものがあると感じる。 その部分は、独自に工夫して今後も取り組みたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	学生間で全員で一緒に学習に取り組めるような工夫を増やしたい。 また学習へのモチベ―ションアップにつながるように指導したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	教養セミナーの内容が今の薬学部生にマッチしていないものがあると感じるので、今後、自分なりに工夫しながら改善していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 木4

科目名　調剤Ⅱ

教員名　大磯　茂

回答者数／履修者数　99／105

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度に関しては、4.6であった。昨年度は同じ科目の評価がないため、単純には比較はできないが、他の科目より高めの評価点であったと思われる。履修者からのコメントでは授業中に挟むリフレッシュタイムがよいとのことであった。長い授業中にリフレッシュする時間として設けているが集中力を保つのには有効と感じるので今後も継続していく予定である。配布資料のホチキスの位置に関する要望が多く寄せられた。印刷機の設定によるものではあるが、改善できるかどうかは検討したいと思う。授業は、基本的に教科書をメインにスライド（配布資料あり）も使用しながら進めるスタイルで進めたが、授業の進め方としては特に問題はなかったものと考えている。また授業毎の確認問題により理解度の確認もしやすかったと思われる。次年度も同様のやり方で進めたいと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	基本的に教科書の内容に沿って講義を行った。教科書に書かれていない事項は、スライドに示し、スライドを配布資料としたので、教科書に記載されていない内容もしっかり理解できるよう伝えられたと思う。各授業後の確認問題をマナバフォリオにて実施し、自分の正答率を自分で確認できるようにした。履修生の復習を促す手法として有効と考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	質問3から5の評価点は4.6～4.7と満足度と同程度の評価点であった。授業資料の内容を現在の知識に合わせて毎年変更している、特に問題はなかったように思われる。配布資料のホチキスの位置の改善に関する要望が多く寄せられたので、対応したいと考えている。予習・復習の評価点は3.8と比較的低い状態であるので、予習・復習をしっかりとするように指導したいと思う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	質問6から11の評価点は4.5～4.7と満足度と同程度の評価点であった。質問8の4.5は配布資料のホチキスの位置に関する要望等が影響していると思われるので、次年度以降、改善に取り組みたいと思う。また、質問6も4.5であったが、他の授業でも指摘される部分なので、改善できるよう努力したいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	初めて授業アンケートをとった科目であるが、他の科目の評価点と比べて、まずますの評価点であったと思う。基本的には現在のスタイルで今後も授業を展開したいと考えているが、指摘された改善点は次年度に対応して、よりよい授業を進められるよう努めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　分析化学Ⅱ

教員名　大庭　義史

回答者数／履修者数　100／114

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	前年度（4.6）より0.1ポイント増
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	・講義内容について、学ぶ必要性及び該当するSDGを講義開始時に説明 ・講義内容について、実例や関連するニュースがあれば紹介 ・薬剤師国家試験でどのような形で出題されているかを演習形式で取り組ませた後解説
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	前年度（4.6, 4.6, 4.4）からそれぞれ0, 0.1, 0.1ポイント増
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	前年度（4.8, 4.7, 4.8, 4.8, 4.4, 4.4）からそれぞれ0, 0.1, -0.1, 0. 0.3, 0.3ポイント増 Q10 遅刻や私語に対する対応及びQ11 授業参加を促す工夫がいずれも0.3ポイント増となったが、私の方か特に指示、注意するようなことはほとんどなく、単に前年度と比べておとなしい学生が多いことが増加の理由と思われる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	Q12の理解度4.5は昨年度より0.2増であった。前年度資料を見直し、わかりにくいと思われるものについては新たに資料を追加したことも増加の理由かもしれない。 Q4で1をつけた学生が1名いるが、整合性は間違いなくとっており学生が勘違いしていると思われる。 次年度については、今年度講義をベースに新たな情報（ニュース、国試など）があれば加えて、より理解の進む講義にしたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水2

科目名　微生物薬品学

教員名　小川　由起子

回答者数／履修者数　84／99

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	4次カリより、４年前期に移行 ３次カリまでは、３年後期 3次カリ：2017:4.4, 2018:4.5, 2019:4.1, 2020:4.2, 2021:4.6, 2022:4.6 4次カリ：2023:4.7, 2024:4.8
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	4次カリから中間試験を間に挟んだ結果、集中力が今までよりも高かったように感じる。総合満足度が昨年弩よりも0.1ポイントあがり、やってきたことは間違いはなかったと確信できる。質問対応は毎授業後にアンケートや小試験の最後で記入してもらうなど実施していた結果、質問対応をしてくれるのが良かったとの意見が今年もあがった。ただ、中間試験をすることで授業日が1回足りなくなり、急ぎ足になってしまうため、次年度は中間試験を授業日と別日で設定しようと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3　2017:4.3、2018:4.4、2019:4.1、2020：4.1、2021：4.7, 2022:4.7, 2023:4.8、2024:4.7 Q4　2017:4.3、2018:4.4、2019:4.2、2020：4.2、2021：4.7, 2022:4.6, 2023:4.8、2024:4.7 Q5　2017:4.3、2018:4.4、2019:4.2、2020：4.1、2021：4.6, 2022:4.5, 20234.7、2024:4.8 昨年よりもQ3,Q4で0.1ポイント下回り、Q5で0.1ポイント上回ったことから授業内容への興味はあったもののわかりにくいところもあったのだと反省する。興味深い授業+わかりやすい授業になるように再構築が必要と考える。今後も引き続き能動的に学生一人一人が考えることのできる授業を作り上げたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	2017年度　Q6(4.4),Q7(4.5),Q8(4.3),Q9(4.3),Q10(4.3),Q11(4.4) 2018年度　Q6(4.6),Q7(4.6),Q8(4.5),Q9(4.5),Q10(4.5),Q11(4.5) 2019年度　Q6(4.2),Q7(4.3),Q8(4.1),Q9(4.1),Q10(4.1),Q11(4.1) 2020年度　Q6(4.3),Q7(4.4),Q8(4.0),Q9(4.1),Q10(4.2),Q11(4.2) 2021年度　Q6(4.7),Q7(4.8),Q8(4.6),Q9(4.7),Q10(4.5),Q11(4.5) 2022年度　Q6(4.6),Q7(4.7),Q8(4.6),Q9(4.6),Q10(4.3),Q11(4.5) 2023年度　Q6(4.8),Q7(4.8),Q8(4.8),Q9(4.8),Q10(4.6),Q11(4.6)：４次カリ 2024年度　Q6(4.8),Q7(4.8),Q8(4.8),Q9(4.8),Q10(4.6),Q11(4.7)：４次カリ コメント欄に ・授業も資料もわかりやすかった、話し方が明瞭でわかりやすい授業でした、実際に臨床ではどのように使われている薬なのかや実際の国試問題も合わせて記載していてプリントがとても見やすく、わかりやすかったですなど」があり、授業の進め方は悪くはなかったと思う。しかしながら、遅刻私語の対応で評価3が5名、評価2が1名いたということから、私語、遅刻の対応は再度見直しが必要だと考えられる。しかしながら授業を止めて注意すると時間が足りなくなり、まじめに受けている学生が不快に思う場合もあることから、対応を考える。

項目見出し	コメント
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年度から４次カリで４年生に講義ということで、学生の理解度は増し、満足度も増していると考えられる。中間試験をしたことで定期試験の範囲も少なくなったことからおおむねみんなよく勉強し平均点も高かった。昨年もお願いしたことであるが、アンケート結果をできれば成績と関連付けて出していただけると今後授業を進めるうえでの参考になるので、ぜひ対応をお願いしたい。年々国家試験に臨床的な内容も増え、さらに教える量も多くなってきているので、精査しながらかつ臨床でも使えるような授業内容にするように努力していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 金1

科目名　感染防御学

教員名　小川　由起子

回答者数／履修者数　90／99

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	2022:4.6、2023:4.8、2024:4.6 昨年度よりも0.2ポイント下がったが、概ね良好であった。 自由記述欄も、 ・どこが重要なのか分かりやすく、説明も丁寧なので理解しやすい。 ・重要なところを強調して説明していて分かりやすかった など満足度の高いコメントが多かった。 分野の垣根を越えた授業を組み立てたことが、満足度につながったと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	生物ー衛生ー治療を分野を越えて点と点が線でつながるように工夫をして演習を組み立てたことが、満足度につながったと思う。最近、薬理―治療、衛生ー治療など分野の垣根を越えた国家試験問題が出題されているので、今後分野の垣根を越えた演習は重要であると思う。 今はやりのウイルス感染症など身近なところから話を持っていった方が学生の食いつきはよいように感じた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	2022：Q3 4.6, Q4 4.6, Q5 4.5 2023：Q3 4.7, Q4 4.7, Q5 4.7 2024：Q3 4.6, Q4 4.7, Q5 4.6 身近な話題から入っていったこととゆっくり進めていったことが、良好な結果につながったと考えられる。ただ、Q3でよくないと回答している学生も1名見受けられ、どれくらいの成績をとっている学生なのか知りたいところである。。受け身の授業ばかりではなく、今後はできるだけ双方向型授業を軸にして組み立てていく必要があると考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	2022：Q6 4.7, Q7 4.7, Q8 4.6, Q9 4.6, Q10 4.6、Q11:4.6 2023：Q6 4.8, Q7 4.8, Q8 4.7, Q9 4.7, Q10 4.5、Q11:4.6 202：Q6 4.8, Q7 4.8, Q8 4.7, Q9 4.7, Q10 4.5、Q11:4.6 おおむね良好。満足のいく結果となった。話し方には十分注意しているが、今年度は明瞭であったかという問いに評価2の学生が1名いたので、明瞭に話せるように努力したい。Ｑ１０の遅刻や私語に対する対応で評価３が5名（昨年より4名減）、評価1が1名いたため、早急に対応を考えていかなければいけないと思う。 来年度も今年度のやり方を踏襲し、反省すべきところは反省し、真摯に取り組みたいと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度４次カリになり3年目の講義。昨年度の反省をもとに組み立てていったが、評価1の項目があったことは大変残念であり、反省すべき点である。毎回授業後に実施するmanabaでの質問やコメントを振り返り、できるだけ教科の垣根を越えての授業を試みたがそれが難しいと感じた学生もいた可能性もあるため、学生の成績等を見ながら授業を組み立てる必要であると考える。 今回の評価は昨年よりも悪いものの、自由記述欄にはうれしいコメントが多かった。最近の国家試験が分野の垣根を越えてのものが多いので、学生も分野を越えてのつながりを知ることでより多くのことが学べると思う。来年も学生のニーズに合わせ、さらに違った角度で演習

項目見出し	コメント
	を進めていきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 金1

科目名　感染防御学

教員名　岸原　健二

回答者数／履修者数　79／99

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	評価Q13(2023)：4.2　評価Q12(2023)：4.4 「感染防御学」は、3年生の必須科目であり、ほぼ平均的な評価であり、とくに大きな問題はなかった。昨年度の評価が、Q13(2023)：4.4であり、同じ評価であった。再履修者は、ほぼ合格しており、昨年度の懸念は払拭された。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	評価(2023→2024)　Q1：3.6→3.7； Q2：4.2→4.1 （Q1）毎回、授業後にポートフォリオ（manaba）の小テスト機能を利用して課題を出題したことで、学生の復習を促した結果、概ね復習する学生が多かったと思われる。学生のコメントかも好評であった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	評価 (2023→2024)　Q3：4.4→4.3； Q4：4.5→4.5；Q5：4.4→4.4 授業の内容に関しては、昨年と同様に概ね良好な評価であったが、「あまり良くない・あまり良くない」と回答した学生は2名であった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	評価(2023→2024)　Q6：4.4→4.3；　Q7：4.5→4.5；Q8：4.5→4.5；　Q9：4.5→4.5；　Q10：4.4→4.4；Q11：4.3→4.4 授業の方法に関しても、昨年と同様に概ね良好な評価であった。話し方に関して「あまり良くない・よくない」と回答した学生が4名であった。早口にならないよう聞き取りやすく話すように注意する必要があると感じた。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年度とほぼ同様の評価であった。全体の平均よりやや低いことから、より改善する必要を感じた。今年度は、再履修者の学生の合格率が例年よりも高かったが、特に動画視聴の学生に対する対応に関しては何らかの配慮が必要であると考えているので、今後の課題である。 今年度も授業後に動画を公開したことが、学生の復習に役に立ったと推察される。免疫学の基礎知識だけでなく、他の科目（薬理学や疾病学など）と関連する知識も加えた演習を実施していることが、学習意欲を向上したのではないかと思う。また、今後も課題を毎回出す子意図で、復習を促していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　岸原　健二

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	評価（2017→2019→2022→2024）Q10： 4.6→4.3→4.6 →4.8 今年度は、研究室ではなく講義室での実施とした。司会は教員主導で、用意されたテキスト・資料に沿った授業となった。テキストはよく編集してあり、問題なく授業を進行できた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	概ね学生の取り組む姿勢は良好であった。課題に関しても提出状況は良好であったが、取組みには個人差があったが、今年度の担当学生は概ね真面目で問題はなかった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	評価（2017→2019→2022→2024）Q2: 4.2→4.0→4.6→4.6； Q3: 4.2→4.0→4.6→4.6 よく編集されたテキストがあったので、以前より教員だけでなく学生も取り組みやすかったと思う。概ねよい評価であったので、問題はないと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	評価（2017→2019→2022→2024）Q4: 4.8→4.6→5.0→4.6； Q5: 4.8→4.3→5.0→4.6； Q6: 4.8→4.4→5.0→4.８； Q7: 4.8→4.4→5.0→5.0 すべて良好な評価を得たことにより、問題はないと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度の学生は、全般的にまじめに取り組んでおり、とくに問題は感じなかった。後期 も、学生がお互いに協力し合って、研究発表に取り組んでほしい。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　臨床生理学演習

教員名　隈　博幸

回答者数／履修者数　6／6

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今年度は過年度生のみが対象となったために少人数の登録となった。そのため（意図したものではないが）学生一人一人に細かく目を配ることが可能となり、その場での質疑応答やコミュニケーションが容易となり、結果として満足度の向上につながったと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	上述のように、少人数教育となったために学生側も居眠りや私語ができない環境となったため、必然的に受講態度が向上したと思われる。また、授業中も堅苦しい感じではなく、教養セミナーのような雰囲気で進行できたのが良かったのではないか。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業に対する興味という点で、1名の学生が低評価であった。薬学部という特性上、病態や薬物治療に興味が持てないのは致命的であるが、授業中はその態度が見られなかったために気付くことが出来なかった。来年度以降、具体例や画像、映像資料等をもっと使用することで学生の興味が持てるよう努力したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	いずれの項目も4.8〜5.0と高評価であり、特に改善が必要なものがあるとは考えていない。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本年度以降、当該科目は過年度生のみが対象となるため、少人数教育ならではの方策を考えながら授業を実施している。今年度の評価は担当教員にとっても（学生にとっても）十分満足できるものであったと思われ、来年度も持続できるよう努力したい。

アクションプランシート

2024年度前期 木2

科目名　生化学Ⅱ

教員名　黒川　健児

回答者数／履修者数　103／115

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は、2021年度以降4.5、4.7、4.3、そして今回の4.5と、全体平均並みであり、また目標としている4.0を超えて推移している。生体エネルギー産生の全範囲をコアカリに沿ってできるだけ深く掘り下げた講義内容であり、難しいと感じる学生は多いので、毎回の授業後に確認テスト、隔週で小テストを行うことで講義から脱落者を出さないよう工夫している。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の授業後に確認テストを行い、また隔週で成績評価に用いる小テストを実施しているが、講義の復習になっていると好意的に受け入れられている様子である。ポートフォリオ上では質問も受け付けている。配付授業プリントの質の向上には気を配っている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容についての3つの質問については、平均4.3、4.6、4.3と全体平均並みの評価が得られている。学生の興味を引く工夫、生化学と疾患、薬理・薬物治療学のつながりの説明等は意識して行いたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業の方法についての6つの質問については、平均が4.4から4.6と全体平均並みの評価が得られている。例年「大事なところを強調して欲しい」との意見をもらうことが多く、大事なことしか話していないと回答したいところではあるが、学生のいわんとするところには応えるよう意識している。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業内容の理解度について、5点満点中の3以下が19名、4が37名であるが、定期試験の不合格者は30名(27%)いる。学生が理解したという意識レベルより、教員側が求める理解度が高い思われるので、もう一段何を理解して欲しいのか、授業の中でも伝えたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　医薬品化学Ⅰ

教員名　小島　直人

回答者数／履修者数　75／87

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今年度から担当することになった講義であるが、95%の受講生が4以上の評価を付けていることから、概ね評価されていると考えている。次年度は授業期間中にもアンケートを実施し、満足度の向上を図りたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	パワーポイントの資料を作成したが、1枚のスライド中に含まれる情報を厳選することを心がけた結果、資料が纏まっていて理解しやすいとのコメントが多かった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	該当する項目の評価点は、4.5-4.7であり、改善が必須な項目は特にないと考えるが、最新のトピックスを随時取り入れることにより、受講生の興味を引く内容になるように努めたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	該当する項目の評価点は、4.5-4.7であり、改善が必須な項目は特にないと考えるが、受講生の授業参加を促す工夫に関する項目の評価が若干低めであったため、次年度は、より参加を促す授業に努めたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	医薬品化学は、臨床薬剤師が他職種と異なる強みを発揮できる分野の一つであり、その強みは薬剤師がこれまでに学んできた化学の知識に基づくものである。この分野の理解には有機化学の知識が不可欠であり、特にその理解が不十分な学生にとっては、暗記に頼りがちな科目となりやすい。しかし、単なる暗記では、将来直面する可能性のある新しい医薬品の化学を考える上での実践的な知識とはならない。そのため、本授業では、扱う各事象がこれまでに学んだ有機化学とどのように関連しているかを、復習を交えつつ説明することを心がけている。

アクションプランシート

2024年度前期 金1

科目名　基礎の化学

教員名　小島　直人

回答者数／履修者数　37／44

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	昨年度は、回答者の92%が４以上の評価であったのに対し、今年度は100%が４以上の評価であった。また、平均が4.9であったことから、概ね評価されていると考えている。来年度もこの評価を維持できるように努めたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	昨年度と同様に、プリント配布やパワーポイントでの資料の映写は行わず、教科書を随時参照しながら板書する形式で行うことにより、教科書を読むことやノートを取ることの重要性を意識させた。また、今年度から授業動画の配信を行った。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	昨年度の該当する評価点は4.8-4.9であったのに対し、今年度はいずれも4.9であった。改善が必要な点はないと考えており、この評価が維持できるように努めたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	昨年度のQ6-11の評価点は4.6-4.9であったのに対し、今年度は4.8-5.0であった。現時点で改善が必須な項目はないと考えるが、学生の授業参加を促す取り組みをより増やしていきたいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目は、学力別編成の上位者クラスであることから、単なる知識の習得に留まらず、なぜそのような化学現象が起こるのかを学生自身の言葉で説明できるレベルに達することを目標として講義を行った。そのため、毎回課している課題には難易度の高いものも含めている。アンケートの自由記入欄に「課題はとても難しかったが、少しずつ理解できてきているように感じる」との前向きなコメントがあった。このように感じる学生が一人でも多くなるような講義を今後も心がけたいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 金1

科目名　化学演習

教員名　小島　直人

回答者数／履修者数　40／44

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本科目の担当は２年目であるが、昨年度はアンケートを実施していない。今年度の評価は、４以上の評価が100%であり、平均が4.9であったことから、概ね評価されていると考えている。この評価を維持できるように努めたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	昨年度と同様に、プリント配布やパワーポイントでの資料の映写は行わず、教科書を随時参照しながら板書する形式で行うことにより、教科書を読むことやノートを取ることの重要性を意識させた。また、今年度から授業動画の配信を行った。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	該当する評価点は4.8-4.9であった。現時点で改善が必要な点はないと考えており、この評価が維持できるように努めたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6-11の評価点は4.7-5.0であった。現時点で改善が必須な項目はないと考えるが、学生の授業参加を促す取り組みをより増やしていきたいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本科目では、基礎の化学で取り扱った内容を題材に、演習形式の授業を展開している。上位者クラスを担当しているため、思考力を要する問題を積極的に出題している。全受講生の解答を事前に確認し、誤答の理由や不足している記述を詳細に解説することに努めている。受講生には、解答例の丸暗記ではなく、内容を正しく理解し、自分の言葉で化学的事象を説明できる力を身につけて欲しいと考えている。

アクションプランシート

2024年度前期 木2

科目名　衛生化学Ⅱ

教員名　小林　秀光

回答者数／履修者数　51／90

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	2022年度： 4.5（all）4.5（留学生以外）4.6（留学生） 2023年度： 4.5（all）4.5（留学生以外）4.0（留学生） 2024年度： 4.5（all）4.5（留学生以外）未回収（留学生） 3年連続、全体として同様な評価であった。 ただし、アンケート回収率が低かったので（56.7%）、データの信頼性に不安が残る。 アンケート回収率が低かった理由：講義最終日（7/18）の授業終了時にアンケートを取ることになっていたが、小生が新型コロナに罹患したことから土壇場で休講となった。1週間かけてWeb上でのアンケート回答を催促したが、結果的に未回答の学生が多く生じる結果となった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	３年生を対象とする必修専門科目であり、微生物系科目（病原微生物・ウイルス学、微生物薬品学、免疫学）を基礎とする応用科目であり、国家試験への出題頻度が高い重要な科目である。従って、先ず学生がこの分野に興味を持てるように、社会的に注目を集めている事例についてスライド枚数を昨年より増やして紹介した。また、出来るだけ平易な言葉を使って解説し、項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布する等して学習のサポートを手厚くしている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	2022年度：質問3：4.5、質問4：4.5、質問5：4.6 2023年度：質問3：4.5、質問4：4.5、質問5：4.6 2024年度：質問3：4.4、質問4：4.3、質問5：4.5 どの項目も昨年より0.1〜0.2低下した。一部、授業が間に合わなかったことが質問4が低下した要因と思われる。次年度はALの内容をさらに吟味したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	2022年度：質問6：4.6、質問7：4.6、質問8：4.5、質問9：4.6、質問10：4.5、質問11：4.4 2023年度：質問6：4.6、質問7：4.6、質問8：4.4、質問9：4.5、質問10：4.4、質問11：4.5 2024年度：質問6：4.5、質問7：4.5、質問8：4.4、質問9：4.3、質問10：4.5、質問11：4.4 例年とほぼ同じ評価であった。質問9の低下要因は不明。 一部の受講生がパワーポイントスライドの紙媒体での配付を望んでいるが、まとめプリントの配付で手一杯である。今後もPPスライド資料はマナバでの添付配信のみにとどめる。また、まとめプリントに十分なメモ欄を設けることを希望しているが、「まとめ」プリントがあまりに枚数が増えるのもおかしいので、学生自身がノートを作成して欲しいと思っている。 受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業にメリハリを持たせるためにPPの内容の充実（視覚に訴えるものを増加）を図っているので、受講学生の満足度を高値で維持できたと考える。来年度は、アクティブラーンニングをもっと工夫し、より多くの学生が興味を持てる分かり易い授業に取り組みたい。 この学年も昨年に引き続き、「マナバ」への書き込み（質問や感想な

項目見出し	コメント
	ど）が殆どなく、授業中においても積極性があまり感じられなかったことはとても残念である。また、アンケートの自由記述欄への書き込みも少ない。本科目の「S」及び「A」評価の成績優秀者の割合が依然として少ないので、学年全体としての総合理解度が特に低いものと考えられる。従って、ストレート卒業率や国家試験合格率が危機的状況に陥ることのないように、今後の学修支援方法は全教員がなお一層の工夫・努力が必要と思う。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　小林　秀光

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	2021年度（前期）：4.7 2022年度：担当なし 2023年度（前期）：5.0 2024年度（前期）：4.6 後期も引き続き本科目を担当するので、前期と同様、話し易い雰囲気づくりに心掛けたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法 今年はコロナ禍も落ち着いたため、全て対面で行うことが出来た。 個性の大きく異なる学生に恵まれ、ビブリオバトル等の各課題を指導していく中、各々と充実した交流ができてとても良かった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	FBアンケートの結果（質問2：4.6、質問３：5.0）は、一昨年と同様に良好であった。 殆どの学生が教養セミナーの意義を理解して、課題に真剣に取り組んでいたことが伺われる。 前期と同様、後期においても話し易い雰囲気づくりに心掛けたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	2021年度（質問4：4.9、質問5：4.9、質問6：4.7、質問7：4.9） 2022年度：担当なし 2023年度（質問4：5.0、質問5：5.0、質問6：5.0、質問7：5.0） 2024年度（質問4：5.0、質問5：5.0、質問6：5.0、質問7：5.0） 評価はとても良好であった。 真摯に学生と向き合い、どの取り組みにおいても適切なアドバイスができたと思う。 次年度も本科目を担当すると思うので、一人一人の個性を尊重して良い結果を導くように頑張りたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感（1000文字以内） 「教養セミナー」のような少人数の参加型授業に関しては、対面での効果が著しく大きい。 対面により打ち解けたことで、ビブリオバトル等の課題学習では活発な討論がなされていたと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 木1

科目名　創薬化学

教員名　佐々木　茂貴

回答者数／履修者数　89／97

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度で2評価の学生が２名いたが、5評価は49名だった。次回からは満足度の低い学生には個別の対応を検討する。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	医薬品の構造とDNAやタンパク質など作用する分子の構造を理解するためには、立体構造を理解することが重要である。講義では、分子模型を活用し、学生の理解を促した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	2評価の学生が2名いたが、多数は4評価以上だった。次年度からは少数の学生への個別対応を工夫する。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	2評価の学生が1名いたが、それ以外は概ね良好な評価だった。遅刻や私語への注意に関して3評価が21名いた。講義中は私語には気が付かなかったが、講義室の後ろ座席など目が届きにくいところで私語があった可能性があるので、次年度はこの点に配慮する。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	すべての項目で学生の満足度は高かったが、講義に対する学生の準備状況の自己評価が低かった。次年度は予め講義内容を通知して予習を促す方策をとる。また、極めて少数ながら理解度の低い学生がいるので、個別の対応について方策を検討すべきと感じた。

アクションプランシート

2024年度前期 金2

科目名　有機薬化学Ⅱ

教員名　佐々木　茂貴

回答者数／履修者数　110／120

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	やや高度な内容を扱ったが、１および2評価の学生が3名いたものの、5評価の学生が75名で、大多数の学生の満足度は高かった。次年度は理解しにくいと感じた少数の学生に対する個別指導を検討する。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	電子の動きをアニメーションで、繰り返し示すことで学生の理解を促した。還元試薬の反応性の違いを示す、実験動画を示し、直感的に理解できるようにしたのち、その化学的な根拠について詳細を説明した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	１および2評価の学生が3〜5名いたが、5評価が68ー91名と大多数の学生が内容を高く評価していた。低評価の学生には個別の対応を工夫する。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	１および2評価の学生が2〜４名いたが、5評価の学生は78〜84名でほとんどの学生の満足度が高かった。低評価の学生の課題はそれぞれ異なると考えられるので、個別の対応が必要と考えられる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業を受ける前の予習について学生の自己評価が低い学生がいるので、次年度は事前アナウンスを工夫して予習を促す。3〜5名は理解度および満足度が低いので、次年度は個別の対応を考える必要がある。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　放射線医療学

教員名　高井　伸彦

回答者数／履修者数　97／105

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	留学生を含む97名の評価として、4.8の評価があり昨年度と同様に高い評価を得ている。また満足度については、全体の95.9％が満足と評価されており、この評価が継続できるようにしたいと考えています。 2018年度、2019年度よりも満足度は増加しており、2018年度からこの講義を受け継いだが、学生が満足し理解につながる講義が実施できてい ると考えられる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	・先生が多くの知識を持っているため、とても興味深い授業を受けることができた。大切なところは繰り返してくれたため、記憶に残りやすかった。　講義ありがとうございました。 ・この講義を通して、放射線が医療においても重要な役割を果たしていることを学ぶことができた。そして、放射線の怖さについて理解することができたと思う。 ・がん治療をする時ならどうするべきかを知り、自分の両親や祖父母にアドバイスできるようになりたいと思った。 と学生からのコメントがあるように、絶えず時事ニュースや学生が勘違いしている項目を見つけては、その正誤について理解できるように講義を心がけており、講義を受講することにより将来のCBT試験や国家試験問題も簡単に解けることの満足感を与えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3-Q5のいずれも4.8であり、シラバスに則した講義編成を行っている。この評価は昨年度と同様もしくは上昇しており、この評価が継続されるように努力したいと考えています。 講義の内容について、98.3％の学生が良いと評価している。引き継いだ2018年から徐々にその評価は高まっている。Q 3-5は全ての項目で、全体平均より上回っており、良い講義ができていると考えられる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6-Q11のいずれも4.8~4.9であり、かつ評価５とする割合が評価４よりも約２倍多く存在するため、授業方法はこの方法を継続すべきと考えています。またこの高い評価は昨年度と同じである。 講義の方法について、評価５が88.1％もあり、学生が良いと評価をしており、いずれのQにおいてもオンラインの方法を含め全体平均より高く評価されていた。推移においても引き継いだ2018と比較しても良い評価がなされており、講義方法としてある程度理想形に近づいていると考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	不真面目な学生の割合が、近年留学生に多くなりつつあることを危惧しています。１年次に理解不足の学生が留年し、その学生を上位履修で受講させましたが、良い結果にはつながっていなかったことから、来年度は１年次留年生を受講させない方向で調整したほうがよいと考えています。 ・この講義を通して、放射線が医療においても重要な役割を果たしていることを学ぶことができた。そして、放射線の怖さについて理解することができたと思う。

項目見出し	コメント
	・放射線の特徴を知り、医療面でどのように活用できるか、どのようなリスクがあるのかなどが分かった。 ・放射線がどのようにして医療に用いられているのか知ることができた。 これらの学生コメントからも、理解が難しいものを知りたいと思わせる導入と、理解して覚えたことが役に立つ実感を与えてあげる講義を心がけて随時講義内容をアップデートしていることが高評価につながっていると思っています。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　高井　伸彦

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	4名中4名が評価５としており、全学平均よりも高く、学生が満足できる対応が、これまで通りできていると考えられる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	絶えずそのときの薬学的ニュース（時事的事項）について、学生に興味が持てる講話ができていると考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q2-3においても、全体的評価よりも高く、評価５であり、全学生が満足できている。この評価は、アンケートをとった年度において同じ結果である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q4-Q7においても、全体的評価よりも高く、評価５であり、全学生が満足できている。この評価は、アンケートをとった年度においてほぼ同じ結果である。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的に良い評価をしていただいたことは嬉しいが、それよりも留学生を含む学生の成績がばらつく中で、良い評価を受けていることが何よりも嬉しく思う。

アクションプランシート

2024年度前期 月2

科目名　公衆衛生学Ⅰ

教員名　長岡　寛明

回答者数／履修者数　99／105

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	授業満足度は4.5であった．昨年の4.3と比較すると小幅ながら上昇がみられる．半数以上が4以上の評価をしている．統計等は最新のデータをもとに行ったが，内容はほぼ同レベルのものであった．時事に関する内容の講義であり，国試によく出る内容で，専門性の高い講義である．本年の国家試験にも時事問題的な問題が出題されており，日々，新しい事項や統計が公表されている現状から，新しい内容を講義しつつ，学生の興味を引く内容に更新していきたい．
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	昨年同様，プリントの配布，パワーポイントの使用及び重要語句を赤字にしたこと，適当に板書するなどにより，私語の減少はみられた．また，ポートフォーリオを活用した小テスト（確認試験，穴埋め式）を実施し，理解の促進に努めた．
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容に関しては，4.3〜4.7の評価であった．この評価は昨年の4.0〜4.4と比較すると小幅ながら上昇した．内容についてはかなり専門性の高い内容であるため理解しにくいかも知れないが，薬学部の2年生であるので，理解してほしい内容である．興味に関しては，CBTだけをにらんでの講義ではなく，その後の国家試験や卒業後に必要な知識の内容を行っている．また，この分野の大半は新聞を読む，ニュースを見る（聴く）などの社会常識の範囲でかなりの部分をカバーできるものである．なので，今後も最新の話題を盛り込んだ授業をし，学生の興味を引く授業を行いたい．さらなる自己点検を実施し，よりよい講義を目指したい．
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	授業方法に関しては，4.5〜4.7の評価であった．昨年が4.1〜4.5であり，小幅の上昇がみられた．これらの結果は満足できるものであると考える．現在の日本が抱える諸問題の一部であるので，この程度の内容は学生に理解してもらいたいと思う．身近な話題を提供することで，社会の状況の理解の一助となるようにしたい．
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	ポートフォーリオを用いて，小テストを実施し，その中に自由記述欄を設け，配付資料に関して色々な意見を戴いた．改善できる点は大いに改善して，よりよい講義にしていて行きたいと思う．また，この科目の内容は，現在の日本が抱える諸問題の一部であるため，しっかりとその内容を学生に理解して，何をすべきかを考えるきっかけとしてほしい．アクティブラーニングに少しディープラーニングを取り入れたい今年度は，昨年以上の学習がなされたと思う．最終的な単位認定者は受講生の90％以上であり，満足に値するものと考える． 学生からのコメントに「表などが見やすかった．」「資料が見やすかった．」「抗議ありがとうございました．」「具体的で面白かったです」「細かいところまで解説してくださって分かりやすかった．」「

項目見出し	コメント
	難しい内容でしたが，分かりやすく教えてくださいました．」「様々な計算方法を学ぶことができた．」など多数のお褒めのコメントを戴いた．なお，お褒めのコメントに満足せず，精進したいと思っている． また，「情報処理が大変な小目の分，理解しやすい講義講義がいいと思っていますが，ごちゃごちゃしてました．」「穴埋めのところをプリントでもっと増やしてほしいと思いました」とのコメントがあった．これに対して，学生の知識習得に役立つようまとめのプリントを作成し，対応したいと思う．

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　薬理学Ⅰ（総論）

教員名　西奥　剛

回答者数／履修者数　96／120

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	概ね高評価である。本年度は講義を受講して満足した学生が多い。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	１と２を回答した学生が本年度はいない。中間試験を土曜日に実施し、かつ他の科目とかぶらないように大きく実施時期を遅らせたのが好評価につながった可能性がある。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	概ね高評価である。来年度も継続して行う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	概ね高評価である。来年度も継続して行う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概ね高評価である。中間試験の実施時期が異なるだけで評価が違うのは考えにくいので、その年の学生の雰囲気により授業アンケートの評価結果が違ってくることを実感した。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　薬局管理・経営学

教員名　早川　正信

回答者数／履修者数　77／104

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	平均と同様で良い評価である。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	より実際の薬局管理・経営に近い講義を行った。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	シラバスに沿う講義を行った。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	遅刻への対応をしていない。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	講義はより実際の薬局管理・経営に沿うように行えたので 実際の状況がよく理解できたと思える。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　早川　正信

回答者数／履修者数　4／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	全員が満足と答えているので良い講義が行えたと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教養セミナーをどう生かすか、を詳しく説明した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	多くの学生が満足しているようなので、 大きな改善は必要ないと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	項目の多くに満足しているようなので 大きな改善は必要ないと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全員がセミナーに満足しているようなので 良い講義が行えたと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 土4

科目名　生化学III

教員名　深澤　昌史

回答者数／履修者数　101／114

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は全体平均とほぼ同じで、経年比較でも過去4年間で最も高いものであった。毎時間後にポートフォリオのアンケートで丁寧に質問に答えたり、試験前には講義動画を視聴させるなど、かなり丁寧な対応を行ったためと思われる。難しい内容もあえて含めて教えているため、理解度がどうしても低くなりがちであるが、内容をより簡単にして理解度を上げれば満足度もさらに上がると予想されるが、大学の講義としては適度な難易度が必要と考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	まず、スライドの資料をこれまで4枚/ページだったのを2枚/ページとして見やすくした。また、講義後アンケートでは理解度チェック、質疑応答だけでなく、授業の感想などに対しても必ずコメントを返すようにし、常に気を配っていることを学生にアピールした。準備学習のポイントがこれまでになく高いのが今年度の大きな特徴であり、学習意欲が向上したことを示した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	自由記述を参考にするしか無いが、レジュメの情報量を増やす、要点をもっとわかりやすくまとめるなどの意見があった。これらの点については毎年少しずつ改善しているが、まだ足りないところがあると感じた。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	遺伝子の領域はどうしても後半、特に転写調節や翻訳のところが難しくなる。自分の資料だけでなく、動画サイトから参考になりそうな動画を取り入れてより視覚的な理解を向上させている。Q6-Q11の項目全てで全体平均と同等以上、また過去4年間で最高のポイントであったので、改善策は実を結びつつあると感じる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度で定年を迎えるため、最後の授業アンケートとなる。毎時間後にアンケートでわからないところを質問するようにしているが、実際に活用する学生はわずかである。理解を深める機会を与えているのにも関わらず、それを利用しないのは学生の怠慢であり、勿体ないことである。また、ほぼ全ての項目に1点を付けた学生がいたが、単なる嫌がらせとしか思えず、集計から除外すべきではないか。自由記述でも、去年は配っていないものを配ったと文句を挙げた学生が居たが、アンケート結果を受けて改善した結果であり、全く的外れと思う。授業アンケート自体、講義内容を易しくすれば高い評価になるのが常であり、教育にどの程度効果があるのか、客観的な評価が必要な時期が来ているのではないだろうか。遺伝子は難しいと学生は口にするが、

項目見出し	コメント
	模試や国試などでは遺伝子領域の正答率は全国平均と比べても常に高い方であったと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　薬事関係法規

教員名　室　高広

回答者数／履修者数　86／104

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	4.7点と昨年より0.2、一昨年より0.1点上昇した。 引き続き学生満足度の高い授業を行っていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業スケジュールがタイトでスライドもタイトに、講義も早口にならざるを得ない部分がある。 毎回、講義を録画、公開し一時停止を利用して繰返し復習できるようにした。 デジタルデバイスで受講している学生が増えてきたので、スライド配布物を従来の1頁4枚型に加え、1頁1枚のものも配布するようにした。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3-5の平均は4.6点と昨年より若干だが高い評価をもらった。 例年低かったQ5の授業内容に関する興味の点数も昨年より1点上昇した。 内容の重要性に関する説明を増やしたことが影響していると考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6-11の平均点は4.7点と昨年より0.2点上昇した。 昨年最も点数が低かった学生の授業参加を促す工夫も4.4点と上昇した。 一昨年の4.3点だった資料の適切性についても4.6点と大幅に上昇した。 前述の工夫が学生のニーズにマッチしていたと考える。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	特殊な分野であるにもかかわらず授業の方法などについては高く評価してもらった。 次年度もネガティブ意見を参考に改善し、特にこの科目の重要性の説明の強化と授業参加を促す工夫について改善方法を検討する。 準備学習の点数が最低であり昨年同点の3.6点だった。 予習テストなども検討したが、授業時間が不足気味であり困難である。 なにかしら対策を検討する。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　室　高広

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度が4.8点と一昨年より低下していた。より意欲的に授業を行いたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生と一緒になって考えるといったように目線を近づけて実施することを念頭に置いて実施したためかと思われる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q2で4点が2名、Q3で1名いた。 学習意欲や興味を向上させるような必要性の説明や話しかけを増やすなど対策を講じる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	すべて4点が1名ずついた。 すべての学生に意欲的に授業を行っていると理解してもらえるよう努力する。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	一昨年度より点数が低下していたため、改善するよう検討し、後期以降の講義に活用する。

アクションプランシート

2024年度前期 月2

科目名　薬物治療学Ⅱ

教員名　山口　拓

回答者数／履修者数　50／114

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本年度・本講義の理解度は4.3、満足度は4.3 であった。昨年度とほぼ同様であるが、本アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントの作成方法など、さらなる向上に努めたいと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	例年のように、可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作成し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。また、単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaシステムを活用した解答情報の提供を行うことによって事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらに講義内容に関する補助資料（疾患ガイドラインや重要薬・新薬の添付文書など）についてManabaシステムを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。これらの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、講義前にそのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目・分野の事前学習（予習）を促したことから、学習理解の向上や記憶固定の動機付け、受講態度・学習意欲等の向上に貢献していたと考える。今年度も成績評価の10%に相当する課題として10回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。さらに、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供し、復習としての事後（自宅）学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えている。 今後も継続する予定である。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問3：4.3、質問4：4.3、質問5：4.4であり、昨年度と比較して微減したが、さらなる向上に努めたいと思う。昨年同様にクオリティの高い教材作りと質の高い動画の選択を心がけたいと思う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	質問6：4.３、質問7：4.4、質問8：4.3、質問9：4.3、質問10：4.4、質問11：4.4であり、昨年度と比較して微減しているが、さらなる向上に努めたいと思う。全ての講義を毎回録画して、その講義動画を2週間限定で「見逃し配信」として学生に提供、また、定期試験1ヶ月前から全ての講義動画をオンデマンド限定配信した。この講義動画配信は、復習を兼ねた事後（自宅）学習および講義内容の反復学習を促したことによって、学習理解の向上にかなり寄与したと考える。今後も継続する予定である。
（5） 授業アンケート評価を	本年度・本講義の理解度および満足度は、昨年度からそれぞれ微減し

項目見出し	コメント
受けての授業担当者の所感	ていたが、大きな変化はないと捉えており、さらなる向上に努めたいと思う。 一方で、毎年の課題であるが、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量（新薬情報や診断･治療ガイドライン改訂に伴う新規の薬物療法など）が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習で必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。これが一部の学生における不満要因となって理解度や満足度にも若干反映されていると思われる。本件はカリキュラムの改訂を含めて対応する必要がある喫緊の課題であると考えている。 講義内容については次年度もさらに最新の情報（新薬情報や新しい薬物治療ガイドラインなど）に更新し、これを取り込むことを念頭に、さらなる向上に努めたいと思う。次回の講義プリント配布および「診断･治療ガイドライン」のManabaでの提供が学生の学習理解の向上に貢献していることから、今後も積極的に講義に取り入れたいと考える。また、全ての講義を録画して、その講義動画を「見逃し配信」として学生に提供することができ、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。さらに、この講義動画をオンデマンド配信している現状を活用して、定期試験前に15回全ての講義動画を限定配信したことは、復習を兼ねた学習理解の向上にかなり寄与したと考えられ、今後も継続したい。少なくとも、このようなアンケートによって学生の要望を把握して真摯に受け止め、取り込み可能な講義内容に関する案件は次年度の講義に活かしたいと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 木2

科目名　薬化学総論

教員名　山口　泰史

回答者数／履修者数　85／93

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	・本年度4.7であり、例年よりすこしよかった。 ・演習形式の授業できるだけ取り入れ、授業内容の理解を促す。 ・1年前期ということで到達目標を減らし、かつ明確化にする。 ・高校時代に化学未履修である学生がいる等、入学してくる学生の質が均一ではないことは、分かりきっている。この事実を受け、他の教員と協力し基本スキルの向上を促しながら授業を進めていく。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	・授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。 ・１年前期の授業の内容が、国家試験に出題されることを強調した。 ・学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら（低学年の学生に有効と判明している）板書のみで授業を行った。 ・90分授業の途中に、1ー2分の休憩を挟んだ。（授業後半に対する集中力が増した） ・MIT化学科で推奨されている勉強方法を昨年に引き続き推奨した。 ・有機化学に対するMotivationを考慮し、医薬品との関連事例を各章で示した。 ・科学史上重要な発見が行われた欧米の有名大学の話をした。 ・今年も昨年に引き続き、4月から約40名の学生に対し、週1回補習授業を行った。その成果があり、定期試験において、不合格が11名のみであった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	・4.５ー4.7で、ポジティブな評点が多かった。 ・本科目は基礎科目であり、コアカリキュラムから、内容を変更することはできない。 ・基礎の理解が得られるまで、根気よく授業を行う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	・4.6ー4.8で、ポジティブな評点が多かった。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	・有機化学の内容・範囲と授業のスピードを考慮すると、学生間に理解度の差があり、ばらつきある結果は必然であろう。 ・40人程度の学生に対し、週1回の補習授業を行った。有機化学の理解に対して効果はあったが、教員への依存が強まったように思う。自主的に自力で勉強させる方法はいまだ不明である。 ・学生のレベルは一定ではない。しかし、有機化学は、薬剤師への道

項目見出し	コメント
	で避けて通れない。根気よく授業を進める。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　山口　泰史

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	平均4.6で、学生は興味をもったようだ。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	全学的に行う教科であり、自由度がほとんどない。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	平均4.8で、学生は興味をもったようだ。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	平均4.7で、それなりの評価だったようだ。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	前期の場合、全額そろってのカリキュラムになる。そのため自由度がほとんどない。学部ごとにカリキュラムを弾力的に構成しても良いと思います。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　医薬品化学Ⅰ

教員名　淀　光昭

回答者数／履修者数　73／87

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度の評価の推移は、H26年度3.9、H27年度3.4、H28年度3.9、H29年度3.7、H30年度3.9、R01年度3.8、R03年度4.3、R04年度4.4、R05年度4.5、R06年度4.4で、前年度より僅かに低下したがこの3年はほぼ同じ評価である。R04年度から配布資料の1ページに配置するスライドを4枚から2枚に変更しており、文字と図表が大きく見やすいことが、満足度維持につながっていると考える。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	Q1&Q2の評価平均の推移は、H26年度 3.55、H27年度 3.50、H28年度 3.45、H29年度 3.65、H30年度 3.95、R01年度 3.55、R03年度 4.0、R04年度3.9、R05年度4.0、R06年度4.0で、R03年度からの4年間はほぼ同じ評価である。R02年度より、授業の前半と後半それぞれの最後に授業内容のポイントを確認する5分程度の小テスト（manaba）を実施している。また、小テストの内容を含む確認問題とその解答・解説をその日のうちにmanabaにアップして復習ができるようにしている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3〜Q5の評価結果の平均は、H26年度 3.97、H27年度 3.50、H28年度 3.93、H29年度 3.77、H30年度 3.97、R01年度 3.87、R03年度 4.33、R04年度4.43、R05年度4.53、R06年度4.37であり、前年度より有意に低下した。授業内容の見直しを行いながら、配布資料には理解を助けるよう出来るだけ図を入れ、ポイントをまとめることを心掛けたが、評価結果の向上には至らなかった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6〜Q11の評価結果の平均は、H26年度 4.13、H27年度 3.45、H28年度 4.07、H29年度 3.83、H30年度 4.12、R01年度 3.92、R03年度4.35、R04年度4.48、R05年度4.43、R06年度4.50であり、前年度よりわずかに向上した。授業を前半と後半に分けて行い、それぞれの内容に関する小テスト（manaba）を実施して授業内で復習する機会を与えたのが良かったと考える。また、意識してゆっくり滑舌よく話をするように心掛けたことも評価向上に寄与したと思われる。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	Q1〜Q13の平均評価はR03年度4.27、R04年度4.35、R05年度4.38、R06年度4.35と、前年度より僅かに低下したが、ここ2,3年は全体的に評価ポイントは向上している。各授業の前半・後半の最後にmanaba小テストを実施し、昨年度から配布資料を1ページ2スライドに変更し、大きく見やすい資料になったことが評価向上に寄与したと考える。本科目を担当するのは今年度が最後である。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　疾病学Ⅱ

教員名　太田　一寿

回答者数／履修者数　75／94

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度「4.6」とまずまずの評価をいただいた。 本授業は扱っている内容が難解で、その範囲も広く、期末試験は約半数が再試となる高難易度と学生から好まれる要素が少ない状況を考えるとかなり健闘していると自己評価している。 自由記述に評価形式に関する不満等が書き込まれており、これらに関しては授業開始前に十分な説明を行うことで対処したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	動画視聴→要点記入→補足説明→章末問題の形式を繰り返すことで受講生の集中力が切れないように工夫している。 manaba掲示板を利用した課題→添削に関しては、個別理解度の推定や講義内容の補足・修正など重要な役割を果たしており、今後も継続していきたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	「4.6, 4.7, 4.6」と高評価をいただいた。これを継続していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	軒並み高評価をいただいた。これを継続していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	特になし

アクションプランシート

2024年度前期 火5

科目名　統計学

教員名　神谷　誠太郎

回答者数／履修者数　15／15

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	昨年度の授業満足度は4.3、本年度も4.3であった。数字的には同じであるが本年度は参加受講生が１５名とこれまで８０名以上いた場合と状況が大きく異なっている。今回は少人数で行ったにもかかわらず評価が高くなかったと理解している。問題を提示し、その間に教室を回り手の止まっている学生に指導するスタンスで行った。そのため理解の遅い学生は遅まきながらも、次第に理解が深まっていったことを実感していた。 しかし、お友達から聞いて解答をしている学生は見抜けなかった。そこが今後の課題となると考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	少人数で行ったので、彼らが演習問題を解いている間回って、解説を行った。 ペンが止まっている学生に積極的に声をかけていたら、始めは理解が乏しい学生が少しずつ問題が解けるようになり、積極性も増した。少人数制のアドバンテージを感じた授業であった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業が良く得編成されまとまっているとの評価を得たことは、今後の自信になりました。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	９の板書や機器の使用は適切でしたかの項目は4.3と低評価であった。 問題を解く必要があることから、板書で行う機会も多いため、やむを得ない面もあるかと思います。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本年度から平均的に８０名ぐらい参加していた薬学部の学生の出席はなくなったことで、健康栄養学部や社会福祉の学生が受講していた。薬学部の学生と異なり、一部の学生が内容を理解するのを苦しんでいるように感じられた。多くの学生は難しく感じることなく受講しているようであった。人数が少ないために問題を提案し解いている席に行き、一緒に解くことで理解力が飛躍的に上昇した。この方法は続けていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　神谷　誠太郎

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	教養セミナーの評価が4.2と例年より低い値となった。満足感が得られなかったことは残念に思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教養セミナーなので、気楽に参加する講義であると考えるので、学習意欲を高めるような工夫は行なわなかった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	セミナーの内容に関しては例年通りの評価であった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	例年と比較して低い結果であった。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	楽しい雰囲気で行えればよいので、その状態は達成できたので一定の満足はしています。

アクションプランシート

2024年度前期 木1

科目名　医薬品安全性学

教員名　神田　紘介

回答者数／履修者数　11／12

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	過年度生のみのクラスであり、理解度や満足度に不安はあったが、満足度は4.4と比較的良好な評価であった。 昨年度は4.2であり、若干改善した。また、昨年の課題であった留学生（3人）は5.0を付けてくれ、満足してくれたものと思われる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	内容は重要なもののみに絞り、繰り返し、丁寧に説明を行った。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	昨年度は3.9-4.3であったのに対して、今年度は4.3-4.5であり、多くの学生は満足していた。 扱う範囲が幅広く、まとめるのが難しいが、可能な限り関連付けるなどして工夫を行う。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	概ね良好だが、遅刻の学生対策が課題である。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	過年度生のみの講義であり、また、3年生の上位履修者や6年生の未修得者がいるなど、ターゲットが絞りにくい特殊な講義である。 また、講義で扱う幅も広く、まとめるのが難しい。 その中でも満足度は4.4であったのは、うまくやったのではないかと思っている。 来年度はさらに人数が減る予定である。履修対象者が決定してから、講義の方法を考えたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月3

科目名　分子生物学

教員名　田中　宏光

回答者数／履修者数　74／86

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	昨年よりポイント後上昇し3.9であった。以前より確立した遺伝子組み換え技術に関して理解を深めるのに時間がかかり、新たに加わった技術に関しての理解にあまり時間がさけなかった。遺伝子組換え医薬品に関しても、確立した医薬品までに時間がかかり、新しい技術の理解に時間が取れなかった。３年生の学生が国試を受けるまでに、これらの新しい技術は確立し、国家試験にも出題される可能性がある。ゲノム創薬でその部分は説明することにとした。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	私の分子生物学の評価は、毎年３の後半で、良くない。しかし、国家試験の本分野は全国の平均を上回っていることを考えると、後の国家試験対策において心に残っているものもあるものと考え、毎年講義の構成に気を使っています。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	コメントでいただいた以下の点について、注意を配りたい。 ・資料が分かりにくかったです。 ・説明や話が分かりにくかった ・何の話をしているのか、どこを覚えたらいいのか分からなかった。 ・何を説明したいのかが全くわからないし何を理解して欲しいのかがわからない。 ・復習するべきポイントが分かりずらかった。 ・定期試験に向けて重要な部分を教えてほしい ・講義資料の図が大きくて見やすい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	今後もこれらの項目に関して気を使いより分かりやすい講義にしたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	国家試験の分子生物学関連の私たちの大学の得点率は前項平均より良いので、国家試験の得点を下げないようにコメントや評価を受け止めて、講義に関してよく熟慮して臨みたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　基礎の生物学

教員名　田中　宏光

回答者数／履修者数　19／23

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	生物学に関する知識に関して、幅広い重熟度の1年生に対して、なんとか満足できる内容の講義を行うことができた。来年はどのような学生と出会うことになるのか楽しみにしています。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	シラバスに従い、生活の中にある生物学について取り上げて解説し、いつも気が付かないが重要と考えられる生物学について講義を進めた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	１年生で生物学に関する幅広い習熟度の学生に関して、また、留学生に関してできるだけわかりやすく解説を進めたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	日本語になれない留学生にもわかりやすく進める。また、できるだけ興味を引き付ける内容を提供したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	毎年、生物に関する習熟度が幅広く、留学生も存在する可能性のある講義である。毎年の学生に合わせて興味を引くように、講義の内容を工夫して進めたい。来年も最も若い大学生に出会うことを楽しみにしています。

アクションプランシート

2024年度前期 金1

科目名　ゲノム創薬学

教員名　田中　宏光

回答者数／履修者数　83／98

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	ゲノム創薬に関する新しい発見と臨床応用は目覚ましく、アドバンスの講義として毎年の新しい話題を取り上げています。現在も議論の分かれている、様々な種類のコロナワクチンに関する知識、子宮頸がんワクチンなど、薬学生に満足できる講義であることために努めたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	国家試験の勉強の合間にも、最新の話題を提供するように努める。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	国家試験対策に追われている学生に対しても、最新の科学の進展をもとにした講義として興味を引けるように努めたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	最新の話題を理解するための基礎の知識の不足に関する勉強について、過去問などを用いて解説を加えるように講義の構成を再考するために、仕事の割り振りから時間を捻出し取り組むように努力する。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	記述意見を読んでほっとしてる。国家試験のバイオ分野の得点率は、私たちの大学は平均以上である。 これからも合格率に貢献できるように講義を進めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　田中　宏光

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	以下のように記述意見だった。 ・前期の授業真面目に楽しく受けることができてよかった ・大学のことをよく知れてよかった。 ・何か疑問があった時に、質問すると分かりやすく教えてくださってとても助かりました。今まで知らなかったことを知るきっかけになって、とても面白かったです。 新しい学生と出会うことを楽しみにしています。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	勉強対する意識が幅広い中で、セミナーを進める中で、それぞれの学生個人の勉強や状況に合わせて指導し、今年もセミナーの皆で大学祭に出店するまでうちとけることができた。後期も問題なく進めたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	これから専門の講義も入り、薬学部卒業に向けて大切な時期である。しっかり勉学に励むように指導したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	教養セミナーや大学祭出店をとおして、自分の意見をまとめ、話し合う態度を習得するように指導を進めたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	後期もセミナーでの出会いが良いものになるように、学生一人一人に必要な意見するように進めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 木1

科目名　臨床栄養学

教員名　出口　雄也

回答者数／履修者数　84／85

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は4.7であった。2022年は4.7、2023年は4.7であったので、例年通りの満足度が得られた。授業は自由記述などを反映しながら毎年改善している。今後も高い水準を維持していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	受講態度（Q2）は4.3、学習意欲（Q1）は3.7と、過去2年と全く同じであった。授業後にmanabaを用いて小テストを実施しており、その結果は成績にも反映している。そのため、小テストに取り組むためにも毎授業の復習を促しているが、小テストを未提出の学生もおり、実際にQ1で「1」と回答した学生が4名いることが残念である。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3〜Q5は4.6〜4.7と、過去2年とほぼ同じであった。授業内容はできる限り最新の情報をアップデートし興味を持てるよう心がけているが、Q5で「2」と回答した学生が1名いたのは残念である（過去2年は全員3以上）。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6〜Q11は4.5〜4.8と、過去2年の4.6〜4.8と比べ0.1ほど低下している項目が多かった。しかし、多くの学生が4以上と評価していること、自由記述欄でネガティブな感想がないことから、特に問題と感じていない。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業内容はわかりやすくなるよう毎年改善しており、満足度は過去2年の4.7と同じであったことは良かったものの、理解度が4.3と過去2年の4.5と比べて低かった。定期試験の不合格者も例年と比べて多かったため、学力の低下が懸念される。授業後にmanabaで小テストを実施しており、その際に自由記述欄を設けているが、自由記述欄への記載がこれまでで一番少ない学年であり、正直なところ、学生の熱意を感じられないことが多かった。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　基礎の生物学

教員名　藤井　佑樹

回答者数／履修者数　41／43

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13 の問いに関して4.7の評価を得ることができたため概ね満足してもらえたのではないかと思う。今後も生物学のビギナーに学びやすい講義にしていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	レジメに写真や絵を挿入することに加え、暗記項目には語呂を入れるなどの工夫を行った。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業は良く編成されていたとの評価を得ることができた。授業に興味を持ってもらえるように生物学の内容をより食品や栄養素につなげて、イメージ作りに役立てたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	配布プリントの使用は概ね適切であった評価を得ることができた。来年度も高評価を得られるようにプリントのマイナーチェンジを行いこまめに行いより良い資料作りを行っていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大まかな解説＋雑談＋休憩＋確認課題を講義に取り入れることで生物学のハードルを下げることに成功したと感じた。確認課題の内容を見直すなど、生物学の知識の定着に役立てるように来年度以降も講義の内容を工夫していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　藤井　佑樹

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今後も楽しいセミナーになるように明るい雰囲気作りをしていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	楽しいセミナー作りが学習意欲の向上につながると感じているので、ゆるいセミナー作りを行った。特に薬学科は進級条件が厳しいため、当該科目にゆるさをつけ緩急つけた内容が専門科目の学習意欲向上につながると信じている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	学ぶことに興味・関心を持ってもらえた。今後も良い雰囲気作りに努めたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	今後も良い雰囲気をベースに教養セミナーを行っていく。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	教養セミナーをきっかけに横のつながりを作ることができたので、非常に良かった。後期も良い雰囲気で教養セミナーＢを行えたらと考える。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　基礎の生物学

教員名　藤木　司

回答者数／履修者数　32／33

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	講義に対する満足度が4.8と全体の平均レベルを上回ることができたが、ほぼ目標としていた数値となった。自由コメントにもあるが、さらにわかりやすい授業を目指し、講義におけるスピードや学生の理解度を見ながら進めていくなどの対策により丁寧な講義として受け止めてもらえるようさらに創意工夫した内容で授業を展開したい。今後の検討課題として次年度に向けてより一層の満足度が得られるように努力したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義中に双方向で学習の理解度を図るためにresponの導入、授業中アンケートを採りながら進めたがその点についてはある一定の評価を得たと感じる。講義内容に関わるトピックを織り交ぜながら展開するように意識した構成としたのも評価につながったと感じる。資料づくりについては見やすく、わかりやすくを徹底して、わかりにくいところさらに改善するように努めたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	講義の内容についてはシラバスに沿って進めた。それについては学生から一定の評価を得たように感じる。今後はより興味を持てるように内容を工夫していきたい。薬剤師国家試験対策へ寄与する内容、演習問題に関してもアップデートしながら対応していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	自由記述コメントより資料に関する良い評価を得られた部分もあるが、昨年度よりもさらに授業資料などは極力文字を大きく、書き込みができるようにスペースを作るなど学習効果を上げられるように配慮した。また、なるべく事前に資料を配布することを心がけた。資料については自由記述にあるように効果的であったと感じるが、より一層の修正とアップデートを行いさらに改善に努めたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	講義に対して十分に準備をして臨んだつもりであったが、本年度は昨年度と比較して、ポイントが上昇したので、様々な授業を実施する上での工夫が学生の理解につながるような効果があったのではないかと考える。逆に講義内容が多くなり説明や進め方が一部の学生にとっては少々早いと感じることがあったようで、次年度は講義における重要なポイントをより明確にして、端的にわかりやすく進めていけるように準備、実施したいと思う。さらに理解度を測るアンケートやテストを講義内に導入できればさらに学生への理解度に関するフィードバックが可能となると考える。一層の努力に務めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 土3

科目名　分子生物学

教員名　藤木　司

回答者数／履修者数　70／86

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	講義に対する満足度が4.５と全体の平均レベルを上回ることができたが、目標としていた数値には届かなかった。。自由コメントにもあるが、さらにわかりやすい授業を目指し、丁寧に説明することで理解度を高める努力をしたいと考える。一方、講義におけるスピードや学生の理解度を見ながら進めていくなどの対策により丁寧な講義として受け止めてもらえるようさらに創意工夫した内容で授業を展開したい。今後の検討課題として次年度に向けてより一層の満足度が得られるように努力したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義中に双方向で学習の理解度を図るためにresponの導入、授業中アンケートを採りながら進めたがその点についてはある一定の評価を得たと感じた。講義内容に関わるトピックを織り交ぜながら展開するように意識した構成としたのも評価につながったと感じる。資料づくりについては見やすく、わかりやすくを徹底して、わかりにくいところさらに改善するように努めたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	講義の内容についてはシラバスに沿って進めた。それについては学生から一定の評価を得たように感じる。今後はより興味を持てるように内容を工夫していきたい。薬剤師国家試験対策へ寄与する内容、演習問題に関してもアップデートしながら対応していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	自由記述コメントより資料に関する良い評価を得られた部分もあるが、昨年度よりもさらに授業資料などは極力文字を大きく、書き込みができるようにスペースを作るなど学習効果を上げられるように配慮した。また、なるべく事前に資料を配布することを心がけた。資料については自由記述にあるように効果的であったと感じるが、より一層の修正とアップデートを行いさらに改善に努めたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本講義に対して十分に準備をして臨んだつもりであったが、本年度は昨年度と比較して、ポイントが下降したので、様々な授業を実施する上での工夫が学生の理解につながっていないものがあったのではないかと考える。逆に講義内容が多くなり説明や進め方が一部の学生にとっては少々早いと感じることがあったようで、次年度は講義における重要なポイントをより明確にして、端的にわかりやすく進めていけるように準備、実施したいと思う。さらに理解度を測るアンケートやテストを講義内に導入できればさらに学生への理解度に関するフィードバックが可能となると考える。一層の努力に務めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　藤木　司

回答者数／履修者数　4／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	講義に対する満足度が4.8と全体の平均レベルを上回ることができたが、ほぼ目標としていた数値となった。自由コメントにもあるが、さらにわかりやすく楽しく学ぶ環境が整えられるよう目指し、セミナーでの交流やコミュニケーションをお互いが高められるような創意工夫をしていきたい。講義におけるスピードや学生の理解度を見ながら進めていくなどの対策により丁寧な講義として受け止めてもらえるようさらに創意工夫した内容で授業を展開したい。今後の検討課題として次年度に向けてより一層の満足度が得られるように努力したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	教養セミナーで学ぶ内容について、これまでの経験や知識を動員して、年間を通してしっかりと学べるような内容を作っていきたい。講義内容に関わるトピックを織り交ぜながら展開するように意識した構成としたのも評価につながったと感じる。資料づくりについては見やすく、わかりやすくを徹底して、わかりにくいところさらに改善するように努めたい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	講義の内容についてはシラバスに沿って進めた。それについては学生から一定の評価を得たように感じる。今後はより興味を持てるように内容を工夫していきたい。薬剤師国家試験対策へ寄与する内容、演習問題に関してもアップデートしながら対応していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	自由記述コメントよりセミナー雰囲気に関する良い評価を得られた部分もあるが、昨年度よりもさらに授業資料などは極力文字を大きく、書き込みができるようにスペースを作るなど学習効果を上げられるように配慮した。また、なるべく事前に資料を配布することを心がけた。資料については自由記述にあるように効果的であったと感じるが、より一層の修正とアップデートを行いさらに改善に努めたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	次年度は講義における重要なポイントをより明確にして、端的にわかりやすく進めていけるように準備、実施したいと思う。さらに理解度を測るアンケートやテストを講義内に導入できればさらに学生への理解度に関するフィードバックが可能となると考える。一層の努力に務めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　生化学III

教員名　藤本　京子

回答者数／履修者数　98／112

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今年度の満足度は、4.7であり概ね好評であったと思われる。授業アンケートにおけるポイントは、学年のカラーによるところが多いので、今年度の学生は好意的な学生が多かったのではないかと思われる。好意的な学生が多いと、授業の雰囲気もよくなるので、相乗効果が生み出されたのであろう。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業の内容は一年生の時に比べると難しくなってきているが、意欲的に授業に取り組む学生が多く見られた。座席も前の方から座る学生が多く、学生一人一人の顔を見ながら授業をすすめることができた。授業は学籍番号のルーレットを作成し、ランダムに当てていくようにした。当てられた学生は一人で考え込まず、周囲の学生と協力して解答するようなルール作りをした。そのため、発言することが苦手な学生も取り組めたのではないかと思われる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	パワポの表示が小さいとの意見があるので、なるべく大きな文字に変更するよう努めたが、スライドによっては一枚に納めたい内容があるので、仕方がない部分がある。その都度、拡大表示をして見せるような努力は試みた。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	これまで通り、真摯な態度で学生と向き合い授業を行っていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	学年の雰囲気は毎年異なる。クラスの雰囲気は、大学生活においても非常に大きなウエイトを占めていると思われる。勉強や成績のプレッシャーばかりを感じることにならないよう、楽しい雰囲気で授業を展開し、周囲の人と協力しあうことを次年度以降も授業の中に取り入れたいと思っている。

アクションプランシート

2024年度前期 金2

科目名　有機薬化学Ⅱ

教員名　山田　耕平

回答者数／履修者数　99／120

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は全体平均と同等の4.5となり、前回と同様である。頭打ちしている状況であるが、向上策としては、もっと講義中の演習を増やして簡単な問題ももっと足すことで、【できた】【わかった】の体験を増やす。演習を増やすと講義が圧迫されるが、時間配分の最適化を目指す。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	宿題の内容を変更した。これまでは問題集の演習のみであったが、解答を写しているだけの学生が相当数いると感じた。提出状況は良いため、よりよい勉強法に切り替えさせる必要性を感じた。そこで演習のみならず、授業のまとめを文章で書くことを追加した。文章にするためには考えて読み込まねばならず、結果として質の良い勉強になったのではないかと考える。実際、例年に比べて中間試験・定期試験ともに平均点は最高点であった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3は4.6、Q4は4.7、Q5は4,6で平均以上であった。昨年度は、Q3は4.5、Q4は4.5、Q5は4.5であったことから、向上したと考えられる。更なる改善点としては、もう少し基礎から応用までの流れを詳細に説明する資料を足していきたいと思う。有機化学はこれまでの学習内容の積み重ねがないと、新しい内容は全くわからないので、学習の穴を埋めるような資料を作成していくつもりである。また、薬学における有機化学の立ち位置は、反応の勉強だけではわかりづらく、何のために勉強しているかわからないと感じる学生がいると思うので、応用例を適宜紹介していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6:4.7, Q7:4.8, Q8:4.7, Q9:4.7 Q10:4.7, Q11:4.7と全体平均よりおおよそ上であり、昨年度（Q6:4.6, Q7:4.6, Q8:4.6, Q9:4.6 Q10:4.5, Q11:4.5）と比較しても全体的に向上したと言える。一部の低評価の学生（おそらく私の講義に全くついていけない学生）に対してどのように対処できるかは、匿名のアンケートではどうしようもない。今後もこちらの熱意が伝わるように取り組んでいきたい。字が汚いとの指摘があり、これは自覚しているので、もっと丁寧に書きたいと思う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	昨年度の有機薬化学Ⅱのアンケートと比較して全体的に評価は向上したと思う。多くの項目で平均値を超えたことは、モチベーションのアップにつながる。学生のコメントから推察すると、資料のわかりやすさや質問対応などが評価向上につながっていると思う。しっかりとお膳立てすれば多くの学生はこなしてくれると思う。そのためには入念な授業準備が必要であると感じた。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　山田　耕平

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度の平均は4.8で全体平均程度となった。今後とも精進していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	様々なWorkの際に、今やっていることが、どのような成長につながるかを説明すると、取り組みへの真剣さが増したと感じたので、取り組みの理由を説明は重要であると思う。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q2は平均4.4、Q3は4.8と、全体平均程度であった。やる内容は決まっているので、もっとエンカレッジしていきたい。内容が簡単すぎて、つまらなそうな学生はいた。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q4:5.0, Q5:4.8, Q6:5.0, Q7:4.8,と全体平均程度であった。今後もしっかりと行っていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	一年生の初めの授業であるので、最も大事なのは課題を通した教員学生間、学生間のコミュニケーションだと思う。 アンケートでは ・セミナーを通して、先生へのメールの送り方や、レポートの書き方を知ることができて良かったです。また、友達のいいと思ったところを自分の中でも取り入れたいと思います。 ・資料を先生が準備されていてとても助かりました とあったので、今後も大事にしていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　基礎の生物学

教員名　石原　知明

回答者数／履修者数　58／60

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	ほとんど全ての学生さんにとって満足度の高い講義が展開できたと考えている。コメントを見てもよく理解できた、面白かった、楽しかった、復習がしやすかったなどの意見があり、今後も大きな方向転換は必要なく、同様の方法で授業を進めていきたいと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	・映像資料（アニメーション）を使用し、生体内での起こっていることをより鮮明にイメージできるようにした。 ・教科書の図を中心に解説した（教科書だけでは理解できなかった部分を噛み砕いて説明することで、理解につながり、自分自身で復習する際に役に立った、などのコメントあり）。 ・質問を募集して授業の冒頭で全員に向かって解説した（他の人の質問を解説することで、自分があまり分かっていなかったところの理解に繋がった、自分が気づくことができなかったことを知ることができた、などのコメントあり）。 ・授業のはじめに確認テストを行い、復習が確実に行われるようにした（今年度から新たに始めた取り組みであるが、効果はあったと考えている）。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	ほとんど全ての学生さんが５もしくは４という結果であり、内容面では充実したものが提供できたものと考えている。生物の未履修者にも生物に興味を持ってもらえるように、身近なところや薬に関連するようなネタを散りばめ、最後まで授業に集中して取り組んでもらえるように工夫した。次年度も新しい工夫を取り入れ、充実度を増していきたいと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	いずれの項目もほとんどの学生さんが５としているので、大きな問題はないと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	例年通り、ほとんどの学生さんにとって満足度の高い授業が展開できたのではないかと考えている。来年度もより高い満足度が得られるように工夫して授業を展開していきたい。今年度から新たに始めた確認テストは、良い復習の機会を提供することにつながったと考えているので、他の授業でも実践していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　石原　知明

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	全ての学生さんが５あるいは４の評価をしていたことから、満足度の高い授業が展開できたと考えている。授業の内容として薄いと思われる部分があるので、独自の課題を与え、考える時間を増やしたことは満足度の向上に役立ったのではないかと考えている。次年度はより内容を強化したものを準備したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	高井頻度で、学生からの意見を集め、随時ディスカッションを行った。序盤は私が主導するところから始めたが、徐々に慣れてきたようで、活発な議論が広がることもあり、楽しさを感じてくれているのではないかと思っている。 また、私のこれまでの経験から、学生のうちにやっておいた方がよいこと、将来役に立つ（と思われる）ことを折に触れて伝えた。特に、他の大学の学生についての情報を伝えたことは良い刺激になったのではないかと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	回答状況では、全員に対して比較的高い満足度出会ったことが伺える。セミナーの教材はかなり易しい内容であるので、もう少し歯応えのある課題を準備したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	回答状況から、多くの学生に対してかなり高い満足度であったことが伺える結果である。今後も、熱意をもって指導を行っていきたいと考えている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	総じて、学生さんの満足度の高いものが提供できたと考えている。以前に本科目を行った経験から、今回は独自に課題を準備して授業を展開したことは、高い満足度に貢献したのではないかと考えている。次年度も、さらに興味のわく課題を準備して臨みたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　基礎の物理学

教員名　榎本　彩乃

回答者数／履修者数　29／30

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	比較的満足しているとの結果を得られたと思う。例年と同程度である。科目的に苦手としている学生が多い以上、これ以上満足度を上げるのは難しくも思うが、今後の学習の上で物理科目が嫌いにならないよう、もう少し実際の生活や、薬学の現場と結びつけた話ができるような工夫をする。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	練習問題を丁寧につくりこんだ。通常課題以外に、書き込み式で自習できるようにしており、また解答も昨年よりも手厚く作成した。高校時代物理が苦手だった学生にも取り組みやすいように配慮した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容については決まっているので変えようがないが、興味を持てない学生もいたとのことなので、何の役に立つのか紹介しながら必須項目を教えていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	話し方が明瞭でなかったようであり、自覚はあるので、講義前に話す内容を吟味し、明瞭に話せるよう訓練をする。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	例年と同程度の評価であり、上りも下がりもしなかったように思う。やはり、物理というだけで苦手意識を持つ学生が多いこと、基礎的な数学力が著しく欠如している学生が多いことから、物理だけではなく数学の基礎からのケアも必要であると考え、今後は物理をスムーズに理解できるようにするため数学の基礎的な講義も含めていきたいと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 土3

科目名　調剤学

教員名　大久保　伸哉

回答者数／履修者数　68／103

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度の評価結果の平均値は4.8（前年4.6）であったことから学生の満足度は低くはなかったと考えられるが、4点評価が約15％（前年28％）、3点評価が約4％（前年6％）いるので、改善すべき部分は少なくないと考えている。私の講義では「輸液の計算」という、学生にとっては苦手意識を持ちやすい領域を教えている。ゆえに、理解が必要な部分に対しては多くの時間を使いながら説明する一方で、計算過程の詳細な解説は、講義内では十分に行えていない（説明が足りない点に関しては、別の演習系の講義時にしっかり説明している）。その説明不足が、4点以下をつけた約19%の学生の不満足につながったのではないかと考えた。今後は、その説明の部分にも十分に時間を使えるよう、講義の流れおよび時間配分に気を配り、さらには説明に用いるセリフを洗練していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	本講義は、90分間に対してかなり多くの学習項目が詰まった内容となっている。そのため、私語や居眠り等は授業を理解する上で大きな障害となってくる。それを多くの学生が自覚してくれているようで、居眠りをしている学生数はそれほど多くないような印象を持った。それでも居眠りしてしまう学生対策として、講義中に「今から提示する問題は、試験に出題する可能性が高い。眠たくなってる学生も、今から言うことをしっかり聞くように。」といった表現を用いて、学生の居眠り防止や90分間の講義における抑揚を意識しながら講義を行っている。また、この際にあえて、口頭のみでしか情報を開示しないようにすることで、聞き逃してはならないという意識づけを促している。この手法の効果は高く、この発言の直後は特に、学生のメモを取るボールペンの音が教室中から聞こえてくる。このように講義自体に緊張感を持たせたいために、かつ講義に全力を注いで欲しいので、原則、予習を求めていない（復習は求めている）。質問1が低評価（3.6）であった原因は、おそらく予習に関することだろうと解釈している。現時点では、講義の冒頭で総論を述べ、その後各論的に迫っていくという流れで講義を行っている。この方法は、良法だと思っているし、学生も“分かりやすい”というコメントを残してくれている。さらには、詳細に覚えるべき所、細かくは覚えなくていい所等を明確に分けて説明している。今年はそれをさらに鮮明にするべく、配布する資料を厳選した。学生の知識量では判断ができにくい明らかに無駄な部分（一度見聞きすれば十分な事柄等）を教員がはっきりと示すことは、学習意欲の向上ならびに高い教育効果（無駄が少ない勉強）につながると考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	アンケート中の質問5（興味があるか）に関して、3点評価をつけた学生が4名（約6％）おり3点が最低評価であった。昨年度は最低点が2点だったので、昨年度よりは改善していると評価したい。本講義は、病院薬剤師に特化した講義なので、興味がない＝病院薬剤師になるつもりがないと推測することができるが、たとえ病院薬剤師になるつもりがない学生であったとしても、本講義で病院薬剤師になりたいと思わせられなかった点は、大いに反省すべきであろうと感じている。今後は、そのような学生が病院で働きたいと思えるような講義ができるよう「やりがい」を実感させれるようなエピソードを、時間の許す限り紹介していきたいと考えている。また、アンケート中の質問3および4に関して、3点をつけた学生がそれぞれ4名（約6％）、6名（約9％）いた。昨年度の同結果が約5~8％であったことから、昨年度の結果よりやや悪化しているといえる。原因および改善策としては、すでに設問（1）で述べた内容と同一であると考えている（詳細は設問1をご参照ください）。なお、シラバスとの整合性が一部とれなかった理由は、本講義は同時期に開講されている調剤Ⅱと密接に関連しており、調剤Ⅱの進捗状況を勘案して本講義の内容を適宜調整する必要があり、その調整を行った結果である。したがって、今後も100％シラバ

項目見出し	コメント
	ス通りに講義内容を組み立てられるかどうかは不明瞭ではあるが、シラバス通りではない場合は講義の冒頭で必ずその旨を伝達しており、取り扱う内容自体を変更しているわけではないので、大きな問題は無いと考えている。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	昨年度は質問6（話し方は明瞭か）および質問7（熱意の感じられる授業か）に2点以下をつけた学生は皆無であり、今年度も昨年度に引き続き同質問に対して2点以下の学生はいなかった。5点未満（4点以下、約15-16%）の学生の評価を1点でも高く向上させるためのアイデアを毎年考えてはみるものの、残念ながらなかなか思いつかない。今後も、粛々と、講義中のセリフを磨くことを怠らず、講義全体の抑揚を意識しながら講義を展開していくことを継続すれば、少しずつだが着実に評価は向上していくだろうと信じている。個人的には、講義を実施できることを誇りに思い自身の喜びに還元できることが、教員側の資質として重要だと思っている。その思いや考えを衰退させないことが、本問に対する最善の策だと考えている。一方で、注意すべき点として、質問6〜11は教員の熱意とそれを向けられる学生の熱意が大きく違っていると低評価になると思っている。ゆえに、熱すぎず冷たすぎず、適切な熱量を学生達に注いでいきたいと思っている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大学教員就任5年度目として、悪くない評価ではないかと解釈している。この5年間、評価（質問13：満足度）の各年度推移として0.1程度の幅はあるが、ほぼ一定水準を維持できている。講義の方向性や、講義方法は現状のもので十分に通用することがわかった。今後、毎年必ずアップデートを行っていくことを怠らなければ、本講義が質の悪い講義にはならないだろうと感じている。前設問（4）ですでに述べたことの繰り返しではあるが、講義を実施できることを誇りに思い自身の喜びに還元できることが重要であり、その思いや考えを衰退させないことこそが、講義の質を維持するあるいは向上させるための最善策だと思う。今後もこの思いを抱きながら、講義を実施していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　大久保　伸哉

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	当該項目の平均点は5点満点であった。本年度、初めて教養セミナーを担当したが、まずは上々な滑り出しだったと感じている。次年度以降の評価が出ることで年次推移が明らかになる。初年度満点を取ったことでこれ以上の上昇は見込めないが、5点満点を維持できるようこれからも懇切丁寧に本科目に取り組んでいきたいと考えている。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	学生のフリーコメントから考察すると、学生個々人の個性を尊重しつつ懇切丁寧に向き合うことが重要であるように考えられる。私が本年度初めて教養セミナーを担当するので、どんな授業をしたらよいか熟考し調査したうえで、わかりやすく丁寧な授業ができるよう尽力した。この調査という行為を学生にも見抜かれていたことは想定外ではあったが、その分それが私の熱量として伝わり良い方向に作用したのではないかと考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	質問2は5点4名・4点1名、質問3は5点3名・4点2名であった。それぞれの質問に対して全員が5点になることを目標にして考察すると、熱量があって誠実な授業だけでは不十分であり、興味・関心を向上させるために面白味のある授業展開が必要であると考えられる。次年度は、面白味を意識して授業を実施する。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	質問4-7はすべて5点満点だった。次年度以降もこの水準を維持していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	本年度初めて教養セミナーを担当したが、まずは上々な滑り出しだったと感じている。しかしながら、不慣れなことが多いため準備にしっかりと時間を割いた初年度ゆえの高評価である可能性を肝に銘じなければならない。次年度以降も、慢心せず油断せず、学生の満足度の高い教養セミナーを実施できるよう尽力したい。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　薬物動態学

教員名　川嵜　達也

回答者数／履修者数　89／109

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度Q13の推移は，3.7→4.2→4.2→4.3と例年並みでした。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	丸暗記では身につかない薬物速度論は，理解不十分となることで学習意欲減退につながる単元であるため，例年計算およびグラフ練習問題を多数用意しておりましたが，講義中に扱う問題と小テスト課題にする問題を再考し，復習しやすくすると共に，毎講義で丁寧に解説しました。 また，毎回実施する小テストには自由記述欄を設け，暗記が求められる項目の語呂合わせや勉強の工夫を募集し，良いものは次回講義で紹介し，学年全体に共有させました。 さらに，理解度の確認と強制的な復習機会の提供を兼ねて中間試験を導入した結果，理解度Q12は4.0→3.8→4.0と2年前の値に回復しました。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3 4.3→4.3→4.2 Q4 4.5→4.5→4.6 Q5 4.3→4.2→4.1 Q3-5は例年並みでしたが，Q5は年々漸減しています。アンケートを取った時点では講義前半の速度論に関する内容が終わっていません。1つ前の項目の回答と重複しますが，理論と計算続きで興味が元々湧きづらい単元かと思いますが，アンケート後に実施した後半で薬剤師業務に直結していることが実感でき，この時点でアンケートを取ればまた異なった結果になったと思います。 アンケート実施時点での，理解度，興味の得点が低くなることは予め予想でき，向上が難しいため，引き続き同水準の維持を目標にしたいと考えています。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6 4.4→4.3→4.3 Q7 4.5→4.4→4.5 Q8 4.5→4.4→4.3 Q9 4.4→4.5→4.4 Q10 4.4→4.4→4.4 Q11 4.4→4.3→4.5 これらの評価も昨年と同程度でした。毎回実施している小テストに自由記述欄を設け，改善などの要望があれば受け付けています。 学生の皆さんとよりより講義を作りたいと願っております。授業の方法について改善点があれば，是非記入するよう奨める予定です。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業毎に実施している小テスト自由記述欄を活用したアンケートや，本授業評価アンケートの自由記述欄で評価されている点と授業評価アンケートのスコアに解離があり，自由記述欄を記入する積極的な学生とその他の学生間で評価が割れている印象があります。 引き続き，自由記述欄を活用している学生の声は積極的に拾って授業

項目見出し	コメント
	改善に活用します。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　川嵜　達也

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	R5 4.6 → R6 4.2 と減少しました。 昨年に比べ物静かで，課題は淡々とこなすが，ビブリオバトルの発表者は避けたいといった様子でした。次年度は積極的な参加を促すべく，適度なアイスブレイクなどを挟みつつ，学生の感想を拾いたいと思います。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	全学共通内容に加え，図表読解では統計に関する復習教材等の資料を準備しました。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q2 R5 4.5 → R6 3.6 Q3 R5 4.5 → R6 4.0 Q2, 3共に値が低下しました。次年度は，教養セミナーの範疇で，理系科目・薬学に関する内容を少し盛り込みつつ学習意欲を高めたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q4 4.8 → 4.6 Q5 4.8 → 5.0 Q6 4.8 → 4.8 Q7 4.8 → 5.0 今年度のアンケート結果は昨年と比べ全般的に低い中，Q5および7疑問，質問，相談への対応は全回答者から5点評価となりました。引き続き受講生の相談，疑問，質問等を取りこぼすことなく拾い丁寧に対応してまいります。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	大人しい学生が多く，沈黙の時間が目立ったが，後半ビブリオバトルの準備をする頃には学生間で話す様子も見られた。次年度は学生間で活発に話し合いができるよう工夫したい。

アクションプランシート

2024年度前期 木2

科目名　衛生化学Ⅱ

教員名　倉岡　卓也

回答者数／履修者数　85／90

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	全体としては満足度が平均値と同等だが、留学生のみの満足度が大きく下回っている。他の先生の工夫を伺い対策を講じる。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	暗記科目ではあるが、複数科目（物理・化学・生物・薬理等）と繋がっているため、そのことにも触れながら授業していたため今回の評価になったと考えられる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q4の評価で”3”が二名いるのは、おそらく授業の進行が遅くなりシラバスと整合性が合わなくなったためだと思われる。説明にかける時間や内容を見直し、可能な限りシラバスに沿うように改善したい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	学生の反応を確認しながら授業進行しているが、基本的には一方的に講義しているためmanaba等を利用して学生の参加を促す工夫を検討したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	1コマ目〜4コマ目を長く説明しすぎるため、それ以降の進行が早くなってしまう。全体のバランスを考慮して説明内容を見直したい。全体的な評価は概ね良かったため、これを保ちつつさらなる評価の向上を目指す。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーＡ

教員名　倉岡　卓也

回答者数／履修者数　5／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は高いものとなっていたが、初めて担当したため全体の進行を把握できていないことがあった。次年度はその点を改善して臨みたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	新入生が受講生であるため、セミナー内の親交が深まるように明るい雰囲気で進めた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	評価結果が4以上であるため概ね良かったが、薬剤師になるためのモチベーション向上を促すように進行していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	相談に対して可能な限り対応していたつもりであったが、不十分なところがあったようだった。後期以降は求められている内容をよく理解して対応したい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	初めて担当したため把握できていない点もあったが、全体的な満足度は高かった。後期は改善点を見直して評価向上を目指す。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　薬事関係法規

教員名　末廣　真理恵

回答者数／履修者数　74／104

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	平均4.6という評価を得ることができた。とても満足した学生が多かった一方で、あまり満足できていない学生もいたようである。そのほかの細目項目の改善とともに、学生の満足度の一層の向上を目指したい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	毎回の授業の前後や質問対応時に、学生の意見を聴取するようにしている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	興味が持てなかった学生が少数ではあるが毎年存在する。できるだけ興味の持てる講義にしていけるよう講義内容の見直しや学生の意見の聴取等おこなっていきたい。また、シラバスと授業内容は整合性のあるものになっているはずであるが、満点を付けていない学生がいるということはシラバスの内容が分かりづらかった可能性も考えられる。シラバスの記載も含めて見直しを行っていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	多数の学生は授業の方法について満足してくれているが、一定数あまり満足できていない学生もいる。様々な学生のニーズに応えられるように改善を行っていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	概ね満足している学生が多いということがわかり、安堵した。しかし、一定数完全には満足していない学生もいることが分かったので、今後も学生の意見を積極的に聴取しながら、授業内容の改善に努めていきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　末廣　真理恵

回答者数／履修者数　4／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	完全に満足できた学生が多かったが、少し不満を持っている学生もいるようである。学生の意見を積極的に聴取しながら授業を進めていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業ごとに学生の話をよく聞くことを心がけたことで、受講態度はとても良かった。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	概ね良い評価ではあったが、内容について興味が完全には持てなかったり、学ぶことについて興味が完全に持てなかった学生もいたので、このような学生にも興味が持てるよう工夫していきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	すべての項目で満点の評価を得ることができた。今後も継続できるよう工夫していきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	初めて担当した科目でもあり、担当者自身の準備不足や認識不足していたところがあったところは反省すべきところである。また、セミナーの内容や効果性についてはまだ点数を伸ばす余地があるため、今後担当する際に内容の工夫や効果性について受講生にわかりやすいよう工夫していきたい。

アクションプランシート

2024年度前期 火3

科目名　裁判化学

教員名　相田　美和

回答者数／履修者数　73／86

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13 満足度 4.2　（2018年）→　3.8　（2019年）→　4.2（2021年度）→4.5(2022年度）→4.6(2023年度）→4.4(2024年度) 2022年度、2023年度から下降した。 定期試験答案を見ると、基本事項の理解不足による誤答がかなり見受けられた。そのため、授業内容の理解が難しかったと思われる。次年度以降は、より基本的な事柄から説明することにする。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業中に配布資料の問題を一緒に解いて、重要ポイントの理解に役立てている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3　4.2（2021）　→　4.6（2022）→　4.5（2023）→　4.3（2024） Q4　4.4（2021）　→　4.6（2022）→　4.6（2023）→　4.5（2024） Q5　4.2（2021）　→　4.7（2022）→　4.5（2023）→　4.4（2024） Q3-Q5の3つに良くない「1」と評価した学生がが1名いる。「2」評価の学生は0名であることから、よほど分からなかった学生がいると思われる。 （1）の項目にも記載したが、中学高校の内容であっても、軽く確認の説明をしてから、話を始め、理解の助けとしたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6　4.2（2021）　→　4.5（2022）→　4.6（2023）→　4.4（2024） Q7　4.3（2021）　→　4.5（2022）→　4.6（2023）→　4.4（2024） Q8　4.3（2021）　→　4.5（2022）→　4.6（2023）→　4.5（2024） Q9　4.3（2021）　→　4.5（2022）→　4.6（2023）→　4.4（2024） Q10　4.2（2021）　→　4.5（2022）→　4.7（2023）→　4.4（2024） Q11　4.2（2021）　→　4.5（2022）→　4.5（2023）→　4.5（2024） Q6.話し方について、短いセンテンスで話すように心がける。 Q9.板書が読みにくいことがあるとの指摘があった。板書はしていないがパワーポイントにマウスのフリーハンドで文字を書いていたので、そのことだろうか。別のデバイスを用いることを検討する。 Q10.私語は気付かなかったので、授業中に私語がないか確認するようにする。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	配布資料などを見て良い前提でレスポンを使って小テストをしている。今まで時間が短いという指摘はなく、今年も早い人では1分以内に

項目見出し	コメント
	回答できている。レスポンに自分の回答を記録する機能がないので、自分でメモしておくように伝えることにする。 プリントの文字は、他の先生方はそんなに大きいのか気になるところである。図に説明を入れなければ分かりにくいだろうし、1枚で要点を伝えようとすると、大きな文字だと難しい。

アクションプランシート

2024年度前期 水2

科目名　臨床医学概論

教員名　髙崎　伸也

回答者数／履修者数　95／106

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今回、今まで取り組んできたことの完成度を高めることを目指した。結果、最近の講義の中の値で一番良い4.8と十分に満足できる結果となった。取り組んできたことは、学生からの参加を促す双方向の講義スタイルおよび、意見を述べさせること、皆の前でよい意見を取り上げ褒める事であり、これらがよいことを再確認できた。これは、講義を単調とはしないため集中力を切らさない事にも寄与していると考えている。今回の講義でよかった点は維持しながら、さらに完成度をより高め、さらなる向上を目指したいと考える。一部の学生にとっては授業内容の量が多いことが不満となっているが、国家試験に必要な力を身に着けるためには減らすことはできないと考えており、学生が納得できる方法を考えたいと思う。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	双方向の講義スタイル,タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作りなど、学習の意欲や集中力の持続の向上を目指し、取り組んでいる3つのことが良い評価につながっていると考えられる 特に、講義の導入に力を入れたのがよかったのではないかと思う。 また、学生の集中力を切らさぬように、学生の顔を見ながら、タイミングを見計らい、ちょっとした笑いを盛り込み、息抜きを行っている。学生のコメントにもあるように、これにより学生の集中力の持続につながったと考えられる。 図や表を多く使用し、視覚から分かりやすい資料を心掛けている。このために資料が多くなるのはやむを得ないと考えている。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3-5は、いつもと同様以上に、全部4.8とかなりの高評価であった。Q1,2の授業の予習および復習についての項目が、前回と同様、3点台もあり高得点とはならなかった。ただ、無理に宿題などで復習させることは学生の負担増につながると考えられる点で難しい。最終的には、妥当な難易度の試験問題が解けることができており、問題ないとも考えている。簡単な前回の講義に関する復習の課題を毎講義出しているが、評価の対象としていないためか、それだけでは不十分であるように思われる。ただ、この質問の回答の正解率は高いので、ある程度は授業の内容が残っていたり復習を行っていたりすると思われる。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6-11では、4.8以上のみでいずれも十分によかったと思う。現状を維持しながら微調整を行っていきたいと考える。資料が多い事に対して受講生が納得できるよう説明をしたいと考える。紙の量と見やすさのバランスを考え、1枚に4分割で印刷することとしたが、ちょうどよかったと考えられる。前回は1枚に6分割は小さかった。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	アンケート結果も最近は高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。特に今回はさらに特典が高く、講義の導入に力を入れたのが高得点につながったのではないかと考えている。主に行っている3つのこと、つまり、学習の意欲の向上や集中力の持続が良いスタイルになっており、評価につながっていると考えられ満足している。大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。Q1の授業態度に関する点数が低いが、定期試験は高い難易度を設定しているが平均点は高いため習熟度は高いと思われる。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、おそ

項目見出し	コメント
	らく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 火1

科目名　基礎の数学

教員名　中村　沙織

回答者数／履修者数　25／25

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は4.1→4.4→3.7→4.1→4.6→4.7→4.3→4.3→4.7と推移している。講義中の様子を見ながら時間配分を調整したり、解説を追加したりした結果、学生の理解を多少は深めることができたと感じる。今後さらに個々の学生にも気を配っていきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義プリントを段階的な穴埋めにし、徐々に自分で解くことができるよう工夫をした。授業のペースは解くのが遅い学生に合わせ、早く解き終わった学生には追加の指示をすることで、できるだけ個々に合わせた対応ができたと感じている。 毎回の課題の解答はポートフォリオに公開し、自己採点後にアンケートを提出するというスタイルで行い、提出状況により学生の取り組み具合いを確認することができた。アンケート提出時に自由記述欄を設けることで、学生の理解度の確認や質問対応を行い、双方向になるよう心掛けた。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業内容はここ数年の改善を経てほぼまとまってきており、ある程度の評価は得られたと感じる。 毎年、学生がつまずきやすい項目について、資料や問題の改善を行っている。さらに、講義後の確認問題で学生の理解度を確認し、必要であれば次の講義で解説や追加説明をするなど、臨機応変に対応したので、次年度以降も続けていきたい。 予習や復習の内容等も伝えてはいるが、準備学習している学生が少ないので、具体的な指示をするようにしたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6〜11は例年4.5以上の評価を得ている。昨年度は授業参加を促すような工夫のみ4.2であったので、積極的に声をかけるなど教室の雰囲気を読み取って臨機応変に対応した結果が出たと感じる。次年度以降も続けていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度は、わかりやすい説明と丁寧な対応を心掛けることで、学生も真面目に取り組んでくれたと実感している。 毎年、成績下位層の理解度・満足度向上が課題であるが、個別に対応することで満足度の向上につながったと感じている。今後もより多くの学生に満足してもらえるよう、さらに改善を重ねたいと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　薬理学Ⅲ（末梢-2）

教員名　縄田　陽子

回答者数／履修者数　75／92

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	今年度は例年と比較して、理解度、満足度に２，３評価をつけている学生が増えた印象がある。理解力が不足している学生に対してより分かりやすい講義となるよう、説明の表現を変える、動画を配信するなど工夫が必要であると感じた。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義終了後の復習問題の配付は学生にとって意欲向上につながったと思われる。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	おおよそ例年通りの評価であった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	おおよそ例年通りの評価であった。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	説明が分かりやすいと回答した学生と、分かりにくいと回答した学生がおり、どのような点で分かりにくいと思っているのかが不明であった。今年度は実施しなかったが、講義途中に講義に関するアンケートを取り学生の意見を取り入れながらより多くの学生にとって満足度の高い講義を目指したい。また、土曜日実施の中間試験に対する不満もあったようなので、他の時間に早めに講義を終了するなど、学生の不満とならない工夫を次年度は行いたい。

アクションプランシート

2024年度前期 水3

科目名　教養セミナーA

教員名　縄田　陽子

回答者数／履修者数　4／5

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	概ね例年通りであった。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	人前での発言を得意とする学生と、苦手とする学生がいたが、個々の特性に合わせて無理なく発言を促すことが出来た。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	評価が良かったが、文章の読解力や作成能力に個人差があり全員の水準を同程度まで向上させるまでには至らなかった。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	講義内での対応には限界があるため、講義後やレポートへのコメント機能を使って、個々にアドバイスを行う。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度の授業評価は概ね例年通りであり良かった。一方で、時間的な余裕がなく、manabaへ提出されたレポートに対して詳しいコメントを返すことが出来なかった。次年度は、コメントを返し、学生と意見交換を行っていく。

アクションプランシート

2024年度前期 火2

科目名　基礎の物理学

教員名　吉田　達貞

回答者数／履修者数　28／30

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13: 3.9(2018)→4.3(2019)→→4.8(2021)→4.6(2022)→4.7(2023)→4.9(2024) 前年度の評価よりも向上しました。アンケートを実施するまでに行う2回の中間試験の出来・不出来が満足度にも影響を及ぼすと推察されます。講義・試験の難易度はこれ以上下げず、入学時の学力が年々低下していることを鑑みて、向上よりもまずは現状の評価維持に努めて参ります。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	Q2: 3.9(2018)→4.1(2019)→→4.5(2021)→4.3(2022)→4.4(2023)→4.7(2024) 前年度の評価よりも向上しました。問題を解かしている時間に教室を巡回し、遅刻・居眠・私語をしている学生には個人的に注意をしております。講義内容以外の話に時間を割く余裕は皆無ですので、講義外時間に呼び出しての指導、担任教員への指導協力依頼等の対応を継続したいと思います。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3: 4.0(2018)→4.5(2019)→→4.9(2021)→4.5(2022)→4.8(2023)→4.9(2024) Q4: 4.2(2018)→4.5(2019)→→4.9(2021)→4.7(2022)→4.9(2023)→4.9(2024) Q5: 3.8(2018)→4.3(2019)→→4.8(2021)→4.5(2022)→4.7(2023)→4.9(2024) 2021年度以降、大きく変更した点はございません。開講日時や受講クラスの気風等の外的要因も考慮すれば、一昨年度から今年度までを比較した場合の変化は担当者を要因とする有意差ではないのかもしれません。少なくとも今年度の評価は低いものではありませんでしたので、次年度以降も継続して参ります。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6: 3.8(2018)→4.5(2019)→→4.8(2021)→4.4(2022)→4.8(2023)→4.9(2024) Q7: 4.0(2018)→4.5(2019)→→4.8(2021)→4.6(2022)→4.9(2023)→4.9(2024) Q8: 4.2(2018)→4.5(2019)→→4.9(2021)→4.7(2022)→4.9(2023)→4.8(2024) Q9: 4.2(2018)→4.6(2019)→→4.9(2021)→4.6(2022)→4.9(2023)→5.0(2024) Q10: 4.1(2018)→4.5(2019)→→4.8(2021)→4.6(2022)→4.9(2023)→5.0(2024) Q11: 3.9(2018)→4.5(2019)→→4.7(2021)→4.3(2022)→4.6(2023)→4.8(2024)

項目見出し	コメント
	講義内容自体は毎年少しずつ難易度を上げるように配布資料を改変しています。（3）の設問と同様に必ずしも有意差とは言えない可能性もありますので、一喜一憂することなく現在の形を継続して参ります。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	Q12: 3.8(2018)→4.2(2019)→→4.6(2021)→4.2(2022)→4.4(2023)→4.7(2024) 前年度の評価よりも向上しました。やはり、開講時限が午前中の方が、受講生の集中力が高いように感じております。 Q1: 3.7(2018)→4.2(2019)→→4.4(2021)→4.2(2022)→4.1(2023)→4.2(2024) 講義の各回で復習課題を課してはおりますが、準備学習の項目が伸び悩んでおります。課題未提出の場合には成績評価ptを減算していくことを受講者にも明示した上で、提出状況を定期的にmanabaで全体周知、未定出の場合には個人的にもメール連絡で対応しております。個人を特定することはできませんが、評価スケールの値が小さい受講者ほど本科目以外にも成績不振の状況と思われます。そのような受講者の多くは、他科目の補習や試験後の追加課題等にも追われて首が回らない様子であり、今以上に課題量を増やすことは困難です。良い改善案がありましたら是非ご助言をいただきたく存じます。

アクションプランシート

2024年度前期 土3

科目名　薬学統計学

教員名　吉田　達貞

回答者数／履修者数　84／103

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	Q13: 4.8(2022)→4.6(2023)→4.7(2024) 前年度よりも向上しました。アンケートを実施するまでに行う中間試験の出来・不出来が満足度にも影響を及ぼすと推察されます。講義・試験の難易度はこれ以上下げず、入学時の学力が年々低下していることを鑑みて、向上よりもまずは現状の評価維持に努めて参ります。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	Q2: 4.4(2022)→4.4(2023)→4.6(2024) 前年度よりも向上しました。隔回の講義冒頭で理解度把握のためにmanabaの機能を使った小テストを実施していることもあり、遅刻はほぼありませんでした。この小テストならびに中間テストは今後も継続して参りたいと思います。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3: 4.7(2022)→4.7(2023)→4.8(2024) Q4: 4.8(2022)→4.7(2023)→4.8(2024) Q5: 4.7(2022)→4.6(2023)→4.6(2024) Q5を除き前年度よりも向上しました。衛生・薬治・情報（実務）の講義でも重複している内容があります。担当者同士がこの状況を把握していないため、なるべくスリム化するような編成に努めて参ります。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	Q6: 4.7(2022)→4.7(2023)→4.8(2024) Q7: 4.7(2022)→4.7(2023)→4.8(2024) Q8: 4.8(2022)→4.9(2023)→4.8(2024) Q9: 4.8(2022)→4.9(2023)→4.9(2024) Q10: 4.7(2022)→4.6(2023)→4.8(2024) Q11: 4.7(2022)→4.7(2023)→4.8(2024) Q8のみ前年度から低下しました。自由記述欄に、マイクの音量が大きい、音割れがひどいとのコメントが見受けられましたので、マイクが不調の場合には無理にマイクを使用せず、自声で話すなど臨機応変に対応して参ります。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	AI、DX時代に取り残されないためにも統計や数理処理に従来以上に関心を持っていただきたいと考えておりますが、数学全般を苦手とする学生には苦手意識を与えてしまっているかもしれません。厳密性を追求するばかりでなく、多少の不正確さには目を瞑ってもわかり易さを重視した説明を優先すべきなのかもしれません。どちらのアプローチも一長一短のため、試行錯誤して参ります。 可能であれば、今後はweb形式で本アンケートを実施する場合には自由記述のコメント入力を「必須」にするようシステムの改善をご検討いただけますと幸いです。

アクションプランシート

2024年度前期 月5

科目名　基礎の化学

教員名　大神　正次

回答者数／履修者数　46／54

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は4.6ptであり全体平均と同程度の値であった。今年度から初めて担当した科目のため、前年度との結果比較はできないが、薬学科で実施する同科目「基礎の化学（薬・Bクラス）」よりも0.5pt高い値ではあった。難易度が全く違うので比較できるものではないが、学生の理解度や高校までの履修状況に合わせて、基礎的な内容を中心に丁寧に解説したのが良かったのではないかと考える。自由記述のコメントにもわかりやすかったとの評価が多かった。次年度以降も引き続き、学生の理解度に合わせて丁寧な解説を心掛けたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	レスポンやマナバを多く活用し、学生の意見や感想・質問を紹介・解説、補足説明するなど、可能な限り双方向性を意識した授業を心掛けた。また、関連する動画やクイズなどを取り入れ、学生の興味を引くように工夫した。予習復習の重要性や積極的に授業に参加するように毎時間ごとに説明した。また遅刻や私語、出席不正（ピ逃げ）などには厳しく注意・対応した。この点を評価してくれている学生がいたことは良かった。（自由記述欄参照）
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	概ね５（良い）または４（やや良い）の評価であり、4.6〜4.7ptと高い値であった。さらに授業内容に興味が持てるよう、生活の身の回りの化学に関連するようなトピックスをさらに取り入れていきたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	概ね５（良い）または４（やや良い）の評価であり、4.7〜4.8ptとかなり高い値であった。私なりには熱意をもって取り組んだつもりではあったが、その項目が一番低かった（4.7pt）のはかなり意外であった。もしかしたら、「薬学部の学生ではないので直接将来的に深く関わることが無い学生」で「定期試験もなく、学生の理解度をなんとしても上げなければいけないわけではない」という意識が無意識下で働いていたのかもしれない。もちろんそのような考えはあってはならないことであり、次年度以降はこの点を意識してさらに熱意をもって一人でも多くの学生に「この授業を履修してよかった」と思えることを目標に努力したい。授業に対する熱意を考えさせられる良いきっかけとなった。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	今年度初めて受け持つクラス（薬学部以外の学生）ということで、どのように進めていけばよいか困惑する場面が多くあったが、学生の苦手意識を払拭し、楽しみながら化学や大学での学びに少しでも興味を持ってもらえるようにと工夫した。自由記述のコメントには「わかりやすい」「楽しい」など肯定的な意見が多く、少しは当初の目的に貢献できたのではないかと振り返る。 この科目では定期試験が無く、過去の授業評価はレポートやプレゼンテーションと簡単な小テストが主な評価項目だったことから、 ２〜４年生の一部の履修生で「出席さえしておけば簡単に単位がもらえる」との印象があったのではないかと推察する。実際にそのような

項目見出し	コメント
	学生が数名いたことも確認している。理解度の定着や学習に対する積極的な姿勢のためにも、定期試験の実施または確認テストを複数回設ける必要があると痛感した。この点は次年度以降のシラバス変更で改善したい。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　基礎の化学

教員名　大神　正次

回答者数／履修者数　28／29

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は全体平均よりも低い4.1ptであり、昨年度から担当する「基礎の化学Bクラス」（満足度4.4pt、R4年度までAクラス）と比較して、0.3ptの低下であった。授業やテストの難易度を調整するのに苦労している。授業ごとに毎回アンケートを取り、質問等に回答しmanabaでフィードバック、次の授業の前半で振り返りを中心に実施した。R4年度の学生（Aクラス）に比べ、年々質問の量や質が低くなったように感じており、学生の主体的（能動的、アクティブラーニング）な学習が求められる。授業外にメールやmanabaの機能を利用して個別対応を実施したが、一部の学生のみの利用にとどまった。次年度以降はもっと活用するよう促したい。 個別の質問に対して時間を費やしすぎているとの指摘があるので、次年度以降の改善点としたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	クイズやクロスワードなどを作成し、学生が興味を持つように工夫した。Responも時間があるときは複数回実施し、学生が考える時間を増やすようにした。時間設定を短くすることで、予習（自宅学習）をするように促したが、やってくる学生とそうでない学生の差が極端に分かれた。当然、自学（予習・復習）してくる学生の成績は相対的に高かったことから、いかに自学時間を増やさせるかが今後の課題であると考えられる。丁寧な趣旨説明と自学学習の重要性を授業初回（オリエンテーション）を中心に実施する。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3～Q5 スポーツ実習　Q2～Q5 教養セミナー　Q2～Q3	全項目で4.1～4.3ptとやや低い評価となった。この科目はクラス別（ABCの3クラス制）で実施しており、他のクラストの進行度に比べて進行が遅れる傾向があることが不満の原因と思われる。前回の振り返りの時間を短くし、シラバスのに沿った進行を心掛けたい。 授業内容は高校で履修する化学基礎であり、そこまで難しくはないと考えられるので、より身近に感じられるような例を用いて説明するように工夫した。1年生のリメディアル科目でありながらも、薬剤師国家試験に関連する内容であることを強調することで学生の学修するモチベーションを損なわないように配慮した。ただし一部の学生にとっては、関連性が理解できず教科書の範囲を超えての説明が、シラバスとの整合性に疑問を感じたのではないかと考える。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6～Q11 スポーツ実習　Q6～Q9 教養セミナー　Q4～Q7	全体平均と同程度であるが、全項目で4.5～4.7ptと比較的高い評価が得られている。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	満足度は全体平均よりも低く、4.1ptであった。昨年度からBクラスを担当しているが、学生の学ぶ姿勢が年々低下し続けているように感じる。授業ごとに毎回アンケートを取り、質問等に回答しmanabaでフィードバックし、次の授業の前半で振り返りを中心に実施しているが、学生から出される質問が質・量ともに低下が著しく、表面的な受け身の学習（スライドの重要事項の暗記、回答の丸写し、CAI等課題の未実施、主体的な学習姿勢の欠如　など）になっているように感じられた。 講義後終了直後の質問やメールおよびmanabaの機能を利用して個別

項目見出し	コメント
	対応を実施しているが、昨年度よりも利用者数はさらに減少した。次年度以降も引き続きもっと活用するよう促したいが、学生の学習意欲や勉強に取り組む意識・姿勢が改善されなければ効果はほとんど期待できないように感じる。 自由記述欄のコメントには肯定的な内容の方が多いが、指摘された点は真摯に受け止めて次年度以降の授業改善につなげたい。

アクションプランシート

2024年度前期 金1

科目名　化学演習

教員名　北川　翔大

回答者数／履修者数　17／24

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	3以下の回答は0人であったが、その一方で4と答える学生が4割程度であった。定期試験や課題等を見ている限り、正答率があまり良くなかったことから、学生の理解度が十分でなかったことが主な原因ではないかと考える。次年度は課題や授業中の問題等に復習問題を取り入れることで、復習の時間を意識的に設けさせて学生の理解度向上を図る。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	授業終わりにその日の内容に関する小テストを実施することを前もって伝えておくことで、学生がより熱心に授業に向き合ってくれたのではないかと感じた。また、学生からのコメントを受けて授業内容を改善する等、学生の意見に耳を傾けることが受講態度の向上に寄与したのではないかと考える。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	Q3、Q4 での評価点を3と答えた学生が数名いたため、次回では特に次の3点を改善することで、学生に授業内容をより理解してもらえるように努める。 ①授業で使用するスライドについて、スライド移行の際にはその話の繋がりを説明する。 ②各スライドの説明は、事前に理解しておくべき事項について触れてから行う。 ③1枚のスライドに情報量を詰め込みすぎないようにする。 また、Q5 の結果では4と答えた学生が17名中7名と多めであったため、次回からは身の回りのものに化学がどう活かされているか等を話しながら授業を進めることで、学生が授業内容により興味を持つように努める。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	3と答えた学生がいる選択肢について、以下のように改善する。 Q6 話し方については、授業中にやや詰まる場面もあったことから、今後は練習を十分に行った上でゆっくり話すことを心掛ける。 Q7 授業中に行った問題を解説しきれないことが多々あったことから、今後は各問題ごとの時間配分をしっかり考えて授業を進めていく。 Q8 授業で使用するスライドに教科書の対応ページを記載することに加え、授業中に教科書の練習問題を活用することで、教科書と授業スライドの進行度を明示し、学生が復習しやすいように努める。 Q10 遅刻者に対しては、その都度プリントを配布していたが、次回からは授業開始前に座席にプリントを置いておく、もしくは配布場所を決めておくことで学生自身に回収してもらうようにする。また、私語をしている学生には注意するよう心がける。 Q11 今回、課題の解説を次回の授業中に行う、レスポンを利用して出席を確認するなどして学生の授業参加を促していた。しかしながら、アンケートの回答を見る限りでは授業に参加する意欲を改善することに繋がっていないと感じる学生がいることから、次回は学生の意見に対するフィードバックをより強く進めていくことで、学生が積極的に授業に参加するように促す。今回、授業改善に繋がる意見が少なかったことから、次回はその具体例について予め説明しておくことで積極的に要望を出してもらうようにする。また、授業後に少し学生との

項目見出し	コメント
	交流時間を設けることで、コメントに残しにくい意見等も聞き取るよう心がけ、授業の改善にも繋げていく。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	就任初年度かつ初めての授業担当ということで手探りでの進行となってしまったが、全体平均と同程度の評価を頂くことができた。しかし、その一方で各評価項目の回答者数からは、まだまだ改善の余地があることが伺えるため、今後もレスポン等を利用して学生からの感想を聞き、それに対するフィードバックを繰り返し行うことで授業の更なる改善に努めたい。

アクションプランシート

2024年度前期 月3

科目名　調剤学

教員名　中島　健輔

回答者数／履修者数　33／103

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	全体的に良い評価が得られた。特に話し方は明瞭であった点がよかった。 今後も継続していきたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	全体的に良い評価が得られた。 今後も学生の受講態度、学習意欲等の向上に向けて工夫をしていく。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	全体的に良い評価が得られており、特段の改善策は必要ない。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	全体的に良い評価が得られており、特段の改善策は必要ない。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体的に良い評価が得られており、おおむね満足のいく結果であった。 今後も継続してわかりやすい講義を心がける。

アクションプランシート

2024年度前期 火4

科目名　基礎の化学

教員名　波多江　日成子

回答者数／履修者数　18／19

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	満足度は4.8であり、概ね良好であると思われる。昨年度より上昇しているが、オムニバスの担当教員の変更によって担当箇所が易しい場所に変わったためもあるように思われる。次年度以降も丁寧な授業を心がけ、満足度が変わらないように努めたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	連動する科目である化学演習と組み合わせ、学んだ内容を２週にわたって何度も取り組ませることで、記憶の定着を図った。また、前週に学んだ内容のまとめプリントも配布し、授業の全体像が見えやすいように工夫した。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	ほとんどの学生が良いという評価だったので大筋は間違っていないと思うが、わかりにくい表現が無いか見直していく予定である。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	特に問題は感じられない。今後もこの評価の水準を維持できるように頑張りたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	授業・中間試験を行っていく中で、理解度が低いと感じられたので、次年は問題を繰り返しさせて理解度を向上させたいと思う。

アクションプランシート

2024年度前期 月4

科目名　薬理学Ⅲ（末梢-2）

教員名　福森　良

回答者数／履修者数　53／90

項目見出し	コメント
（1） 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策 ▽該当質問 一般　Q13 スポーツ実習　Q10 教養セミナー　Q10	本年度の満足度の結果は4.4であった。昨年度の4.2の評価から0.2ポイント上昇し、講義内容の見直しから良い評価につながったと感じている。来年度はさらに資料を整理することで、本来の満足度の向上につなげたい。また、リモート講義で培ったスキルをいかして、自宅学習における効果的な復習が出来るよう考えたい。
（2） 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法	講義資料を見直して、より学生が理解を得られるように改善した。また授業終了後にmanabaを利用して復習のための小テストを実施した。次の講義の初めに前週の小テストの解説を行うことで、前回の内容の復習と学生の授業への導入が出来たと思う。しかしながら、予習時間のアンケートの結果が芳しくないため、予習についても学生が積極的に行う対策を検討したい。
（3） 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q3〜Q5 スポーツ実習　Q2〜Q5 教養セミナー　Q2〜Q3	授業の内容については、アンケートを見る限り概ね適切であったと思う。 しかしながら、薬理学Ⅲはどうしても講義内容が多い科目となっており、時間に余裕が無く講義の進行が駆け足になっていることが課題である。特に要点を抽出してそこに時間をかけられるような内容の見直しを行なって生きたい。
（4） 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策 ▽該当質問 一般　Q6〜Q11 スポーツ実習　Q6〜Q9 教養セミナー　Q4〜Q7	自由記述では講義のスピードが早いという指摘が多かった。薬理学Ⅲはどうしても授業範囲が多い科目となっていることから、やむを得ない部分ではあると思うが、内容を精査して特に重点的に時間を割くべき内容を精査したい。また、話し方についての回答も多くみうけられたので、意識的に改善してより伝わりやすい授業を心がけていきたい。
（5） 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感	全体を通して、授業アンケート評価は概ね良好であったと感じた。来年度にむけて、さらに内容を精査することで、学生のより高い理解度の向上を目指したい。また、コロナ前と比べて学生からの質問機会が減っているように感じるため、双方向の教育を意識して学生からの質問機会を増やせるような方策を考えたい。